横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム
令和3年度事業報告書

アーティストが学校へ

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

（STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
令和３年度事業報告書　目次

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】……07

令和３年度事業報告　概要	08
横浜市芸術文化教育プラットフォーム　学校プログラム 連携のしくみ	09
これまでの学校プログラムの取組	10
学校プログラム アンケート結果　児童・生徒向けアンケートから	11
学校プログラム アンケート結果　教員向けアンケートから	12

【学校プログラムの個別報告】……15

音楽

鶴見区	岸谷小学校+大佛次郎記念館	音と言葉で“感じる”物語	17
鶴見区	下末吉小学校+サルビアホール	音と遊ぼう！音楽室を飛び出した楽器たちの音楽会	18
神奈川区	斎藤分小学校+かなっくホール	ガムラン音楽を体験しよう	19
神奈川区	中丸小学校+あっちこっち	合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう	20
神奈川区	西寺尾第二小学校+子どもに音楽を	クラシック音楽鑑賞～ヴァイオリンとピアノの生演奏を聴いて１～	21
港南区	下永谷小学校+ひまわりの郷	えっ？これも楽器になる！？～創作楽器で楽しい音楽会～	22
港南区	南台小学校+ひまわりの郷	フルートの素敵な音色を感じてみよう	23
旭区	市沢小学校+横浜こどものひろば	五感を働かせみんなで楽しむ、普段と違う新鮮な音楽授業１	24
旭区	今宿南小学校+サンハート	イマミッコのためのサックスミニ音楽会	25
旭区	上川井小学校+横浜みなとみらいホール	ジャンベを体験しよう１	26
旭区	都岡小学校+サンハート	いろんな楽器の特徴がわかる！音楽鑑賞会	27
金沢区	朝比奈小学校+横浜みなとみらいホール	ジャンベを体験しよう２	28
金沢区	文庫小学校+長浜ホール	アフリカの民族音楽を体感し、みんなでつながろう	29
港北区	大曽根小学校+大倉山記念館	世界のさまざまな楽器の音やリズムを体感しよう	30
港北区	菊名小学校+大倉山記念館	「こえ」をたのしもう！「うた」をたのしもう！	31
港北区	城郷小学校+子どもに音楽を	クラシック音楽鑑賞～ヴァイオリンとピアノの生演奏を聴いて２～	32
港北区	高田小学校+大倉山記念館	南米の音楽と文化に触れよう	33
港北区	日吉南小学校+横浜シティオペラ	プロによる生の歌声を聴いてみよう１	34
青葉区	荏子田小学校+横浜シティオペラ	プロによる生の歌声を聴いてみよう２	35
青葉区	荏田西小学校+フィリアホール	木管四重奏を鑑賞しよう	36
青葉区	恩田小学校+フィリアホール	音楽を感じ、仲間とリズムで表現しよう	37
青葉区	桂小学校+フィリアホール	音やリズムを全身で感じてみよう	38
青葉区	美しが丘西小学校+子どもに音楽を	クラシック音楽鑑賞～クラリネットとギターの生演奏を聴いて～	39
都筑区	牛久保小学校+象の鼻テラス	自分たちで創る音楽×タップダンス	40
都筑区	北山田小学校+横浜こどものひろば	五感を働かせみんなで楽しむ、普段と違う新鮮な音楽授業２	41
戸塚区	秋葉小学校+アートの時間	見て･聴いて･作って、打楽器を楽しもう	42
戸塚区	柏尾小学校+さくらプラザ	ボディパーカッションで音楽を感じよう	43
戸塚区	大正小学校+アートの時間	息を合わせ響かせよう、不思議な合奏音楽「ガムラン」	44
戸塚区	平戸台小学校+アートの時間	リズムで遊ぼう、 ウノ・ドス・トレス	45
栄区	上郷小学校+あっちこっち	合唱曲「大切なもの」～アーティストから音楽表現を学ぼう～	46
栄区	桜井小学校+リリス	卒業ソングをつくろう	47
栄区	本郷小学校+リリス	オーボエ＆ピアノコンサート	48
泉区	下和泉小学校+横浜みなとみらいホール	ジャンベを体験しよう３	49
瀬谷区	阿久和小学校+あっちこっち	プロのアーティストと一緒に記念の１曲を作り上げよう	50
港南区	笹下中学校+ひまわりの郷	歌のすばらしさを感じよう！～プロの声楽家の歌声に学ぼう～	51
泉区	泉が丘中学校+テアトルフォンテ	プロから合唱を学んで表現の世界を広げよう	52
神奈川区	盲特別支援学校+かなっくホール	チェロと朗読でつづる「セロ弾きのゴーシュ」	53

南区	中村特別支援学校+吉野町市民プラザ	ギターとピアノの演奏を楽しむ	54
港南区	港南台ひの特別支援学校+ひまわりの郷	楽器じゃないけど楽器だよ！？～創作楽器で音を楽しもう！～	55
旭区	若葉台特別支援学校+サンハート	いろんな楽器の演奏が聴ける！木管五重奏コンサート	56
旭区	左近山特別支援学校+サンハート	弦楽デュオコンサート～ヴァイオリンの音色をじっくり楽しもう～	57
港北区	北綱島特別支援学校+横浜みなとみらいホール	アフリカ音楽を聴いてみよう	58
栄区	本郷特別支援学校+リリス	オーボエとピアノによる体育館コンサート	59

演劇

旭区	上白根小学校+サンハート	ももたろうのお芝居にチャレンジ	61
旭区	四季の森小学校+象の鼻テラス	かだらのまほう～みえないものがみえてくる～	62
磯子区	屏風浦小学校+杉田劇場	パントマイムにチャレンジ	63
金沢区	釜利谷東小学校+Media Global	Four New World～ミュージカルで夢を表現してみよう～	64
金沢区	瀬ケ崎小学校+急な坂スタジオ	「もやもや」と学校のモノを使って演劇をつくる	65
金沢区	八景小学校+象の鼻テラス	10 歳を祝おう！！身体表現ワークショップ	66

ダンス

鶴見区	新鶴見小学校+サルビアホール	いろいろなものにへ～んしん！	68
南区	井土ケ谷小学校+吉野町市民プラザ	ダンスで自分の内面にあるものを表現	69
保土ケ谷区	新井小学校+横浜赤レンガ倉庫１号館	物語を自由に身体で表現してみよう	70
旭区	白根小学校+急な坂スタジオ	振り付けを一緒に踊ろう！ダンスワークショップ	71
旭区	不動丸小学校+横浜赤レンガ倉庫１号館	身体を動かす楽しさ、面白さを味わおう	72
港北区	小机小学校+急な坂スタジオ	身体で演奏会	73
都筑区	山田小学校+芸術家と子どもたち	校歌をアレンジだ！！	74
栄区	桂台小学校+リリス	みんなでダンス！！	75
泉区	岡津小学校+テアトルフォンテ	みんなで踊って、運動会で盛り上がろう	76
泉区	東中田小学校+テアトルフォンテ	創作ダンスで団結し、みんなでハーモニーを作ろう	77
泉区	緑園東小学校・緑園西小学校+ＳＴスポット横浜	いろいろな素材と自分の身体で遊んでみよう	78
鶴見区	矢向中学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	みんなで踊るって楽しい！	79
泉区	領家中学校+テアトルフォンテ	太鼓のリズムやダンスなど、迫力のエンターテインメントを楽しもう	80

美術

神奈川区	浦島小学校+かなっくホール	クラフト用紙ワークショップ	82
神奈川区	子安小学校+かなっくホール	カラフルスティック・ワークショップ	83
南区	永田台小学校+横浜美術館	「色水づくり」と「ぺったんアート」	84
港南区	吉原小学校+象の鼻テラス	ハローサンリク-東日本大震災から 10 年「ひかりの実」特別プログラム-	85
保土ケ谷区	権太坂小学校+岩間市民プラザ	やじろべえワークショップ	86
旭区	本宿小学校+横浜市民ギャラリー	空とぶわたし	87
金沢区	大道小学校+長浜ホール	「３組スマイル水族館」をみんなで作ろう	88
金沢区	六浦南小学校+長浜ホール	巨大ステンドグラスで創立 30 周年を祝おう	89
港北区	新吉田小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	工業資材を使ったリサイクルアートに挑戦１	90
港北区	新羽小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	ぺったんアート・ダンボールオブジェ～たくさんの素材に触れて形に～	91
緑区	森の台小学校+ART LAB OVA	20 年前の自分、現在の自分、20 年後の自分	92
青葉区	さつきが丘小学校+ART LAB OVA	見方を変えると世界が変わる	93
青葉区	田奈小学校+横浜市民ギャラリー	自分でするって楽しい！	94
青葉区	つつじが丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	ダンボールで自分なりの形をつくってみよう	95
青葉区	藤が丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	工業資材を使ったリサイクルアートに挑戦２	96
都筑区	川和小学校+横浜市民ギャラリー	絵馬を描こう	97
栄区	庄戸小学校+リリス	足あと・手型・全身アート	98
中区	横浜吉田中学校+横浜美術館	ヒサさんと空想の街を描こう	99
港南区	港南中学校+横浜美術館	Heiwa Tube：あなたの「平和」をきいてみる	100

港北区	新田中学校+ART LAB OVA	オルタナティブ模写	101
栄区	本郷中学校+横浜美術館	ジェンダーフリーな制服をつくろう	102
保土ケ谷区	上菅田特別支援学校+ＳＴスポット横浜	匂いと光、その記憶から生まれるコミュニケーション	103

伝統芸能

鶴見区	上末吉小学校+サルビアホール	和楽器に触れ、日本音楽に対する関心を高めよう	105
鶴見区	汐入小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	三味線に触れてみよう１	106
鶴見区	矢向小学校+サルビアホール	「音」から分かる日本の伝統 和楽器を知ろう	107
神奈川区	神大寺小学校+かなっくホール	狂言に触れ、日本の古典芸能に親しむ	108
神奈川区	幸ケ谷小学校+横浜能楽堂	箏を体験～日本の伝統芸能に触れる１～	109
西区	浅間台小学校+ＳＴスポット横浜	みんなで１つの音をイメージしてお箏を演奏してみよう	110
西区	宮谷小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	自分の気持ちや風景を箏の音に乗せて表現してみよう	111
西区	みなとみらい本町小学校+横浜能楽堂	箏を体験～日本の伝統芸能に触れる２～	112
南区	六つ川小学校+Media Global	落語を鑑賞しよう	113
港南区	港南台第三小学校+吉野町市民プラザ	お箏を体験しよう	114
港南区	下野庭小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう１	115
保土ケ谷区	今井小学校+岩間市民プラザ	和太鼓の演奏を聴こう	116
保土ケ谷区	帷子小学校+岩間市民プラザ	落語を聴く・学ぶ・体験する	117
保土ケ谷区	富士見台小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう２	118
旭区	今宿小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう３	119
旭区	さちが丘小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう１	120
旭区	鶴ケ峯小学校+横浜にぎわい座	「寄席の芸」を鑑賞しよう１	121
旭区	南本宿小学校+横浜にぎわい座	「寄席の芸」を鑑賞しよう２	122
磯子区	汐見台小学校+杉田劇場	箏の奏法を知り、実際に演奏する１	123
磯子区	浜小学校+杉田劇場	箏の奏法を知り、実際に演奏する２	124
磯子区	洋光台第二小学校+杉田劇場	能を知る・能を観る	125
金沢区	並木中央小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう２	126
港北区	新吉田第二小学校+民族歌舞団 荒馬座	日本のリズムを体験しよう１	127
港北区	高田東小学校+あっちこっち	お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！	128
港北区	箕輪小学校+関内ホール	箏の演奏体験～演奏を肌で感じる～	129
緑区	新治小学校+みどりアートパーク	和楽器の良さや音色に親しもう	130
青葉区	鉄小学校+横浜にぎわい座	「寄席の芸」を鑑賞しよう３	131
青葉区	嶮山小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう３	132
都筑区	荏田東第一小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	三味線に触れてみよう２	133
都筑区	勝田小学校+みどりアートパーク	元気にたいこ、ドンドン	134
都筑区	東山田小学校+横浜みなとみらいホール	箏の体験～みんなで息を合わせて演奏しよう１～	135
戸塚区	境木小学校+さくらプラザ	小鼓で感じる歴史と音楽	136
戸塚区	東品濃小学校+さくらプラザ	狂言と現代をつなげるための授業	137
戸塚区	舞岡小学校+横浜にぎわい座	落語を披露してみよう	138
戸塚区	矢部小学校+さくらプラザ	箏と尺八の生の音を感じよう	139
戸塚区	横浜深谷台小学校+横浜みなとみらいホール	箏の体験～みんなで息を合わせて演奏しよう２～	140
栄区	千秀小学校+関内ホール	雅楽のコンサート	141
泉区	伊勢山小学校+横浜みなとみらいホール	雅楽に触れてみよう	142
泉区	中和田小学校+テアトルフォンテ	日本の伝統音楽である雅楽の良さや面白さ美しさを味わおう	143
瀬谷区	二つ橋小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう４	144
瀬谷区	三ツ境小学校+岩間市民プラザ	箏の体験と鑑賞～「さくらさくら」を弾いてみよう～	145
瀬谷区	南瀬谷小学校+民族歌舞団 荒馬座	日本のリズムを体験しよう２	146
瀬谷区	瀬谷さくら小学校+岩間市民プラザ	箏と尺八の演奏を聴いてみよう	147
南区	蒔田中学校+吉野町市民プラザ	お箏に触れてみよう	148
南区	南が丘中学校+吉野町市民プラザ	よさこいを踊ろう	149
戸塚区	東俣野特別支援学校+さくらプラザ	津軽三味線の音色を感じよう	150

【スクール・オブ・ダンス事業実施報告書】・・・151
スクール・オブ・ダンス事業実施報告書　概要 担当アーティスト 152

鶴見区	平安小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス１	155
南区	太田小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス２	156
南区	南小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス３	157
港南区	日限山小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス４	158
保土ケ谷区	川島小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス５	159
港北区	師岡小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス６	160
戸塚区	倉田小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス７	161
栄区	豊田小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス８	162
保土ケ谷区	ろう特別支援学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス９	163

【アーティストプロフィール】・・・164

【コーディネータープロフィール】・・177

【各種資料】・・・183

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
令和３年度事業報告　概要

事務局体制と課題認識・目的

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、認定特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局が運営を担い、ＳＴスポット横浜が中心となって事業を推進しています。事業を推進するにあたり、横浜の次世代を担う子どもたちのコミュニケーション力や創造力等を育み、豊かな心を養うことを本事業の目的としています。

今年度は、音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能などの分野で活躍しているアーティスト（芸術家）が、小学校119校、中学校10校、特別支援学校10校、あわせて139校、12,823人の児童・生徒に向けてプログラムを実施。横浜市内の文化施設や、市内外のアートＮＰＯをはじめとする民間の芸術団体など38団体が、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして授業づくりを支援しました。

コーディネーター会議

取組の蓄積、活動の深化に向けて

令和３年度は、事業を担当するコーディネーターが集まり情報交換を行う「コーディネーター会議」を実施し、計23名が集まりました。この場では、担当する学校とのプログラムを調整する際に起きる課題の整理や、感染症予防対策、過去に蓄積したノウハウなどの情報交換を行いました。

（令和３年７月８日、会場：横浜市吉野町市民プラザ）

先生のためのワークショップ

教員向けプログラムとしては、先生のためのワークショップを、美術分野と特別支援教育分野において行いました。美術分野では、横浜市教育委員会、横浜市立中学校教育研究会美術科部会とともに、横浜美術館の教育普及グループ 教育プロジェクトのコーディネートにより、「コミュニケーションを通じて展示を考えてみよう！」（令和３年７月28日、Zoomにてオンライン開催（PLOT48より配信）、小・中・特別支援学校の教員等21名参加）、「横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会　公開研究会」（令和３年12月11日、Zoomにてオンライン開催（PLOT48より配信）、オンライン参加：全国の学校教育や博物館教育に携わる方、関心をお持ちの方48名、会場参加：横浜市の教員など21名）を行いました。

先生のためのワークショップ

特別支援教育分野では、横浜市特別支援教育研究会・C 部会とともに、オンラインで実施しました。横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラムでの個別支援学級の取組を主に紹介し、アーティストによる、音や言葉、身体や身近な物を使ったワークショップを行い、横浜市内の小学校の個別支援学級の教員 53 名が参加しました。（令和３年 10 月６日、Zoom にてオンライン開催（戸塚小学校より配信））

また平成30年度より、横浜教育支援センターと連携し、不登校状態にある児童生徒の支援機関であるハートフルルームとの取組を継続しています。令和３年度は、横浜市内４か所のハートフルルームにて支援員に対するヒアリングを行い、その結果を取りまとめました。

ウェブサイトの運営

このほか、芸術文化の創造性を学校運営、カリキュラム等に生かしたいと考える学校関係者や、これからプログラムに参加したいと考えるコーディネーターやアーティストのための窓口を設置し、随時相談を受けました。また、過去の実績を集積した報告書や、コーディネーター、アーティストなどの情報をウェブサイトで公開しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
学校プログラム 連携のしくみ

連携のしくみ

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方が集まって、つくられています。ねらいは、次の３点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり

（２）さまざまな実施主体、関係団体を結ぶネットワーク

（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校現場

子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じてプログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。

事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）

年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。

コーディネーター（芸術団体／文化施設など）

学校などで、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。その際、学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整します。

学校プログラムの連携とすすめかた

【アートの力を、学びの基礎づくりに生かします】

私たちは、芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの感性を認め合い豊かにしていく過程を大切に考えています。教科・科目との連動以外に、コミュニケーション能力の育成やクラスの課題解決など、学びの基礎づくりの中で力を発揮するアート。自由な発想や創造性にあふれた感性を導くことで、子どもたちの学習活動がより豊かになることを期待します。

【アーティストが、直接学校へ出かけます】

プログラムは大きく分けて２種類。１つは、３日程度にわたり実施し、実技体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組み、子どもの潜在的な創造性やコミュニケーション力を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施する「体験型プログラム」。もう１つは、基本的に１日で終了するプログラムで、アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞した後、アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができる「鑑賞型プログラム」。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍しているアーティストが、直接学校へ出かけます。

【コーディネーターと先生が、実施内容を調整します】

学校プログラムでは、普段文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科・科目のねらいや、普段の学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターが持つ文化芸術分野に関する専門知識が１つになることで、効果的なプログラムが実施できます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
これまでの学校プログラムの取組

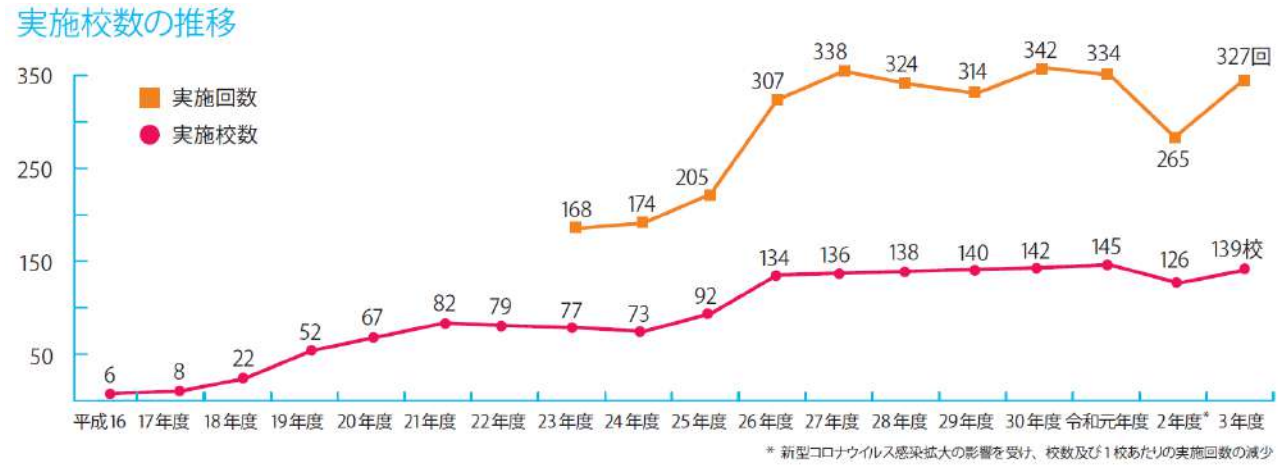
平成 16 年度から事業を開始

学校プログラムは、平成16年度にスタートしました。平成20年度には「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設立して事務局の基盤を強化しています。この18年間で、のべ1,658校の横浜市立の小・中・義務教育学校・特別支援学校で、183,237人の児童・生徒たちが、アーティストとの時間を過ごしました。

		平成 16-28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
参加児童・生徒数		**116,416 人**	**14,887 人**	**14,091 人**	**14,306 人**	**10,714 人**	**12,823 人**
実施校数		**966**	**140**	**142**	**145**	**126**	**139**
	音楽	387	43	46	46	40	43
	演劇	111	10	10	9	6	6
	ダンス	127	20	18	15	12	22
	美術	149	25	19	25	20	22
	伝統芸能	192	42	49	50	48	46
応募校数		1,048 校	144 校	160 校	169 校	170 校 ※	170 校

※うち 28 校が応募取り下げ、10 校が実施中止

実施校数の推移



学校種別実施校内訳

		平成 16-28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施校数		**966**	**140**	**142**	**145**	**126**	**139**
	小学校	853	125	126	122	113	119
	中学校	59	6	6	13	7	10
	義務教育学校	−	1	2	1	1	0
	特別支援学校	54	8	8	9	5	10
応募校数		1,048 校	144 校	160 校	169 校	170 校 ※	170 校

※うち 28 校が応募取り下げ、10 校が実施中止

多様なコーディネーターによる、プログラムの実施

現在の学校プログラムは、コーディネーターとして関わる市内外のアートＮＰＯなど民間の芸術団体と、横浜市内の文化施設に支えられています。直近６年間のコーディネーター数の推移は以下の通りです。

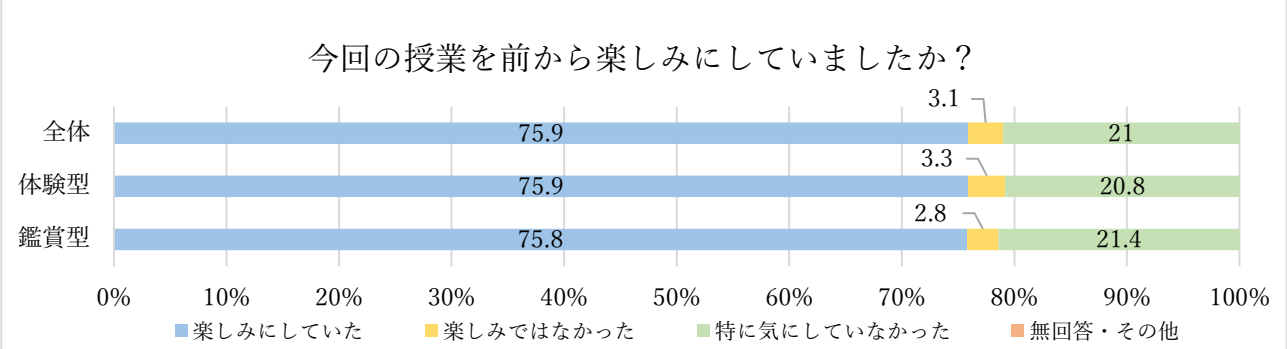
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
芸術団体	12	11	10	10	10	10
文化施設	26	26	26	26	26	26
事務局構成団体	1	2	2	2	2	2
合計	**39**	**39**	**38**	**38**	**38**	**38**

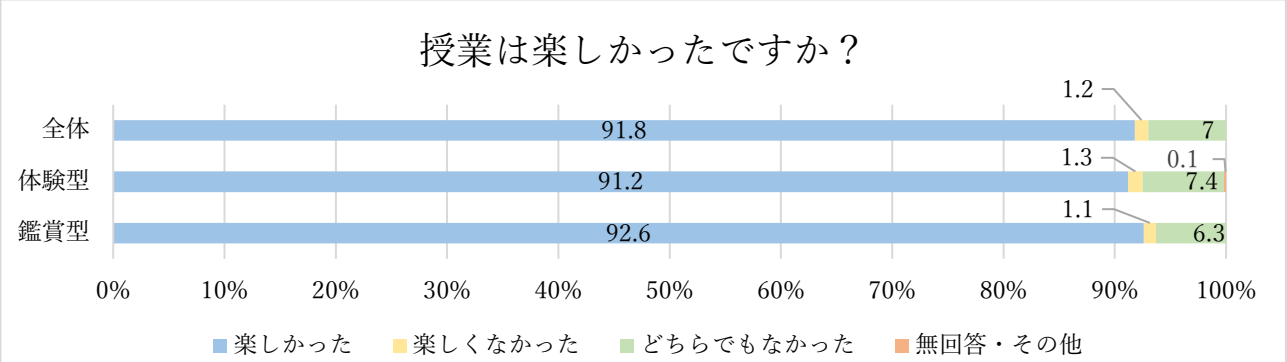
学校プログラム　アンケート結果

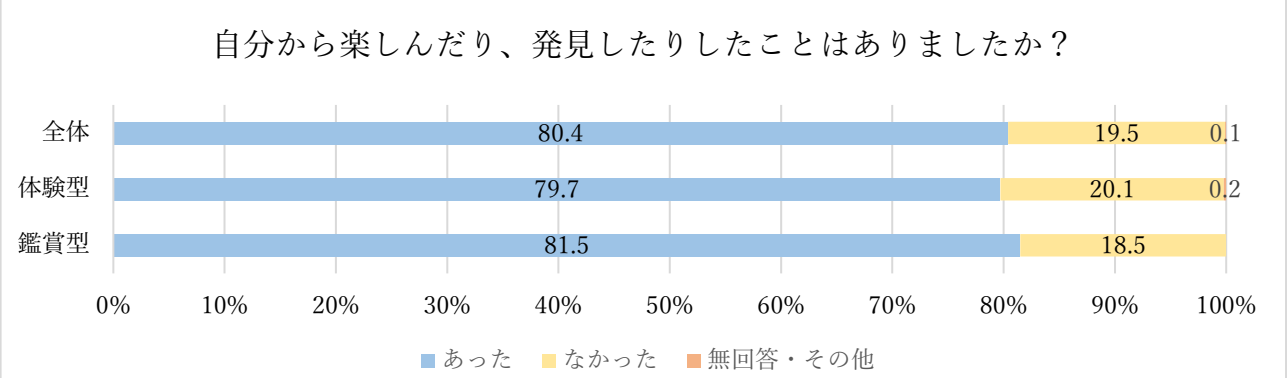
児童・生徒向けアンケートから

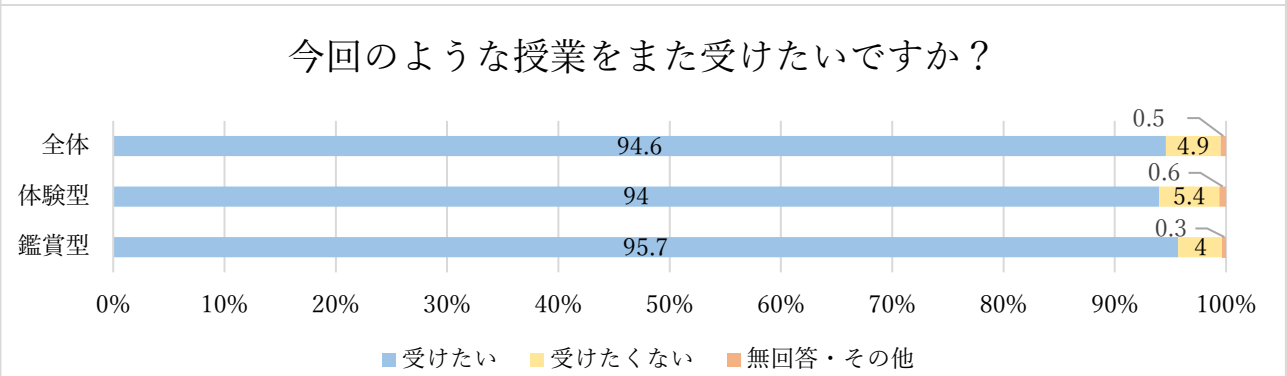
令和 3 年度の実施校に対して行ったアンケートを集計したものです。児童・生徒向けのアンケート（※）では、9,332 人（うち体験型プログラム 5,753 人、鑑賞型プログラム 3,579 人）より回答がありました。※小学３年生以上を対象とし、個別支援学級・特別支援学校では任意で実施しました。設問のうち自由記述は個別報告のページに示しました。

「楽しかった」が 91.8%、「また受けたい」が 94.6%など評価が高く、次回への期待がうかがえます。









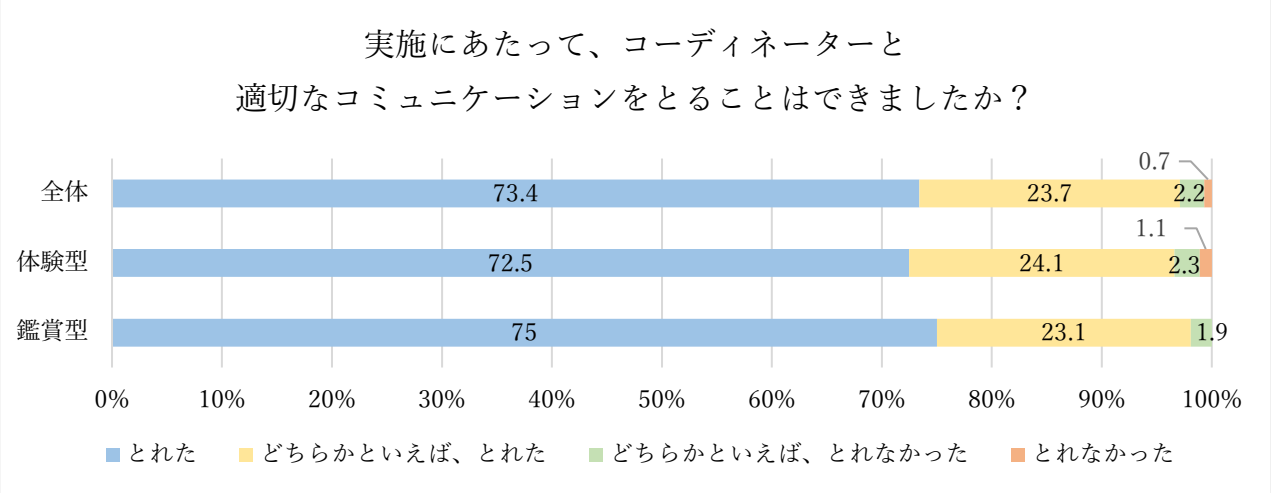
学校プログラム　アンケート結果

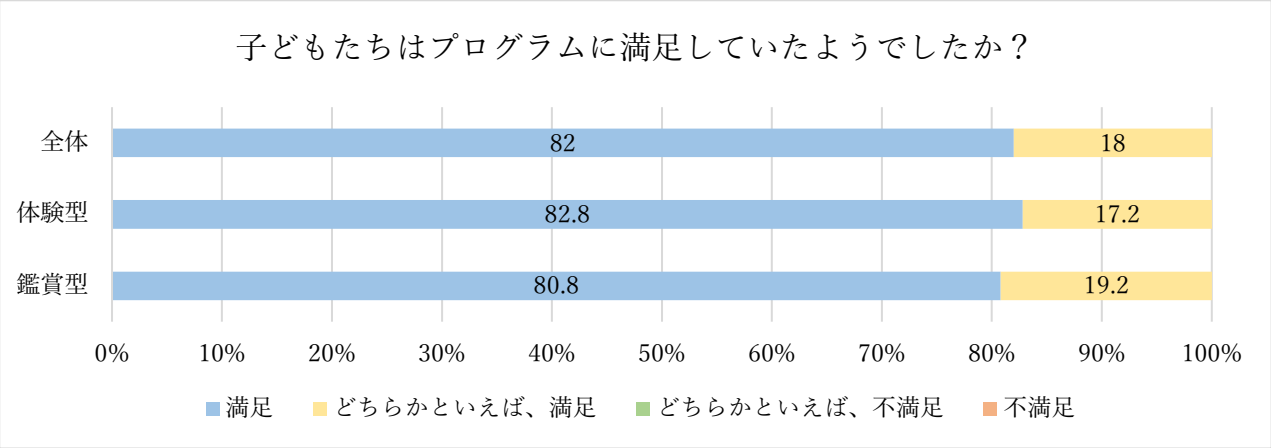
教員向けアンケートから

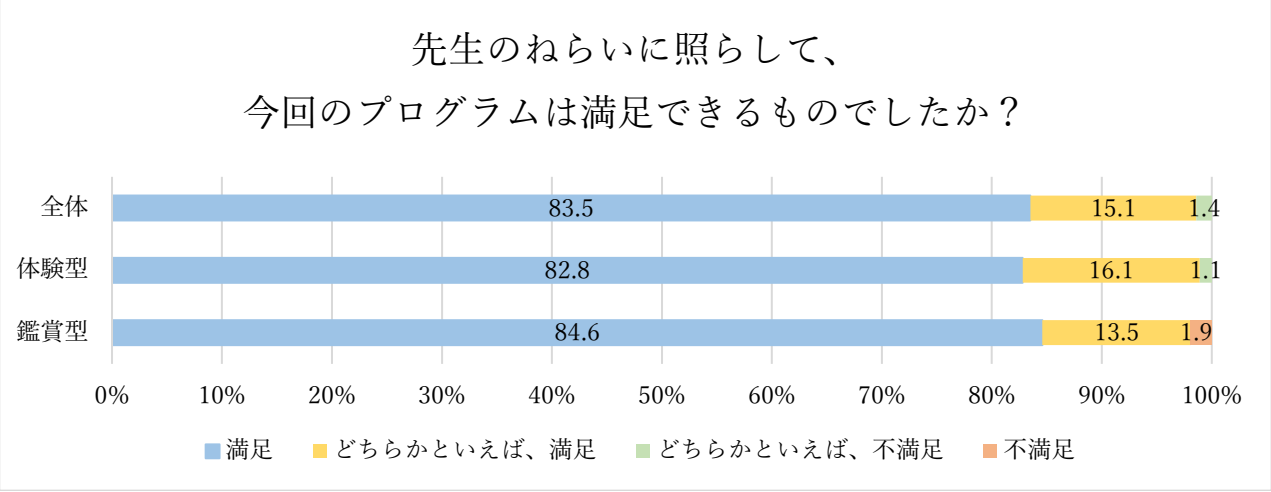
令和３年度の「学校プログラム」実施校の学校（もっとも事業に関わった教員）に対してアンケートを実施し、139 校より回答がありました。回収率は、100%（全実施校 139 校）でした。

プログラム全体について

先生から見た子どもたちの満足度については、「満足」「どちらかといえば、満足」を合わせると 100%、先生のねらいに照らした満足度については、「満足」「どちらかといえば、満足」を合わせると 98%以上と、いずれも高評価でした。



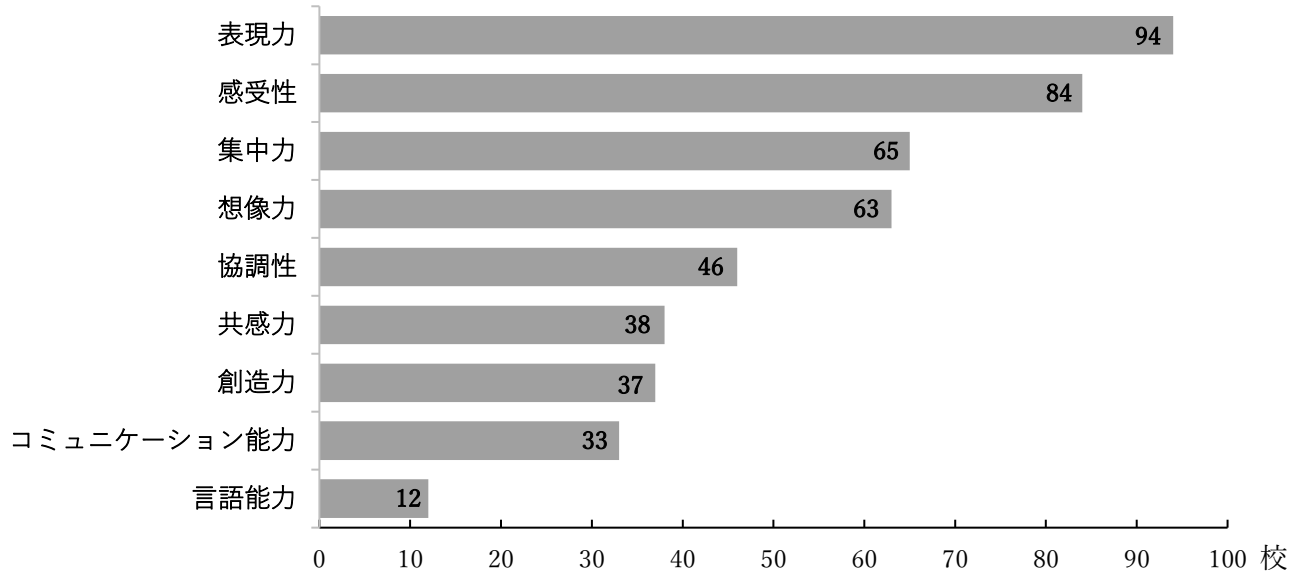




実施終了後に子どもたちに「身についた力」

取組を経て子どもたちに「身についた力」はどのようなものだったかを調べました。複数回答でもっとも多かった回答は「表現力」でした。以下、「感受性」「集中力」「想像力」「協調性」と続きます。

今回の取組により、子どもたちにとって力がついたと思われる項目（複数回答）



それぞれの力は、具体的にどのようなものだったか、先生の自由回答を整理したものを、以下にまとめました。

表現力

・一人ひとりがせりふを堂々と言おうとしており、細かい動きや、アドリブで動こうとする児童の姿が見られた。
・今までの子どもたちでは考えたことのない動きを体験していた。国語科で学んだ教材を身体で表現することから、これまでにはない表現力が身に付いたと感じた。
・アーティストの方のポジティブなお声掛けや、楽しく演奏する姿を見て、自分なりに音を出し始めていた。自分で表現してよいと感じたのだと思った。
・自分の思いを表現するのが苦手な子どもたちだったが教えてもらったダンスを必死に覚えて、一生懸命に踊る様子を見て、表現することを楽しんでいると感じた。
・活動が進むうちに思いが膨らみ、積極的に自分の思いを表現することができた。
・今まで意識したことのない身体の動かし方を知ることで、表現力が高まったように感じた。

感受性

・ジェンダーという難しいテーマに対して、中学生は、大人よりもはるかに柔軟に受容することができることが、事前の新聞記事を使った学習から見ることができた。さらに、アーティストの授業で考えが広がり、深まっていく様子が、制作、撮影、鑑賞と、回を重ねるごとに見られた。
・笑顔の実が点灯した木を見て、その美しさに感動している児童が多くいた。
・楽器の音に合わせて、自分なりに手拍子をしたり、思い思いに身体を揺らしてリズムを取ったりすることで、声を出さなくても簡単に表現できる力が身に付いた。また、静かな音楽では静かに聴くなど、聴く力が豊かになった。
・楽器の演奏の仕方が一つひとつ違うことや音の出し方など表現の工夫について楽しみながら聴くことができたという声が多かった。
・演技をグループで見合ったときに、同じ役を演じる子どもたちの中でも違いがあり、それぞれの良さに気付けている様子が見られた。
・全盲の児童が、身体を揺らしながらチェロの音色に聴き入っていた。

集中力

・講師の先生方の演奏に目を輝かせて見入っていた。
・課題の曲を弾けるようになりたいという一心で、真剣に取り組む姿がたくさん見られた。
・じっくりと落ち着いて聴き、見て、自分なりに良さや美しさを感じ取れた様子が、演奏家の方を見つめる視線やワークシートの記述から感じられた。
・１つのことをずっとやり続けるということが苦手な子どもたちが、時間いっぱい取り組んでいた。
・聴き慣れない音色でも、すっかり魅了されて、しっかり耳を傾けていた。言葉以外の表現方法を知る機会になった。

想像力

・活動の中で絵本の読み聞かせをしていただき、物語の世界を想像したり、実際にはないものを想像しながら踊ったりなど想像力を発揮して楽しむ姿が見られた。
・絵を見てイメージしたことを自分の中で広げていき、自分なりの動きを考えて踊っていた。
・身振りと声だけでストーリーを想像している様子が見られた。
・野外に展示をしたときに、風に揺れる作品を見て「空を飛んでいるみたい！」「手をつないでいるみたい！」とイメージを広げる姿があった。
・物がしゃべる、気持ちを劇で表現するという、普段の学校生活では考える機会がなさそうなことについて真剣に考えている子どもの姿があった。

協調性

・お互いに教え合ったり、箏や尺八の音色に感動したりと感受したことを共感しながら活動できた。
・友達と教え合って箏を練習していたり、体育館で演奏者とも一体になって鑑賞していたりする様子が見られた。
・友達と力を合わせることで技能を高めることができたと実感している児童が多く、より友達と学び合うことの大切さを感じているようだった。
・相手の動きをコピーしたり、友達のせりふに合わせて動いたりする姿に協調性を感じた。

共感力

・友達と感想を共有することでさらに感動が深まっていた。
・「～に見える」「～みたい」と発言した児童に「ほんとだ！」や「そうだね」など、アーティストが率先して共感してくださったことで、まねをしたり、つられて共感したりするなどの良い反応がたくさん見られた。
・１つのものを全員で見て受け止めて笑っている姿が見られた。

創造力

・自分たちでできることを探していく姿が見られた。
・それぞれの生き物に色を付けていく活動のときに、自分たちだけの発想を生かしたオリジナリティのある作品につなげていく姿勢が見られた。
・初めは見るもの全てを貼り付けていた子どもたちも、回を重ねるごとに「余白の美しさ」に気付き、「良きところでやめる」ということを身に付けていた。
・自分の身体を使ってどのように表現したいのか考えられた。

コミュニケーション能力

・自分たちで振り付けをアレンジしたり、対話しながら演奏したり偶然を楽しんだりと、いつもの学校の授業とは違う活動を楽しんでいた。
・グループに分かれて練習し、声を掛け合いながら練習に励む姿が見られ、「１曲、完成できた」という喜びを共に話していた。
・難しい振り付けなどを子ども同士が教え合い、コミュニケーションを取りながら活動する姿が見られた。

言語能力

・目の前で演奏される様子や音の響きに圧倒され感動し、引き込まれていた。感想の文章が非常に豊かに書かれていて、曲から想像した風景などを感じていたようだ。
・作品を通して「表す」ことをした上で、鑑賞では言葉も用いて「表す」という体験ができたので、一面的ではない「表現」の体験ができた。

【学校プログラムの個別報告】

音楽分野の取組

目の前で縦横無尽に奏でられる「生の音」に触れてみます。聴くことや見ることといった鑑賞を足場に、自分たちが実際にやってみる体験へと活動を広げ、音楽の楽しさを実感していきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立岸谷小学校＋大佛次郎記念館
音と言葉で“感じる”物語

担当アーティスト	ピアノと読み声ー紋音ー（伊藤慧（ピアニスト）、竹平晃子（アナウンサー））
実施校	岸谷小学校（鶴見区）
コーディネート	大佛次郎記念館
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／朗読・ピアノ／6 学年 2 学級 68 名・個別支援学級 28 名
実施日程	2021 年 12 月 14 日(火)

授業のねらい

自分たちに身近な題材を用いて、“朗読”と“音読”を実践することで、２つの違い体感し、工夫して表現することの楽しさを味わう。

主な内容

アーティストの紹介を兼ね、子どもたちが学んだ国語の教科書の作品を実演。朗読と音読の違いと、作曲についてを解説。簡単に大佛次郎について紹介。抜粋版「スイッチョねこ」の実演。

アーティストから

日頃子どもたちが慣れ親しんでいるアニメ、ドラマ、映画に音楽は欠かせないものです。音楽がストーリーに与える影響の大きさを子どもたちに体感してもらいたいと、さまざまな実験を盛り込みました。子どもたちからはとても積極的に意見が飛び交い充実した時間となりました。（伊藤）

国語の授業には欠かせない「音読」ですが、作品理解を、どうすれば「朗読」にしていけるのか分からない、という声をよく耳にします。今回、実際に学んだ作品などを題材に音読と朗読で実践・解説したことで、より伝わるための読みのヒントを知るだけでなく、そこに音楽が加わることで作品の世界観の奥行きがどう広がるのか、子どもだけでなく先生方にも体感していただけて、とても有意義な時間でした。（竹平）

コーディネーターから

取組開始から９月末まで緊急事態宣言などもあり、学校を訪問したり、アーティストと直接打合せすることができず苦慮しましたが、細かに連絡を重ねるうちに、意思疎通がスムーズになりました。本プログラムでは、音楽と国語の両教科に関わる内容で、どのように受け入れられるか未知の部分もありましたが、どちらの分野もそれぞれに興味関心を持つよう工夫がなされており、子どもたちはもとより先生方にもご好評をいただき、全体的にバランスが良く完成度の高いプログラムが実現したと思います。

先生から

若いアーティストが時代に合ったプログラムで児童を楽しませてくださったことは、教師としてたいへん勉強になり、うれしいことでした。また、お２人のアーティストが子どもたちの反応を見ながら丁寧に、心を込めて公演する姿はとても美しかったです。

子どもたちから

アニメや映画の中の曲が表現していることの意味が分かった。／音には理由があることを知った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立下末吉小学校＋サルビアホール
音と遊ぼう！音楽室を飛び出した楽器たちの音楽会

担当アーティスト	Hopscoootch!（打楽器アンサンブルグループ）
実施校	下末吉小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／打楽器／全学年全学級 162 名
実施日程	2021 年 11 月 15 日(月)

授業のねらい

コンサート（鑑賞）に加え、体験の部分を盛り込む。具体的には各学年の代表者による演奏体験、もしくは簡易的なパーカッションを各自作ってきてもらい、音に合わせて全員で演奏できるような曲を作る。楽器やその音色に触れる楽しさを味わい（主に低学年）、感じたことを表現する力を養う（主に高学年）ことが目標。

主な内容

鑑賞曲２曲と体験演奏１曲。１～３年の部と４～６年の部、それぞれ別プログラムで実施。

アーティストから

１～３年生、４～６年生ともに積極的に参加していた様子が印象的でした。身体を動かしたり笑いながら聴いていただけてうれしかったです。また、ワークショップでは私たちの音楽を流しながらリズム遊びにチャレンジしていただきました。見慣れない楽器を紹介し、代表の方々には実際に触れてもらうことで打楽器に興味を持っていただけたのではないかと思います。終了後は直接話しかけてくれる児童もいて、とてもうれしかったです。

コーディネーターから

マリンバとパーカッションの演奏に加えて、音楽室にある楽器でも演奏していただきました。子どもたちが普段接している楽器でアーティストが演奏すると、とても美しい音色を出すことや、その演奏技術の高さに驚いていました。体験では、アーティストの演奏に合わせて全員で合奏し、音楽を通して共感することができたと思います。実施後、担当の先生が子どもたちからアーティストへのメッセージを冊子にまとめてくださいました。アーティストにとって何よりの宝物になることと思います。

先生から

普段、学校の授業ではできない体験や音楽の鑑賞をすることができ、生の演奏は心に響くものがあると感じました。来年度以降も子どもたちに豊かな経験ができる機会を設けていきたいと思います。子どもたちは音楽を聴きながら、身体表現をしている子がたくさんいて、みんな思い思いの動きで楽しむ姿が見られました。

子どもたちから

もっと他の曲も聴いてみたい。／演奏をしている人がにこにこしていて楽しそうだなと思った。／見たことがない楽器をやらせてもらって思い出になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立斎藤分小学校＋かなっくホール ガムラン音楽を体験しよう

担当アーティスト	川村亘平斎（音楽家）
実施校	斎藤分小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ガムラン／5・6 学年 2 学級 79 名
実施日程	2021 年 10 月 18 日(月)

授業のねらい

異なる文化の音楽とプロのアーティストに触れ、クラス全員でたたき響き合う音楽を経験し、能動的に参加しながら相互理解を深める。

主な内容

ガムランの楽器や奏法を知り、演奏する。

アーティストから

斎藤分小学校の５・６年生たちとのガムランワークショップ。終了後の質問や感想が感性鋭く印象的だった。「Q：西洋音階ではないガムランに「ドレミ」のような名前がついているのか？（A：バリ特有の音階の名前ついています)」「Q：バリの人達はガムランを習う時に譜面を使っているのか？（A：楽譜は使わずに口伝で習います)」など。中でも良かったのは「素敵な音色を聴いて、心がポカポカしました」という感想。普段はあまり発言をしないというその子に、バリの響きが届いたことがうれしかった。

コーディネーターから

ガムラン楽器を上階に運ぶことが困難だったため、会場として体育館のご提供や、先生方による搬入・搬出のお手伝いなどをご協力いただき、スムーズに良い環境で実施することができました。子どもたちは「ドレミにはまらない？」「何だかしっくりこない？」と、なじみのない旋律に戸惑いながらも能動的に授業に参加してくださり、アーティストともども、やりがいのある充実とした授業を行えました。

先生から

学年が上がるにつれて、フレーズや始めと終わり、音階など形式的な音楽に子どもたちはなじみがあるように最近感じていて、実際に演奏し体験したことで、「形式にはまらない音楽もある…」と子どもたちが受容している姿が印象的でした。子どもたちが触ったことのない楽器だったので、みんなのスタート地点が一緒であることも、挑戦しやすいポイントで良かったなと思っています。また、音楽の学習では一度も手を挙げて発言したことのない児童が「ポカポカする音楽でした」と発言したり、普段みんなと活動することが難しい児童も、45 分みんなと同じ空間で楽器を演奏し楽しむ様子が見られたり、音楽に苦手意識のある子どもたちにとっても、記憶に残る有意義な時間だったのではないかと思っています。コロナ禍で、「みんなとなにかをする」ことが減っている子どもたちにこのような機会を与えてくださり、ありがとうございました。

子どもたちから

インドネシアは行ったことがないけど、知らない国や文化が見える楽器に興味がもてた。／楽譜がなくても成り立つ音楽ってすごいし、自由な音楽っていい。／バリの村で実際に使われているガムランを見てみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立中丸小学校＋あっちこっち
合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう

担当アーティスト	宮原健一郎（テノール歌手）、五十嵐志保美（ソプラノ歌手）、青木智哉（ピアニスト）
実施校	中丸小学校（神奈川区）
コーディネート	認定 NPO 法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／合唱／5 学年 2 学級 70 名
実施日程	2021 年 11 月 17 日(水)、2021 年 11 月 18 日(木)、2021 年 11 月 19 日(金)

授業のねらい

授業を通し児童たちが表現力や鑑賞能力を育み、12 月に行われる「ふれあいコンサート」に生かすだけではなく、この授業を通し学校生活が豊かなものになるよう心の育みもできればと考えている。また、みんなで心を合わせて演奏することの素晴らしさを知り、協調性も育む。

主な内容

＜１日目＞豊かな声の響きを味わおう＜２日目＞言葉が伝わる歌を目指そう＜３日目＞発表・講師ミニコンサート

アーティストから

昨年に引き続き今年も中丸小学校にお邪魔させていただき、５年生の子どもたちと素晴らしい音楽の時間を過ごすことができました。何より、音楽を真っ直ぐに受け止めて表現する、子どもたちの純粋な姿勢に感動しました。授業の中では、私たちからのアドバイスをしっかり受け取り、歌う毎にどんどん歌が変わっていくことにびっくりしました。また最終日の発表では、それぞれに想いを込めて伸び伸び歌ってくれたこと、とても嬉しかったです。（宮原）

この度は、小学校へ芸術を届けるという素晴らしい企画に参加させていただき、たいへん感謝しております。普段から歌のレッスンは行っておりますが、学校のクラスへの授業は初めてでしたので、わたしもとても良い勉強になりました。子どもたちにテクニックや表現を伝えると、すぐに吸収して、実演できる対応力に驚き、体育館での発表にもとても感動いたしました。（五十嵐）

３日間、児童の成長に携わることができて本当に嬉しかった。授業を通して改めて「ピアノ」と「歌」は、混ざり合ってこそ音楽になると実感した。前奏や間奏でどのような気持ちでピアノを聴くのかを説明した時の、児童の反応は素晴らしく、最終日の発表にその気持ちはしっかりと反映されていたように思う。また、講師演奏も含め「音楽を楽しむこと」を伝えることができたと感じている。これからもこのような活動を続けたいと思った。（青木）

コーディネーターから

子どもたちの吸収する力や聴く力がとてもあり、３日間の授業でとても大きな変化がありました。声量や響きの変化もありましたが、言葉に表情を乗せる練習をしてから、聴いていて思わず涙ぐみそうになるほど想いの伝わる歌になったと思います。また、打合せ時から先生の「子どもたちにプロのアーティストに教えてもらえる機会を大切にしたい」という思いがとても伝わってきました。音楽の授業が始まってからあまり日にちが経っていないなか、ハモって最初から最後まで通せる状態に持っていってくれており、普段の授業からとても熱心に授業をされていることを感じました。

先生から

アーティストさんの音楽を始めたきっかけなどもお話しされていたことで、子どもたちにとっても親近感が湧いたり、将来の自分自身の生き方を想像したりするきっかけとなりよかったです。またプロの技に触れられる機会となりよかったです。

子どもたちから

ふだんやらないようなじゅぎょうをやって、楽しかった。／ピアノでしってるきょくがでて、たのしかった。／一つひとつの言葉に意味があるとわかった。／サイレン発声、母音子音、胸声頭声が印象的だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立西寺尾第二小学校＋子どもに音楽を
クラシック音楽鑑賞～ヴァイオリンとピアノの生演奏を聴いて１～

担当アーティスト	渡辺玲子（ヴァイオリニスト）、坂野伊都子（ピアニスト）
実施校	西寺尾第二小学校（神奈川区）
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ヴァイオリン・ピアノ／4 学年 3 学級 113 名
実施日程	2021 年 11 月 8 日(月)

授業のねらい

子どもたちがよく知っている曲だけではなく、本格的なクラシックの曲を演奏家の本気度の高い演奏で子どもたちに聴いてもらう。コロナ禍で密を避けるため３クラスそれぞれでコンサートを聴きたい、という学校側の希望で 30 分３回の公演を行った。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子どもたちの交流。

アーティストから

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初めて３回に分けての授業となりました。プログラムを 30 分にまとめる難しさは感じましたが、少人数だったため子どもたちとの対話は多くもてたと思います。トータルで約２時間は体力的に大変ではありましたが、子どもたちからその分、多くのエネルギーをもらいました。積極的な質問もとてもうれしく思いました。

コーディネーターから

これまでの活動では２回公演を限度としていましたが、コロナ禍でやむを得ず３回の公演となりました。学校側は気持ちの込もった準備をしっかりしてくださり、３回の公演でしたが、演奏家も全力で子どもたちに向き合ってくださいました。迫力の演奏に子どもたちの反応はとても大きく、授業が終わってもなかなか立ち去らず、サインを希望する子どもの列ができました。厳しい条件の中でしたが、子どもたちの様子を見て温かい満足感を得ました。

先生から

とても近い距離で素晴らしい演奏家の演奏を聴くことができた、ということが何よりも貴重な経験となりました。響きだけでなく、動きや表情、指の先まで見られる距離で音楽を感じられたことが良かったです。曲目については、こちらのリクエストにも応えてくださりありがたかったです。直前に鑑賞の学習で聴いた曲や、合奏した曲を演奏してくださることで、子どもたちも知っている曲が聴けて喜んでいました。授業とのつながりという点においても有意義でした。

子どもたちから

ヴァイオリンとピアノのひびき合いがとてもきれいで思い出に残った。／どの曲も魅力的で音楽の楽しさを知った。／授業で学習した曲を聴くことができてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立下永谷小学校＋ひまわりの郷
えっ？これも楽器になる！？～創作楽器で楽しい音楽会～

担当アーティスト	ルロット・オーケストラ（クラシック音楽演奏集団）
実施校	下永谷小学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／アンサンブル／3 学年 4 学級 134 名
実施日程	2021 年 11 月 22 日(月)

授業のねらい

自分の身の周りにある生活用具などが立派な楽器として音楽を奏でる。「堅苦しい」と敬遠しがちなクラシック音楽も、もっと身近に感じてもらいたい。そして、既成概念で物事を判断せずに、個々のもつ、想像力や発想力を養うきっかけになり、この経験が今後の生活に役立つことを期待したい。

主な内容

通常の楽器のほか、身近にある日用雑貨などで作った創作楽器で演奏。児童の創造・創作力を養う。

アーティストから

昨年に続き感じたことですが、このような状況下でも子どもたちの「興味や好奇心」は変わらず旺盛で、この感性が多感な時期に少しでも多くの「音楽のアイデア」を伝えたいと思い、全力で臨みました。「身の回りには音が満ちあふれていて、高価な楽器を持っていなくても、楽譜が読めなくても、アイデア１つで自由に音楽を楽しめる」というきっかけの１つになってもらえたらと思っております。

コーディネーターから

昨年から続くこのコロナ禍で、子どもたちが生の音楽を体験して目を輝かせて聞き入って、知っている曲を声は小さいながらもマスク越しに口ずさんでいる姿を見て、子どもたちもいろいろなことを我慢しているのだと強く感じました。早く新型コロナウイルス感染症が落ち着いて、子どもたちに遠慮なく大きな声で歌ってほしいと思いました。

先生から

コロナ禍でさまざまな行事が制限され、外部講師や社会との関わりが少なくなってしまいました。今回このようなかたちで、子どもたちが社会生活で学ぶはずのルール（今回であれば鑑賞マナーなど）を学ぶことができ、良かったです。なかなか芸術に触れることも少ないので、この経験を通して一人ひとりが心に残った感動や驚き、思いを生活の中で表現していけるよう、支援をしていきたいと思います。

子どもたちから

がっきってつくってもおもしろいし音をだしてもたのしいのがわかった。／「がっきってむげんだいだなあ」と感じた。／がっきの形には理由があるんだなと感じた。／げすいどうのポンプの音がおもしろかった。／いろんながっきを見れたので、またきてえんそうしてほしい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立南台小学校＋ひまわりの郷
フルートの素敵な音色を感じてみよう

担当アーティスト	コンセール・ルミエール（フルートアンサンブル）
実施校	南台小学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／フルートアンサンブル／3・4 学年 6 学級 201 名
実施日程	2022 年 1 月 12 日(水)

授業のねらい

生の楽器（フルート）のアンサンブル演奏を通して、児童が音楽の素晴らしさや、演奏者同士の協調性や演奏者個々の表現力の大切さを感じ取ってもらえることを期待する。

主な内容

フルートアンサンブルによるクラシックや映画音楽の名曲の生演奏と楽器についての説明

アーティストから

今回のプログラムは、小学３年生４年生の音楽の教科書の中に出てくる曲を中心に決めました。授業で聞いたり歌ったりした音楽を生のフルート演奏で聞いてもらったので、反応も良かったと思います。楽器の話や音楽のストーリーを話した時は、興味深く聞いてくれました。音楽は最高のコミュニケーションツールです。私たちが最後に演奏した「小さな世界」は音楽を通して世界中の人と仲良くなれますようにという願いを込めました。子どもたちの未来が明るく光り輝くものになりますように。

コーディネーターから

コロナウイルスの新たな感染が徐々に広がりつつある状況で実施できるかどうか心配でしたが、無事に終えることができ、正直ほっとしました。鑑賞した子どもたちは体育館の寒さにも負けず、フルートの素晴らしい演奏を真剣に聞き入っていました。アーティストも低学年の児童の集中力が保たれるように、楽器の説明などを加えるなどして充実した鑑賞会になったと思います。

先生から

コロナ禍で「人」と関わることが少なくなっている中、学校外の魅力的な人に出会える貴重な機会でした。ＣＤなどではなく目の前の人が演奏する楽器から出る音を聴き、子どもたちは感じることが多かったようです。

子どもたちから

またやりたいしまたきれいなおとをききたい。／わたしもいつか、フルートをふいてみたいと思った。／乱暴ながっきの使い方をしていなかった。／心にのこる曲がたくさんあった。／音楽を聞いてがっきがすきになった。／リコーダーも、本当に鳥が歌ってるみたいですごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立市沢小学校＋横浜こどものひろば
五感を働かせみんなで楽しむ、普段と違う新鮮な音楽授業１

担当アーティスト	ぴんたろー（パーカッショニスト、作曲家、編曲家）
実施校	市沢小学校（旭区）
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ラテン音楽／個別支援学級 19 名
実施日程	2021 年 10 月 26 日(火)、2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 25 日(木)

授業のねらい

心から楽しいという気持ちを持たせてあげたい。みんなでやることの楽しさを感じ、共有したい。昨年、とても楽しそうに活発に取り組んでいたことも、あまり印象に残っていない普段の様子を見るにつけ、アーティストのすてきな音楽や子どもたちとのコミュニケーションから、ぜひ記憶に残るような楽しい機会とし、心が解放されて心地良いという感覚を持ってもらえたらと思う。

主な内容

＜１日目＞講師による演奏、ラテンパーカッションの楽器紹介、体験、リズム練習。＜２日目＞講師による演奏、子どもたち自作の打楽器をたたき、振り付けを考え練習する。＜３日目＞コンサートに向けたリハーサル、ミニコンサート、保護者や教員に向けて､講師と子どもたちの共演披露､子どもたちと先生による演奏。

アーティストから

昨年もワークショップをした学校だったので、半分以上の子が顔見知りという状態から始めることができました。昨年同様にペットボトルの底を利用した楽器（タンボリン）をたたきながら、校歌をサンバ風にアレンジして踊る内容でしたが、本年の方が子どもたちが段違いに積極的に参加してくれたのが伝わってきて、とても嬉しかったです。また１年ぶりに会う彼らの成長も感じられ、一人ひとりと深くつながることができて僕自身も楽しみました。

コーディネーターから

ぴんたろーさんたちとの２年連続の出会い。昨年はクラスの集団に入れなかった子が、今年は中心になって元気よく演奏し踊っていました。コーディネーターは連続５年、内容を変えて、この個別支援学級に参加しましたが、２年生だった女子児童も来春には卒業となります。どんな気持ちでアーティストと出会っているのか伺い知れないのですが、今年はぴんたろーさんに手紙を届けてくれました。初めて彼女の気持ちを知ることができ、うれしかったです。全員で一緒に何かをすることが苦手な子が多い中、ほとんどの子どもたちが、ぴんたろーさんの太鼓に合わせて演奏する姿を見て、アーティストの力、アートの可能性に感動しました。

先生から

２年目ということで、初めから安心して関わることができたと思います。太鼓をやった子に好きなようにやっていい、プロになれるよと自然と褒め、励ましてくださったことで、あの子は自信を持って生き生きと取り組めました。身近な校歌とペットボトルですてきな演奏ができたことがうれしく、より音楽を身近に感じられたと思います。

子どもたちから

はずかしかったけど楽しかった。／うたとダンスが楽しかった。／校歌をいっしょにできてよかった。／カムチャッカとカノンが楽しかった。／太鼓が難しかったけど楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立今宿南小学校＋サンハート イマミッコのためのサックスミニ音楽会

担当アーティスト	Nomad Saxophone Quartet（サクソフォンカルテット）
実施校	今宿南小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／サックスカルテット／3・4 学年 4 学級・個別支援学級 139 名
実施日程	2021 年 11 月 12 日(金)

授業のねらい

ただ演奏を聴く鑑賞型ではなく、リズム遊びや手拍子を促がしてもらえるような参加型を取り入れる。音楽に触れながら身体を動かすことによって、表現力を養うきっかけを少しでも提供できることを願う。

主な内容

サックス四重奏のコンサート

アーティストから

楽器の説明や音楽がどういう風に完成するのかなど、実演した際にはたくさんリアクションをしてくれたり、参加型の曲では積極的に手拍子や、歌ってくれたので演奏会が盛り上がり、私たちも楽しく演奏させていただくことができました。帰り際のイマミッ子の皆さんが笑顔で手を振ってくれて嬉しかったです。今後演奏をする、聴く機会が共に戻って来るといいなと感じました。

コーディネーターから

今回は３年生、４年生＋個別支援学級の２回公演でサックスの演奏会を開催いたしました。会場には「ノマドサクソフォンカルテットミニ音楽会」の横断幕を用意してくださり、学校側の温かさに出演者も感激しておりました。今年は今宿南小学校が創立 40 周年記念というお話を事前に伺っていたため、30 周年の際に作曲された曲を演奏していただきました。普段聴く伴奏とは異なるサックスの音色に、児童たちも興味深々でした。当初予定していた日程が分散登校日になってしまったので、日程変更することになってしまいましたが、出演者・学校の先生にスムーズに対応していただき感謝しております。

先生から

体育館中に響き渡ったサックス四重奏のパワーのある、しかも洗練されたサウンドに子どもたちは圧倒されていました。毎年、体験型のプログラムでお願いしていますが、今年はコロナ禍で体験型ができず、鑑賞型になりました。しかし、今回は今回でたいへん満足する内容でした。学校としては、保護者への経済的負担をかけることなしに、このような素晴らしい演奏が聴けることにたいへん感謝しています。

子どもたちから

体育館に行く前より音楽が好きになった。／今宿南小のスマイルイマミッコをひいてくれたところがうれしくて心にのこった。／がっきの音の感じやはくりょくがすごかった。／サックスをやってみたくなった。／音のリズムにのれて楽しかった。／新しく見る楽器がたくさんでてきて、たのしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上川井小学校＋横浜みなとみらいホール ジャンベを体験しよう１

担当アーティスト	池田正博（ミュージシャン）
実施校	上川井小学校（旭区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／民族音楽／6 学年 1 学級 18 名
実施日程	2022 年 1 月 14 日(金)

授業のねらい

世界の音楽に触れ、理解を深める。音楽の体験を通して、喜びや楽しさを実感するとともに、自身を持って表現したり、友達の新たな一面を発見することにつなげる。

主な内容

講師デモンストレーション、ジャンベのたたき方、基本のリズムを覚える、キメのリズムを覚え合奏／中休みは自主練習や講師とのコミュニケーションの時間とした

アーティストから

今回は、予めコーディネーターさんからいただいている子どもたちの特徴・課題に「新しい自分を開拓しにくい」という１文がありました。６年生が１クラスということもあり、１日で２時間分の体験授業となったため、初めて見聞き、体験をするという慣れないことに子どもたちは最後まで集中し、楽しんで学んでくれるだろうか？というのが頭の片隅にはありましたが、中休みの休憩時間もほとんどの子どもが太鼓をたたき続け、最後の全員でライブの時には「手が痛ーい！！」と言いつつ無我夢中で楽しんでたたきまくっていました。私がこの道を志した経緯にもかなり近い経験があります。楽しいから始まったことが新しい私を作り、楽しいを継続し続けた結果現在の私となりました。初心忘れるべからずですね。横浜市芸術文化教育プラットホーム事業を通して子どもたちだけではなく、アーティスト側もたくさんの刺激を受けていると感じています。もっとたくさんの子どもと関わりたいと強く感じました。そしてまたこのようなマッチングを調整してくれたコーディネーターさんにも感謝です。

コーディネーターから

中休み 20 分を挟んだ２・３時間目でプログラムを組み、中休み中も太鼓たたきたい人はたたいて良いし、アーティストとお話ししたい人はお話する時間としました。ほとんどの子どもたちがずっとたたいていましたし、アーティストが使用していた太鼓をたたかせてもらったり、いろいろ質問したりと、ジャンベやアフリカ音楽の世界に興味を持っていただけたのではないかと思います。

先生から

音楽の根本は「楽しむこと」。それを改めて感じました。学校の授業では、つい「できるようにさせたい」という教師の思いが先行してしまいます。それが子どものやる気や自信を失わせていると痛感しました。試行錯誤しながら自分なりの音を出す、それが認められることでさらに意欲も高まる…そんな学習を日頃から展開したいと思いました。

子どもたちから

先生達の出す音がすごかった。圧倒された。／話がおもしろかったし、わかりやすく教えてくれたことがよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立都岡小学校＋サンハート
いろんな楽器の特徴がわかる！音楽鑑賞会

担当アーティスト	Rythmission（打楽器奏者）、アトリエ箏こだま（和楽器奏者）
実施校	都岡小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽、特別活動
実施概要	体験型／打楽器・箏／3～6 学年 243 名
実施日程	2021 年 10 月 4 日(月)、2021 年 11 月 18 日(木)

授業のねらい

プロの演奏家の音色を間近で聴き、迫力を体感してほしい。芸術鑑賞授業を通して、豊かな情操を養いたい。

主な内容

＜１日目＞打楽器演奏会。＜２日目＞和楽器演奏会。

アーティストから

入場した瞬間から子どもたちのワクワクした表情がマスク越しからも伝わってきました。感染症対策で距離は保っていましたが、体育館中が熱気に溢れ子どもたちと心でつながれたような気がしてとても嬉しく思いました。皆さんに楽しい時間をお届けするのと同時に、私たちも子どもたちからパワーをいただき、一緒にたくさん笑ってとても幸せなひとときとなりました。(Rythmission)
今回の学年は終始非常に静かにお行儀よくされていて、子どもたちからひしひしと緊張感が感じられました。和楽器、特に弦楽器は繊細な音なので演奏中静かなことは有難いことなのですが、もっとリラックスして感情を表現してくれた方が私たちも子どもたちの存在を身近に感じられるので、良かったのではと感じました。とはいえ、コロナ禍での学校プログラムということで、子どもたちも盛り上がることができないためいたし方ないのですが…。和楽器とその音楽の表面だけを見せるのではなく、日本の伝統楽器と言われる物の本質と可能性を広く子どもたちに披露する時間は私たちとしても大切なため、今回良い機会をいただき感謝しております。(アトリエ箏こだま)

コーディネーターから

今回は３・４年生には打楽器、５・６年生には和楽器と明確なリクエストをいただいていたので、異なる演奏団体をお呼びし、２日間に分けコンサートを行いました。学年・プログラム内容も違ったせいか児童の雰囲気も全く異なり驚きました。楽曲・演奏者の雰囲気による影響もあったかと思いますが、中学年ですとノリノリに演奏を楽しむ雰囲気の反面、高学年は演奏にしっかり耳を傾ける印象でした。どちらも搬出入が大変な楽器でしたが、学校の先生方のご協力でスムーズに設営準備ができたこと、感謝申し上げます。

先生から

近年は感染症の影響から、音楽に触れる機会がめっきり少なくなり、このような機会をいただいて音楽を楽しむ子どもたちを見ることができ、とてもうれしく感じました。プロの演奏を見て憧れを持つ子どももおり、将来への幅が広がってよかったです。特にRythmissionは中学年相手だったのもありますが、子どもがノリノリで、その後の音楽の授業でも、打楽器に興味を持って取り組んでいます。

子どもたちから

リズミッションさんがとてもすごい。自分も楽器をひいてみたくなった。／アーティストのおんがくをきいて、アーティストの人が、こうゆうのができるんだとびっくりした。またききたい。／すきなうたをひいてくれてよかった。／音楽をよりちかく、いろんな楽器で聞けた。／からだでおとをだしたり、いろんなくふうをしていてたのしかった。／たいこなどでこんなに曲をさいげんできるんだとかんどうした。／とにかく楽しかった。／音楽がとてもきれいでいやされた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立朝比奈小学校＋横浜みなとみらいホール ジャンベを体験しよう２

担当アーティスト	池田正博（ミュージシャン）
実施校	朝比奈小学校（金沢区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／民族音楽／6 学年 2 学級 44 名
実施日程	2022 年 2 月 14 日(月)、2022 年 2 月 16 日(水)、2022 年 2 月 18 日(金)

授業のねらい

一人ひとりの自尊感情を高め、何事にも主体的に取り組めるよう、自己開示できる体験とする。

主な内容

＜１日目＞講師デモンストレーション、ジャンベのたたき方、基本のリズムを覚える。＜２日目＞１日目の復習、キメのリズムを覚える。＜３日目＞２日目の復習、リズムのバリエーション説明、合奏。

アーティストから

予めコーディネーターさんからいただいている子どもたちの特徴には「まわりを気にしすぎ反発せず自分を出さない」、目標には「自己開示できる体験とする」という説明があり、いつも授業の最初にやっている質問コーナーで「なるほど…」と思いました。太鼓の皮は何の動物でできていると思いますか？という質問で、たいていの子どもは思いついた動物の名前をどんどん発言していくのですが、どちらのクラスも最初誰も発言せず、挙手もありませんでした。そんななか少し不安を覚えつつ、いつも通り１日目の授業が終わりました。２日目の朝に担任の先生と話す機会があり、子どもたちは初日の授業の後、机をたたいていますということを聞き私は安心しました。授業でも伝えるのですが、アフリカのジャンベはもともと誰かに何かを伝える道具、コミュニケーションツール、自己表現そのものだからです。その後２日目、３日目と子どもたちのたたきたい（発言したい）という場面をひしひしと感じ、最終日のライブでは全員で盛り上がることができました。

コーディネーターから

２クラスだったため、３日間で授業３コマの体験となり、充実した体験となったと思います。合奏も早い段階でみんなで終わりのタイミングなどが合いました。最初は自信のなさそうだった子どもたちの音も、どんどん大きくなっていくのが分かり、アーティストも子どもたちからパワーをもらっている様子でした。

先生から

演奏者の雰囲気が明るく優しかったので、児童らは安心して３日間学ぶことができました。回数を重ねることで失敗を恐れずにリズムを楽しもうとする姿が見られました。

子どもたちから

アフリカのこととかジャンベに関わることをたくさん知れて楽しかった！／たいこでコミュニケーションをとっているアフリカの人は、とってもすごいと思った。／最後のライブでは「自分たちでもこんなにきれいに演奏できるんだ！」と思い、感心した。／今回はジャンベにたくさんおどろかされてもっとやってみたいなと思った。／みんなで「なんとなく」の感覚で一生けん命ジャンベをたたいたことが思い出に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立文庫小学校＋長浜ホール
アフリカの民族音楽を体感し、みんなでつながろう

担当アーティスト	ワールドアサンテファミリー倶楽部（民族音楽や踊りにより国際理解教育の普及と発展を目指すグループ）
実施校	文庫小学校（金沢区）
コーディネート	横浜市 長浜ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／民族音楽／4 学年 2 学級 66 名
実施日程	2021 年 12 月 20 日(月)、2021 年 12 月 22 日(水)、2021 年 12 月 23 日(木)

授業のねらい

打楽器を中心としたアフリカの民族楽器に、子どもたちが実際に触れて演奏し、ミュージシャンやダンサーによる本物の演奏を体験するワークショップです。国際交流はもとより、自ら表現することの楽しさ、素晴らしさを味わい、自尊感情を育みます。ほかの人の演奏を聴きながら自分も演奏することでチーム力を醸成し、学年での一体感を感じることを目指します。プロの演奏家と共演して、音楽とリズムの素晴らしさを体感します。

主な内容

＜１日目＞アフリカの音楽を民族楽器などを使って演奏してみよう＜２日目＞セネガル人アブドゥと一緒にダンスや民族楽器でアフリカを体感しよう＜３日目＞小柴ユミエのヴォーカルを交え、学年全体でアフリカの音楽で盛り上がろう

アーティストから

子どもたちはとにかく素直で、リアクションが大きかったです。初日はビートに乗っていろんな楽器を実際に演奏しました。２日目はアブドゥが登場し、一緒に太鼓をたたいたりダンスのワークショップをやったりと、あっという間の 45 分で、チャイムが鳴ってもパーカッションセッションが止まりませんでした。３日目は体育館で鑑賞会とワークショップ。途中、小柴さんが４曲歌いみんなで歌＆パーカッションをし、終わってからもたたきまくって怒涛のエンディングでした。学校の楽器も大活躍で今後の音楽の授業に期待です。

コーディネーターから

文庫小学校３回目の学校プログラムです。今年の４年生は一昨年の学校全体でのライブを覚えていて、アーティストも知っていました。でも、実際のワークショップは初めて。学校にある楽器の存在にまず驚き、演奏する楽しみを学年全体で知りました。先生方が率先してノリノリ状態なのにこちらもびっくりしました。セネガルのリズムと日本のリズムとは融合できる！つながれるというアーティストのメッセージは、先生方も含め、確かに伝わりました。

先生から

他の国の方と接する機会が少ない中、アフリカのリズムに触れて交流できた子どもたちはとても楽しそうでした。そんな子どもたちを見ると、あらゆる国の曲を聴かせて独特なリズムを身体に染み込ませて覚えてほしいなと思いました。

子どもたちから

アフリカのリズムが特にもりあがった！

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立大曽根小学校＋大倉山記念館
世界のさまざまな楽器の音やリズムを体感しよう

担当アーティスト	Sayumi（音楽家）、田島けいすけ（倍音アーティスト）
実施校	大曽根小学校（港北区）
コーディネート	横浜市大倉山記念館
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／民族音楽／1・2 学年 320 名
実施日程	2021 年 12 月 14 日(火)

授業のねらい

世界のいろいろな国・民族・文化で使われている面白い楽器や音を通して楽しんでもらうとともに、楽器から出る音の振動を生で感じて体感、共有することで、世界の多様な価値観や文化を感じてもらい、子どもたちの興味の幅を拡げ楽しみながら感性を磨いてもらいたい。

主な内容

おもしろいがっき　音にふれよう

アーティストから

珍しい楽器の演奏や写真を見ながらのお話に、自然と起きた手拍子、身体を揺らしリズムをとり演奏時には静かに耳を傾けるなど、マスク越しに見る子どもたちはとても素直な反応で楽しんでくれて嬉しく充実した時間でした。先生方からコロナ禍で１年以上何も行事がなかったので生演奏に触れることができ本当に良かったとお伝えいただき胸が温かくなりました。世界の楽器に触れ、新たな可能性と楽しみが増えたのではないかと感じています。

コーディネーターから

コロナ禍における学校の芸術教育に制約が多い中、子どもたちにワクワクするすてきな体験をしてほしいという学校の先生方と、世界の珍しい楽器の音を生で子どもたちに届けることにより、世界の多様な文化と社会を知ってほしいという出演者の想いが重なり、その場にいる全員が身体全身で音を感じるすてきな体験をさせていただきました。初めて聴く珍しい音に子どもたちは身を乗り出して聴き入っていました。子どもたちの中から自然と手拍子が生まれ、出演者と子どもたちが一体となり、その様子をご覧になっていた学校の先生方も喜んでいました。子どもたちが世界に目を向ける一助となれば幸いです。

先生から

昨年度から今年度にかけてコロナ禍でなかなか行事ができない中、アーティストの方々が来てくださり、楽しい時間がもてたことはたいへんうれしいことでした。本校での実施にあたり、コーディネーターの大倉山記念館の方が子どもたちが楽しめるもの、その中でただ聴くだけでなく身体全体で受け止められるもの、という希望をしっかり聞いてくださり、アーティストの方につないでくださいました。アーティストの方が持ってきてくださった、普段見聞きできないような楽器の音色やその楽器の起源などを写真や地図で紹介してくださり、子どもたちは世界に思いをはせることができたとともに、まだ知らないことがたくさんあることを実感できたと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立菊名小学校＋大倉山記念館
「こえ」をたのしもう！「うた」をたのしもう！

担当アーティスト	河野陽子（ソプラノ歌手）、荒井裕子（ピアニスト）
実施校	菊名小学校（港北区）
コーディネート	横浜市大倉山記念館
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／声楽／6 学年 4 学級 160 名
実施日程	2021 年 11 月 12 日(金)

授業のねらい

先生から、「マスク生活で声を出すのが制限されている中で、旋律を正しく捉えることなど、授業をする上で難しい状況に直面している。そのような中でも、歌の表現の持つ素晴らしさをプロの生歌を通して伝えてほしい。」とのご要望を受け、「こんなにも表現していいんだ」という表現の豊かさや、物事に向き合う自信を目の前で体感して、歌うことの素晴らしさが分かる機会とする。

主な内容

ソプラノリサイタルの鑑賞。

アーティストから

ご担当の先生からお話いただいた、子どもたちに本物の芸術活動に触れさせたいという強い想いを受け、オペラ、民謡、ミュージカルなど子どもたちになじみのある選曲をし、表現力の豊かさを伝えるようにしました。終了後には、子どもたちから初めての音楽鑑賞に対する素直な意見をいただき、事業を通じて音楽の持つ素晴らしいコミュニケーションを改めて感じました。

コーディネーターから

大きな声を出すことがはばかられる毎日の中、今年は一緒に声を出して歌ってもらうこともできません。マスク越しで 45 分間じっと耳を傾け続けねばならない子どもたちに、どうしたら楽しんでもらえるか考え、なるべくバラエティーに富んだプログラムを心掛けました。先生とアーティストの方には、プロジェクターを使って歌のイメージが湧くように画像を投影していただきました。演奏者同士が信頼し合い、心を合わせアンサンブルすることの大切さを感じ取ってもらえていれば本望です。今後、彼らが自身の「こえ」と向き合い、思いを「こえ」に乗せて自由に表現できるようになってもらえたらと願っています。

先生から

教科書にも載っているオペラ（曲は別ですが）に触れたり、日本の歌、ミュージカルの歌などを聴かせていただきました。子どもたちも知っている曲だったので、興味を持てていたと思います。私自身も歌だけで、ピアノの伴奏と合わせて、表現の豊かさの幅がこんなにも広いのだということを改めて感じました。

子どもたちから

言葉で表現できないほど感動した。／強弱の表現の工夫や高く響く声がすごいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立城郷小学校＋子どもに音楽を
クラシック音楽鑑賞～ヴァイオリンとピアノの生演奏を聴いて２～

担当アーティスト	漆原啓子（ヴァイオリニスト）、秋場敬浩（ピアニスト）
実施校	城郷小学校（港北区）
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ヴァイオリン・ピアノ／6 学年 4 学級 113 名
実施日程	2022 年 3 月 2 日(水)

授業のねらい

音楽会へはなかなか行く機会のない子どもたちが多い地域のため、身近で生の音・音楽を聴きたいということで、第一線で活躍中のヴァイオリニストの漆原啓子さんと、ピアニストの秋場敬浩さんにお願いした。体育館でのコンサートのため、より身近で鑑賞ができるようにと、舞台上にあるピアノを体育館の床に下ろし、子どもたちがよく知っている曲や、本格的なクラシックの曲を生で子どもたちに聴いてもらう。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子どもたちの交流。

アーティストから

集まった児童の皆さんの集中力や好奇心、着眼点の素晴らしさに感銘を受けました。純粋な聴覚と心を前にして演奏することは、音楽家の純粋な表現意思を鼓舞してくれることを改めて痛感しました。

コーディネーターから

ピアノを床に下ろしたことで、子どもたちは演奏をより身近に感じたに違いないと思いました。質問も６年生にしては多く出て、これもうれしいことでした。体育館のピアノがコンサート会場のような音に聴こえて、演奏家の高い力量を感じることができました。活動終了後に、コンサートを子どもたちと一緒に聴いていらした校長先生が、玄関の外まで見送ってくださったこともうれしいことでした。

先生から

どのような領域でもプロの仕事に接することで、子どもの心を動かすことができると改めて感じました。

子どもたちから

ピアノ・ヴァイオリンについて以前より詳しく知ることができた。／音楽のすばらしさを感じることができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立高田小学校＋大倉山記念館
南米の音楽と文化に触れよう

担当アーティスト	峰岸桂子（アルパ奏者）、ルイス・サルトール（チャランゴ奏者）、イリチ・モンテシーノス（ケーナ奏者、サンポーニャ奏者）
実施校	高田小学校（港北区）
コーディネート	横浜市大倉山記念館
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／民族音楽／3 学年 2 学級 80 名
実施日程	2021 年 11 月 9 日(火)

授業のねらい

外部の方を招待して本物の生の演奏を聴かせる機会がぐっと減り、授業にも制限がかかり、子どもたちに音楽に触れさせる機会が減ってしまっている。本事業では、ラテンハープのプロの演奏家と海外のいろいろな珍しい楽器の音色を楽しんでもらうことで、子どもたちに豊かな感受性を育んでもらうことを目指す。また、オリンピック開催の年でもあったので、外国の出演者、民族楽器、音楽、衣装を通して異文化交流を体験させ、音楽を通じた心の触れ合いを享受してもらいたい。

主な内容

南米の音楽と文化に触れよう

アーティストから

新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちの学校生活に、そして私たちアーティストの表現活動にも多くの制約がある中、開催されたコンサート。一緒に歌ったり楽器や衣装に触れてもらうことはできませんでしたが、それでも生演奏を聴く楽しみ、遠い国々の文化を学ぶ喜びは十分に感じてもらえたと思います。私たちの問いかけに多くの児童が積極的に挙手して答えてくれたこと、手拍子などで演奏に参加してくれたこと、そして何よりマスク越しの笑顔に手応えを感じました。

コーディネーターから

コロナ禍で子どもたちの音楽活動が制限され、もっと伸び伸びと感受性を育てたいという学校の想いに応えるべく、出演者の方々が音楽や楽器、言葉を通じての交流を深めるような内容で演奏会を開催してくださり、子どもたちが自然と手拍子で応援して、楽しそうに参加している様子がとても印象的でした。また練習する時間が少ない中、学校の先生もサプライズ出演として演奏に参加し、ご協力いただけたこと、本当に感謝しています。子どもたちのキラキラした笑顔が見れてたいへんうれしく思いました。

先生から

曲に合わせて身体を動かしたり、楽器に興味を持って質問する子どもたちの姿が印象的でした。ＣＤなどのスピーカーを通した音ではなく、生の音楽を目の前で見る、聴くことができ、その後予定していた器楽学習ともつなげることができました。また、出演者の方と一緒に演奏させていただき、子どもたちに演奏の楽しさを伝えられたと思います。

子どもたちから

はじめてみるがっきがいっぱいあった。／おもしろいがっきをみせてもらった。／ハープの音がきこえた。／何曲もひいてもらってたのしかった。／ハープをやってみたくなった。／いろいろながっきがあってたのしかった。／ハープが予想以上におおきかった。／いきがそろっていた。／ハープのおとがすてきだった。／楽器はすきだったけど、もっとすきになった。／牛乳列車がよかった。／リコーダーに似た楽器があった。／もっとききたかった。／音が全部あっていた。／機会があったらちがう楽器も聞きたい。／コンドルの曲がよかった。／きれいな音をいっぱいきけた。／演奏がすごかった。／また絶対授業をうけたい。／３人のお話がおもしろかった。／思い出にのこった。／プロの人にきてもらってうれしかった。／衣装も日本とちがってびっくりした。／音楽の先生もとちゅうではいっておもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立日吉南小学校＋横浜シティオペラ プロによる生の歌声を聴いてみよう１

担当アーティスト	中野亜維里（ソプラノ歌手）、築取洋子（ソプラノ歌手）、君島広昭（テノール歌手）、田中健（ピアニスト）、山本ひで子（ソプラノ歌手）
実施校	日吉南小学校（港北区）
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／6 学年 4 学級 146 名
実施日程	2021 年 11 月 5 日(金)

授業のねらい

生の歌（声）に触れることで、興味・関心を持ち楽しさ感じ、自分から学ぶ態度を育成するきっかけとしたい。また、この体験をわれわれ音楽家の学習につなげ、よりよい表現をするために役立てていきたい。

主な内容

ソリストによる歌唱（独唱、二重唱、メドレーなど）

アーティストから

「魔笛」「サウンドオブミュージック」のアリアやパパゲーノの二重唱を授業でしているということでリクエストをいただきました。魔笛より、夜の女王、サウンドオブミュージックより、エーデルワイスなど演奏いたしました。授業で耳にしている曲ということもあり、皆さんとても喜んで鑑賞していただきました。

コーディネーターから

６年生４クラス 146 名と、対象人数が多いことと、新型コロナウイルス感染症防止対策での初の試みになりましたが、午後２回の公演とし、密を避けスペースを確保して座っていただきました。また、通常の午前中に公演するよりも歌い手の声がよく出ていたように感じました。６年生ということで、挨拶の内容もしっかりとしており、「どのくらいの練習量ですか？」「普段気をつけていることなどありますか？」など質問をいただき、興味を持ってくれたようでした。

先生から

「本物を鑑賞する」素晴らしさを改めて感じました。子どもたちの中に美しいもの、大切に残ってきたものに対する敬意のようなものの“もと”が残ったのではと感じています。コーディネーターやアーティストの方の音楽に対する思いや表現力、テクニックに圧倒されました。日々の授業にも心に余裕を持ち、子どもたちに接していかねばと考えさせられました。

子どもたちから

実際にきいてみて迫力がすごかった。／声の種類がいろいろあり、歌い方も工夫されていて、歌の内容が伝わってきた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立荏子田小学校＋横浜シティオペラ プロによる生の歌声を聴いてみよう２

担当アーティスト	中野亜維里（ソプラノ歌手）、井上千佳子（ソプラノ歌手）、馬場由香（ソプラノ歌手）、君島広昭（テノール歌手）、田中健（ピアニスト）、山本ひで子（ソプラノ歌手）
実施校	荏子田小学校（青葉区）
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	特別活動、音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／1～3 学年 7 学級 162 名
実施日程	2021 年 12 月 13 日(月)

授業のねらい

普段の学習では鑑賞することのない演奏に触れて音楽や声楽に対して関心を高めその素晴らしさを感じてほしい。

主な内容

ソリストによる歌唱（独唱、二重唱、メドレーなど）

アーティストから

ロッシーニ作曲の「二匹の猫」の二重唱をリクエストされ、可愛い雌の子猫ちゃんに一目惚れした雄の子猫ちゃんが美味しそうな魚をプレゼントされて仲良しになるという仮定の演奏をしました。とても喜んでもらえて良かったです。

コーディネーターから

学校公演ではめずらしく校歌のリクエストがあり斉唱いたしました。また、事前の打合せでみんなの知っている曲をということでしたので、12 月ということもあり、クリスマスソングを数曲演奏いたしました。生の声のすごさに子どもたちは驚いていました。終わりの挨拶をしてくれてた児童からは「とっても驚きました。なぜそのようなすごい声がでるのですか？」などと感動の感想がありました。

先生から

今回１～３年生ということで、コーディネーターの方と内容を考える時に厳しい部分がありました。シティオペラの得意分野であるオペラやミュージカルは４年生～のため、１～２年生には難しい部分もありました。集中力が途切れてしまう児童もいて申し訳なく思っています。クリスマスの曲、ドレミの歌、校歌など児童に親しみやすい内容も入れていただき、感謝しています。

子どもたちから

小さいころにうたったうたや知ってるうたが出てきたからよかった。／低い声、高い声もきれいにうたっていた。／きれいな声でびっくりした。／楽しい歌だった。／いろんな声があって楽しかった。／ふりをつけて歌っていて楽しかった。／みんなでうたっているところもよかった。／校歌をうたってくれてうれしかった。／ミュージカルが一番おもしろかった！／クリスマスの歌のときに、タンバリンやみんなではく手をしたことが、一番楽しかった。／サウンドオブミュージックが好きだったので、「ドレミの歌」がすごく楽しかった。／マイクなしで広い体育館にひびいていてびっくりした。／季節にピッタリの歌が思い出に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立荏田西小学校＋フィリアホール 木管四重奏を鑑賞しよう

担当アーティスト	梶川真歩（フルート奏者）、山西由莉（オーボエ奏者）、櫻田はるか（クラリネット奏者）、中田小弥香（ファゴット奏者）
実施校	荏田西小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／木管四重奏／6 学年 5 学級 148 名
実施日程	2021 年 11 月 24 日(水)

授業のねらい

間近で美しい演奏に触れることにより、実際の音の響きの豊かさを感じ、素直に感動する心を育む。また、演奏家とのふれあいの中で、子どもたちがより高い目標を目指すきっかけになる時間にしていきたい。

主な内容

生の演奏の素晴らしさを間近で感じてもらう。

アーティストから

明るく親身な学校の方々に迎え入れられ、フィリアホールとのこれまでの温かな親交を感じ、安心して学校へ入ることができました。準備・リハーサルはゆとりのある時間が過ごせて、安心して本番に臨めました。当日はとても寒く、指を動かすのもギリギリの環境だと感じました。管楽器の場合、時期の選択に改良が必要です。子どもたちが静かに見えましたが、最後の質問コーナーで興味を持ってくれていたことを感じ安堵しました。質問コーナーを公演の半ばに設けたらもっと打ち解け、距離の近いアウトリーチになったかもしれないです。

コーディネーターから

プロの生演奏を間近に感じ、楽器それぞれの特色や音色を分かりやすく説明をしてくださり、その楽器の良さが出る楽曲を披露してくれました。短い時間の中で充実したプログラム構成で、子どもたちも生の演奏に聞き入っていました。演奏家に聞きたいことを質問する時間では積極的に手が挙がり、その中で演奏家の楽器を始めたきっかけが、このような小学校のアウトリーチで楽器を始めたということが印象的でした。寒い時期に、新型コロナウイルス感染症対策で窓を開けての体育館というのは、環境的に厳しかったようで考えていく必要があります。

先生から

このような状況下で生の音楽や楽器に触れる機会が少ない子どもたちなので、たった 30 分の演奏会でも子どもたちの興味が深まっていくのを見て、やはり生はいいなあと感じました。今後も大切にしていきたい機会ですし、各学年でそのような機会を設けられるよう工夫したいと思いました。

子どもたちから

テレビで見るより迫力があった。／木管楽器についてくわしく知れた。／体育館に響く音がきれいだった。／他の楽器のこともっと知りたい。／自分も吹いてみたいと思った。／演奏者の体のうごきもみれてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立恩田小学校＋フィリアホール
音楽を感じ、仲間とリズムで表現しよう

担当アーティスト	齊藤綾乃（打楽器奏者）、藤本亮平（打楽器奏者）
実施校	恩田小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／打楽器／6 学年 2 学級 80 名
実施日程	2021 年 10 月 19 日(火)

授業のねらい

この体験を通して相手を思いやる気持ちや表現力・感性を磨き上げるきっかけにしたい。本物の音・音楽に触れることで音楽の素晴らしさ、楽しさ、演奏の感動を感じてもらう。

主な内容

音を感じ、音を仲間と表現する。

アーティストから

子どもたちにとって久々のイベントということもあり、本当に伸び伸びと、全身で楽しんでいるのが分かりました。感染防止の為、行動に制限のあった彼らがボディパーカッションを通して抑圧された空気がポンっと破裂し、心も身体も解放されて、ひたすら動き回った後は、心地よい達成感を仲間たちと味わっているようでした。「もっとやりたいです」と口々に語ってくれた彼らの未来が明るくなるよう、今後もサポートの一端を担いたいと強く思いました。

コーディネーターから

マリンバの美しい響きの演奏や、さまざまな打楽器を紹介しながらの演奏、児童全員と行うボディパーカッションの演奏と魅力的な内容でした。その中で、コロナ禍で子どもたちにとっては制限のある生活で抑圧されていたエネルギーが、音楽を通して仲間と分かち合い吐き出せた瞬間を見た感じがしました。子どもたちのもっと！やりたい！という溢れる思いを先生も演奏家も受け取り、予定していた授業を超えて、自発的な子どもたちの期待に応えて演奏＆合奏を行えたことは、演奏する側・先生方をも感動させる授業でした。

先生から

音楽は活力！このことを再確認したひとときでした。子どもたちを引き込む話術、表情が素晴らしく、さすがパーカッションという印象でした。アンケートに“また受けたい”と全員回答しています。同じ音楽に携わる者としてあの明るさ、サービス精神は忘れていたものを思い出させてくれました。

子どもたちから

こういうみんなで集まって、体を動かすことをあまりすることがなかったので楽しかった。／たくさんの楽器の音や、種類を知れたことが良かった。／また来てほしい！／思いを伝えたいという気持ちがあれば本当にみんなとつながれるのだということを感じ、嬉しかった。／ベースの音楽も、それに合わせて使っている楽器も、すべてきれいな音だと思いながらきいていた。人はだれでもえんそうできる、という言葉は本当にそうなんだな、と思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立桂小学校＋フィリアホール
音やリズムを全身で感じてみよう

担当アーティスト	どやどや楽団（打楽器バンド）
実施校	桂小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／打楽器／4 学年 2 学級 66 名
実施日程	2021 年 12 月 10 日(金)

授業のねらい

素直に感動できる４年生という発達段階を踏まえ、生の歌や音楽などの本物に触れる機会を通して、視覚的・聴覚的に芸術の素晴らしさを感じさせたい。

主な内容

生の演奏を体感してもらい、演奏家と一緒に音楽を作る。

アーティストから

打楽器グループ「どやどや楽団」で桂小学校へ。広い体育館は楽器の音がよく響きました。４年生は落ち着きがありながらも素直で、リズムに身体を揺らす子や楽器を弾く真似をして一緒に奏でる子など、豊かな反応がたくさん見られました。最後は元気なアンコールに応えて子どもたちと共演。遠慮しながらも踊りたい子どもたちがだんだんとステージへ集まり、素敵なダンスを披露してくれました。音楽を通して子どもたちと１つになれた瞬間でした。

コーディネーターから

打楽器の今まで見たことのない演奏の技術を間近で「聞く・見る・感じる」ことができて、子どもたちにとっても刺激的だったようです。演奏家と一緒に音楽を作っていく過程で、自然に自分が感じたリズムをダンスで表現をする子どもたちがいたり、アンコールの曲では多くの子どもたちが前に出て音楽に合わせてダンスを踊ってくれた姿は、演奏家と子どもたちの心が１つになった瞬間でした。コロナ禍で行事が少ない中でのアウトリーチは、子どもたちや先生にとっても思い出に残る授業だったと思います。

先生から

間近でアーティストが見られること、音や振動を身体全体で感じられることがとてもよかったです。アーティストの表情がとても豊かで、音楽以上に魅了されました。子どもたちの実態にぴったり合ったアーティストさんを紹介いただけたのもうれしかったです。

子どもたちから

音楽のことが、とてもおもしろいものだと分かった。／楽器をならしているときのえ顔がすてきだった。／こころがひとつになってた。／曲をきいて体をうごかしてとてもたのしかった。／クリスマスメドレーが心に残った。／海の音のする楽器が不思議だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立美しが丘西小学校＋子どもに音楽を
クラシック音楽鑑賞～クラリネットとギターの生演奏を聴いて～

担当アーティスト	吉田誠（クラリネット奏者）、徳永真一郎（ギタリスト）
実施校	美しが丘西小学校（青葉区）
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラリネット・ギター／5 学年 4 学級 143 名
実施日程	2022 年 1 月 13 日(木)

授業のねらい

「自分の感じたことを素直に表現し、それぞれの思いを共有して音楽の力をみんなで感じ取り、共有し合いたい」「プロによる本物の演奏を間近で聴くことで、心動かされる体験をして感じ取る力、想像力が大きく育まれることを期待する」という学校側の希望に添えるよう、新型コロナウイルス感染症防止のため、音楽室ではなく体育館での活動とし、昨年と同様、ピアノを使わない形でクラリネットとギターのプログラムを考えた。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子どもたちの交流。子どもたちがよく知っている曲だけではなく、本格的なクラシックの曲を生の演奏で子どもたちに聴いてもらう。

アーティストから

意義のある貴重な機会をいただいてありがとうございました。子どもと対峙するためのプログラムやコンセプトは、ある意味大人向けのコンサートの何倍も難しいですが、回を重ねるたびに成長していきたいと思っています。

コーディネーターから

「先日は素晴らしい時間をありがとうございました。子どもたちはそれぞれに音楽の良さを深く実感しておりました。」との先生からのメッセージをいただきましたが、寒い中、子どもたちも集中して聴いており、演奏家との交流も感じられる活動でした。２つの楽器で演奏された校歌はとても美しく、彼らの心に強い印象を残したと思います。

先生から

アーティストの方が事前のリハーサルに十分時間をかけられて、子どもが相手だからこそ真剣に向き合うというご様子に感動しました。選曲もバラエティに富んでいて、各国を代表するような名曲はもちろん、「かめ」「地球の音」などは子どもたちにとってたいへん興味深く、大きな驚きと喜びを感じさせてくださいました。また、お話の内容や、国によってリズムのアクセントが違うことなどもたいへん興味深く勉強になりました。音楽は必要不可欠であり、人生に欠かせないものだと改めて実感しました。このような機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。

子どもたちから

色んな国によって音楽の雰囲気が違って面白かった。／音楽を聴いてたくさんの感情がわき起こった。／一つひとつの音に感情がこもっている。音色１つで曲の印象が変わるんだなと思った。プロの人は本当にすごいと思った。／音楽を聴いて今日は世界一周まわれた気分だった。／２つの楽器なのにまるでオーケストラのようだった。／一つひとつの音が心の琴線に触れた。／たくさんの素晴らしい音楽が聴けて、楽しくうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立牛久保小学校＋象の鼻テラス 自分たちで創る音楽×タップダンス

担当アーティスト	イーガル（現代音楽作曲家）、米澤一平（タップダンサー）
実施校	牛久保小学校（都筑区）
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、音楽
実施概要	体験型／創作／6 学年 4 学級 109 名
実施日程	2021 年 11 月 29 日(月)、2021 年 12 月 1 日(水)、2021 年 12 月 3 日(金)

授業のねらい

担当の先生からの話では、机にじっと座っているのが得意ではない児童が多く、音楽と身体表現を両方できるプログラムを希望していたため、前々年度に担当した現代作曲家のイーガルさんとタップダンサーの米澤一平さんが適任でした。児童の人数が多いため、一人ひとりが取り残されないように参加できるよう設計します。

主な内容

＜１日目＞放送室でタップと演奏を披露し、３日間の取組や目標を話す。１日目はタップと演奏を２組ずつ交代で体験する。＜２日目＞１限目はイーガルさん・米澤さんが各教室を巡り、クラスごとにグループの選曲チェックと曲の順番決めを行った。さらには、タイトルを決めるクラスもあった。２限目は体育館に１クラスずつ順番に入り、本番時の立ち位置や動きの確認を含め通し稽古を行った。＜３日目＞廊下や教室内でグループ練習した後、音楽室で４組から順番に発表。イーガルさんがピアノ演奏で作品に曲を付ける。２グループが舞台上に立ち、一方が振り付けを終えたら次のグループが踊ることを繰り返して、振り付けをつなぎ、１つの作品として映像に収める。

アーティストから

コロナ禍で全クラス合同でのワークショップができないという制限の中、放送室からの配信などを利用して新しい形でのリアルタイムのワークショップができたことに発見がありました。また４つの短いフレーズをクラスごとに組み合わせ別々の曲を作ったこと、タップダンスの振り付けを子どもたちが考えてくれたことで、教えるだけではない「創造」のワークショップにできたことをうれしく思っています。（イーガル）

コロナ禍で４クラス合同ワークショップが行えない中、「講師紹介」「ワークショップ概要」「簡易レクチャー」を放送室から配信し、各クラスとの授業に臨めたのは子どもたちにとって良い距離感と流れになったと思います。児童個人やチーム、先生も含め各クラス総合の団結と自力のクリエイションから全く異なる本番の発表が見られたことはうれしく、音楽とタップを通して個々チームの創造のプロセスと、それらがクラス単位で合わさった作品としての魅力を感じていただけたら幸いです。（米澤）

コーディネーターから

イーガルさんと米澤一平さんの音楽とタップダンスのコンビは、前々年度のアウトリーチでたいへん好評だったので今回もお願いしました。子どもたちが廊下や教室でアイデアを出し合いながら、繰り返し練習している姿が印象的でした。学校のタブレットを使用しながら、リズムを可視化したり独自の楽譜を作ったり、それぞれのグループが発明した共有方法を見ることができたので面白かったです。収録した映像をみんなで鑑賞した時のやりきった笑顔がとても魅力的でした。

先生から

本物に出会えることで、子どもたちの知らないことの広がりがあり良かったです。曲の種類を組み合わせることで曲の雰囲気が違ったり、基本的なタップの音の出し方を教わって曲に合わせた踊りを考えたり、いつもと異なる刺激がたくさんあったと思います。

子どもたちから

知らなかった体験ができ世界が広がった。／達成感があった。／イーガルさんの曲がきれいだった。（本物のすごさを感じた）／「失敗しても楽しければ大丈夫」という言葉にはげまされた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立北山田小学校＋横浜こどものひろば
五感を働かせみんなで楽しむ、普段と違う新鮮な音楽授業２

担当アーティスト	ぴんたろー（パーカッショニスト、作曲、編曲家）
実施校	北山田小学校（都筑区）
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	音楽、図画工作
実施概要	体験型／ラテン音楽／個別支援学級 20 名
実施日程	2021 年 11 月 10 日(水)、2021 年 11 月 16 日(火)、2021 年 11 月 26 日(金)

授業のねらい

知的に障害のある子もない子も楽しく活動に取り組めて、友達と一緒にやることの楽しさを味わえるようにしたい。熱中できることに取り組むことで、長い時間自分で考えて活動に取り組み、自分に自信が持てるようにしたい。

主な内容

＜１日目＞講師による演奏、ラテンパーカッションの楽器紹介、体験、リズム練習。＜２日目＞講師による演奏、子どもたち自作の打楽器をたたき、振り付けを考え練習。＜３日目＞コンサートに向けたリハーサル、ミニコンサート、保護者や教員に向けて、講師と子どもたちの共演披露。

アーティストから

少し難易度の高いことをするので、子どもたちが最後までついて来てくれるかが心配でしたが、音楽が大好きな子が心から楽しんでくれたこともあり、それに引っ張られるようにみんなが最後の振り付けまで、よく頑張ってくれたと思います。やらされているのではなく、自分から積極的に踊ってくれているのがこちらに伝わって来て、本当にうれしかったし、感動しました。

コーディネーターから

さまざまなラテン楽器に夢中になる子どもたち。自分はどんな楽器が好きか、どんな音だと楽しくなるのかをすぐに探し当てていました。そもそもみんな一緒にが苦手な子が多いのでしょうが、ぴんたろーさんの、面白さと彼らを大切に思う気持ちが通じて、太鼓のリズムに引き込まれていました。コンディションによっては集団がまとまらなくなることもありますが、それでもぴんたろーさんの来校を楽しみにしてくれて、最終日のコンサートでは保護者の方々の前で、ぴんたろーさんたちのバンドとの演奏をやり遂げていました。

先生から

個別支援学級は子ども一人ひとりに合った学習をするため、その子に合った学習の準備をする必要があり、交流級での学習サポート、空き時間なしのため担任の負担が大きいです。なかなか実技科目を充実させることが難しいと感じられる中、子どもたちに本物に触れる楽しい授業をしていただき、子どもたちだけでなく、保護者からも「とても良かった」と感想をいただきました。改めて実技科目の授業も充実させることができるように授業づくりをしていきたいと思いました。

子どもたちから

カムチャッカが楽しかった。／歌子さんの声がきれい！／ピンたろうさん、おもしろかった。／さまざまな打楽器を実際に触れ、どうやって作られるのか知ることができておもしろかった。／２時間目の授業（校歌にリズム付け、ふりつけを考える）はちょっと難しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立秋葉小学校＋アートの時間
見て･聴いて･作って、打楽器を楽しもう

担当アーティスト	TONES（マリンバ・パーカッショングループ）
実施校	秋葉小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／個別支援学級 49 名
実施日程	2021 年 12 月 3 日(金)、2021 年 12 月 8 日(水)、2021 年 12 月 21 日(火)

授業のねらい

生の演奏に触れ､音楽の素晴らしさを感じる場になること､また表現する楽しさを知り､人とのコミュニケーションを高めるきっかけとなること。

主な内容

＜１日目＞【鑑賞】ミニコンサート（さまざまな楽器の紹介）【体験】リズム打ち、ボディパーカッション。＜２日目＞【鑑賞】学校の楽器で演奏【体験】シェイカー作り。＜３日目＞【鑑賞】クリスマスミニコンサート（シェイカーで参加）【体験】ドレミパイプとボディパーカッション。

アーティストから

個別支援学級の子どもがどのような反応をするのか想像できないままのスタートでしたが、毎回おのおのに感じとってくれている様子が伝わり、回を重ねるごとに子どもたちとの距離も縮まっていったように感じます。鑑賞・制作・体験を軸とする内容でしたが、制作の時間が特に印象深く、「音にこだわる」という点に全員が集中し真っ直ぐに取り組んでいる様子に感心し、想像以上の作品が完成したことに感動しました。今回３日に渡るワークショップを担当させていただき、別の内容の案がどんどんと頭に浮かんでいます。私たちにとってとても有意義な３日間となりました。

コーディネーターから

先生の想いをアーティストが受け取り、鑑賞と体験をバランスよく組みこんだ贅沢な３日間となりました。初回子どもたちは、お行儀よくすることに神経を使っているように思えましたが、回数を重ねるごとに緊張感も取れ、安心して楽しむ姿を見ることができました。ペットボトルを使ったシェイカー作りでは、時間をかけ「自分の音」を探し、「持つ場所で音が違うよ」との発言も出てアーティストをうならせました。最終回では、立ち上がり踊る、シェイカーをふる、あるいは指先だけでリズムを刻むなど表現はさまざまですが、誰もが主役となり、今この時の LIVE 感を楽しむことができました。

先生から

プロの生演奏を聴くことで、音色の美しさや迫力、音楽の楽しさ、エンターテインメントとしての面白さをたくさん感じることができました。また、シェイカーを一緒に作り、そのシェイカーを使って演奏に参加するなど、ちょうど良い具合の体験もしたことで、より音楽を身近に感じることができたと思います。個別支援学級の子どもにとって演奏会に参加することは声を出すことや、身体を動かすことなど制限しなければならないことが多く、それがストレスになることもあるのですが、このような形態で鑑賞することで純粋に音楽を楽しみ、貴重な体験ができたと思います。来年もぜひ、こういった体験をさせてあげたいと感じました。最後になりましたが、TONES さんの素晴らしい演奏と温かい人柄や、コーディネーターの方々の細かな配慮に心から感謝いたします。

子どもたちから

ドレミパイプが面白かった。／演奏に合わせてシェーカーを鳴らしたのが楽しかった。／クリスマスメドレーが素敵だった。／シェイカーを作ったのが楽しかった。／素敵な音楽を聴かせてもらってうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立柏尾小学校＋さくらプラザ
ボディパーカッションで音楽を感じよう

担当アーティスト	萩原広充（ドラマー、パーカッショニスト）、佐藤深雪（ダンサー、 コレオグラファー）
実施校	柏尾小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ボディパーカッション／5 学年 3 学級 94 名
実施日程	2022 年 1 月 24 日(月)、2022 年 1 月 27 日(木)、2022 年 1 月 31 日(月)

授業のねらい

プロのアーティストによるボディパーカッション体験を通して、本物の音楽・体験を自分の身体で“表現”をすることの楽しさや心地良さを味わってほしい。また、友達が“表現”したことを認め合うことで、仲間を意識したり、一体感を味わったりして、その後の学校行事や学習が広がり深まるきっかけにしたい。

主な内容

＜１日目＞ボディパーカッションの叩き方と振り付け。＜２日目＞前回のおさらいとフォーメーションの振り付け。＜３日目＞成果発表として映像収録。

アーティストから

「ボディパーカッションで音楽の楽しさを伝える」をテーマに行いました。コロナ禍での開催ということもあり、延期に延期が重なりましたが、担任の先生や関係者の皆さまのご協力により３日間の指導を終えることができました。今回は、ボディパーカッションの要素にフォーメーションなどのダンスの要素もプラス。タイトなスケジュールでしたが子どもたちがしっかりと学び楽しみ、最終日は各クラス素晴らしいパフォーマンスで終えることができました！今後も楽器を必要としない、誰でも気軽にみんなで楽しめるボディパーカッションで子どもたちに音楽の楽しさを伝えられる機会があるように願っています。

コーディネーターから

もともと計画していた 10 月の開催から１月に延期するなどの対応を求められましたが、全日程を無事終えることができました。学校の課題意識を踏まえ、身体を“楽器”とするボディパーカッションにダンスの要素も取り入れながら、表現の楽しさを身体で感じられる内容としました。感染対策のため、各クラスのパフォーマンスを最終日に撮影し、それぞれの表現がどう違うかなどの意見交換ができるように工夫しました。ボディパーカッションという言葉を知らなかった児童も多かったですが、身体だけでできる表現の魅力を楽しく感じてもらえたかと思います。

先生から

普段の授業だけでなく、プロのアーティストの方と直接関わりを持って授業するというのは、子どもにとってとても良い刺激になると感じました。なかなか普段は表現しない子どももアーティストの勢いに良い意味でのまれていました。今回初めての実施で私自身見えていないことが多く、子どもに明確なねらいを伝えきれなかったのが反省です。自分自身もカリキュラムマネジメントを行い、アーティストのパワーを最大限に活用できるようにしたいです。

子どもたちから

体は楽器だと知った。／笑顔が多かった。／先生が明るくて自然に笑顔になった。／プロに会えてよかった。／ダンスを通して人と仲よくできると知った。／自分も他の人を元気にしたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立大正小学校＋アートの時間
息を合わせ響かせよう、不思議な合奏音楽「ガムラン」

担当アーティスト	櫻田素子（ガムラン演奏家）
実施校	大正小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ガムラン／4 学年 2 学級 80 名
実施日程	2022 年 1 月 17 日(月)、2022 年 1 月 18 日(火)

授業のねらい

ガムランを通して、コミュニケーション能力、集中力を身につける。

主な内容

＜１日目＞ガムランの鑑賞、楽器に触れる。＜２日目＞楽曲を練習、グループで聴き合う。　※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、３日目は中止。

アーティストから

１時間にクラスの半数ずつ分かれての体験は、短い時間ながら一人ひとりが楽器や音、響きに集中して味わい、確認し自分のものとしている実感がありました。自分や他の人の音を注意深く聴き、視覚でも互いのリズムや動作も確認しながら合わせて鳴らすこと、その全体の音響に浸ること、また、別のグループの演奏を聴き感じることなど、音楽を合奏する醍醐味や面白さを、しなやかな感性で味わい体現している様に心が揺さぶられました。

コーディネーターから

感染症対策のために、個々の体験時間が短くなってしまった子どもたち。それでも限られた中で講師を射るように見つめ、楽曲にチャレンジし、ガムランを全身で感じようとしてくれていました。その姿は、どんな状況下でも光に向かって芽吹く草木のように強く映りました。

先生から

子どもたちは簡単なフレーズを演奏するだけなのに、とても豊かな響きの音楽が出来上がるところがガムランの魅力だと思います。今年度は感染拡大防止で大変な面もありましたが、そのことで新たな発見もあり、有意義な時間でした。

子どもたちから

がっきがたのしかった！！／きょうりょくしてたのしめたり、音であそんだのが思い出！／またやりたい。／ふしぎなねいろだったなあ。／どれもみみにのこったえんそうだった。／がっきのおとがすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立平戸台小学校＋アートの時間
リズムで遊ぼう、ウノ・ドス・トレス

担当アーティスト	箆津弘順（フラメンコ舞踊家、俳優）
実施校	平戸台小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／リズム／3 学年 2 学級 43 名
実施日程	2021 年 11 月 10 日(水)、2021 年 11 月 16 日(火)、2021 年 11 月 24 日(水)

授業のねらい

協働して創作する活動や、アーティストの方々からの刺激を受けて、子どもたちが感性を働かせて豊かに表現しようとする姿を目標とする。

主な内容

＜１日目＞フラメンコのリズムをベースに手（足）拍子で遊ぶ。始める。終わる。＜２日目＞言葉の持つリズムを手と足で打つ。いくつかのリズムやコントラ・ティエンポ（裏打ちのリズム）との合わせ。＜３日目＞言葉の響きを解体、再構成してリズムを創作。打楽器も使い全体でセッション。

アーティストから

子どもたちに教えた経験がない私。心がけたのは「教える」のではなく子どもたちと一緒に創作していける内容にすること。フラメンコの音楽性をスペインの文化を交えて面白おかしく紹介するところから始めたねらいはバッチリだった。子どもたちが選んだ言葉を子どもたちがリズムにしていく。私はそのガイドをしただけなのだが、知らないうちに爛々と目を輝かせて、弾けるエネルギーで音楽の楽しさを体感していく彼らの姿を見ていると「心からいい仕事ができたなあ！」と感無量です！

コーディネーターから

コロナ禍で身も心も固くなっている子どもたちを何とか解放できないか模索しました。学校側の深いご理解もあり、音楽枠でのフラメンコのダンサーとの活動が実現しました。手と足を打つだけでこれだけの音楽になること、これだけの表現ができるということ、このコロナ禍だからこその音楽の可能性を先生方に再認識していただけたことが何よりうれしいです。

先生から

型にはまった同じような授業展開をしている普段の自分の姿勢に新しい視点を与えていただきました。子どもたちが「楽しい」そして教師自身も「楽しい」と感じるには、音楽を「する」という活動が大切だと気付きました。知識を教えようとしたり、枠の中にはめ込もうとすることが多かったからです。「音楽をする」時間を大切にしていきたいです。

子どもたちから

スペイン語やフラメンコのリズムやはくをみんなで感じてとても楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上郷小学校＋あっちこっち
合唱曲「大切なもの」～アーティストから音楽表現を学ぼう～

担当アーティスト	浜野与志男（ピアニスト）、金持亜実（ソプラノ歌手）、関口直仁（バリトン歌手）
実施校	上郷小学校（栄区）
コーディネート	認定 NPO 法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／5 学年 3 学級 77 名
実施日程	2021 年 10 月 22 日(金)、2021 年 11 月 1 日(月)、2021 年 12 月 6 日(月)

授業のねらい

児童たちがアーティストの演奏を共に味わい、授業を通しそれぞれのパートが重なった時の響きや美しさを感じ、表現力や集中力を育むことを目標とし、合唱祭に向けて１つの音楽を共に作り上げていく。

主な内容

＜１日目＞歌い方の工夫を知ろう＜２日目＞詩の内容を表現しよう／アーティストとは＜３日目＞発表／ミニコンサート

アーティストから

今回は開始時期順延の間をつなぎ、児童のワークショップへの期待値を高める試みとして、演奏および講師コメントの動画を撮影し小学校に提供しました。各クラスにおけるワークショップ導入がこれまでより短時間ででき、手応えを感じています。また、合唱における歌い方の指導のみではなく、指揮とピアノ伴奏を担当する児童に対して併せて指導を行うことができ、オールラウンドで充実したワークショップになったと感じています。（浜野）

これまでオペラのワークショップを行ってきた中で、今回は初めての合唱指導だったが、アーティストである自分たちだからこそできる内容を心がけた。９月の緊急事態宣言によりイレギュラーなスケジュールとなったが、児童たちは前向きに取り組んでくれ、最終日の発表では見違えるほど心に響く演奏を届けてくれたいへん感動した。今回のワークショップで伝えた曲との向き合い方や歌い方を、今後演奏する時にも思い出してくれればうれしく思う。（金持）

緊急事態宣言があり日程が変更になったが、見通しが立たない中でも、児童たちは集中して取り組んでくれた。指導を始めると、こちらが想像していなかったところに興味を持ってくれたり、児童が主体的に学び出すムードが生まれる瞬間もあり、とても新鮮であった。児童たちの素直なリアクションから、「アートをデフォルメせず具体性をもって伝えること」の重要性に、改めて気付かされた。これからも児童たちがさまざまなアートに出会って感性を磨いてゆくことを、心から願っている。（関口）

コーディネーターから

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、授業日の変更・延期がありましたが、担当の先生がいつも親切にご対応してくださいました。またアーティストたちから、授業が延期になった際に少しでも子どもたちの心に寄り添いたいと、合唱祭で歌う曲のお手本動画とメッセージ動画を送りたいと提案がありました。延期になった日にちまでに学校でお手本動画を授業で使用してくれたり、授業日まで会えないものの動画を通して交流が取れたことも良かったと思います。最終日の発表では透明感のある美しい歌声が体育館に響き、聴いていて感動しました。

先生から

アーティストの方々が初めて子どもたちと出会ったにもかかわらず、子どもとのコミュニケーションを上手に取られ、子どもたちの心をつかんでいらしたことは素晴らしかったです。持っていらっしゃるプロのお力のすごさを子どもたちは受け止め、揺さぶられる姿に、改めて日頃の授業を見直していきたいと感じました。

子どもたちから

うまくなってうれしい。／歌声やピアノがきれい。／アーティストはこんなにも高い声が出せることにびっくりした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立桜井小学校＋リリス
卒業ソングをつくろう

担当アーティスト	アベタカヒロ（作曲家）、 大塚雅仁（バリトン歌手）
実施校	桜井小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／作詞・作曲／6 学年 2 学級 50 名
実施日程	2021 年 10 月 4 日(月)、2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 12 月 20 日(月)

授業のねらい

３日間のワークショップで６年生の学年で１曲、卒業式で歌う「うた」を作曲する。「音楽づくり」のカリキュラムの中で「表現する」ことを体験する。表現することの楽しさや、友達の表現の良さを感じ合える内容にする。

主な内容

＜１日目＞歌詞を作ってみよう…「詩」の元になるキーワードから歌詞を作っていきます。＜２日目＞「詩」を元に曲作りに挑戦…出来上がった歌詞の部分を選んで音をはめてみます。＜３日目＞完成した歌を披露、練習…出来上がった曲を聞いて、音取りの後歌ってみます。

アーティストから

マスク越しの授業で表情ははっきりと見えませんでしたが、歌詞づくりのために集めたみんなからの言葉では、スポーツフェスティバルへの充実感を表現する人が多く、その光景を思い浮かべていたら我がことのようにうれしくなりました。そんなこともあって、今年は例年に比べて力強さのこもった新曲になったと思います。最終日はゲストにバリトン歌手の大塚雅仁さんを迎えて本格的な合唱練習も行いました。いろんなことを吸収して羽ばたいていってくれたらと願っています。

コーディネーターから

今年は学校からの意向で、６年生２クラスそれぞれの歌ではなく、２クラス合同で１曲、６年生全体での卒業ソング作りとなりました。最終日はゲスト・大塚さんのプロによる合唱指導で、児童の皆さんには貴重な時間になったのではないかと感じます。１・２回目の授業では比較的おとなしい印象だった子どもたちが、最終日卒業式に向け自分たちの歌に一生懸命に取り組む姿に心打たれました。今後マスクを外して自由に歌える時が来るのを願ってやみません。

先生から

歌唱への向き合い方の質も向上し、とても有意義な時間となりました。卒業式に向けて気持ちを高めていきます。

子どもたちから

とても楽しかった。／貴重な体験になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立本郷小学校＋リリス オーボエ＆ピアノコンサート

担当アーティスト	堀子孝英（オーボエ奏者）、井上麻衣子（ピアニスト）
実施校	本郷小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オーボエ・ピアノ／6 学年 3 学級 100 名
実施日程	2021 年 11 月 26 日(金)

授業のねらい

普段の授業では、味わえない体験をさせてあげたい。プロの演奏家による生演奏を鑑賞することによって、音楽の奥深さや素晴らしさに気付き、子どもたちの興味を広げ、音楽活動への意欲を高めたい。

主な内容

オーボエとピアノによる芸術鑑賞会（演奏、楽器紹介）

アーティストから

今回、サンサーンスのオーボエソナタを全楽章聴いてもらうのは、少し大変かもしれないとは思いましたが、皆さんとても静かに集中して聴いてくれてうれしかったです。今年はサンサーンスのメモリアルイヤーでしたし、ソナタは全楽章を通して聴いてこそ、価値が伝わると考えております。他にもオーボエを演奏されていた先生と演奏でご一緒できたり、下校の音楽である「新世界より」のイングリッシュホルンを紹介できたりと、喜んでもらえたのではないでしょうか。今回の演奏会で、皆さんが少しでもオーボエと音楽に親しみを持ってくれればと思います。

コーディネーターから

今回はオーボエ＆ピアノという組み合わせでコンサートを行いました。担任の先生の１人がたまたま趣味でオーボエを演奏されていたこともあり、アーティストとの共演（児童の皆さまには内緒でサプライズ演奏）や、演奏予定曲の中に児童の皆さまの下校時に流れている曲目がたまたま入っておりましたので、本物の楽器・生演奏で聴いていただくことができました。そのようないろいろな偶然が重なったことも良い影響を与え、とても良い演奏会になったと感じています。

先生から

プロの演奏家の演奏を聴く機会を与えていただいたことに心から感謝いたします。コロナ禍でさまざまな学習の縮小が行われ、今回参加した６年生は例年参加する５年時の「心の教育ふれあいコンサート」に参加できませんでした。今回、生の演奏、本物に出会った子どもたちのこの経験は、これからの日々に必ずや生きるものと思います。素晴らしい時間を過ごさせていただきました。ものすごく集中して静かに聴き入ってうっとりしていました。楽器の紹介も具体的で分かりやすく、サプライズ企画でのアンコール曲、担任も参加したオーボエデュオ「オーラリー」と、子どもたちが喜ぶ内容を盛り込んでくださり、ありがとうございました。

子どもたちから

ピアノとオーボエの二重奏の音がきれいだった。／校歌をアレンジしてそんそうしてくださったのがいんしょうにのこった。／２つの楽器だけでもメロディーやばん奏がしっかりと奏でられていたことが心に残った。／全部の曲がよかった。／ピアノとオーボエが息をあわせて演奏するところや、音が重なりあったり、追いかけあったり、まざりあったりしている音をくりかえしたりする演奏が自分にはできないな、すごいなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立下和泉小学校＋横浜みなとみらいホール ジャンベを体験しよう３

担当アーティスト	池田正博（ミュージシャン）
実施校	下和泉小学校（泉区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／民族音楽／6 学年 3 学級 80 名
実施日程	2021 年 10 月 25 日(月)、2021 年 10 月 27 日(水)、2021 年 10 月 29 日(金)

授業のねらい

体験プログラムを通して心を開放し、自分という存在を出してみることで、新たな自分を発見することにつなげる。

主な内容

＜１日目＞講師デモンストレーション、ジャンベのたたき方、基本のリズムを覚える。＜２日目＞２回目のクラス：キメのリズムを覚え、合奏。＜３日目＞キメのリズムを覚え、合奏。

アーティストから

下和泉小のみんなと会えたことをとてもうれしく感じています。それは音楽、または楽器、ジャンベというアフリカの太鼓を介して言葉以外でもコミュニケーションが取れたと実感し、一人ひとりが出している音（主張、アピール）を体感し、また全員で音を奏でた瞬間には全員で手を取ってつながっていたという感覚を覚え、とっても幸せに感じました。今後どこかで太鼓の音が聞こえたり、楽器の音が聞こえた時、誰かの音（主張、アピール）を受け取ったということ、また新たなコミュニケーションの始まりと感じてほしいです。僕はこれからも太鼓をどこかで叩き続けています、またどこかで受け取ってくれるといいな。

コーディネーターから

講師のたたく太鼓の音にびっくりし、覚えたリズムでみんなで合奏し、ラストが決まった時は、すごく達成感があったのではないかと思います。「アフリカでは、この太鼓が携帯電話の代わりなのだ」という話や、「間違ってもいいんだよ」という講師やアシスタントの方の言葉が、コミュニケーションの多様さや自分らしさの発見につながると良いなと感じました。

先生から

子どもたちとのやりとりや進め方など、とてもスムーズでした。たっぷり体験もさせていただき、子どもたちも大満足な様子でした。あんなに太鼓をたたけるのは、学校ではなかなかできないので、子どもたちは最初遠慮していましたが、講師の先生の声かけで、しっかり音を出すことができました。

子どもたちから

音の大きさにびっくりした。／先生のたたく速さにびっくりした。／またやってみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立阿久和小学校＋あっちこっち
プロのアーティストと一緒に記念の１曲を作り上げよう

担当アーティスト	小鹿紡（作曲家）、中野亜維里（ソプラノ歌手）、早坂なつき（ピアニスト）
実施校	阿久和小学校（瀬谷区）
コーディネート	認定 NPO 法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／作曲／3・4 学年 2 学級 22 名
実施日程	2021 年 11 月 16 日(火)、2021 年 11 月 24 日(水)、2021 年 11 月 29 日(月)

授業のねらい

本年阿久和小学校は創立 40 周年を迎える。その記念すべき年の 12 月に実施する学習発表会にて、本企画で作り上げる記念の１曲（斉唱）を披露することを理想とする。歌詞は阿久和小の３・４年生全児童から募り、それらを組み合わせて作詞するため、自分たちだけの１曲を特別感を味わいながら初演すること、またプロのアーティストの技法やパフォーマンスを間近で体験することで、実技・鑑賞・理論全てにおいての意欲を向上させることを目標とする。

主な内容

＜１日目＞アーティスト登場！みんなの１曲を発表します！（児童に作曲の指導）＜２日目＞みんなの１曲、完成に向けてアーティストの特別レッスン♪＜３日目＞発表とミニコンサート♪

アーティストから

３日間の短い時間の中で多くを吸収しながらキラキラとした顔で参加している児童たちの姿が印象的で、もっと子どもたちにもこういう顔で楽しんでもらえるような音楽を作りたいと意欲が湧きました。グループ分けして児童たちに歌詞と歌を作ってもらう時に、消極的で何も出てこなかった時のことも想定して準備してましたが、全くその必要がないほど積極的に「こうしてみたい」と発言し合っている姿にも感動しました。日頃から伸び伸び意見を言い合えるように教育されているおかげだと感じます。小学校で作曲の授業をするのは初の試みでしたが、忘れられない貴重な経験をさせていただけて感謝しています。作った歌をこれからも歌い続けてくれたらうれしいです。（小鹿）

阿久和小学校での３日間は、非常に充実した時間でした。たった３日間でどこまで完成させられるのか、開始当初は少し不安でしたが、授業が始まるとみるみるうちに上達し、あっという間に曲が完成しました。阿久和小学校の先生方との連携もうまくでき、子どもたちと共に楽しみながら練習をしてきた成果を、３日目の発表時には存分に発揮できたのではないかと思います。コロナ禍で合唱が思うようにできなかった日々を乗り越え、マスク越しにも伝わるエネルギーに満ちた子どもたちの笑顔が忘れられません。子どもたちがこのワークショップを通して音楽の楽しさを感じ、今後に生かしていってくれることを期待しております。（中野）

３日間を通し、児童と一緒に作曲過程から演奏まで１つの音楽を作り上げていく体験は、とても刺激的で有意義な時間となりました。作曲ワークショップでは自由にアイデアを出して言葉にすること、表現し合うことが自然に行われていて、児童の素直な感性に感動しました。発表の時間では音楽表現を学び、１回１回の歌唱指導で変化していく様子が印象的でした。児童の歌声から、出来上がった１曲を気に入って楽しんでくれている様子がひしひしと伝わり、指導をしている中で何よりもうれしい反応でした。（早坂）

コーディネーターから

「曲作りにおいて、正解・不正解はなく、自分なりに試行錯誤し納得できる音を選ぶことが作曲の本質」という作曲家・小鹿紡さんからのお話が印象的でした。この志をアーティスト同士で事前に共有できていたからこそ、今回担当の３名は、児童からのアイデアを常に肯定しながら授業を進められたのだと思います。「言葉のイントネーションと旋律の抑揚」「どう聴かせたいか」を考えながら、曲が出来上がるプロセスをリアルタイムで体感できたことは、とても貴重な経験となったはずです。本授業プログラムが、子どもたちにとって音楽をより多面的に学ぶための新たなピースとなれば光栄です。

先生から

今回の活動では、学校での音楽科の学びとも関連付けながらリズムづくり・歌詞づくりに取り組み、子どもたちはより深い学びにつなげることができていました。また、この活動が学校行事（学習発表会）にも生かすことができたり、講師の先生方の小学生の頃の様子や考え方に触れることができたりして、自分づくりにも生かされたのではないかと感じました。

子どもたちから

歌詞を考えたり、曲をつくったりできて楽しかった。／あくわ博で本番として歌をひろうできてよかった。／さくらの曲をそっきょうでつくっていてすごかった。／アーティストの先生たちの子どもの頃、歌手や作曲にきょうみがあったと知れてすごいと思った。／話をきいて将来に向けて努力していきたいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立笹下中学校＋ひまわりの郷
歌のすばらしさを感じよう！～プロの声楽家の歌声に学ぼう～

担当アーティスト	浅野美帆子（声楽家）、鹿野千里（ピアニスト）
実施校	笹下中学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、音楽
実施概要	鑑賞型／合唱／2 学年 5 学級 175 名
実施日程	2021 年 10 月 22 日(金)

授業のねらい

プロの声楽家（ソプラノ）の演奏や作品（楽曲）についての説明などを聴くことで、発声の基本やその作品の内容を理解して歌うことの大切さなど、生徒たちが今後、音楽を学んでいく中で役立ててほしい。

主な内容

クラシック、オペラ、日本の童謡などの曲を織り交ぜながら演奏。曲に対する生徒一人ひとりの感想をＱ＆Ａ形式のアンケートで答える形で実施。

アーティストから

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で合唱指導のプログラムが中止になったことを踏まえ、「歌う時」「聴く時」に大切なポイントを解説しながら行った。①歌詞を伝える（歌手）②リズムを捉える（指揮者）③ピアノを聴く（伴奏者）の合唱を構成する三者の立場に注視し、プログラムは日本歌曲２曲。ドイツ歌曲（日本語訳）１曲。オペラアリア１曲（仏語）。ピアノソロ（仏）アンコールに予定していたイタリア歌曲は割愛となった。演奏会というより授業に寄せたＱ＆Ａのクイズ形式で、演奏を聴きながらオンタイムで考える仕組みで今後もこれを１つのモデルケースとし活用していきたい。

コーディネーターから

今回のプログラムの主目的である「合唱指導」が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できなかったことに、生徒だけでなく関わった全ての方々がとても落胆しました。それでも日頃は聴けないプロのアーティストの生の演奏を聴いてもらうことができたのはせめてもの救いでした。また、誰もが今までに経験したことのないこの状況で「どうすれば実施できるか？」など、いろいろなことを考えることができたことは良い教訓になりました。

先生から

今回、浅野さんと鹿野さんが来てくださり、生徒たちにとってもとても有意義な時間が過ごせたと思います。私自身も昨年度、音楽の授業を見学させていただき、きれいで周りに響く声の出し方を生徒たちの実情に合わせながら指導してくださり、彼らの力も着実に伸びたと思います。ぜひ来年度は、授業と講演会の両方をお願いしたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立泉が丘中学校＋テアトルフォンテ プロから合唱を学んで表現の世界を広げよう

担当アーティスト	片野真吾（作編曲家、音楽監督、歌唱指導者、ベース奏者）、伊藤恵子（ピアニスト）
実施校	泉が丘中学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／2 学年 4 学級 152 名
実施日程	2022 年 1 月 14 日(金)、2022 年 1 月 17 日(月)、2022 年 1 月 19 日(水)

授業のねらい

学校教育目標である「自立」＝主体性を持つこと、「共生」＝人を思いやり仲間も自分も大切にできること、そして「挑戦」＝前者の２つを土台に自分の世界を広げていくための取組としたい。合唱を通して教師ではない大人（しかもその道のプロフェッショナル）と活動を共にする時間を創造し、生徒の世界を広げたい。歌唱法（発声方法、発音、表現方法など）の指導を受けたことで、子どもたちが「歌える」という自己有用感を高め、互いの力を認め合い伸ばしながら、自分たちの合唱を深めようとする姿を目指したい。

主な内容

＜１日目＞２年１組「あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ～」＜２日目＞２年４組「この地球のどこかで」　２年３組「この地球のどこかで」＜３日目＞２年２組「この地球のどこかで」

アーティストから

２年生の合唱指導をクラスごとに１回ずつ、計４クラス行いました。歌に込められた気持ちを自由に歌で表現するために、歌唱時に使用する筋肉群のストレッチ、発声、音の取り方、フレーズごとの表現方法などを指導しました。新型コロナウイルス感染症対策で入学時からほとんど歌唱に取り組んでいない学年でしたが、みんな新鮮に取り組んでくれて、授業最後には声量も上がり合唱に一体感が出てきました。今回の指導を通じて、生徒たちが「歌うことの楽しさ」を改めて感じてくれればと願っております。

コーディネーターから

どのクラスもはじめは声も小さく緊張している様子でしたが、丁寧な発声練習やアーティストの分かりやすく楽しい指導で、授業が終わる頃にはきれいなハーモニーを奏でることができるようになりました。今回の授業が、仲間と声を合わせて合唱を作り上げる楽しさに気付くきっかけとなればうれしく思います。再び新型コロナウィルス感染症拡大が騒がれる中、アーティスト、先生方のご協力のもと、無事に終了することができました。

先生から

生徒にとって特別な１時間をつくれたことはよかったです。来年度、最上級生になる彼らが、初めて体験する合唱コンクールに取り組む時のきっかけになったと思います。当初の予定では、３年生が合唱コンクールの１週間前に「ほぼ形になっている合唱をさらによくする」という計画でした。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、無理くり考えたプログラムが「２年生の合唱の授業での指導」だったので、やっと音を取った状態の生徒を指導していただくことになってしまい、前向きに取り組めない生徒がいたことも事実です。合唱コンクールが新型コロナウイルス感染症拡大により中止になってしまったときに、どういう形でアーティストに来ていただく機会を活用したらよいか、悩ましかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立盲特別支援学校＋かなっくホール
チェロと朗読でつづる「セロ弾きのゴーシュ」

担当アーティスト	奥泉貴圭（チェリスト）、はざまみゆき（俳優）
実施校	盲特別支援学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／チェロ・朗読／全学年全学級 105 名
実施日程	2021 年 11 月 26 日(金)

授業のねらい

音楽と共に文学を鑑賞し、宮沢賢治作品に親しむ。

主な内容

チェロと朗読でつづる「セロ弾きのゴーシュ」

アーティストから

はざまさんのうたう“カッコウ”とチェロの“カッコウ”の掛け合いの時に、子どもたちから歓声が上がったこと、そしてバッハの無伴奏を演奏している時に、興味を持ってすごく近くまできて聴いてくれたこと、すごく嬉しかったです。コロナ禍でなければもっと近くで聴いて、床や空気を伝う振動を感じて欲しかったなと思いました。

コーディネーターから

コロナ禍での開催にあたり、会場を広い体育館に変更してくださったり、換気や暖房などいろいろと学校側よりご配慮をいただきました。子どもたちもじっと聞き入ってくださりうれしかったです。時折お話の内容に反応して動物の鳴きまねをしてくださった子がいて、とても微笑ましく会場全体が温かな空気に包まれたのが印象的でした。

先生から

とても内容の濃い演目でした。時間が少なかったのが残念です。朗読もですが、チェロの曲ももっと聴きたかったと思います。

子どもたちから

いろいろな動物がでてきて楽しいお話だった。／物語の中の割れた窓ガラスがどうなったか気になる。／コンサート後の授業でチェロをさわってみたら大きかった。音を出すのが難しかった。／チェロの音がきれいに響いていた。／アンコールでチェロの曲を長くききたかった。／お話の声がとてもかわいかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立中村特別支援学校＋吉野町市民プラザ ギターとピアノの演奏を楽しむ

担当アーティスト	多治川純一（ギタリスト）、多治川光香（ピアニスト）
実施校	中村特別支援学校（南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	特別活動
実施概要	鑑賞型／ギター・ピアノ／小学部 1・2 学年 8 名　※小学部 3 年生～高等部 3 年生 7 クラス 50 人は後日撮影した動画を鑑賞。
実施日程	2021 年 11 月 15 日(月)

授業のねらい

演奏家による音楽を間近で鑑賞することによって、日常では感じることのできない音や響きを味わい、感じる力を生きる力に結び付けてもらいたい。周りの人と感情の高まりや感動を共有することで喜びが大きくなることに気付いたり、自分自身の存在をより強く意識するようになってほしい。

主な内容

アニメで使われている音楽のギターとピアノの共演。みんなで音楽を共感し感動を共有する。

アーティストから

まず印象に残ったのは、セッティング音出し時に興味津々の様子で近付いてきてくれた子がいたこと。その後、リハーサルで演奏を行うと他の子もキラキラしたまなざしで教室から顔を出し、笑顔を見せてくれました。授業での演奏本番では、いろいろな楽器の登場ごとに前のめりで興味を示してくれ、特に知っている曲では大きな声で歌ってくれて、演奏者２人だけではなく、児童たちや先生みんなでアンサンブルを行った感覚にさせていただきました。

コーディネーターから

今回は密になるのを避けるため、１・２年生の皆さんには演奏を目の前で鑑賞してもらい、そのほかの皆さんには、先生が撮影をした動画を後日ご覧になっていただくことになりました。特にテンポのいい曲では手拍子を取ったり、一緒に口ずさんだり、とても音楽好きだというのが分かりました。初めて体験するクラシックなどの生演奏を、身近な距離で触れていただくことができ、いい体験をしていただけたと思います。

先生から

本校では、より教科としての目標を意識した教育課程を編成中であり、音楽などは全校の子どもたちが取り組んでいる教科です。コロナ禍で学校行事も中止や変更が多い中、プロのミュージシャンによる生の演奏を聴ける機会は貴重であり、音楽に親しむという意味でも、とても良い経験になったと感じました。これを機に、子どもたちの中にも実際に楽器を演奏したい、この曲を聴きたいといった感情が芽生えることを期待したいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立港南台ひの特別支援学校＋ひまわりの郷
楽器じゃないけど楽器だよ！？～創作楽器で音を楽しもう！～

担当アーティスト	ルロット・オーケストラ（クラシック音楽演奏集団）
実施校	港南台ひの特別支援学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／アンサンブル／小学部 12 学級 90 名
実施日程	2021 年 12 月 15 日(水)、2021 年 12 月 16 日(木)、2021 年 12 月 17 日(金)

授業のねらい

限られた時間に児童たちが集中し、興味を持って鑑賞できるような楽曲を中心にちょっと変わった創作楽器などの演奏を交え、演奏家と児童たちの心が触れ合えるような鑑賞会にしたい。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞フルート、ピアノ、ヴァイオリンのほか、創作楽器を使って子どもたちが音に興味を持ってもらえるように工夫した演奏会。（各日、２学年ずつ実施。）

アーティストから

2020 年に続き、お呼びいただけましたことを深くお礼申し上げます。「音は身の回りに常に満ちあふれていて、高価な楽器を持っていなくてもアイデア１つで、こんなにも音楽を楽しむことができる」という、音楽の原点を子どもたちに伝えたいという想いで今回のプログラムを構成しました。フライパンやトイレのすっぽんの演奏に興味津々な子どもたちの姿を見て、このような「好奇心」を大切に育ててゆくのも私たち音楽家に託された使命であることを、切実に感じた公演となりました。

コーディネーターから

昨年に引き続きコロナ禍で学校側、演者、コーディネーターともに新型コロナウイルス感染症防止対策を十分施して、子どもたちに鑑賞会を実施できたことはたいへん良かったと思います。子どもたちは創作楽器の音にとても興味を持って聴いていました。目の前で繰り広げられる生の音楽に手をたたいたり、身体を動かして感情を表している姿を見て音楽の持つ力を感じました。

先生から

昨年に引き続き来ていただいたので、子どもたちや学校の様子も分かってくださっていて安心していろいろお願いすることができました。授業で扱った曲なども取り入れてくださり、それらを生演奏で聴く機会を持てたこともとても良かったです。使用されている楽器や演奏の雰囲気など子どもたちが落ち着いて聴きやすい印象を受け、今年もお願いできて良かったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立若葉台特別支援学校＋サンハート
いろんな楽器の演奏が聴ける！木管五重奏コンサート

担当アーティスト	Ensemble Reise（木管五重奏団）
実施校	若葉台特別支援学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	特別活動、音楽
実施概要	鑑賞型／木管五重奏／肢体不自由教育部門 89 名
実施日程	2021 年 11 月 30 日(火)

授業のねらい

生の音楽を聴き、さまざまな楽器の音色を聴いて楽しんでもらう内容を目指す。ダンスにも興味があるので、演奏会を通して、一緒に動作を促すプログラムを取り入れてもらいたい。

主な内容

木管五重奏のコンサート

アーティストから

この度は音楽鑑賞教室に、私たちアンサンブルライゼをお呼びいただきまして誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきた頃とはいえ、まだまだ気の抜けない状況の中で温かく迎えていただき、またコンサートまでにたくさんの準備をしていただいた先生方には感謝申し上げます。演奏中は手拍子や掛け声などで盛り上げていただき、私たち自身もとても楽しむことができました。子どもたち作成のプレゼントもたいへん嬉しい気持ちで受け取らせていただきました。

コーディネーターから

コロナ禍で子どもたちが同じ空間に集まっての催し物がなかなかできていなかったので、今日という日をとても楽しみにしていた、という先生の言葉が印象的でした。演奏が始まった途端、自ら音楽に合わせて身体を動かしたり、リズムをとったりしている姿が印象的でした。今回のプログラム時間は 25 分間のミニコンサートだったので、少々短すぎるのではと思ったのですが、飽きさせずにちょうどいい長さだったかと思います。演奏者とも事前にイメージの擦り合わせがしっかりできていたため、子どもたちの雰囲気を十分理解した、すてきなコンサートになったと思います。

先生から

感染症の影響でなかなか集団での授業が難しい中、２年ぶりのコンサートを実施することができ、特別支援学校に通う子どもたちは基本的に生活体験が不足しているため、すごく貴重な機会になりました。生の演奏を聴くことで子どもたちがどんな反応をするのか新たに見ることができて良かったです。今後の期待として、大人数の演奏やダンスを見てみたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立左近山特別支援学校＋サンハート
弦楽デュオコンサート～ヴァイオリンの音色をじっくり楽しもう～

担当アーティスト	Duo deux fleurs（デュオドゥフルール）（ヴァイオリニスト）
実施校	左近山特別支援学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ヴァイオリン／小学部 22 名
実施日程	2022 年 1 月 12 日(水)

授業のねらい

生の音楽を聴き、楽しさや驚きを感じ、それを表現できる機会になることを期待している。演奏会を通して、リズム遊びや一緒に動作を促すことを取り入れてもらい、子どもたちにさらに音楽の魅力が伝わるようなプログラムを目指す。

主な内容

ヴァイオリンのコンサート

アーティストから

30 分という短い時間でしたが、一人ひとり、それぞれの聴き方で聴いてもらえたと感じました。身体を揺らしながら聴いてくれる子、真剣なまなざしの子、声を出してくれる子、私たちの音楽を身体で感じてくれてる様子に感激しました。そして合奏では、1 つの音楽をみんなで一緒に楽しむことができました。また、機会があればぜひ皆さんの前で演奏したいです。

コーディネーターから

華やかなヴァイオリンの音色に、リラックスした状態で演奏を楽しんでいる印象でした。聴きなじみのある曲から、ヴァイオリンの魅力が伝わる曲と 30 分間の演奏で飽きさせないプログラムを組んでいただきました。事前にリクエストした校歌の演奏は、すてきなアレンジ演奏をしてくださったので、先生方もたいへん感激しておられました。演奏しながら各児童のもとへ練り歩きながらの演奏は、身近にヴァイオリンを見ることができて、うれしそうでした。

先生から

コロナ禍で体験的な活動に制限がある中、アーティストを招いて生の演奏を聴く機会をいただいたことは、たいへん貴重な体験でした。授業で演奏動画を見ることは多いですが、生演奏は音の響き、伝わり方など全く違い、それを子どもたちが肌で感じて体験できたことが本当に良かったと思います。特に校歌のヴァイオリン演奏は感動したという感想も多かったです。事前に打合せやメールのやりとりなどで、子どもたちに合わせた選曲をしていただき、ありがたかったです。

子どもたちから

すき。またきてね。／ドレスがすてきだった。校歌うれしかった。／ぼくもやりたい。／きらきら（きらきら星変奏曲）、ちゃいろ・あか（ヴァイオリン）がよかった。おうちでも親に話した。／お礼のあいさつで、代表で「ありがとうございました」と言えたことが思い出に残った。／楽しかった。ヴァイオリンの音が好きで耳を澄まして聴いた。大好きな校歌が流れたので、うれしくて思わず声が出た。／年に数回やってほしい。／校歌もいつもと違って、少し驚いた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立北綱島特別支援学校＋横浜みなとみらいホール アフリカ音楽を聴いてみよう

担当アーティスト	池田正博（ミュージシャン）＆douni douni（ミュージシャン）
実施校	北綱島特別支援学校（港北区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	鑑賞型／民族音楽／全学年全学級 70 名
実施日程	2021 年 11 月 17 日(水)

授業のねらい

視覚だけでなく、聴覚や身体全身で感じ取り、芸術の素晴らしさ、驚きを感じ、感じたことを表現できるようになることを目標とする。

主な内容

打楽器と歌と踊りが合わさったアフリカ音楽の鑑賞／目や耳、身体で感じるプログラム

アーティストから

今回の事業にて、私が関わる学校の中で唯一の鑑賞学習が北綱島特別支援学校でした。学校側からいただいた目標に「視覚だけでなく、聴覚や身体全身で感じ取り、芸術の素晴らしさ、驚きを感じ、感じたことを表現できるようになること」とされていて、太鼓の音や振動を感じ、アフリカのカラフルな衣装とダンスを見て知り、演目中に少し参加型のパフォーマンスを取り入れることで感覚を覚えてもらう、これは正しく自分のお家芸、得意分野で、はまり役だと感じました。そして自分にとっては地元横浜で今回のような地元に関われる事業ができたことにとても感謝しています。これからも続いて行ってほしいですし、また是非関わりたいと強く感じました。子どもたちの反応も、本番始まり１打目。予想以上の子どもたちの反応に嬉しく思い、たたいてもらうシーンでは興奮し楽しんでいる子どもたちにエネルギーをいただきました。

コーディネーターから

身体全体で感じられるものということで、今回のアーティストにお願いをしました。子どもたちの前のめりな姿勢や手拍子、笑顔など、とても盛り上がったプログラムだったように感じます。学校の先生方もとても協力的で一緒に盛り上げてくださいました。アーティストもとても楽しんでいました。

先生から

臨時休校などの影響もあり、当初の予定通りに進まなかった点はあるものの、コーディネーターがこちらの意図をくみ取ってくださり、おおむね期待以上のかたちで実施できました。ただ、学校としては直前まで日程が確定せず、アーティストと打合せが十分にできないまま実施となってしまったため、感染症対策の共通理解、児童生徒の障害特性への配慮などで十分ではない点がややあったことが残念でした。けれども、アーティストが子どもの様子や反応を見ながら積極的に働きかけてくださったことがとてもよかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立本郷特別支援学校＋リリス
オーボエとピアノによる体育館コンサート

担当アーティスト	堀子孝英（オーボエ奏者）、井上麻衣子（ピアニスト）
実施校	本郷特別支援学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／オーボエ・ピアノ／中学部 6 学級 45 名
実施日程	2021 年 12 月 3 日(金)

授業のねらい

毎年開催しているが、今年はオーボエ＋ピアノの組み合わせで実施することにした。誰もが一度は耳にしたことのあるクラシックの名曲や生徒の皆さんにもなじみのある曲を演奏することで、普段なかなか聴けない楽器の生演奏・生音を体感していただき、オーボエとピアノをより身近に感じてもらうような演奏会にしたい。

主な内容

オーボエとピアノによる芸術鑑賞会（演奏、楽器紹介）

アーティストから

まず、すてきなウェルカムボードを作ってくださり、たいへんうれしかったです。今回はクラシック、ディズニー、アニメ、イングリッシュホルンと、さまざまな曲目を集めたプログラムを選びました。また、アトラクションとして考えました、「そりすべり」でのタイミングを合わせた手拍子もきれいに決まり、安心しました。終演後に生徒たちがお手紙を渡してくれたり、一緒に写真を撮りに来てくれました。録音や YouTube などではない、生演奏の音楽の良さが、皆さんに伝わったようでしたら幸いです。

コーディネーターから

今回、第６波の懸念があり、鑑賞するクラスを限定したり、複数回に分けて実施する案がありましたが、感染者が落ち着いていたこともあり、無事に全学年まとめて実施することができました。今回はオーボエ・ピアノということで、オーボエの名曲を聴いていただいたり、生徒たちにも手拍子で演奏に参加していただいたりなど、良い演奏をお届けできたと思っています。

先生から

コロナ禍に関係なく、特別支援学校の生徒にとって、コンサートやアーティストの演奏を直接聴くことができる機会はたいへん貴重です。また、音楽は生徒たちにとって身近なものであり興味関心が高いです。１学部の生徒が体育館に集まると、どうしてもザワザワしがちですが、このプログラムを行う時はとても静かに落ち着いて、他の友達の邪魔にならない程度に各個人で音楽を楽しむことができていました。音楽の力を改めて感じることができました。

演劇分野の取組

自分のからだを使って演じる「表現」と、相手の思いを受け止める「コミュニケーション」の二軸をもとにした活動です。
学習発表会などと連携して、学校の中にちいさな演劇空間を協力してつくりあげていきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立上白根小学校＋サンハート ももたろうのお芝居にチャレンジ

担当アーティスト	有吉宣人（俳優）、大道朋奈（俳優）
実施校	上白根小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／創作／3 学年 3 学級 94 名
実施日程	2021 年 11 月 1 日(月)、2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 15 日(月)

授業のねらい

素直で言われたことを真面目に行おうとする子が多い、反面言われないと動けない、言われるまで待っているという自分の考えや思いを表現する力が弱い。この体験を通して、正解のないものに向かっていけるたくましさを身につけてほしい。自由に表現する経験を積み、自信をつけ、いろいろなことに積極的に関われるようになってほしい。自己表現にまだ大きな抵抗のない中学年の時に、伸び伸びと表現する楽しさと認められた（拍手をもらえたなど）という満足感を味わわせたい。

主な内容

＜１日目＞シアターゲーム＜２日目＞桃太郎のシーンをグループごとに演劇創作＜３日目＞現代版桃太郎のシーンをグループごとに演劇創作

アーティストから

昨年に引き続き、実施させていただいた。「正解のないことに挑戦する」「児童が他の人と違うことをしてもいいと思える」といったことを先生方は望んでくださっており、その目的を共有させていただいているため、とてもスムーズに実施することができた。児童たちは、高い意欲や積極的に楽しむ姿勢があり、伸び伸びとした環境で日々を過ごしていることが感じられた。「現代版桃太郎の設定を考える」という課題にも、その姿勢で取り組み、３クラスとも個性が違う発表を行うことができた。先生方から、他の授業での姿勢や表現が変わった、というような報告もいただき、こういった授業を受け入れてくださることがありがたいと感じた。

コーディネーターから

有吉さんと大道さんが一人ひとりの子どもたちに向き合い、それぞれの表現を褒めて、丁寧に接している姿勢が印象的でした。初日に行ったシアターゲームで学んだ表現法を大切にしつつ、最終的には現代版桃太郎のストーリーを各グループに分かれ創作し、最後には発表会形式で行いました。素直で吸収力が高く、講師のアドバイスも柔軟に取り入れて話し合いを進める児童らの姿が印象的でした。発表会では、「なるほど！」と思わせる発想・演技に感心させられっぱなしでした。限られた時間ではありましたが、演劇で学んだことが他の授業に早くも生かされている、との担任の先生方の報告にうれしくなりました。

先生から

本校の子どもたちは、自分で考えたことは進んでできます。また、その部分を伸ばそうと、職員も取り組んできました。しかし、心に浮かんだことや考えたことを他者に伝える面はやや苦手であると感じています。それは、恥ずかしいという思いとともに、どのように表せばいいのか分からないからなのではないかと思います。今回のプラットフォームの体験は、子どもたちにもっと自由に自分を表現できると感じさせてくれたと思います。

子どもたちから

自分で考えたり作ったりすることは、むずかしいことだと思っていたけれど、やってみたらとても楽しいことだと分かった。／みんなで協力できたのがうれしいし、それが大切だと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立四季の森小学校＋象の鼻テラス
かだらのまほう～みえないものがみえてくる～

担当アーティスト	柳雄斗（アーティスト）
実施校	四季の森小学校（旭区）
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	自立活動、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／身体表現／個別支援学級 13 名
実施日程	2021 年 12 月 8 日(水)、2021 年 12 月 9 日(木)、2021 年 12 月 10 日(金)

授業のねらい

個別支援学級の子たちは、運動に苦手意識があるため、身体を動かしながら子どもたちの自己表現を見せ合えたら良いと担当の先生からの要望があった。今回、出張授業をしていただくアーティストの柳さんは、象の鼻テラスのフューチャースケープ・プロジェクトの催事で一風変わった鬼ごっこを実施し好評を得た。子どもたちにお気に入りのものを持ってきてもらい、友達に紹介することやストーリーを盛り込んだ演劇などを取り入れ、純粋に楽しむ「遊び」から展開した身体表現に取り組めないか考えた。

主な内容

＜１日目＞体育館を広く使って、転がったり、止まってみたり、柳さんのまねをしながらウォーミングアップ。柳さんが「見えない卵」を持ってきて子どもたちに渡し、落とさないように順番に渡していく。「見えない卵」が何に変わるのか？一人ひとり想像しながら絵に描いて表現する。好きな場所に展示し、描いた絵について話してもらう。＜２日目＞柳さんを先頭に動物や植物になりきって学校の近くの公園まで移動。公園で「魔法の杖」となる木の枝を探す。自分にとっての「魔法の杖」はどんな形をしていて、どんな能力を発揮するのか、一人ひとり発表してもらう。ゾンビ鬼ごっこ、スローモーション鬼ごっこなど、魔法の杖の能力を使用してさまざまな形態の鬼ごっこを行う。＜３日目＞体育館でウォーミングアップ。スモークマシンを使った空間演出の中でリズミカルな音楽をかけてみんなでダンスショータイム。体育館や校庭で先生たちも参加してもらい、ゾンビ鬼ごっごを行う。校庭や広場、ジャングルジムの中で動物になりきったり特定の人だけがストップしたり演劇的な要素を取り入れたユニークな鬼ごっこを行う。

アーティストから

初日から子どもたちの楽しみな空気が教室に充満していて、このような機会をいただけたことがとても光栄でした。少しずつ身体を解放して表現することで自分の気持ちを知ったり、お友達の特性や思いを知ることができ、豊かな魔法の世界を楽しむことができたすてきな３日間でした。アートと魔法はよく似ていると思います。自分にしか見えないものを見るチカラで、これからも子どもたちが輝くことがとても楽しみです。

コーディネーターから

アーティストとしてさまざまな地域でワークショップを行うなど多彩に活動している柳雄斗さん。個別支援学級の子どもたちと先生方と一緒に、演劇的なストーリーを加えた遊びを楽しみました。教室から体育館まで移動する時に、柳さんの指示で動物を演じてみたり、場の設定を変えて楽しんだり、何もない空間の中でも想像力があれば、自由に楽しめることを教わりました。子どもたちは、一人ひとりの頭の中に描いた想像に飛び込むように楽しんでいたので、柳さんとすぐに打ち解けられたように思います。最終日は、中休みに校庭で遊んでいる他の学年の子どもたちも誘ってみんなで鬼ごっこを楽しむという目標も達成できました。

先生から

何度か打合せを重ね、子どもたちの様子やそれを踏まえた内容を検討しましたが、それでも伝えきれていないことが多く、プログラムの中で児童にとって苦手な状況やパニックになってしまったことを反省しています。しかし、子どもたちのアンケート結果ではパニックになった児童も含め「楽しかった」と印象に残っているので、それぞれの経験としては良かったように感じます。

子どもたちから

まほうのつえが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立屏風浦小学校＋杉田劇場
パントマイムにチャレンジ

担当アーティスト	すがぽん（パンマイムパフォーマー）
実施校	屏風浦小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、体育
実施概要	体験型／パントマイム／4 学年 3 学級 100 名
実施日程	2022 年 2 月 4 日(金)、2022 年 2 月 17 日(木)、2022 年 2 月 18 日(金)

授業のねらい

身体を使って表現するパフォーマンスであるパントマイムは、コロナ禍の中で、密にならず、大きな声を出すことなく実施できるプログラムです。パントマイムを基礎から体験し、グループワークを経て、お互いに発表し合うことで、楽しみながらコミュニケーション能力を高めることを目指します。

主な内容

＜１日目＞導入として、講師よるパフォーマンスを鑑賞した後に、「壁のマイム」などを体験。＜２日目＞前回の「壁のマイム」の復習と、次回の発表に向けて、グループごとに即興のパフォーマンスを練習・発表。＜３日目＞グループごとの発表として、「４コマ漫画」を作ってお互いに見せ合う。

アーティストから

学校に伺わせていただく時にいつも思うことがある。子どもたちは芸を見る時に忖度することはない。毎回が真剣勝負だ。気合いを入れて挑む。舞台を下り子どもたちの目を見る。ほっとする。相手を受け入れた時の子どもたちの吸収は速い。初日に教えた壁をみんな、家で披露してくれたそう。笑顔の連鎖が起きていてうれしい。芸の力。回を重ねるごとに輝く瞳。子どもは未来。これからも、本物の熱を伝えていきたい。

コーディネーターから

初日のパントマイムの実演で子どもたちの心をつかみ、その勢いとテンションを維持したままに、最後の発表まで駆け抜けた３日間のプログラムとなりました。はじめに「楽しいもの」という印象をもってくれたおかげで、「壁のマイム」の練習にも熱心に取り組んでくれて、グループごとの練習・発表でもいろいろ工夫したり、意見を出し合って個性的なものになりました。なお、時代劇などになじみの薄い子どもたちには、「切腹」のパントマイムが理解しにくいというジェネレーションギャップがあることが、意外な気付きでした。

先生から

子どもたちが楽しく集中でき、引き込まれたプログラム内容だったこと、コロナ禍でも「静」で実施できたことが良かったです。また、落語などもサービスで行ってくれました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立釜利谷東小学校＋Media Global
Four New World～ミュージカルで夢を表現してみよう～

担当アーティスト	中川梨恵（ダンサー、振付家、俳優）、高山京子（俳優、シンガー）、櫻井由佳（俳優、ダンサー、シンガー）
実施校	釜利谷東小学校（金沢区）
コーディネート	Media Global
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／創作／4 学年 2 学級 66 名
実施日程	2022 年 1 月 18 日(火)、2022 年 1 月 27 日(木)、2022 年 1 月 31 日(月)

授業のねらい

みんなの夢と４年生の学年テーマ「Four New World」をミュージカル仕立てにして、自分を思いっきり表現する。

主な内容

＜１日目＞自分の夢を発表・歌とダンスの練習。＜２日目＞本読み・ダンスの練習。＜３日目＞演技指導・通し稽古。

アーティストから

学年のテーマと将来の夢を入れたミュージカルを作りました。表現すること、発表する機会を設けることが難しくなっている現在で、子どもたちは「もっと表現したい」とウズウズしているのだと感じました。作品を作っていく中で、みんな生き生きと踊り、歌い、お芝居をしていました。お互いにアイデアを出し、声をかけ合い、自分の夢を伝える姿は、本当にキラキラしていました。

コーディネーターから

新型コロナウイルス感染症の再拡大で３回実施できるか心配しました。歌の練習を短くしたり、演技指導はグループを分散させるなどしました。開け放した体育館で、寒さの中でも子どもたちは、音をよく聴いて動いたり、自分の役を工夫して演じていました。

先生から

今回、10 才を祝う会と関連して実施をお願いしました。将来の夢を一人ひとりが堂々と言う場面を入れていただき、とても良かったです。テーマは４年生の学年テーマを使い、関連した曲で演劇を作っていただき、感動しました。

子どもたちから

動きが速すぎて難しいのが楽しかった。／げきを母親にみせたい。／ふりつけがたのしかった。／アーティストのダンサーの先生のおしえ方がうまくてすんなりできた。／お母さんやお父さんにちょくせつ見せれなかったけど、たのしくておもしろかった。／またこんなことがあったらやってみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立瀬ケ崎小学校＋急な坂スタジオ「もやもや」と学校のモノを使って演劇をつくる

担当アーティスト	大石将弘（俳優）
実施校	瀬ケ崎小学校（金沢区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／創作／6 学年 2 学級 58 名
実施日程	2021 年 10 月 13 日(水)、2021 年 11 月 29 日(月)、2021 年 11 月 30 日(火)

授業のねらい

12 月 11 日のふれあいフェスで行う演劇発表に向けて、表現の引き出しを増やすような取組。

主な内容

＜１日目＞教室にある「モノ」を主役にした声の演劇をつくってみる。＜２日目＞「もやもや」と学校のモノを使った演劇をつくってみる。＜３日目＞「もやもや」と学校のモノを使った演劇の発表。

アーティストから

勘所をおさえて着実に進めていくグループもあれば、間に合わないと思いきや発表では高いパフォーマンスを発揮するグループもある。グループによって創作の雰囲気はさまざまでしたが、まとまらなかったり、立ち止まったりしているように見えても、投げ出さずになんとか形にしようとする姿勢は共通していたことが深く印象に残っています。創作を進めていく中に、たくさんの困難があったと思います。話し合いのうまくいかなさや、人前に立つことの恥ずかしさ。おとなからは見えない困難もたくさんあっただろうと想像します。発表会では、それらの困難を乗り越えたものも、困難が困難のままそこに転がっているようなものもあって、そのどれもが素晴らしかったです。演劇の上演は、完成ではなく常に途中であると思います。彼らが向き合った困難が、次の何かに立ち向かう際の練習になっていればと願います。

コーディネーターから

いつもの学校生活の中で見落としがちなモノをピックアップしフォーカスを当てるという行為は、自分が普段意識しないものが社会（集団）の中にいつも同居しているという重要な気付きになったように思います。また、「もやもや」というネガティブに感じてしまいやすい要素を演劇に組み込むことで、結果的にユーモア溢れる演劇作品が多数創作され、演劇を通して正解のないものを生み出す楽しさを感じてもらえたのではないでしょうか。自分たちの身体と声でどんな表現ができるかを工夫するという今回の目標を、全３回のプログラムで積み重ねた内容から各グループそれぞれのアプローチで実践してもらえたように思います。

先生から

何度も来校していただき、丁寧に打合せもしていただきました。学校行事と合わせてスケジュールを組んだので、学んだことを生かして創作劇に取り組むことができています。子どもたちにとって、本物との出会いは、とても影響力があるのだと感じました。このようなワークショップを、通年で定期的に取り組んでみたいと思いました。

子どもたちから

全てが楽しかった。また来てほしい。／自分たちで作った劇をほめてくれたのがうれしかった。／自分たちが考えたものの気持ちをみんなに伝えられたのがよかったし、おもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立八景小学校＋象の鼻テラス 10 歳を祝おう！！身体表現ワークショップ

担当アーティスト	to R mansion（パフォーマンスカンパニー）
実施校	八景小学校（金沢区）
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、体育
実施概要	体験型／創作／4 学年 2 学級 65 名
実施日程	2021 年 12 月 14 日(火)、2021 年 12 月 15 日(水)、2021 年 12 月 16 日(木)

授業のねらい

八景小学校の４年生は「10 才を祝う会」という行事でパフォーマンス作品を発表することになっており、to R mansion がパフォーマンスの作り方を伝授することになった。to R mansion の長年培ったパフォーマンス経験を通して、子どもたちと一緒に考えながら作品を作り、表現する楽しさを味わってもらいたい。

主な内容

＜１日目＞to R mansion のパフォーマンスを披露した後、子どもたちと交流。アーティストからの宿題で覚えた子どもたちによるパフォーマンスを披露。さらにアドバイスをもらいアップデートしていく。＜２日目＞パフォーマンスを繰り返し練習し完成させる。紙飛行機を使って新たなパフォーマンスを作る。隣りの人に渡す・受け取る時の身体や手の使い方を教わる。１つの紙飛行機が飛んでみえるように丁寧に隣りの人に渡していく。＜３日目＞クラスの楽しい思い出やハプニングなどを集めて再現し、コントを作る。アーティストが班ごとに演出や演技などのアドバイスを行った後、みんなの前で披露する。

アーティストから

学年全員で行うショーの構成と振り付けを任されたので、大人しい子も元気な子もみんなに活躍の場があり、彼ら自身の中から出てきた表現やアイデアがたくさん生かされているパフォーマンスを目指しました。動きが合わないという子どもたちから湧き上がった問題に、こちらからのアドバイスで一体感のある動きが可能になったり、細かなコツやポイントを伝えることで、オブジェクトを操る身体が途端にしなやかになったり、躍動感が出るなど、子どもたちに喜びと達成感が増したパフォーマンスが出来上がりました。オリジナルコントでは、チームごとに身体やアイデアをいっぱいに使って、学年の友達を笑わせた子どもたちの自信に満ちた表情が印象的でした。

コーディネーターから

日本のパフォーマンスカンパニーto R mansion と４年生が一緒につくるパフォーマンスは、出張授業の前からオンラインでやりとりし、練習動画を共有するなど意欲的に取り組んでいました。先生方にサポートしてもらいながら、子どもたちが作り上げたパフォーマンスは完成度が高く、とても感動しました。楽器演奏、小道具を使ったダンス、跳び箱を使ったパフォーマンスは、学校の行事で披露することが決まっていて、子どもたちはやる気に満ちていました。さらにアーティストからの丁寧なアドバイスによってパフォーマンスがより良くなっていくのを感じました。自由で幅広いパフォーマンスができる to R mansion だからこそ子どもたちの良さを引き出せたのだと思います。

先生から

今回、活動やパフォーマンスを見たり体験したりして、１つのパフォーマンスの中にさまざまな教科と関連があり勉強になりました。学校現場でも行事が行われていますが、身体を使って表現する活動や工作などの創作物を活用した発表など、まだまだより良くしていける可能性があると感じました。

子どもたちから

むずかしいえんぎをうまくできたことがうれしかった。／プロの人たちに会えたことがうれしかった。／コントの練習もたのしかった。／思い出コントをやったことが楽しかった。／ためになるしおもしろいしかっこいい。

ダンス分野の取組

言葉や文字にならない何かをからだで表現するダンス。
自分のいる空間をしっかり把握して、まずはからだを動かしてみるところからはじめます。五感を研ぎ澄ませて、身体感覚の大切さを体験します。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立新鶴見小学校＋サルビアホール いろいろなものにへ～んしん！

担当アーティスト	東川歩未（ダンサー、アクター、モデル）
実施校	新鶴見小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／2 学年 4 学級 111 名
実施日程	2021 年 12 月 21 日(火)、2021 年 12 月 22 日(水)

授業のねらい

「身体をいろいろ動かして、楽しく表現してみよう！」体育の「表現リズムあそび」に関連させ、動物や乗り物などさまざまなものに「へんしん」し、身体を使って表現してみる。乗り物や動物や植物など、形がある物の動きを、風が吹いたり環境が変わったりすることで変化する動きをイメージして、いろいろなバリエーションの動きをやってみる。まず講師と一緒にまねをして、次に自分で考えて動いてみる。子どもたち同士で動きを見せ合い、良いところや感想を伝え合う。

主な内容

＜１日目＞講師のまねをして動く＜２日目＞自分で考えて動く

アーティストから

今回、新鶴見小学校の皆さんとダンスクラスを行うにあたり、身体を動かすことや踊ることをどのように伝えたら楽しんでもらえるかを模索する中で、私自身が踊ることの楽しさを再発見しました。当日は児童の皆さんの楽しんでいる姿や一生懸命身体で表現をしようとする姿がとても感動的でしたし、私たちに興味を持ちコミュニケーションを取ってくれる、その素直な気持ちがうれしかったです。

コーディネーターから

冬の体育館、換気のために窓を開けた寒さの中でしたが、講師が上手に盛り上げ、分かりやすく伝えてくれたため、子どもたちも引き込まれて身体を動かし、とても生き生き楽しそうでした。初日に覚えた動きをつなぎ合わせ、音楽に合わせてダンスを踊ったことがうれしかったようで、休み時間に踊っていた子が多かったと聞きました。講師はそんな反応も見ながら柔軟に指導、同じ音楽を使ってより発展したダンスを発表できるまでになったので、一人ひとりが達成感を味わえたと思います。個別支援学級の子の１人がこれまでにないほど授業を楽しんでいた、というううれしいお話もいただきました。

先生から

体育の「表現運動」と関連させ、今回の授業を通して身体表現の幅が広がればと思いお願いをしました。子どもの思いやアイデアを講師がくみ取り、即興ですてきなダンスにしてくださるので、子どもたちも最後まで意欲的に取り組んでいました。寒さの中だったので、ストレッチの時間をかなり長めにとってくださいましたが、もう少し短くして、その分をもっと表現活動にしてもよかったと思いました。この後取り組む表現運動に生かしていきたいです。

子どもたちから

講師の方のダンスがきれいだった。／たくさん踊れて楽しかった。／もっと踊りたかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立井土ケ谷小学校＋吉野町市民プラザ
ダンスで自分の内面にあるものを表現

担当アーティスト	FUNBURGER（ダンススタジオ）
実施校	井土ケ谷小学校（南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	鑑賞型／身体表現／個別支援学級 18 名
実施日程	2021 年 12 月 3 日(金)

授業のねらい

学校の活動や学習では体験できない、感じることができないことを体験・活動することで一人ひとりが何かを感じたり、気付いたりできるようになり、自分の内面にあるものを、伸び伸びと表現できるようになってほしい。また表現の方法はたくさんあり、人それぞれの表現方法で良いということを知り、自信を持ってほしい。

主な内容

クリスマスソングに合わせ、ダンス練習を全員で行い、後にみんなで発表会を楽しむ

アーティストから

普段中学生以上の障害のあるダンスチームを指導していますが、今回の児童たちも一人ひとりが宝箱を持っていました。普段あまり触れる機会が少ない洋楽のリズムをキャッチする力、先生から振り付けを教わった後も自分で練習する姿、発表の際には友達を全力で応援し、自分が踊る番では笑顔でダンスを披露する姿に、今後の限りない才能を感じました。児童たちの持つ宝箱の引き出しを、今回のダンスで開けるお手伝いができたならとても幸せです。

コーディネーターから

今まであまり体験したことのない運動になるため、ストレッチ・準備体操から始めました。児童の皆さんはダンスに積極的に取り組み、生き生きとした表情・動きを見せてくれました。授業を通して表現が豊かになっていき、一人ひとりが自信をつけていく姿には、こちらも驚かされました。お互いの発表を笑顔で楽しそうに見ていて、改めてダンスの魅力を再確認できる授業となりました。

先生から

講師の方の丁寧なご指導が印象的でした。振り付けを教え込むのではなく、「プレゼントを担ぐ」や「足をバッテン」などのように、知的級の児童でも分かりやすい動きやフレーズに置き換えて指導してくださり、多くの児童が楽しみながらダンスに親しむことができました。また、こちらの様子をよく見ながら、焦らず休憩をしながらペース配分をしてくれて、心地良い運動量で児童も満足していました。ぜひ次回もお願いしたいです。

子どもたちから

みんなで踊れたのがよかった。／アニメの歌をおどってみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立新井小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館
物語を自由に身体で表現してみよう

担当アーティスト	小暮香帆（振付家、ダンサー）
実施校	新井小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年 2 学級 53 名
実施日程	2022 年 1 月 25 日(火)、2022 年 2 月 1 日(火)、2022 年 2 月 9 日(水)

授業のねらい

２月 25 日(金)に行われる 10 歳を祝う会での発表を目標に行う。４年生の国語で扱う「初雪のふる日」を音読（群読)、その中でダンスを織り交ぜる。声や身体など、表現にはたくさんの方法があることを感じてもらい、視野を広げてもらう。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞物語に合わせた身体表現を組み立て＜３日目＞最終的に全体を通して行い、最後に自由に身体表現を全員で行う。

アーティストから

人に触れること、人の顔を全て見ることが難しいコロナ禍。人と人はどのようにコミュニケーションをとっていくのかが、今回の課題でした。発表ではダンスと朗読を通して、子どもたちの心身が豊かに連携していくことを目の当たりにしました。学校の先生方のご協力、児童一人ひとりの努力無くしてはできない作品となりました。授業を通して、改めてダンスや身体の可能性に希望を持つことができた経験となりました。

コーディネーターから

「10 歳を祝う会」での発表を目標に、４年生の国語の授業で扱う「初雪のふる日」の群読に合わせたダンスの振り付けを行いました。アーティストの小暮香帆さんは、身体を使って言葉を表現する面白さを子どもたちに感じてもらいながら、相手の動きのまねをする振り付けを取り入れ、ダンスを通して相手をしっかりと見ること、相手の考えていることを感じ取ることの大切さを伝えていました。最終回では身体を使って表現する時間を設け、子どもたちの自由な表現を見ることができました。

先生から

「プロのアーティストが教えに来てくれる」、これだけでもう子どもたちの意欲はとても高いものになりました。やはり、学校外の方から教わる機会は貴重だなと思いました。今回は、単発の経験にならないように国語科の音読に身体表現を合わせてもらいました。アーティストの方がとても親身になって考えてくれたこともあり、子どもたちにとって、とても貴重な良い経験になりました。

子どもたちから

本番もきんちょうしたけど練習通り楽しくできた。／おどれるようになってよかった。／最後のダンスがたのしかった。／みんなで楽しめたからいい思い出ができた。／自分でも成長できたことを実感できた。／プロの方のダンスがすごかった。／優しく教えてくれて、思い出に残った。／発表し終わったときの拍手が心に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立白根小学校＋急な坂スタジオ
振り付けを一緒に踊ろう！ダンスワークショップ

担当アーティスト	山下恵実（演出家、振付家）、北川結（ダンサー、振付家、イラストレーター）
実施校	白根小学校（旭区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	生活、総合的な学習の時間、音楽、体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 40 名
実施日程	2022 年 1 月 13 日(木)、2022 年 1 月 19 日(水)、2022 年 1 月 31 日(月)

授業のねらい

耳なじんだ曲で、振り付けがはっきりし、分かりやすいもの。踊ることを楽しめる内容。

主な内容

＜１日目＞事前にアーティストが創作したダンスの振り付けの確認と細部のレベルアップ。＜２日目＞発表のフォーメーションを決めて踊ってみる。全体で１つの大きな振り付けを作ってみる。＜３日目＞発表に向けた練習と各チームの発表。

アーティストから

事前の打合せでは、その場で新しいことをするのは苦手な児童が多いと伺っていましたが、一人ひとり積極的に振り付けの創作に取り組んでくれました。Ａチームはユニークな表現でみんなだけのオリジナルのダンスを、Ｅチームはみんなで協力してかっこいいダンスを踊ることができました。先生方との事前の丁寧な打合せや準備と、当日のサポートのおかげで、子どもたちと身体の表現を楽しむ活動ができました。（山下）

子どもたちと先生方が事前にお渡しした振り付け動画を熱心に練習してくださったおかげで、振り付けを踊るだけでなく自分たちで動きを考えるワークにも取り組めました。即興的に動くのは苦手かもしれないと聞いておりましたが、毎回新たな動きをその場でどんどん発見していく子どもたちの姿を見れてとても良かったです。何度も振り付けを踊る中で自分のお気に入りの動きを見つけていることを知れたのもうれしかったです。最終日も子ども同士で協力してしっかりと発表をやり遂げ、お互いに感想を伝え合う時間があったことも良かったです。子どもたちの集中力とダンスを新鮮に楽しむ力に毎回驚かされました。（北川）

コーディネーターから

子どもたちはワークショップ実施の２ヶ月前からアーティストの創作した振り付け映像を見ながら毎日学校で踊ってくれていて、みんなアーティストに会えるのを楽しみにしてくれていたおかげで、お互いに非常にリラックスした状態で行うことができました。先生方がダンスの振り付けを完璧に踊れるようになっていたり、事前にアーティストと打合せを行っていただいたりと、先生方のおかげで、我々だけではなかなか分かり得ない子どもたちの特性をすくい取りながら丁寧に事業を実施できたように思います。

先生から

本校では、ダンサー・演出家の方によるダンスのワークショップ（全３回、各 90 分）を実施しました。コーディネーターの方やアーティストのお２人と連携し、子どもたちが安心して楽しく参加できる場をつくることができました。ワークショップでは、集団での活動に不安感を持つ児童や表現運動に消極的な児童がみんなと一緒に踊ったり、自由に振り付けを考えて表現する姿が見られ、感動しました。本事業を通して、子どもたちも私自身も学び成長することができました。

子どもたちから

れんしゅうするとたのしくなった。／ダンスをおどれてすごくたのしかった。／ポーズをがんばって自分でできてすごくたのしかった。／ちょっとむずかしいなと思ったけど、みんなとやってたら楽しくなってきた。ダンスはそんな好きではなかったけど、今年のいい思い出になった。／最後の小学校でのダンスはとてもたのしかった。思い出になった。／さいごのダンスだったのでたのしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立不動丸小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館
身体を動かす楽しさ、面白さを味わおう

担当アーティスト	Natsu（振付家、ダンサー）、ヤマグチリオ（振付家、ダンサー）、HARU（振付家、ダンサー）
実施校	不動丸小学校（旭区）
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／4 学年 3 学級 91 名
実施日程	2022 年 1 月 20 日(木)、2022 年 1 月 27 日(木)、2022 年 2 月 17 日(木)

授業のねらい

２月の保護者会の発表会に向けてのダンスの取組。練習をしていく中で身体を動かす楽しさ、身体で表現する面白さを感じてほしい。新たな刺激になり、さまざまなことへ興味を持ってほしい。

主な内容

＜１日目＞振り付け＜２日目＞構成＜３日目＞映像撮影

アーティストから

ワークショップを行う前は多少の照れなどからみんな参加してくれるか不安もありましたが、いざ始まると多くの児童が積極的に参加してくれました。今回の振り付けはそれぞれの個性を尊重し、「見せ方や踊り方に間違いや恥ずかしさはいらないよ！全員が正解で全員の踊りがすてきだよ。」ということを伝えたいと思いました。友達同士で教え合っている姿もとても印象的で、練習する姿に感動しました。コロナ禍ということもあり、発表の場はクラス内になってしまいましたが、慣れない映像撮影にもノリノリで元気よく最後まで踊ってくれて本当に感謝でいっぱいです。

コーディネーターから

各クラスでダンスのイメージを話し合い、楽曲を選ぶところからスタートしました。ワークショップ実施前に振り付けの解説動画を子どもたちのために作成し、初回実施の際にはすでに踊れる子どもたちも多くいました。個々で練習し、実施回数を重ねるごとに振り付けの熟練度があがり、踊ることの楽しさから見られることを意識したダンスへと変化していく姿を見ることができました。予定していた保護者会がなくなり発表の機会を失ってしまいましたが、ダンスの映像を撮影、アーティストが編集をして動画を作成し、１つの作品として仕上げました。

先生から

ダンスが大好きな子、苦手な子といましたが、クラス全員が気持ちを１つにして踊れたところが良かったです。動画を見ながら必死に練習する姿、アーティストに教えてもらう姿、どの場面でも頑張っていました。子どもたちの「楽しかった」というコメントも多かったです。

子どもたちから

みんなでダンスをおどれて思い出に残った。／みんなでまたダンスをしたい。／いっぱい笑った。／初めてダンスが楽しいと思った。／ダンスの先生がおもしろかった。／また５年生になってもやりたい。／みんなが一丸となって取り組めたと思う。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立小机小学校＋急な坂スタジオ 身体で演奏会

担当アーティスト	Aokid（振付家、ダンサー）、岩澤哲野（演出家）
実施校	小机小学校（港北区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／6 学年 3 学級 102 名
実施日程	2022 年 1 月 19 日(水)、2022 年 1 月 25 日(火)、2022 年 1 月 31 日(月)

授業のねらい

演劇やダンスなどの身体を使った取組。２月に開催する「感謝の会」に向けて、発表するパフォーマンスの土台づくりをしたい。

主な内容

＜１日目＞ハンドクラップを使って遊んでみる。円になって拍手を受け渡していくプログラム。＜２日目＞身体でいろいろな音を出してみる。(服をする、足音、拍手など）＜３日目＞クラスごとに得意な音の出し方でパフォーマンスを作る。３クラス合同の時間に発表。

アーティストから

３日間を終えて、子どもたちは単なるワークショップの参加者ではなく、いち表現者、いち人間同士として、パフォーマンスの場を一緒に作り上げる頼れる仲間になりました。それは自分にとっても、かけがえのない経験になりました。３クラス合同の時間の最後に、子どもたちの前でパフォーマンスをしたのですが、「踊りたい子は一緒に踊ろう」と言ったら、出てきてくれた子がいました。パフォーマンス後に感想を聞いたら、その子の勇気がすごいと発見して言葉にしてくれた子がたくさんいました。一歩踏み出して踊り出す勇気、それを発見して言葉で伝えてくれる勇気の連鎖や、そういった場づくりをできるということを、とても美しいなぁと思いました。(Aokid)

小机小学校の子どもたちはとても素直で、僕たちの準備してきたプログラムに真剣に取り組んでくれました。「感謝の会」での発表の土台づくりということで、ワークショップでは“伝える”“受け取る“を主題にプログラムを組みました。３日間のワークショップを通して伝えたことが、「感謝の会」にうまくつながってほしいということは勿論ですが、長い人生の中、５年後 10 年後その先で、ふとした瞬間に思い返してもらえる体験になっていたらうれしいです。(岩澤)

コーディネーターから

言葉を使わない表現をどうしたら他者にうまく伝えること（またはそれを受け取ること）ができるのか、動き・身体から発する音を使って子どもたちと一緒に挑みました。小机小学校の子どもたちは、観る側もやる側も一緒にその場を作り上げるという、場づくりがとても上手で、特に最後の合同の時間の発表では、その力が発揮されていました。子どもたちが微細な音や激しい音で作り上げたパフォーマンスは、とても繊細で美しい作品でした。

先生から

アーティストとの打合せをもう少し細かく行う必要があったと反省をしました。内容が少し薄かったように感じられたので、アーティストにもっと前に出て子どもたちを動かしていただくような活動を取り入れていただけるとありがたかったです。

子どもたちから

卒業式などに表現することを生かしたい。／相手をつねに考えたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立山田小学校＋芸術家と子どもたち
校歌をアレンジだ！！

担当アーティスト	山猫団（舞台芸術集団）
実施校	山田小学校（都筑区）
コーディネート	NPO 法人芸術家と子どもたち
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／創作／6 学年 3 学級 95 名
実施日程	2021 年 10 月 25 日(月)、2021 年 10 月 28 日(木)、2021 年 11 月 1 日(月)

授業のねらい

小学校の最高学年として、６年生が楽しみながら思い出に残るワークショップを目指すことで合意。特に今年は山田小学校が 50 周年であることを踏まえ、小学校の「校歌」をテーマにワークショップを展開することとした。アーティストと一緒に校歌からオリジナルダンスを創作したり、校歌をベースにして即興的に音楽創作をする内容なども取り入れながら、山田小学校ならではのパフォーマンス創作に取り組む。

主な内容

＜１日目＞２組の音楽では、校歌を用いてアレンジに挑戦していくことを伝え、楽譜を用いない楽器演奏にチャレンジした。楽譜を一生懸命演奏するのではなく、あらかじめ選んである音の中から、４カウントの中で好きなように音を出して良いため、子どもたちも楽しみながら自分ならではの音探しに取り組んだ。１組のダンスでは、校歌を用いたダンスのベースをアーティストが子どもたちに伝え、それをさまざまにアレンジを加え、そのクラスならではのダンスを創作することを楽しんだ。移動を加えたり、一人ひとりの動きのタイミングをずらしたり、子どもたち自身で試しながら創作に取り組んだ。＜２日目＞校歌を用いた音楽とダンス創作はクラスごとに２、３日目ともに１日目と同じ流れで進めた。２組のダンス創作では、１日目に音楽アレンジを体験しているため、音のイメージがしやすいテーマ設定を考え、「和風」「ゾンビ」など少し具体的なアイデアを出し合うことで、それぞれの動きをチームごとに創作することができた。３組の音楽では、校歌の演奏のほか、２グループに分かれて即興演奏を試した。始まりと終わりのタイミングなど、まわりをよく見て演奏することに取り組むことができ、グループごとにお互い発表し合うことで、達成感を味わうことができた。＜３日目＞１組の音楽では、校歌のメロディーを弾くことができる児童がいたため、校歌の主旋律を聴きながら、それぞれの楽器でリズムや音のアレンジに取り組んだ。その後「動物園のお祭り」など、いくつかお題を出し合って、校歌のアレンジにチャレンジした。３組のダンスでは、２グループに分かれて、「夏まつり」「ロボット」などそれぞれにテーマを決めて創作に取り組み、お互いに発表し合う時間を設けた。

アーティストから

６年生になり思春期の到来を迎えつつも、自分の表現も他人の表現も自然に肯定する空気は相変わらずでした。昨年の実施内容（昨年度は別事業でワークショップを実施している）を先生方が好意的に受け取め、その後も継続して授業に取り入れてくださったことが成果に表れていたと思います。先生方としっかり連携を取ることでワークショップの意義が深まる好例でした。

コーディネーターから

クラスごとでの少人数実施のため、より丁寧に関われました。校歌の演奏時は一定のルールのもと、この音階の中であればどれを弾いてもよい、何回たたいてもよいなど自分なりのアレンジが生かせる内容であり、いろいろと試してみることで失敗してもよいし、何度でも試してみてよいという状況が子どもたちをリラックスさせていました。校歌を用いたダンス創作も、どうしようか考えこむ児童に対し、アーティストがまずやってみよう！と声掛けし、風通しのよい空気感で実施できたことが、表現の豊かさにつながっていたように感じました。

先生から

山猫団さんのすてきなところは良いも悪いも上手いも下手もなく、同じでもいいし違っていてもいいし、変でもいいし変じゃなくてもいい、動いていてもいいし動いてなくてもいい、というような子どもたちから出てくる表現をただただ肯定するところだなと思いました。「みんな違って、みんないい」という言葉、学校の中でよく聞くけれど、実際はその言葉から意味が奪われていることがよくあります。でも今回のワークショップでは、「みんな違って、みんないい」がとても大切にされていました。そうやって自分の表現を得た子どもたちは、返事ではなく、自分の言葉で話し始めるのではないかなと楽しみにしています。

子どもたちから

山猫団のみなさんが楽しかった。／みんなでダンスしたり演奏したりして思い出になった。／最高！／音楽の楽しさがわかった。／中学でもきてくれるとうれしい。／ダンスで自由に表現できたことがうれしかった。／すっごく楽しかったからまたやりたい。／おもしろいアドバイスをしてくださってとても楽しくダンスができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立桂台小学校＋リリス
みんなでダンス！！

担当アーティスト	ヒダノ修一（太鼓ドラマー）、一彩（太鼓パフォーマー）
実施校	桂台小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／個別支援学級９名
実施日程	2021 年 10 月 4 日(月)、2021 年 10 月 20 日(水)、2021 年 10 月 29 日(金)

授業のねらい

曲に合わせて、みんなで身体を動かして踊りを楽しむ。３日間設定の出前授業の最終日に、保護者や教職員を招いて発表会を行う。発表会に向けて、出前授業のない日も日常の学級の時間を利用して、練習の時間を確保していく。また、外部から講師の方をお招きしてダンスを教えてもらう体験を通して、やり遂げた達成感をみんなで味わうことができるようにしたい。

主な内容

＜１日目＞振り付け指導（冒頭～間奏に入る前まで）＜２日目＞振り付け指導（全体＆入退場練習）＜３日目＞リハーサル＋発表会（保護者へ向けて）

アーティストから

今回の栄区・桂台小学校プラットフォームは、緊急事態宣言が明けた直後に１回目が行われた。実は指導担当者は個別支援学級への指導は初めてだったので、１回目は反応の薄い子どもたちに対して苦戦していたが、２回目からは子どもたちそれぞれの個性に合った指導を行い、担当の先生や校長も参加して何度も繰り返し練習した。子どもたちがなかなか全員揃わなかったが、最終日の親への発表会では全員が無事に揃って、感動的なダンス発表ができた。

コーディネーターから

当初予定されていた１回目の授業が緊急事態宣言・分散登校の影響により延期となりましたが、日程の調整を行い、無事に３回の授業を終えることができ安心しました。最初は反応の薄かった児童たちも時間や練習回数を重ねる度に徐々に笑顔も見られ、３日目の最後に行った発表会本番は、とても集中力がありとても良いパフォーマンスだったと思います。

先生から

アーティストの方のお手本のダンスがとても格好よく、子どもたちはその動画で毎日練習しました。担任が教えるのとは、また一味違う感覚で、ゲストティーチャー（アーティスト）から教えていただいて良かったです。秋でいろいろ行事が立て込んでいて、調整が大変でしたが、３回あったので、その間にクラスで練習しておくこともできたので、回数も適切でした。

子どもたちから

楽しかった。／恥ずかしくて、踊れない人もいて、みんな違うんだなと感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立岡津小学校＋テアトルフォンテ
みんなで踊って、運動会で盛り上がろう

担当アーティスト	ヒダノ修一（太鼓ドラマー）、一彩（太鼓パフォーマー）、光季（タップダンサー）
実施校	岡津小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／4 学年 3 学級 88 名
実施日程	2021 年 10 月 5 日(火)、2021 年 10 月 19 日(火)、2021 年 10 月 26 日(火)

授業のねらい

ダンスを踊ることを通して友達と互いに教え合ったり、動きを認め合ったりすることで友達の良さを感じてほしい。また、みんなで協力して１つのことをやり遂げることの良さも感じ、一人ひとりが達成感を得ることができるようにする。

主な内容

＜１日目＞柔軟体操で身体をほぐす。運動会で披露する演目の、半分まで振り付けを覚える。＜２日目＞柔軟体操で身体をほぐす。運動会で披露する演目の、残り半分の振り付けを覚える。＜３日目＞柔軟体操で身体をほぐす。１曲を全て通し、入退場から隊形変化まで完成させる。

アーティストから

今回の泉区・岡津小学校プラットフォームは、緊急事態宣言が明けた直後に１回目が行われた。マスクで覆われた子どもたちの細かい表情は分からなかったが、２回目にかけて集中して自主練習を行っていたようで、最初はシャイだった子どもたちの動きがとてもダイナミックになり、講師２人の振り付けや指導を心から楽しんでいる様子が見られた。講師とも打ち解け、最後の記念撮影やハイタッチを囲む姿を見て、運動会での成功を願ってやみません。

コーディネーターから

本事業開催前、児童たちは多くの行事が中止や延期、また分散登校などで友達と顔を合わせる機会も減っていました。今回、回を重ねるごとに伸び伸びと踊り、友達と声を掛け合う姿を目にし、とても意義のある活動になったと感じています。先生方のご協力もあり、２回目からはしっかり振り付けも覚えて授業に備えていました。終了後には講師を囲んで言葉を交わすなど、学びと思い出作りの両方を作ることができたのではないかと思います。

先生から

子どもたちを「本物」に出会わせることができて、とてもいいプログラムだと感じました。ただ鑑賞するだけでなく、プロと同じ踊りを踊ることができるということがとても楽しかったと思います。さらに、１回でなく複数回来ていただけたおかげで、成長した自分を見てほしいと、一生懸命練習する姿が見られました。学びが多く、充実した時間を過ごすことができました。子どもたちは、毎回すごく楽しみにしていたので、また機会があったらぜひ活用したいです。

子どもたちから

いっさいさんと上手にダンスをできてわからないことは友達におしえてもらった。またいっさいさんと上手にダンスをおどりたい。／いっさいさんや、こうきさんが楽しく教えてくれて、とてもいい思い出になったと思う。／最初はむずかしかったけど、だんだんできるようになって楽しめるようになった。／リズムにあわせておどれたことがよかった。／うんどうかいで、結果をだしたいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立東中田小学校＋テアトルフォンテ
創作ダンスで団結し、みんなでハーモニーを作ろう

担当アーティスト	中村明日香（多面体表現者、アーティスト、振付家）／アシスタント：宮崎知佳（ダンサー、バレエインストラクター）
実施校	東中田小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	体育、音楽
実施概要	体験型／創作／4 学年 2 学級 80 名
実施日程	2021 年 11 月 4 日(木)、2021 年 11 月 18 日(木)、2021 年 11 月 22 日(月)

授業のねらい

多様な表現方法を試してみたり、コミュニケーションの面白さを感じたりすることで、みんなで１つのものを創り上げる楽しさ、自分の思いを表出する気持ち良さを感じ、豊かな表現力や想像力、協調性を育むきっかけとする。

主な内容

＜１日目＞体育館：事前に作成した配置図に基づき、80 人が各自の番号を認識しておいてもらい、円隊形で集合し、演舞用音楽に乗せてワークショップ。ワークショップで体験したオリジナルポーズを振り付けの中に生かす演舞半分までの振り付け。＜２日目＞校庭：円隊形で集合し、「コレ、ナンダワークショップ」＝正解は人数分あるということを体験。中村作「祈りのうた」(ハミング)のイメージ音楽「Prayer/Libera」を鑑賞。Libera の説明。「祈りのうた」練習。復習を交え演舞前回の続きから最後まで。「祈りのうた」の先生方の動きの指導。＜３日目＞体育館：群隊形で集合。「祈りのうた」復習。「東中田小学校４年生にしか作れないオリジナルの作品を作りましょう」ということからこの作品は生まれたというお話。「The Converter」というタイトルについての話、口頭でゆっくり振り付け確認。入場の仕方（隊形、音楽タイミング、動線など）、宣誓、入場から通し。

アーティストから

子どもたちの全ての感想がうれしく、クリエーションの甲斐があった。「３回でできるか心配だった」「最初は難しかったし恥ずかしかった」「やっていくうちに楽しくなって、疲れていてももっと踊りたいという気持ちになった」「ダンスが好きになった」が多かった。「慣れてくるとカッコイイという気持ちが出てきた」という感想からは、表現を通し自己肯定感が高まったことが分かる。己を持ち、他者を受け入れ、全員で目標に向かって協力し、幸福度の上がる時間を実現できて良かった。

コーディネーターから

打合せで先生方の思いや児童の現況を伺った上で、オリジナルな創作ダンスの構想を描き、仕上げていく段階を目の当たりにし、アーティストの伝える力と技量に感動しました。同じ振りを伝授するだけではなく、子どもたちの内側から湧き上がってくるもの、また、湧き上がりたくても出し切れないものをも受け入れて“動き”の１つに取り入れていく柔軟さが、自然にこの授業に取り組みたくなる気持ちを引き出しているようで、回を追うごとに子どもたちから積極的に参加しようとする意欲が感じられました。最終日、アーティストはグータッチであいさつし、子どもたちの作るアーチと歌で送られました。この歓待が全てを物語っていると実感し、確信しました。終了後にアーティストへ、子どもたち全員からお礼のお手紙と当日のＤＶＤをいただきました。

先生から

回を追うごとに、子どもたちもリラックスしてきて、表現することに対して抵抗なくできていました。変容を見ることができ、子ども自身がとても楽しんでいました。

子どもたちから

みんなで思いきり踊れて楽しかった。／中村先生と宮崎先生のすごさを感じた。／始めは難しかったけど最後にはできるようになった。／プラットフォーム学習活動をもっとしたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立緑園東小学校・緑園西小学校＋ＳＴスポット横浜
いろいろな素材と自分の身体で遊んでみよう

担当アーティスト	長井江里奈（ダンサー、演出家、ワークショップファシリテーター）／アシスタント：北園優（ピアニスト、パフォーマー、楽曲制作）、鈴木綾香（ダンサー、振付家）、ニシハラ☆ノリオ（かぶり物アーティスト、造形作家、舞台美術家）、山下彩子（ダンサー、アーティスト）
実施校	緑園東小学校、緑園西小学校（泉区）
コーディネート	認定 NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動、体育、音楽、図画工作、総合的な学習の時間、生活
実施概要	体験型／身体表現／個別支援学級 29 名
実施日程	2021 年 10 月 19 日(火)、2021 年 10 月 29 日(金)、2021 年 11 月 22 日(月)、2021 年 11 月 24 日(水)、2021 年 12 月 8 日(水)、2021 年 12 月 22 日(水)

授業のねらい

ボディイメージが乏しくぎこちない動きの児童が多いことから、音楽に合わせて身体を動かして、身体の多様な動きの獲得や、運動・動作の基本的技能の獲得、また言葉だけでなく感覚を総合的に活用して周囲と関わったりしてコミュニケーション能力を育めるような活動。興味の幅や、発達段階もさまざまなため、身体表現や音楽、工作など複数の表現手法を通して、それぞれに合った参加の仕方でおのおのの表現力やコミュニケーション能力を高めることをねらいとする。

主な内容

＜１日目＞身体で遊ぼう／動きのまねっこ、ピアノの音に合わせて動いてみる、言葉から動きをイメージしてみる、早く立ったりゆっくり寝たり、ゴムくぐり。＜２日目＞道をつくって遊ぼう／マスキングテープや体育館にある用具を使って緑園東小学校までの道を描き、出来上がった立体地図の上で音楽に合わせて身体を駆使して遊ぶ。＜３日目＞不用品で巨大な顔をつくろう／閉校に伴い不要になった学用品や家庭のゴミをブルーシートに貼り付けて、巨大な顔をつくる。＜４日目＞紙で遊ぼう／動きのまねっこ、ピアノの音に合わせて動いてみる、紙を手に乗せて歩いたり風を受けながら落とさないように誰かに渡す、紙をこすったり丸めたりして音楽に合わせて音を立てて楽しむ。＜５日目＞ペットボトルで遊ぼう／大量のペットボトルをランダムに立ててある中を倒さないように歩いてみる、足の間や脇の下にたくさん挟んで動いてみる、音楽に合わせていろいろな鳴らし方を発明してみる。＜６日目＞ホースで遊ぼう／長いドレンホースにみんなでつかまってさまざまな形をつくったり、くぐり抜けたり、チームに分かれて糸電話のように伝言ゲーム、１ｍの長さに切って一人ひとり楽しみ方を発明する。

アーティストから

今回のワークショップは、２年目ならではのメリットがたくさんありました。まずは先生方がワークショップの進め方に慣れてくださったことです。昨年は子どもたちの奔放な様子に戸惑われた先生方も「山猫団との時間は子どもたちにとって非日常、それを体験するだけで十分。」と言ってくださり、私たちも安心して緩やかにワークを進めることができました。ゴールを決めず、子どもたちが自発的に遊び方を発見していくのを見守れたおかげで、昨年はうまく参加できなかった子も自分なりの取り組み方を見つけていました。ぐちゃぐちゃになって踊ったり走り回ったりする中で自然と両校の児童の距離が縮まっていたのも微笑ましく、統合に向けた良い出会いになったと思います。

コーディネーターから

１～３回目は緑園西小学校の個別支援学級と、４～６回目は昨年に引き続き、令和４年度から統合される緑園東・西小学校、両校の個別支援学級合同で実施しました。初めて使ってみる素材や、どうなるか予想もつかないような活動がたくさんありましたが、２年目ということで、両校の先生方が前向きに捉えてトライ＆エラーを許してくださったことが大きかったと感じています。先生方との毎回の振り返りで、子どもたち一人ひとりの名前を挙げて、表情や反応を振り返り共有できたことは、アーティスト、コーディネーター、先生方、みんなにとってたくさんの学びがあり、そんな関係を築けたことも大きな成果でした。

先生から

コーディネーターやアーティストの方々の真剣さに感謝いたします。子どもの心を捉えようと、いろいろと研究したり工夫したりしている姿勢が子どもたちの心を捉えることを可能にするのだなと分かり、勉強になりました。アーティストの皆さんからは、子どもたちの表情や身体の動きをよく観察すること、子どもたちに合わせた遊びや活動の提示をしていくこと、子どもたちの動きや考えを元にして、学習や活動を作り上げていくことなど、たくさんのことを学ぶことができました。教員としては、日ごろ楽しくすることの大切さを忘れて、ついつい子どもたちをリードしていく気持ちになりがちなので、子どもたちがやりたい！面白い！と感じる活動や学習を提示していきたいと思いました。コーディネーターの方には、細かい連絡をいただき、スムーズに活動に取り組むことができました。書類の作成や準備するものや来校時間などの確認がとてもありがたかったです。学校や子どもたちの様子にもとても気配りいただき感謝しています。

子どもたちから

ペットボトルのまわりをゆっくりあるくのがたのしかった。／かおづくりとホースがたのしかった。／テープでちずをつくるのがおもしろかった。／ありがとう。たのしかった。ありがとう。やまねこだん。／相手の動きに注目することができた。／動くことが楽しかった。／アートタイム全体が楽しかった。／紙づくりができて良かった。／ピアノが印象に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立矢向中学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ みんなで踊るって楽しい！

担当アーティスト	倉重円（PLANETS 所属インストラクター）、中村美紅（PLANETS 所属インストラクター）、相原優貴（PLANETS 所属インストラクター）
実施校	矢向中学校（鶴見区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	保健体育
実施概要	体験型／チアダンス／1 学年 7 学級 274 名
実施日程	2022 年 3 月 11 日(金)、2022 年 3 月 14 日(月)、2022 年 3 月 16 日(水)

授業のねらい

「ダンスを楽しむ」ための導入となること

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ、振り付けを覚える（７クラスを２・２・２・１クラスずつに分けて実施）。＜２日目＞ウォーミングアップ、振り付けの確認・踊る、発表会に向けたフォーメーションの確認。＜３日目＞ウォーミングアップ、踊る時のコツを知る、３チームごとに通して踊る、発表会。

アーティストから

本年度も学校の先生方をはじめコーディネーターの方々のご協力により実施ができ、感謝申し上げます。３日間という短い日程の中で懸命に取り組み、１つの作品を作り上げる姿勢が素晴らしかったです。“チアダンス”を通して仲間とのつながりや自分を表現するということを感じてもらえました。最終日での全クラス合同発表会では、他のクラスを自発的に応援し合うなど全員で楽しむ姿勢が見えました。コロナ禍ですが、周りの人と何かをやり遂げる感動体験として感じてもらうことができていれば幸いです。

コーディネーターから

今回、矢向中学校で３年目の実施となりました。実施人数も多いので、みんなで踊る楽しさを感じてもらえるようチアダンスのプログラムとしました。基本の振り付けは講師が考えますが、プログラムの中で講師から「自分なりにアレンジしていい」「うまく踊らなきゃいけないと思わなくていい」という言葉があり、最初少し戸惑っていた子も徐々にほぐれていったように感じます。最後の発表の時間はとても盛り上がり、実施できて良かったと実感しました。今回のプログラムを通じて、みんなで踊ること、音に合わせて身体を動かすことの面白さを感じてもらえたらうれしいです。学校の先生方には準備から当日のサポートまで多くのご協力をいただきました。

先生から

プロの方が雰囲気をつくるところからやってくださり、苦手な生徒もいたと思いますが、全体的に楽しそうな様子が伝わりました。発表の時の雰囲気がとても良く、生徒たちは達成感も味わえたと思います。時期についてはこちらも検討し、より良い時期（ダンスの導入）に行うのも子どもたちがダンスを好きになるきっかけになるかと思いました。

子どもたちから

発表会でものすごく達成感があった！／ちょっとむずしかった。／ダンスとは無縁だったけど楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立領家中学校＋テアトルフォンテ
太鼓のリズムやダンスなど、迫力のエンターテインメントを楽しもう

担当アーティスト	ヒダノ修一（太鼓ドラマー）、一彩（太鼓パフォーマー）、光季（タップダンサー）
実施校	領家中学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／太鼓・ダンス鑑賞／3 学年 5 学級 177 名　※１年生 148 人、２年生 172 人が同時配信映像を鑑賞。
実施日程	2021 年 11 月 24 日(水)

授業のねらい

芸術を鑑賞、体験をすることで音楽とダンスの楽しさを知り、情操教育を行う。コロナ禍で満足に音楽指導が行えずにいるので、本物の音楽やダンスに触れさせる。昨年度、学校行事をきちんと行えず残念な思いをさせてしまった３年生の児童たちに、芸術鑑賞を通して有意義な時間を過ごさせる。

主な内容

太鼓とダンス（ヒップホップ＆タップダンス）が融合した超絶技巧のパフォーマンス。世界の打楽器と音楽の紹介。

アーティストから

今回の泉区・領家中学校プラットフォームは、世の中が少しずつ動き始めた中での開催でしたが、まだまだ慎重に行動すべき状況のために演奏者は「どこまで盛り上げて良いのか」に非常に気を遣った時間でした。しかし、オープニングから熱心に太鼓の迫力を体感し、タップダンスの超絶技巧に驚き、マスク越しではありますが、楽しんでいたと思います。生音のダイナミズムを感じる機会が減った中で、この様な機会をたくさん味わってもらいたいと願います。

コーディネーターから

たいへん行儀の良い生徒たちで、盛り上がっているのかが少々分かりにくい状況ではありましたが、よく見ると撥と共に手が動いていたり、タップと共に足が揺れていたり、身体が前のめりになり、真剣なまなざしで見入っている様子が見て取れました。アーティストが先生に振って、参加を呼び掛けた時が思いのほか盛り上がった時に、先生と生徒の距離が縮まったように感じました。配信によって全校生徒が鑑賞できる試みはとても良いと思いました。１日も早く、全校生徒が一堂に会して、同じ公演を体感できるようになることを心から祈らずにはいられません。後日、生徒たちの感想文を送っていただきましたが、あまり触れることがないからか、タップダンスに興味を持ち、楽しんでいた生徒が多かったことが分かりました。

先生から

授業の中では味わえない体験ができたことは生徒にとって大変刺激があったようです。オンラインで視聴となった１・２年生にも、来年以降同じ体験をさせてあげたいと思いました。

子どもたちから

体育館の振動が伝わってきて楽しかった。／タップダンスはまったくしらなかったが、いろいろしることができたし音もけっこうのれたのでよかった。／たのしくみれてうれしかった。

美術分野の取組

自分で考えて、自分でつくってみる。その面白さと難しさを
体験します。のびのびと創作することを通じて、イメージや
感覚をとらえ、表現する面白さを深めます。
自分や友達の多様な表現に触れる機会となります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立浦島小学校＋かなっくホール クラフト用紙ワークショップ

担当アーティスト	椎橋げんき（日本画家）
実施校	浦島小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／3 学年 3 学級 87 名
実施日程	2021 年 12 月 10 日(金)、2021 年 12 月 14 日(火)

授業のねらい

身体を使って造形遊びをし、個々の活動と全体での活動の違いと良さに気付く。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞班活動で意見を出し合い、自由に大きな造形作品を作る。作品完成後は iPad で撮影し、他者への発信も考える（各日、クラスごとに実施）。

アーティストから

浦島小学校の活動は昨年度に続き２回目となります。今回も使用したクラフト紙は応答性が高く、前半はその特徴を生かした遊びを軸に思考していく活動を行いました。後半はグループになり制作と発表を行いました。発表は児童らが自身を振り返り、この時間にどんなことを感じ、何を試みたのかを実感する場として考えました。これらの活動においてご理解とご協力をいただけた浦島小学校の先生方に、深く感謝とお礼を申し上げます。

コーディネーターから

浦島小学校には昨年度に続き、同じプログラムをお受けくださいました。前回は時間がオーバーするなど各クラスの先生にご配慮いただくこともありましたので、アーティストと共に昨年度の反省を生かし、時間内でより充実したプログラムを実施することができました。われわれを信じて託してくださる先生方に心より感謝します。

先生から

アーティストの方からは子どもたちだけでなく、私たち教員にも造形についてのアドバイスや授業の流し方のポイントを教えていただいたので、ご自身がお好きなことはもちろん、たくさんの人に造形の良さを広めていきたいと思われているのだなと感じました。

子どもたちから

決まったものでなく自由にできることが楽しかった。／友だちと協力できた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立子安小学校＋かなっくホール カラフルスティック・ワークショップ

担当アーティスト	椎橋げんき（日本画家）
実施校	子安小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年 6 学級 180 名
実施日程	2022 年 1 月 18 日(火)、2022 年 3 月 7 日(月)、2022 年 3 月 14 日(月)

授業のねらい

身体を使って造形遊びをし、個々の活動と全体での活動の違いと良さに気付く。１人でできることをグループで共働することで、うまくいかなかったり、思いもよらないものができたりするクリエーションの面白さを知る造形遊びを目指す。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞カラフルスティック 28,000 本を分け合い、個人で高く積む（３分）、２～３人で積む（５分）、もっと多い人数でグループを作り、面白い形を作る（７分）（各日、２クラスずつ実施）。

アーティストから

今年度の子安小学校アウトリーチでは、予定していた共同制作と、途中から感染症対策の一環として、個人活動のみのクラスもありました。制限された中でしたが、子ども自身が意欲を持って取り組む姿が見受けられました。そして、活動テーマである「自分自身の新しい価値観に出会う」ことも、活動の様子から伺うことができました。このような情勢の中でも活動にご理解とご協力をいただけた子安小学校の先生方には深く感謝申し上げます。

コーディネーターから

コロナ禍により開催日の延期があったり、子どもたちの手指の消毒など先生方には諸々ご配慮いただき感謝しております。１回目は体育館で共同作業ができましたが、２回目以降は教室での個別作業になり、アーティストにはプログラムを再構成していただきました。３日間通して「失敗を楽しむ図工」というコンセプトを無事お伝えできて良かったです。

先生から

図画工作という児童が楽しみにしている授業において、担任以外の図画工作に対しての取り組み方の視点が子どもに伝わることがとても良いと感じました。ルールに縛られない考え方もあるということを外部の方に言ってもらうことは、児童にとってとっても良い刺激になっていると感じました。また、私自身も準備や片付けのことなどを考えてしまい、子どものやりたい、気付いた、という考えに制限をかけてしまうことがあるので、自由に固定概念にとらわれない授業を心掛けていくことが大切だなと感じました。

子どもたちから

もっといろんなつみかたができそう。／げんき先生と、みんなでまたあそびたい。／前までは図工がうまくできないと、悔しくなって嫌だったけど、受けたらかわった。／楽しかった。どうしてかというと高くできてうれしすぎてもう１回やりたいから！／高くつめたからうれしかった。／またやりたい！／楽しかった。１年じゅううけたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立永田台小学校＋横浜美術館
「色水づくり」と「ぺったんアート」

担当アーティスト	三ツ山一志（造形教育家）
実施校	永田台小学校（南区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 43 名
実施日程	2021 年 10 月 13 日(水)、2021 年 10 月 20 日(水)、2021 年 10 月 27 日(水)

授業のねらい

同校個別支援学級での指導は今回で３年目となる。今年は３クラス合同での活動はとり止め、落ち着いて活動に取り組めるよう各クラス個別で活動できるプログラムに変更した。３日間で各クラス、「色水づくり」と「ぺったんアート」という２つのプログラムを体験できるように設定した。授業を通して、「自分で決める」ことを学び、「分からないことは聞く」ことを練習し、教えてもらえばできるという経験により、子どもたちが自信を得る機会としたい。

主な内容

＜１日目＞２クラスに対して「色水づくり」４色（赤・青・黄・白）の絵の具を混ぜて自分が決めた好きな色をつくる活動を実施。＜２日目＞１クラスに対して「色水づくり」を実施、１クラスに対して「ぺったんアート」粘着テープが貼ってある色画用紙にいろいろな素材をつける活動を実施。＜３日目＞２クラスに対して「ぺったんアート」を実施。

アーティストから

今年で３年目になる永田台小学校でのワークショップ。今回はコロナ禍もあり、全員での一斉活動ではなく、全体を３クラスに分け１日２活動、３日間で計６活動を行った。１クラス 10 人を割る子どもたちの人数は気配りが利き、子どもたちのしたいことに向き合え、個別支援学級でのワークショップのあり方が分かった気がしました。

コーディネーターから

透明な水に絵の具を混ぜ、さまざまな色水をつくる体験や、粘着テープが付いた画用紙にボタンやビーズ、モールなどのさまざまな素材を配置して制作するプログラム。どちらもシンプルな内容でした。しかしこの造形活動には自分で決めて、自分で楽しむ、行動へのプロセスが散りばめられています。プログラムを通して、質はそれぞれ違いますが、子どもたち一人ひとりが「自分で決める」喜びや発見などの実感が得られたと感じました。黙々と取り組んでいる姿が印象的でした。

先生から

教科書にはない授業をいろいろ見ることによって、自分で試したいことや、子どもへのアドバイスが増えました。

子どもたちから

教科書にはない授業をいろいろ見ることによって、自分で試した色水がおもしろかった。／あんぱんまんをつくれたから楽しかった。／みんなと楽しくつくれた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立吉原小学校＋象の鼻テラス
ハローサンリク-東日本大震災から10年「ひかりの実」特別プログラム-

担当アーティスト	髙橋匡太（アーティスト）
実施校	吉原小学校（港南区）
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2学年3学級80名
実施日程	2021年11月22日(月)、2021年12月6日(月)

授業のねらい

象の鼻テラスで毎年展開している、光のアーティスト髙橋匡太さんによるアートプロジェクト「ひかりの実」を作るプログラムを実施します。果実袋に「笑顔」を描き、中にＬＥＤを灯し暗くなると明るく輝き出す作品を、校舎の樹につるし、ひかりの実が実る樹木を作り出します。ここで作ったひかりの実は、10月に象の鼻テラスが実施するアートイベント時にも象の鼻パークの樹木に展示されます。また、東日本大震災を機に生まれた当プロジェクトは10周年を迎えるため、陸前高田の小学校へひかりの実を届ける、震災の記憶を語る講話をオンラインで行うなど、東北との交流を図ります。

主な内容

＜１日目＞髙橋匡太さんのアーティスト活動や「ひかりの実」のプログラムについて説明。「まる」が描いてあるところに笑顔を描き、ＬＥＤ電球を入れてひかりの実を作成する。校門の樹木にひかりの実を取り付ける。＜２日目＞陸前高田市市役所の永山さんとオンラインでつなぎ、2011年に起こった東日本大震災について、現在の復旧した街の様子などお話しいただく。被災地である陸前高田の方々にプレゼントするメッセージ入りのひかりの実を作成する。各教室からオンラインでつなぎ、自分の作ったひかりの実を発表してもらう。

アーティストから

2011年当時被災したばかりだった陸前高田と横浜の子どもたちの笑顔の交流・交換を目的に行われた「HOPE　ひかりの実」。震災から10年「ひかりの実」プロジェクトがスタートして10周年という節目に当たる2021年に、再び三陸３都市と各市町をつなぐ「ハローサンリク特別プログラム」の一環として吉原小学校の皆さんと、陸前高田市の皆さんを「ひかりの実」を通じて結ぶことができました。しかし、コロナ禍であるからこそオンラインを活用したワークショップに積極的に取り組み、遠隔地である陸前高田の皆さんとつないでのワークショップは相互の児童・生徒さんにとって遠隔地への想像力を育み、また防災意識の高まりが生まれたことと思います。昨年12月には、陸前高田での現地展示を地元の皆さんの協力のもと無事行うことができ、現地の小学生たちも楽しそうに見てくれていました。

コーディネーターから

アーティスト・髙橋匡太さんが長く続けている「ひかりの実」のプログラムを通して、東日本大震災の被災地である陸前高田の方々に、応援のメッセージと笑顔を描いた「ひかりの実」を送り届けました。陸前高田の市役所の方から当時の震災の様子や街がどう変わっていったかを講演していただき、ZOOMを使って対話しました。子どもたちは一生懸命想像力を働かせながら、積極的に質問していたので感心させられました。遠隔で対話の機会が持てたのは、この情勢だからこそ実現できたことであり、オンラインを駆使することでより学びの可能性が広がることを感じられました。

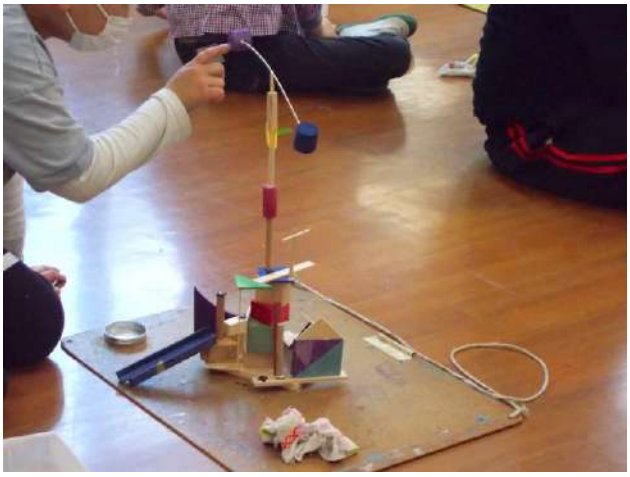
先生から

低学年の児童でも理解しやすく、扱いやすい材料で作成することができました。学年全員の笑顔の実が１本の木に実り、幻想的な光景を楽しむことができました。また陸前高田の方ともオンラインでつながり、東北の皆さんへも思いをはせることで、人権学習、防災学習にもなりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立権太坂小学校＋岩間市民プラザ やじろべえワークショップ

担当アーティスト	こいちりょうじ（こども造形研究家）
実施校	権太坂小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	鑑賞型／造形／個別支援学級 14 名
実施日程	2022 年 2 月 15 日(火)



授業のねらい

この体験を通して、自分の思いや感じたことをさまざまな方法を使って表現できるようになってほしい。自分の思いを伝えること、相手の思いを知ることの良さ感じ、自分の思いを適切な方法で分かるように伝えようとする態度を養いたい。

主な内容

大小さまざまな木材を主な素材に、やじろべえを制作、アクリル絵の具で塗装。

アーティストから

子どもたちは熱心に創作し、終始どのようなことをしようかと試行錯誤している様子でした。全員が同じ素材を使用していますが、異なる色彩や造形から一人ひとりの魅力や違いをとてもたくさん感じました。エネルギッシュで大胆な造形に「これは作ることが難しい」と感じることもありましたが、心配をよそにその難しさに対しても楽しんで作る子どもたちばかりで驚かされました。短い時間ではありましたが、私にとっても学びある体験となりました。

コーディネーターから

ヒアリングの際、実施希望調査書に書かれていることと先生のお話が合致しており、スムーズに進められました。事前にクラスの様子を見学するなど、講師にも学校の先生にもとても協力していただきました。そのため当日は子どもたちが興味を持って集中できる環境で、十分に制作の時間を取ることができ、充実したプログラムになりました。途中、休憩時間で一度作品から離れた子どもたちが、一目散に自分の作品前に戻って来る姿が印象的でした。

先生から

特別な先生が来るということだけでも子どもたちはワクワクしていて、自分のことを知らない先生だからこそ、図画工作が苦手な子どもたちも挑戦しようとする姿勢がより見えたように思います。造形活動において、これまでどうしても動物や車など、もともとある物の形の再現にこだわってしまい、なかなか表現の幅が広がらず指導上での難しさを感じていました。ですが、今回「やじろべえの台」という大枠だけ決めてあげることで、子どもたちは自由すぎて困るということもなく、自由に木の組み合わせを考えて積み上げていて、目からウロコでした。今後の指導に生かしていきたいと思います。３時間、１つのものを作り上げるということで、集中が保つか不安な児童もいましたが、用意していただいた題材や素材がとてもよく、時間が足りないくらい熱中していました。また継続的にこのような活動ができればいいな、と思いました。

子どもたちから

こいち先生が優しくてまた来てほしい。／木が倒れそうで怖かったけどうまくできた。／自分で考えて作品を作ることができた。／工夫を考えられて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立本宿小学校＋横浜市民ギャラリー
空とぶわたし

担当アーティスト	さとうりさ（アーティスト）
実施校	本宿小学校（旭区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／3 学年 4 学級 126 名
実施日程	2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 9 日(火)、2021 年 11 月 10 日(水)

授業のねらい

大きなシートに身体の輪郭を描いて切り抜き、自分の複製をつくる。出来上がった全作品を、学校に隣接している鶴ケ峰ふれあいの樹林、通称「ジャングル山」広場に展示する。場所を変えて作品を展示することで、慣れ親しんだ空間の印象が変わる楽しさを体験する。また、個々の作品が集合することで広がる表現の多様性を体感する。

主な内容

＜１日目＞制作（１・２組）＜２日目＞制作（３・４組）＜３日目＞ジャングル山に作品展示、一般公開（１～４組）

アーティストから

図工が得意でない子も構えず始められるよう、最初に自分の身体の輪郭を友達に描いてもらいました。体育館での制作は、こちらの予想を上回る集中力を発揮してくれました。描きながら話してくれたストーリーがとても面白く、もっと聞いてみたかったです。ジャングル山での展示は芸術祭のようにダイナミックな光景となりました。個人的反省点は、設営のイメージを十分にできていなかったことです。「ジャングル山の会」のみなさんの設営のご協力、本当にありがとうございました。

コーディネーターから

体育館に大きなシートを広げ伸び伸びと描くことができました。完成した自分の分身を片付ける際「かわいそう、たためない！」と言っている児童の言葉に、何でもない素材が制作を通して特別な作品に変化したように感じられました。企画当初に、アーティストがイラストと言葉で活動イメージを提示してくださったおかげで、教員、アーティスト、コーディネーターの三者でイメージを共有することができました。最終日の屋外展示は、地元の方と学校との長年の関係性があったからこそ実現できました。みんなで特別な風景を見ることができたかと思います。

先生から

アーティストのさとうさんや、市民ギャラリーのスタッフの皆さんが、子どもの作品を１つ残らず褒めてくれたことが、とても心に残りました。自分たちが指導する時には、例えば、作るのがゆっくりな子には、つい「時間配分を…」などと声を掛けがちなのですが、「丁寧だね」「この色がすてきだね」と子どもたちの作るものを肯定的に、子どもたちが楽しくなるように声をかけてくださって、とても勉強になりました。図画工作が苦手な子どもも「もっとやりたい！」と言っていました。今回のようなダイナミックな活動はなかなかさせてあげられないので、子どもたちにとって本当に貴重な経験になって良かったです。活動後、保護者の方も、山に展示した作品を見に来てくださり、喜んでくださって良かったです。地域の山を活用したプログラムを作ってくださり、ありがとうございました。

子どもたちから

（作品が）風でひらひらしておもしろかった。／みんなでねころがって形を作ったり、切ったりしたことが思い出にのこった。／もっといろいろなポーズをつくりたい。／じぶんと、もう１人のじぶんとしゃしんをとって心にのこった。／みんなと記念写真をとったことがうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立大道小学校＋長浜ホール「３組スマイル水族館」をみんなで作ろう

担当アーティスト	浅葉弾（クリエイティブディレクター、子供デザイン教室主宰）
実施校	大道小学校（金沢区）
コーディネート	横浜市 長浜ホール
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 18 名
実施日程	2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 9 日(火)、2021 年 11 月 10 日(水)

授業のねらい

ダンボールを切り貼りしたり、新聞紙を丸めて、ねじって、くっつけて、大きな生き物をつくります。初日は、手を汚すことや初めてのことを苦手としている子どもたちに合わせ、個人で好きな生き物をつくって肩慣らし。２日目からはグループでの作品づくりにチャレンジ。その中で助け合ったり、お互いの活動に「いいね！」が言える環境づくりを目指します。今までつくったことのないような大きな生き物づくりに挑戦し、達成感を得ることをねらいます。

主な内容

＜１日目＞２チームに分かれ、大きなペンギンとウミガメをダンボールと古新聞でつくろう！＜２日目＞ペンギンとウミガメを自由な発想で色を塗り完成させよう！＜３日目＞巨大イルカのバルーンアートをつくり、３組スマイル水族館を完成させよう！

アーティストから

１日目、２日目のチーム別作業、３日目の全員作業と共に力を合わせての協力作業でしたが、役割分担、チームワークも非常に良く、とても楽しくアートチャレンジができました。そして最後は想像を超える大きさの約 15mの巨大イルカも見事に完成し、参加者全員が大きな達成感を感じられた３日間だったと思います。この達成感の感動や快感を求めて、今後もどんどんいろいろなことにチャレンジしていってほしいと思います。

コーディネーターから

プログラムの前に子どもたちは八景島の水族館に行き、作りたいものを決めました。事前の打合せをもとに、クリエイターが骨組みを作りました。デザインは子どもたちが話し合って決め、大胆に塗りました。先生やクリエイターの取組と、子どもたちの発想が重なり、巨大イルカが飛び交う、すてきな水族館ができました。大道小の校風を反映した、優しい動物たちです。この後、泥亀のいきいきセンター金沢で展示されたそうです。

先生から

水族館への遠足の経験を基にしたいという私たちの思いをくみ取って活動を提案していただき、「こんなことができるのか！」と思うほどダイナミックな活動ができたことに感動しました。技術的なアドバイスもそうですが、子どもの小さなつぶやきにも肯定的な言葉かけをしていただき、その接し方から見習いたいと思うことがたくさんありました。

子どもたちから

みんなで超巨大カラフル白イルカをつくれたことが楽しかった。／協力したからこんなにすてきな作品ができたのだと思う。／みんなで話し合って色を決められてよかった（カメとペンギン）／ひとみ先生とかみの毛の色が同じになったことが印象に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立六浦南小学校＋長浜ホール
巨大ステンドグラスで創立 30 周年を祝おう

担当アーティスト	浅葉弾（クリエイティブディレクター、子供デザイン教室主宰）
実施校	六浦南小学校（金沢区）
コーディネート	横浜市 長浜ホール
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／3 学年 2 学級 75 名
実施日程	2021 年 11 月 22 日(月)、2021 年 11 月 24 日(水)、2021 年 11 月 25 日(木)

授業のねらい

黒い紙でフレームをつくり、中にトレーシングペーパーを貼り、塗料で彩色します。１日目は個人で制作してコツをつかみ、２日目以降はグループで協力して大きなステンドグラスを作ります。題材は“創立 30 周年をお祝いしていろいろな仲間がやってきた！”。体育館の窓ガラスを作品で埋め尽くし、土曜日の授業参観日に備えます。みんなで協力して作品をつくり、学校の友達や保護者の方に見て評価してもらうことにより、より大きな達成感を得ることをねらいます。

主な内容

＜１日目＞ペアの人に黒い大きな紙に自分の人型をなぞってもらいフレームをつくろう！＜２日目＞トレーシングペーパーを貼ったフレームに黒い紙を貼ってデザインしよう！＜３日目＞トレーシングペーパーに彩色してステンドグラスをつくり体育館に飾ろう！

アーティストから

コンセプトやアイデアがしっかり込められた作品が多く、仕上がりの美しさはもちろんですが、子どもたちが高い意識を持って挑んでくれたのが良かったです。図工がキライだったり、今企画を楽しみにしていなかった児童が複数いたようでしたが、体験してみて図工が好きになった！めちゃくちゃ楽しかった！など新しい魅力に気付かせることに導けたのが何より良かったです。そして最後の展示お披露目では、みんなで一緒に感動と達成感を味わえてサイコーでした！

コーディネーターから

体育館のガラス窓にみんなが作ったステンドグラスが飾られて、黒いカーテンがサッと引かれて陽が差し込んだ時、３年生のみんなから歓声が起きました。一人ひとりの人型をもとにフレームを作り、デザインも自由に自分で考えましたが、作業が遅れた子はみんなで塗り、みんなで乾かし助け合いました。参加者全員が完成して、あの歓声はその達成感がもたらしたものでしょう。土曜日の授業参観が楽しみですが、みんなの未来はもっと楽しみです。

先生から

普段学校ではなかなか経験することができない活動を、学年のみんなで楽しみながらできたことは良かったです。作り出す喜び、みんなで協力する楽しさを味わえた３日間でした。子どもたちが大きくなってステンドグラスを見た時に、きっと今回の活動を思い出すだろうな、と思いました。

子どもたちから

みんなで協力して作ったから、達成感があった。／自分で作ったものがかがやいていた。すごくきれいだった。／みんなと協力してきれいに仕上げられて楽しかった。／体育館でできて思い出になった。／ステンドグラスを作る方法や上手くやる方法がわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立新吉田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
工業資材を使ったリサイクルアートに挑戦１

担当アーティスト	山田裕介（造形作家）
実施校	新吉田小学校（港北区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／金属加工／5 学年 3 学級 120 名
実施日程	2021 年 12 月 3 日(金)、2021 年 12 月 6 日(月)、2021 年 12 月 8 日(水)

授業のねらい

小学校の近隣の町工場で作られた工業資材を用いて、アート作品を制作する。工場を社会見学し、資材を提供してもらう。アーティストの指導を受け、アイデアを具現化する。周りの友達の作品から刺激を受けたり、作りながら思ってもみなかった表現に出会うことで、多様な価値を見出していきたい。１日目は工場で自分の好きな素材を選び、そこから自分の作品イメージを考える。２日目は制作。３日目は作品に光を当て影を作りおのおのの発表、講評会を行う。（資材提供：有限会社かなめ）

主な内容

＜１日目＞工場に資材を取りに行き、道具の使い方に注意して自分の作品のイメージを考える。＜２日目＞作品作成。＜３日目＞作品の講評、各班で講評し合い代表を決めて全員の前で発表する。

アーティストから

工場から廃材が出た時点がゼロ、工場へ出向き自分が材料を選んだ時点がイチだとすると、イチから自分が全てをコントロールし完成させる。作品の全ての配置を自分が把握した状態で完成させ、暗室で光をあてる。すると自らが作り出したモノは自分の知らない別の側面を見せる。自分が作り出した作品が見方や環境の違いで自分が貼ったレッテルを簡単に打ち砕く。身近にあるモノの見方を少し変えるだけで全く別のモノに見えてくる、そんなことを少しでも感じてもらえるとありがたい。

コーディネーターから

秀逸な作品がたくさんありました。鉄や銅の素材を工夫して黙々と作業をしていました。講評の際に、男女２人組で発表するグループがいました。鉄板を額縁にして、中をイメージしたのが女子。人の形を多数配置したのが男子。それぞれコンセプトが違うが、合わせてみると全く別の物に見えると発表しました。お互いの価値を認めた後に、お互いが合わさると別の価値が生まれる。彼らは、われわれの考えているような世界観からもっと進んだところを歩いているようでした。

先生から

活動の材料となる金属廃材を前にした時、子どもたちが一斉に目を輝かせました。自分の住んでいる地域の身近な工場で、飛行機の部品の加工がなされ、その一部を使って作品を作るということが、とてつもなく特別で面白かったようです。様子を見ていた私もやってみたくて我慢できず、一緒に作品を作りました。夢中になって作る中で、自分だけでなく子どもたちも「こう作りたい！」という願いを持って作り、作り変え、作り続けていました。光を当てて鑑賞をしたことは、「さまざまな見方」を知る大きな財産となりました。自分の考えとは違う、友達からの見え方を知ることで、「この考えも良い！」と視野を広げたり、考えを深めたりし、多面的に見ることの楽しさを知る機会になりました。今回の経験を図画工作だけでなく、生活の中でも生かしていけたらと思います。

子どもたちから

自分の街にあんな工場があり、飛行機の部品まで作っていたことにおどろいた。／アーティストの山田さんの作品がすてきで、自分も工夫して作ろうと思ったが、部品がとれてしまったりして難しかった。／工場でいろいろな金属をもらいにいって、見学したことが楽しかった。／作ることが楽しくて、ばらばらの金属からこんな形ができるのかと発見があった。／当たった光の向きによって作品の見え方が変わって、それが発見だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立新羽小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
ぺったんアート・ダンボールオブジェ～たくさんの素材に触れて形に～

担当アーティスト	三ツ山一志（造形教育家）
実施校	新羽小学校（港北区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 12 名
実施日程	2021 年 11 月 24 日(水)、2021 年 11 月 25 日(木)、2021 年 12 月 1 日(水)

授業のねらい

「感覚遊び」で、図工が苦手なゆっくりペースの子どもでも主体的にさまざまな素材に触れ、楽しむ。「上手」「下手」ではなく、子どもによって関わり方が変わり、広がりが生まれる活動にする。
「ぺったんアート」…何かをつくる、描くというと構えてしまうので、簡単な「くっつける」という行為で形にしていく。
「ダンボールオブジェ」…ダンボールからいろいろな形を切り出して、モビールにする。

主な内容

＜１日目＞「ぺったんアート」さまざまな素材の中から好きなものを選び、自由に組み合わせて貼る。＜２日目＞「花」をテーマに、「ぺったんアート」さまざまな素材の中から好きなものを選び、組み合わせて貼る。＜３日目＞「ダンボールオブジェ」板ダンボールから形を切り抜き、モビールをつくる。

アーティストから

新羽小学校は昨年に続いて２回目となります。アートは「しなければいけないもの」という受身ではなく、「やってみたい」という積極的な心と身体を育てることができます。出来栄えの優劣ではなく、自分でするから楽しい。ほかの人のアイデアに感心することのできる活動を２つ用意しました。両面テープに 100 円ショップのいろいろな小物をくっつけるぺったんアートとダンボールから切り出した形をつり下げるモビールがそれぞれの表し方があり、思いのほか好評でした。

コーディネーターから

１、２日目の「ぺったんアート」では、スプーンやボタン、ビーズなど 30 種類以上がずらりと並んだ素材から好きなものを選び、画用紙に貼りました。１枚目は小さな画用紙で、その次は大きな画用紙でと、段階を追っていきました。テーマも１日目は自由に、２日目は三ツ山さんから「花」というテーマを出すなど、子どもたちが楽しみながら貼り方に熟達し、それぞれの工夫を多様に生み出していく様子が見て取れました。最終日は板ダンボールからかたちを切り抜き、つなぎ合わせてモビールに。最後は鑑賞タイムでしたが、みんな誇らしげに自分の作品についてお話していたことが、こちらも何よりうれしかったです。

先生から

個別支援学級の図画工作では、技量や興味にかなりのばらつきがあるため、「子どもたちが主体的に表現活動する」という題材を見つけることが難しく、悩むこともしばしばありました。今回のアーティストによる授業では、どんな学年の子でも、自分の興味に応じて主体的に動ける工夫があり、とても勉強になりました。普段は図画工作が苦手な児童も、席を立つことなく、集中して学習していたことは、大きな収穫でした。

子どもたちから

楽しく作品を作ることができた。／三ツ山先生の教え方がていねいで分かりやすかった。／優しくアドバイスをしてくれてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立森の台小学校＋ART LAB OVA
20 年前の自分、現在の自分、20 年後の自分

担当アーティスト	ART LAB OVA（アーティストグループ）
実施校	森の台小学校（緑区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／4 学年 3 学級 119 名
実施日程	2021 年 11 月 30 日(火)、2021 年 12 月 7 日(火)、2021 年 12 月 8 日(水)

授業のねらい

元気の良い子たちだが、想像することが苦手な子が多い。各学年に 120 人ほど在籍している大きな学校なのでなかなか大規模な活動を行える機会もない。ダイナミックで伸び伸びとした活動をさせたい。小学校創立 20 周年に絡めた作品ができることも考えられるが、何よりも子どもたちがそのプロセスを楽しめるようにしたい。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞現在の自分、20 年後の自分、20 年前の自分を感じながら友達と共同制作（各日、１クラスずつ実施）。

アーティストから

「自由に伸び伸びとプロセスを楽しませたい」ということだったので、あまりテーマを考えていませんでしたが、小学校４年生に 120 分以上の授業をすることになったので、テンポよく進めていくために「創立 20 周年の共同作品の制作」という課題にもゆるく取り組んでみることにしました。結果的に子どもたちもその過程を楽しみながら、無理なく技法を学び、そして私たちも思いもしなかったような抽象画が出来上がりました。どのように展示されたのか見てみたかったです。

コーディネーターから

３クラス 120 人を多目的室でとのことだったのですが、感染症の問題もあったので、１クラス３校時×３日間というスケジュールにさせてもらいました。先生たちのご協力もあってなんとか授業をすることができ、子どもたちも楽しそうでしたし、本当に良かったです。第６波が急激に襲ってきたので、１か月遅かったらできなかった授業でした。

先生から

やはりダイナミックな活動は子どもを引きつけ、新たな気付きを与えてくれるのだなと感じました。子どもはあの規模の活動に慣れていなかったので一つひとつの活動が刺激的で、１人１つの作品が続いている授業では得られないみんなで作り上げる楽しさを知ることができました。

子どもたちから

何をかくか決めていないでも素晴らしい作品が出来た。／１人でかくよりみんなでかく方が楽しい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立さつきが丘小学校＋ART LAB OVA
見方を変えると世界が変わる

担当アーティスト	ART LAB OVA（アーティストグループ）
実施校	さつきが丘小学校（青葉区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級６名
実施日程	2021 年 10 月 26 日(火)、2021 年 11 月 9 日(火)、2021 年 11 月 16 日(火)

授業のねらい

どうしても、手先だけを使った制作になりがちなので、普段はできない身体を使ったダイナミックな活動の場をつくってあげたい。

主な内容

＜１日目＞大きな紙の上でクレパスや絵の具を使って手や足で描く。＜２日目＞「見立て」の鑑賞とシュルレアリスムの技法を利用して友達と絵を描く。＜３日目＞１日目に描いた大きな紙の上で模様を見立てながら思う存分絵を描く。

アーティストから

小学校４年生以上用に考えた企画内容ですが、今回は個別支援学級ということで低学年の子もいたので、あまりコンセプトを説明しないバージョンで展開しました。人数が少なかったので時間配分が難しい部分もありましたが、さまざまな要素があったことで、それぞれに楽しんでもらえたようです。

コーディネーターから

児童は少人数で先生も協力的でしたが、学年がバラバラだったこともあり、難しい授業でした。「細かい作業や制作は好きだけれど汚れるのが苦手」という子が、１日目はすぐに教室から出ていってしまったので気にしていましたが、２日目の内容が個々の机でじっくり取り組むものだったのと、休憩時間をしっかり取って、その間に子どもたちと雑談をしたことで急に関係が近くなり、３日目にはその子が自分から手を緑色に塗って影絵の手の形でカエルを作って見せてくれたのが印象的でした。改めて休憩時間など隙間の時間の大切さを感じました。

先生から

学校では、人手の面でも教科の準備の面でも、今回のようなダイナミックな活動を企画したり、実際に行うことは難しいです。今回は身体全体を使って、汚れることを気にせず行う活動で、子どもたちの心の底にある「こんなことしたい！できたらいいな～」という欲求を、思う存分に引き出していただきました。とても良い経験になったと思います。

子どもたちから

自由にかけたのが楽しかった。／ドリッピングでいっぱい色があって楽しかった。／またやりたい（楽しかったから）。／クレヨンで絵をかくのが楽しかった。／雪山の写真で顔を見つけるところが面白かった。／好きにかけてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立田奈小学校＋横浜市民ギャラリー
自分でするって楽しい！

担当アーティスト	三ツ山一志（造形教育家）
実施校	田奈小学校（青葉区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 18 名
実施日程	2021 年 10 月 25 日(月)、2021 年 10 月 26 日(火)、2021 年 11 月 2 日(火)

授業のねらい

絵の具の活動では一辺が６メートル程ある、真っ白な紙を複数枚体育館に広げ、全員でダイナミックに絵を描く。４原色（赤・黄・青・白）の絵の具を自分で混ぜ、オリジナルの色作りを楽しむ。立体の活動では、発砲スチロールカッターを使い、オリジナルの形を切り出す。自分で混色をしたり、初めて使う道具にチャレンジすることで、イメージを表現することや、自分でできる楽しさや喜びを感じられる内容とする。

主な内容

＜１日目＞大きな紙に絵の具で描く。＜２日目＞発泡スチロールでオリジナル車をつくる。＜３日目＞オリジナル車に色をつける。

アーティストから

はじめての田奈小学校の個別支援学級は２つのグループに分かれていて、全３回の活動では１回目は全員で、２回目・３回目はグループごと
に分けて１日に２回活動を行った。子どもに限らず、人は繰り返すことで確かになる。だから１回切りの催しではなく繰り返し体験できることを目指した。３回目はすっかり顔なじみになり、その子のしたいことに向き合えたと思った。

コーディネーターから

絵の具の混色が得意な子。筆を洗うことで忙しい子。発泡スチロールを１ミリ単位で切り出すことが得意な子。平面と立体の活動を行うことでそれぞれに、子どもたちの豊かな表情を見ることができました。絵の具の活動では、「自分が作った色」や「今の気持ち」について、一生懸命にアーティストに伝えている姿が印象的でした。最後のお片付けも積極的に参加してくれました。急な時間割変更など、限られた条件がある中、先生方が柔軟に対応してくださったおかげで無事に実施することができました。

先生から

初めての取組であったため、なかなかイメージがつかず当日もコーディネーターやアーティストの先生にほとんどおまかせ状態でしたが、子どもたちの生き生きと活動する姿をたくさん見ることができました。子どもたちにとって、小学校生活の中でも特に心に残る経験だったのではないかと思います。／学校ではなかなか体験させてあげられないことをやらせていただき、子どもたちのうれしそうな笑顔を見ることができ、うれしかったです。今後も芸術に触れてくれたらと思っています。

子どもたちから

大きい紙にたくさん描けて楽しかった。／スチロールカーの色ぬりが楽しかった。／スチロルカーづくりが楽しかった。／スチロールカッターをはじめて使ったのが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立つつじが丘小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
ダンボールで自分なりの形をつくってみよう

担当アーティスト	川﨑和美（ガラス作家）
実施校	つつじが丘小学校（青葉区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年 2 学級 46 名・個別支援学級 11 名
実施日程	2021 年 11 月 12 日(金)、2021 年 11 月 15 日(月)、2021 年 11 月 16 日(火)

授業のねらい

身体全体を使った造形活動という学校からの希望で、ダンボールの活動に決定。板ダンボールからいろいろな形を切り抜き、色塗りやモビール制作を行う。切り取った形からモビールに使う形を選び、どのくらいの間隔をあけてつなげるのか、自分の感性をフル活用して制作する。

主な内容

＜１日目＞板ダンボールから形を切り抜き、モビールをつくる。自分でモビールの組み合わせを決める。＜２日目＞板ダンボールから形を切り抜き、モビールをつくる。自分でモビールの組み合わせを決める。＜３日目＞形を切り抜いた側に色を付ける。模様を考えながら自由に描く。

アーティストから

ダンボールをくり抜いて見せると「わぁ、いい音がするね」と言って、じっくりと話を聞いていた子どもたち。初めて使うダンボールカッターにも興味津々です。カッターもどんどん上手に使いこなすようになって、偶然できた面白い形、「こうしよう」と決めた形、それぞれが自分の作り出した形を楽しんでいました。モビールの紐を結ぶことは少し苦戦していましたが、どんな風に仕上げるかこだわりを持って最後まで諦めずに集中して作り上げました。帰り際、達成感に満ちた表情で「またやりたい！」と言う姿に、改めて子どもたちの逞しさを感じました。新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで以上に決まりごとが多く自分の興味に集中する時間はそう多くはないでしょう。そんな中、今回の活動が「自分でするから楽しい」という経験の１つになっていてほしいと切に願います。

コーディネーターから

板ダンボールから形を切り抜き、紐を通して結びつなげる作業は、気力と体力を使いますが、みんな最後まで一生懸命取り組んでいました。自分たちの「こうしたい！」という気持ちに一直線で、多少難しくても気力で乗り切る姿が印象的でした。コロナ禍での開催は当日まで不安もありましたが、子どもたちの素直な反応に励まされました。

先生から

子どもたちの発想や思いをじっくりくみ取り、丁寧な聞き取りで、作業できるような支援が見られました。〇〇した方がいい。もっと△△すれば…と言いがちなところをスムーズな声掛けで促されていたので、たいへん勉強になりました。

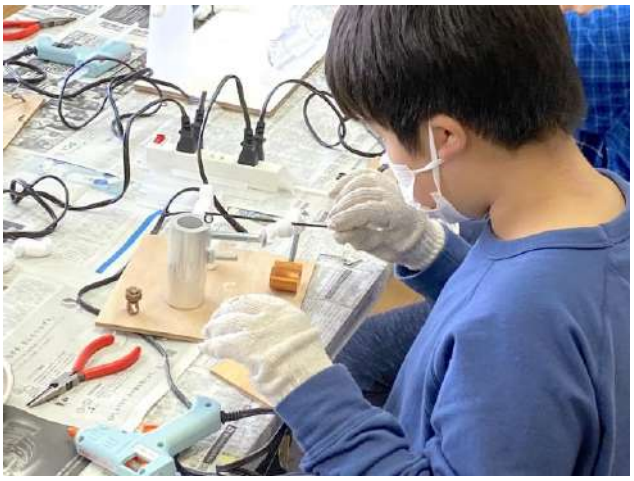
子どもたちから

ぼくは図工がすきなのでもっとやりたかった。／ダンボールできったあとえのぐでぺたぺたやったのがたのしかった。／モビールのつくりかたがわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立藤が丘小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
工業資材を使ったリサイクルアートに挑戦２

担当アーティスト	山田裕介（造形作家）
実施校	藤が丘小学校（青葉区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／金属加工／5 学年 3 学級 93 名
実施日程	2022 年 1 月 25 日(火)、2022 年 1 月 27 日(木)、2022 年 2 月 1 日(火)



授業のねらい

青葉区内の会社から提供された工業資材を用いて、アート作品を制作する。アーティストの指導を受け、アイデアを具現化する。周りの友達の作品から刺激を受けたり、作りながら思ってもみなかった表現に出会うことで、多様な価値を見いだしていきたい。１日目は自分の好きな素材を選び、そこから自分の作品イメージを考える。２日目は制作。３日目は作品に光を当て影を作りおのおのの発表、講評会を行う。(資材提供：古河電工パワーシステムズ)

主な内容

＜１日目＞たくさん並んだ工業資材から面白いと思う形を選び、組み合わせる表現の面白さを知る。練習、制作。＜２日目＞制作。＜３日目＞制作、２時間目に影を投影しながら作品発表。

アーティストから

この授業は誰もが初めて見るであろう素材でみんな同じスタートラインに立ち、よーいドンで制作が始まります。好きな形の素材を見つけたり、小さな発想が生まれれば作品に取りかかれる。みんなが制作に集中する中、今回特に目を見張ったことは、個別支援学級の子どもたちが無我夢中で作品を制作していたことと、作品が素晴らしかったことでした。さまざまな素材を「自分にはこう見えた！」という自らの想像への肯定は自分の技術や想像を飛び越え作品として変化していく、それがこの授業の醍醐味だと改めて感じました。

コーディネーターから

見慣れない工業製品で何かをつくることは、見立て、そして抽象的表現を考える力が必要です。しかし子どもたちの多くが迷いなく材料を選び出し、つくることに熱中していました。最終日に資材提供でご協力くださった古河電工パワーシステムズの方が来校し、電柱の部品であることを教えてくれました。未知の部品と身近な世界がつながった瞬間。触って作品にすることで、子どもたちはより多くのことを感じ取ってくれたようです。地域の企業の方も大変協力的で、あざみ野ならではの造形活動となりました。

先生から

コロナ禍により活動に制限がかかる場面もありましたが、実際のアーティストと触れ合い、見たこともない材料を手にすることができ、子どもたちは夢中になって活動することができました。学年 93 名中 93 名が楽しめる活動は、なかなかありませんので、それを可能にした今回の活動、本当に感謝しているとともに、自身もこのような授業をつくれるよう努力したいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立川和小学校＋横浜市民ギャラリー
絵馬を描こう

担当アーティスト	泉桐子（画家）
実施校	川和小学校（都筑区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／図画工作／5 学年 3 学級 82 名
実施日程	2021 年 12 月 17 日(金)、2021 年 12 月 20 日(月)、2021 年 12 月 21 日(火)

授業のねらい

講師であるアーティストが作品制作に使用している素材を用いたワークショップの実施。板に干支である「寅」の絵を転写し、墨や水干絵具を用いて絵馬の制作に取り組む。一人ひとり配られた絵皿に、膠（にかわ）と顔料を入れ、指を使って絵の具を作る手法を体験する。素材の多面的な魅力や、表現の可能性を知る機会とする。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞墨を使ったモチーフの転写、膠（にかわ）体験、着彩（各日、１クラスずつ実施）。

アーティストから

日本画に触れる入口として、みんなが知っているものから入れるようにしたいと思い、絵馬や干支の話から授業を始めました。思っていた以上にしっかりと耳を傾けてくれて、さすが上級生だなと感じました。前半の、転写して墨でなぞるところは、修行のようで難しさもあったように見えましたが、集中してよく頑張ってくれたと思います。後半で絵の具に触れると、表現が始まりこちらもわくわくしました。みんなの願いが叶いますように。

コーディネーターから

どのクラスも、授業始めからとても積極的にアーティストに質問してくれました。細い面相筆を使い墨で描画を行う場面では急に静かになり、集中力の高さに驚かされました。制作は個々の作業でしたが、自主的に友達同士でサポートしながら制作している姿が印象的でした。会場として理科室を提供していただいたおかげで、膠（にかわ）を溶かしたり、筆を洗う作業も安全に進行することができました。

先生から

とても丁寧に対応していただきました。ありがとうございました。

子どもたちから

泉先生が全員分木を切って材料を準備してくださったことに感謝。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立庄戸小学校＋リリス
足あと・手型・全身アート

担当アーティスト	松本光世（美術家）
実施校	庄戸小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級９名
実施日程	2021 年 7 月 7 日(水)、2021 年 7 月 14 日(水)、2021 年 7 月 16 日(金)

授業のねらい

この体験を通して、子どもたちが自分の考えや思いを表現する方法を経験し、面白さを感じるとともに、作品づくりの発想の仕方の幅を広げられるようなきっかけにする。友達の作品や考えを認められるあたたかい雰囲気をつくる。

主な内容

＜１日目＞床に足あとアート。＜２日目＞窓に手型アート、壁に全身アート。＜３日目＞天井からクモの巣アート。

アーティストから

学校での授業を通して、学校生活の「日常の安心感」と、アートによる「非日常のワクワク感」とのバランスの大切さを感じました。１日目は「気軽に取りかかれるように」２日目は「じっくり一人ひとりの表現ができるように」３日目は「お互いの良いところを感じながら交流できるように」との思いを込めた企画に、先生方の温かい眼差しや言葉がけのご協力をいただき、子どもたちは、安心して自由な表現を楽しんでくれたのではないかと思いました。

コーディネーターから

対象の個別支援学級の先生方の、この取組にかける意欲と情熱がたいへん印象的で、事前の打合せの段階から、学級での子どもたちの様子やいろいろなアイデアなどを聞かせていただきました。美術体験授業では、絵の具や身体を使った内容を希望ということでしたので、それぞれの回にテーマを決め、３回目にはそれまでに作った作品を一同に展示し、音楽に合わせて作品の周りを練り歩いたり、作品を触ったり友達や先生とあいさつをしながら踊ったりと盛りだくさんな内容になりました。子どもたちも飽きる様子もなく、とても積極的に取り組んでくれました。五感を使ったさまざまな体験ができたのではと感じています。

先生から

教師もアートに触れることがあまりなかったので、楽しく活動ができました。自分の持っているものを形にすることはなかなかないので初体験でした。普段の学習よりダイナミックな学習となり、図工好きな子どもたちがより生き生きと活動することができました。

子どもたちから

足あと、手、全身、くものすアートどれもたのしかった。／ぜんぶたのしかった。／ローラーに絵の具をつけて転がすのがすきだった。／つくった上をあるいたり、音楽したりしてたのしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立横浜吉田中学校＋横浜美術館
ヒサさんと空想の街を描こう

担当アーティスト	ヒサクニヒコ（漫画家）
実施校	横浜吉田中学校（中区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／造形／3 学年 4 学級 160 名
実施日程	2021 年 12 月 10 日(金)、2021 年 12 月 17 日(金)、2022 年 2 月 28 日(月)

授業のねらい

これまでの思い出や、街にあったら良いと思うお店、公園、施設などを自分の姿を交えて自由に描く。それら一人ひとりが描いたパーツを集め、学年全員で空想の街の絵巻物を制作する。横浜に長く住み、街の変遷をよく知る漫画家である講師のお話を聞き、横浜という街を見つめ直し、それを絵で表現することに挑戦する。街と学校が持つ国際性に目を向け、そこにある多様性を肯定できるような機会とする。

主な内容

＜１日目＞講師のお話から漫画文化と横浜の街についての理解を深める。（会議室に代表生徒を 15 名ほど集めて講師が話す様子を生中継し、その他の生徒は教室のモニターで視聴した。）＜２日目＞それぞれの空想の街を描く。（授業後、美術部が全員分を集めて絵巻物に仕立てる。）＜３日目＞完成した作品を鑑賞する。（学年で体育館に集まり作品を鑑賞する予定だったが、新型コロナウイルスの感染状況の悪化により学年で集まることが難しくなったため、放送スタイルに変更した。）

アーティストから

絵って、自由に何を描いてもいい。理科の観察スケッチ、日常を描く絵日記、記録を残す写実的な絵、昨日見た夢の思い出、好きなタレントの似顔絵、乗り物のカッコいい絵、ファッションやきれいなお花、河童や天狗や怪獣の想像画、大好きな動物をかわいく描きたい、好きなものを好きなように楽しく描いてもらいたい。そんな思いを込めて３年生全員で夢の町に挑戦してもらった。絵を自由に描く楽しみが伝わっただろうか。

コーディネーターから

卒業の記念になるような作品を作りたいとの先生の思いを出発点に授業を組み立てました。コロナ禍の受験生を対象としていたため、放送スタイルを取り入れるなどの配慮が必要でしたが、制作だけは講師と生徒が直に触れ合う時間にできました。「絵で自分の思いを人に伝えよう。自由に描こう。」という講師のメッセージが伝わり、自由で伸び伸びとした作品が集まりました。それらを１つにまとめてくれた美術部にも拍手を送りたいと思います。

先生から

絵画の授業で方向を絞りすぎて、全体が固い表現になっていたところにヒサさんや、コーディネーターの方のアドバイスがあり、みんなが自分らしい絵を伸び伸び描けたことが一番心に残りました。

子どもたちから

みんなで１つの街を完成させるのがおもしろかった。／同じ題でも人によってまったく違うものになるのがおもしろかった。／楽しく授業をうけ、自由に絵を描いて創造力・想像力が UP した。／時間があるときに自分の好きな風景を描いてみたいと思った。／絵で描いたことが実現してほしいなと思った。／未来の町を考えるのはとても楽しく、他の人が考える町を見ていると、人それぞれでおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立港南中学校＋横浜美術館
Heiwa Tube：あなたの「平和」をきいてみる

担当アーティスト	新井卓（写真家、映像作家）
実施校	港南中学校（港南区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／映像・鑑賞／3 学年 7 学級 226 名
実施日程	2022 年 2 月 24 日(木)、2022 年 2 月 25 日(金)

授業のねらい

これまで各教科の中で行ってきた平和学習とゆるやかにつながるプログラムを目指す。保護者や教員など身近な大人に対するインタビューの活動を通して、「平和を構築する」というテーマについて自分事として捉えるよう促す。プログラム当日は、平和や核の問題を取り上げて制作をしてきたアーティストとの対話を通じて、人によって「平和」という言葉のとらえ方が異なることを認識するとともに、日常生活の中に潜む平和学習との接点について考える。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞事前課題：身近な大人に対して平和に関するインタビューを行い、映像またはワークシートによる記録を提出する。／当日：提出されたインタビュー映像またはワークシートをもとにアーティストと対談する。（１日目に３クラス、２日目に４クラスで実施）

アーティストから

横浜市立港南中学校でのプロジェクトは、オミクロン株のまん延が一進一退する状況の中、先生方と横浜美術館スタッフの尽力により実現された。本来は十分な作業時間と丁寧なフィードバックの繰り返しによって構築されるべき視覚芸術だが、授業枠や受験のタイミングなどで限定された内容にならざるを得なかったことが惜しまれる。とはいえ今回特に注力した、大人・子どもという関係性を相対化したコミュニケーションの実践はある程度成功したと感じている。本プロジェクトが、個々人の多様な考え方、あり方を尊重し、自らの愉しみを通じて接する手段として芸術を捉えるきっかけになることを願っている。

コーディネーターから

「平和」という難しいテーマを限られた授業時間の中で取り扱うため、事前課題などさまざまな工夫を凝らしながらの実施となりました。慌ただしいスケジュールでの進行ながらも、授業当日には事前課題に取り組んだ生徒はもちろん、その他の生徒もアーティストに積極的に質問を投げかけ、プログラムに参加していました。「平和」という言葉の対義語についての問いかけや、暴力や攻撃をともなういわゆる「戦争」だけでなく、身近なインターネット上でのトラブルから「平和」について考えることを通して、主体的にアーティストと対話をする様子が印象的でした。

先生から

アーティストが、思いを表現することで生きている人がいる、と示すことで、自己表現をもっとやろうと生徒が思っていました。インタビューが作品として成り立っていることから、考えや発言そのものに価値があることを示していました。日本に表現の自由があること自体が平和で素晴らしいことなのだから、もっと表現していこうという語りに共感しました。また、アートが平和を取り扱うことの意味について、「平和」と「争乱」という次元の違う空間を結びつけることができるのがアートだということを再認識しました。

子どもたちから

「平和」について、みんなの思いや考えにいろいろな答えがあって、おもしろい、難しいと思った。／紹介された写真がきれいで、デジタルのようなものでは見えないものや風景、心が見えてくることに驚き、美しいと思った。／「平和」って最終的に、何なのかと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立新田中学校＋ART LAB OVA オルタナティブ模写

担当アーティスト	ART LAB OVA（アーティストグループ）
実施校	新田中学校（港北区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 18 名
実施日程	2021 年 11 月 15 日(月)、2021 年 11 月 22 日(月)、2021 年 11 月 24 日(水)

授業のねらい

自分で考えて考えてじぶんでつくる。言葉だけに頼らない表現を通して、自分の考えや思いを自信を持って伝える体験をさせてあげたい。今回は（ART LAB OVA の過去の授業例の中から）模写に取り組ませたい。

主な内容

＜１日目＞大きな紙に手や足、全身を使って描いた。＜２日目＞美術の教科書にある作品を鑑賞し図書室の画集から模写する絵を選んだ。＜３日目＞人数分に切り分けられた１日目の紙の上に各自選んだ絵を模写した。

アーティストから

とてもバラエティに富んだメンバーだったので、２日目の模写を始めてから、もっとこの生徒たちに合った課題があったのではないか？と考えたこともありました。しかし、なるべくフレキシブルに対応したこともあって、3 日目にはまた違う展開があるなど、私たちの想像を超え生徒一人ひとりの個性が溢れ出たまさにオルタナティブな模写が出来上がりました。模写する作品を探すだけで終わった生徒もいましたが、それもそれで画集とじっくり向き合う良い体験だったと思います。

コーディネーターから

毎回、短時間でしたが授業後に担当の先生と話をする機会があり、とても助けられました。実際には３日間で出来上がった子はほとんどいなかったのですが、後日完成作品と元の作品を並べて撮った写真集を送っていただきました。この機会を先生方も生徒たちも主体的に活用していただいて心からうれしく思います。

先生から

今回、普段の授業ではなかなかできないスケールの大きい授業を体験でき、とても勉強になりました。一点、タイムスケジュールがどうしても押してしまうので、もっと事前に打合せする必要があると感じました。

子どもたちから

大きな紙に、手や足にえのぐをつけて描いたり人の型をとったりえのぐをたらしたりするのが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立本郷中学校＋横浜美術館
ジェンダーフリーな制服をつくろう

担当アーティスト	長島有里枝（写真家）
実施校	本郷中学校（栄区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／写真／2 学年 4 学級 122 名
実施日程	2022 年 1 月 24 日(月)、2022 年 2 月 7 日(月)、2022 年 2 月 22 日(火)

授業のねらい

初めに、講師の作品や活動のお話から、ジェンダーの多様性について考える。次に、さまざまな素材でデコレーションして、新しいジェンダーフリーな制服をつくる。それを着てポートレートを撮影し、完成した写真を全員で鑑賞する。これらの活動を通して、自分が何者であるかを決めるのは自分であるということ、誰もがジェンダーを押し付けられることなく自由に生きられる社会について考える。

主な内容

＜１日目＞講師のお話からジェンダーの多様性について考える。ジェンダーフリーな制服をつくる。＜２日目＞ジェンダーフリーな制服を着てポートレートを撮影する。＜３日目＞完成した作品を鑑賞する。(学年で体育館に集まり作品を鑑賞する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、放送スタイルに変更し、生徒は教室で視聴した。完成したポートレートをプリントし、作者のコメントを添えて教室の廊下に展示して、生徒が自由に鑑賞できるようにした。)

アーティストから

思春期の子どもたちが「ジェンダーフリー」という概念にどのぐらい興味を持ってくれるか分からず不安もありましたが、担当の山田先生の事前学習のおかげもあって、どの子も真剣に制作に取り組んでくれました。さまざまな差別があることを知り、どうすればそれが無くなるかを考えることは、社会科だけでなく美術の分野でもできると思います。義務教育のうちにそのような機会を持つことが個人に与える影響は大きいと実感しました。

コーディネーターから

制作や撮影はとても活気があり、担当の山田先生による事前の調べ学習や追加の制作時間のおかげもあって、「ジェンダーフリー」をさまざまに解釈し、独創性にあふれた制服がたくさん完成しました。仕上がったポートレートや生徒たちのコメントからは、講師の言葉に静かに耳を傾け、ジェンダーとは何か、全ての人が生きやすい社会とは何かを真剣に考えたことが伝わってきました。

先生から

今回、長島有里枝さんとの出会いがなければ、ジェンダーをテーマに美術の授業を展開することは難しかったです。ジェンダーは社会の問題であり、個人の課題でもあり、中学生にとっても全ての生徒が関わるテーマです。そのことが美術の自由な表現を通して、豊かに生徒の心に響いたと感じています。

子どもたちから

本当の正解は分からないし無いと思うけれど、自分なりのジェンダーについての考えができた。／自分はスカートやワンピースが嫌いだけれど、プリーツをなくせばズボンの様に見えて、制作が楽しかった。／いろいろな立場や考え方の人を理解するのは難しいけれど考えることはできると思う。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上菅田特別支援学校＋ＳＴスポット横浜
匂いと光、その記憶から生まれるコミュニケーション

担当アーティスト	井上尚子（美術作家）、松山薫（野毛山動物園 飼育展示係）、南俊輔（映像作家）
実施校	上菅田特別支援学校（保土ケ谷区）
コーディネート	認定 NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／現代美術／高等部 13 名
実施日程	2022 年 1 月 20 日(木)、2022 年 1 月 25 日(火)、2022 年 1 月 27 日(木)

授業のねらい

さまざまな感覚刺激を媒介とした、身体意識の形成、認知コミュニケーション能力の拡大を重点に、普段なかなか体験できないような内容。光や音、肌身で感じ取れるものや、香りによるアプローチなどを複合した活動を目指す。

主な内容

＜１日目＞「匂いの虹」／野毛山動物園の松山さんが紹介する、動物の食べている餌や寝床の素材など、さまざまなタイプの匂いを嗅いで、どんな感じがするか、どんな記憶が呼び起こされるかを味わった。そこから一つひとつ色に表して、それらをつなげた掛け軸のような「匂いの虹」を作成。＜２日目＞「光の森の記憶」／映像作家の南さんの映写機を使った光と音の作品を全身で体験したり、映像に使用するフィルムの匂いを嗅いだりして、どんな感じがするか、どんな記憶が呼び起こされるか、感想をシェアした。＜３日目＞「マイ・くんくんボトル」／１・２日目で体験した匂いや、生活の中の好きな匂い・気になっている匂いを持ち寄って、一人ひとりオリジナルのマイ・くんくんボトルを作成。

アーティストから

「匂いの記憶」のコンセプトを軸に、上菅田特別支援学校の生徒に適したプログラムを先生と協議しながら制作プロセスを決め、実施できたことはたいへん学び多き時間と、実り多き成果となりました。また、３日間の構成を野毛山動物園の松山氏、映像作家の南氏とコラボレーションし、新しいコミュニケーションの表現と鑑賞体験の幅を広げることができました。作業プロセスに余白を多く持ち、生徒と先生が自身でアイデアを重ねていくことで、自分の色や形、感性を素直に見つめ、個性豊かな作品を完成することができました。３日間の間隔も記憶と緊張感が途切れないちょうど良い期間で、みんなで集中した時間とこれから変化していく匂いの記憶が未来の作品となっていきます。その変化も心から楽しみにしております。（井上）

上菅田特別支援学校の生徒との今回の体験は私にとっても初めての試みでしたが、とても心に残る教育プログラムとなりました。動物園で動物たちが食べている餌や、床材として使用しているウッドチップなどの匂いを嗅いでもらうという、普段はあまり経験することのない出来事ですが、生徒たちの大小さまざまな反応を先生方がつぶさに拾い上げ、そこからイメージする色を描き、最後には個性が輝く虹がたくさん完成されていく様子はとてもワクワクしました。私たち人間と同じように、動物たちも「食べる」「寝る」を繰り返しています。そうした生活の中にあるさまざまな匂いを意識的に嗅ぐことで、ほんのちょっと動物たちの気持ちに近付くことができたのではないかと思います。生徒たちが、いつか動物園で実際に動物たちを目の前にした時に、今回のプログラムの匂いのことを少しでも思い出してくれたらうれしいです。（松山）

私は映像作家として、昔の映画機材の使い方を工夫したり、フィルム映画の仕組みを視覚化したりして作品を制作しています。用いているものが専門的なモチーフですから、鑑賞者に知識がなければ本当の意味で作品を鑑賞できないのではないか、作品の良さが著しく減るのではないか、という不安があります。今回、上菅田特別支援学校の生徒が光と音に満たされた教室に溶け込んでいくような鑑賞をされている様子から、生徒と先生、スタッフが同じ体験をして、同じ場所にいることの尊さを感じました。生徒の反応は、じっと光を見つめたり、映写機から出る風を肌で感じたり、動く映写機をかぶりついて見たり、うとうとしたりとさまざまで、先生の細やかな気配りもあって、その場にいるみんなが美しく調和されているようでした。今回の経験は今後の制作の励みにもなりました。（南）

コーディネーターから

重度重複の障害のある生徒との活動において、匂いを色や言葉に変換するというのはハードルが高いのではと思いましたが、生徒ができるできないかではなく、「生徒と先生のコミュニケーションで成立する活動」というところに委ねたことで、それぞれの個性が感じられるユーモアたっぷりの表現が生まれていきました。いわゆる「いい匂い」だけではない匂いや、現代アート作品を持ち込みましたが、よく分からないものを受け止めて生徒と一緒に楽しむことのできる先生方の度量の広さに、たいへん助けられました。

先生から

刺激に対して、生徒それぞれの表情や表現が見られ、とてもいい活動になったと感じました。私が授業を考えるときは、生徒の実態が分かるので必要以上に内容を制限してしまうことがあります。今回は“におい”というテーマでもしかしたら難しいかもしれないと思っていましたが、生徒ぞれぞれの反応があり、やってみなければ分からないなと改めて感じることができました。

伝統芸能分野の取組

古くから伝わる楽器が織りなす音楽や、歴史を体現している
伝統芸能特有のしぐさや身体表現、話芸の鑑賞や体験など、
普段触れる機会の少ない伝統芸能の世界を感じてみます。
知らない世界と出会う楽しさがひろがります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立上末吉小学校＋サルビアホール
和楽器に触れ、日本音楽に対する関心を高めよう

担当アーティスト	鎌田美穂子（箏奏者）、片岡由紀（箏奏者）、上田麻里名（箏奏者）、渡辺淳（尺八奏者）、長谷川将山（尺八奏者）
実施校	上末吉小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／5 学年 3 学級 92 名
実施日程	2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 9 日(火)、2021 年 11 月 10 日(水)

授業のねらい

和楽器の演奏（箏・尺八）に生で触れることで、わが国の音楽の良さを感じ世界観を広げるきっかけにする。また、本物の和楽器（箏）に触れ、演奏を体験することによって、わが国の音楽に対する関心を高めるとともに、感性が磨かれる時間になることを目指す。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞箏と尺八の鑑賞・箏についての学習・箏体験「さくら」（各日、１クラスずつ実施）。

アーティストから

体験授業が主な目的でしたが 45 分間にまとめることに工夫しました。箏の授業となると教科書にも掲載され、一番聞きなじみのある「春の海」を鑑賞するため尺八奏者も呼びますが、体験用の箏の準備を考えると、箏弾き３名はやはり最低限の人数だと思いました。この度も学校の先生がとても協力的でしたので、準備も授業もスムーズに行えました。在住の区であることを話しましたら、親しみやすく感じていただけたようで距離感が縮まったように感じました。

コーディネーターから

お正月には必ず耳にする「春の海」の鑑賞で、邦楽の世界に一気に引き込まれました。演奏者の呼吸を感じることができる距離での鑑賞は、演奏者の表現しようとする姿勢や緊張感が伝わり、子どもたちは集中して聴いていました。体験の「さくら変奏曲」は、アーティストと一緒に演奏するところまで仕上げることができました。先生方も体験やご指導に加わってくださり、和やかな雰囲気で進めることができたと思います。

先生から

なかなか普段は接することのない和楽器の魅力を優しく熱心に教えていただき、とても有意義な体験となりました。本物の音（生演奏）の迫力は感動しました。子どもたちはお互いに教え合ったり、箏や尺八の音色に感動したりと感受したことを共感しながら活動できたと思います。

子どもたちから

すごい迫力があった。／音が１音１音強くて心にズシンとひびいた。／プロの方はすごい。／とても優しく教えていただいた。／尺八の吹き方に驚いた。／おことに数字がついていて音がかわることを知った。／普段聞いている音楽でも、和楽器になるだけでイメージや雰囲気がかわることに驚いた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立汐入小学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ 三味線に触れてみよう１

担当アーティスト	杵屋勝くに緒（長唄三味線方）、東音阪本剛二郎（長唄三味線方）、杵屋裕辰（長唄三味線方）
実施校	汐入小学校（鶴見区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／三味線／5・6 学年 2 学級 61 名
実施日程	2021 年 12 月 8 日(水)、2021 年 12 月 9 日(木)、2021 年 12 月 10 日(金)

授業のねらい

日本の伝統文化に触れて体験することで、理解・興味・関心を深めてほしい。共有・共感していくことで、伝え合い、学び合って友達の良さも認め合う機会としたい（他者理解、表現力、コミュニケーション能力、感受性、集中力、協調性など）。

主な内容

＜１日目＞講師実演、実技指導（①三味線の構え・撥の持ち方、②開放弦の練習）。＜２日目＞前回の復習、５年生「きらきら星」を弾いてみる。／６年生「さくらさくら」を弾いてみる。＜３日目＞前回の復習、発表会

アーティストから

５年生と６年生の２クラス、３日間で１曲に取り組みました。三味線は構えることが不安定で子どもにはなかなか大変なのですが、２人１組のペアで１挺の三味線を交互に練習することで、互いに教え合ったり協力し合いながら授業を進められました。６年生は昨年も三味線を体験したことを覚えてくれていて、昨年よりも少し難しい曲にも挑戦しました。３日目には成果発表も行いました。全体を通して三味線の奏法を教えることもさりながら、長唄三味線の特徴である仲間と息を合わせて合奏することを伝えられたかなと思っています。

コーディネーターから

５年生は初めての体験でしたが、意欲的に取り組み、またペアで教え合いながら練習していき、上達していきました。６年生は昨年も体験したことを覚えているかな？と心配していたのですが、みんな三味線もアーティストも覚えていてくれたことはうれしく思いました。昨年より少し難しい曲に苦戦していたようですが、６年生もペアで教え合い、思っていた以上に上達していきました。休み時間にも練習したいと残って、質問しながら練習していたのが印象的でした。なかなか触れることのない楽器・伝統芸能ですが、少しでも興味を持ってもらえたことが良かったです。

先生から

本物から学べる良い機会でした。三味線の演奏家の方だったので、お着物や所作、姿勢、掛け声など丸ごと子どもたちに伝わったのではと思います。友達とできたという声が多く、協調性が養われたのではと思います。

子どもたちから

他の曲もやってみたい。／友達とおしえ合えた。／みんなで演奏した。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立矢向小学校＋サルビアホール
「音」から分かる日本の伝統 和楽器を知ろう

担当アーティスト	鎌田美穂子（箏奏者）、片岡由紀（箏奏者）、上田麻里名（箏奏者）、長谷川将山（尺八奏者）
実施校	矢向小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／5 学年 5 学級 170 名
実施日程	2022 年 3 月 1 日(火)、2022 年 3 月 2 日(水)、2022 年 3 月 3 日(木)

授業のねらい

日常生活ではなじみの薄くなってしまった楽器・箏の「本物の音」に触れ、音色の美しさや歴史を知ることで、日本の伝統芸能に対する興味を広げるきっかけとなることが目標。各クラス１時間の体験授業を実施し、最終日（３日）の４時間目には、５年生全員を対象にしたミニコンサートを実施する。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞和楽器（箏、尺八）を知る・箏を体験する（クラスごとに実施）。＜３日目＞和楽器（箏、尺八）を知る・箏を体験する（クラスごとに実施）。箏・三味線・尺八の演奏を鑑賞する（学年合同で実施）。

アーティストから

今回は体験授業と鑑賞授業と別々に時間を作ってくださったので、箏と尺八の魅力を存分に紹介できました。１クラスごとに簡単に歴史を話し、丁寧に弾き方を教えて合奏。完璧に弾けることが目的ではなく、子どもたちが各チームで教え合って練習している姿勢から積極性を感じました。鑑賞授業では箏と尺八の曲を古典から現代曲まで演奏。最後の現代曲では子どもたちに手拍子で参加していただきました。数名に感想や質問をいただき、その内容から興味を持って学んでいただけたようで何よりです。

コーディネーターから

まん延防止等重点措置が発出されたことで一旦は中止となったものの、延期して開催することができて良かったです。音楽の授業で箏を触ったことがある子どもたちだったので、興味も高く熱心に取り組んでいました。また感想や質問も活発に出ていました。その中で「何歳から楽器を始めたのか」という質問が何度か出ましたが、箏や尺八などはなかなか触れる機会のない楽器なので、学校でこのような体験ができる子どもたちはとても幸運だと思いました。

先生から

とても楽しい３日間でした。本物の音に触れられて、子どもたちにとって、とても良い経験になったと思います。また来年もお願いしたいです。また、子どもたちにとって身近な曲も弾いてくださり、さらに興味を持って聴いていたように思います。

子どもたちから

箏と琴のちがいを知れた。漢字のなりたちがおもしろい理由だった。／みんな体全体を使ってえんそうしていた。／とにかくはくりょくがあってきれいだった。自分もことか三味線にちょうせんしたい。／えんそうがすごく上手だったので歌いそうになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立神大寺小学校＋かなっくホール
狂言に触れ、日本の古典芸能に親しむ

担当アーティスト	高澤祐介（狂言師）
実施校	神大寺小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／狂言／6 学年 3 学級 132 名
実施日程	2021 年 12 月 2 日(木)、2021 年 12 月 16 日(木)

授業のねらい

２回の体験型で、日本の古典芸能である狂言に親しみ、教科書だけでは分からない狂言の奥深さを知り、学びを深める。また、狂言師から直接、指導を受けたり話を聴くことにより、伝統芸能を守る狂言師の思いや昔の人々の思いにも触れる。

主な内容

＜１日目＞狂言についてのレクチャー、謡、すり足、感情表現の所作体験。＜２日目＞小謡と舞、「柿山伏」のワンシーンの体験と発表。

アーティストから

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの子どもたちが文化芸術を体験する機会をなくしていましたが、ようやく再開されてきました。外出も会話も制限され、子どもにどのような影響があったのか…。昨年１年お休みとなりましたが、神大寺小学校で３年目の授業。６年生児童は明るく意欲的で、大きな声で発表ができ、質問が止みませんでした。今後もマスクを付けた生活が続きますが、子どもの個性、表現力を引き出す授業に、狂言は非常に有効だと思います。

コーディネーターから

今年は２回開催で、狂言の面白さを経験していただきました。先生方もとても協力的で、音への配慮から何度もストーブの電源を小まめに切ってくださり、子どもたちの狂言体験をより深めることができました。テレビの影響か、どの子も積極的に抑揚をつけて「柿山伏」を発声していました。発表会では積極的に舞台に上がってくださりうれしかったです。

先生から

日本古来の伝統芸能を実際に鑑賞させてもらったことが素晴らしい体験でした。生で声を聞き、動作を感じることで、その所作の難しさや面白さを学ぶことができました。コロナ禍においても、体験することの貴重さを感じました。

子どもたちから

狂言は日本の何百年も前からの伝統がこんなに長く続いていることがすごいと思った。／最初「うさぎ」の舞の時、前に出てやるのが楽しくて、山伏の役をやるときにきんちょうがほぐれてとても楽しく授業ができた。／狂言の歩き方が前から気になっていて、歩き方を知れてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立幸ケ谷小学校＋横浜能楽堂
箏を体験～日本の伝統芸能に触れる１～

担当アーティスト	奥田雅楽之一（生田流箏曲・地歌三弦演奏家、作曲家）
実施校	幸ケ谷小学校（神奈川区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4 学年 4 学級 120 名
実施日程	2021 年 12 月 7 日(火)、2021 年 12 月 10 日(金)

授業のねらい

箏の実物に触れ、古くから日本にはすてきな楽器があることを知り、実際に生の演奏を聴いて、日本独特の旋律を感覚的に捉えられるようにする。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞鑑賞、箏の歴史について、「さくら」の演奏体験（各日、２クラスずつ実施）。

アーティストから

体験の中で楽器の構造の話をし、演奏しながら箏の歴史についての話をしました。皆さん授業態度が良く、集中力も高く取り組んでくれたので教えやすかったです。また、お話も演奏も興味深く聴いてくれたのでうれしかったです。伝統的な楽器の演奏を生で聴き、自分でも実際に演奏したという経験は一生ものだと思います。今回の経験をこれからに生かしていただければ幸いです。

コーディネーターから

４クラス 120 人と人数が多かったため、２日間に分けて実施しました。１クラス２時間を使い、体験と鑑賞の両方に時間を取ることができました。体験は３人で１面の箏を使用したので、グループ内で教え合いながら取り組んでいる様子が印象的でした。講師の方には箏だけでなく三味線と胡弓の演奏も披露していただき、日本の伝統的な楽器への興味・関心がより深まる体験となったのではと思います。

先生から

本物と出会うことがどれほど子どもたちの感性を磨くか、耕すか、計り知れないと思いました。箏に触れ、「さくらさくら」を弾けるようになったこと以上に、講師の方々の楽器に対する姿勢、心構え、生き方などもひしひしと伝わってきました。今回のような機会に恵まれ本当に感謝しています。たくさん箏を持ってきていただき、準備や手配、練習など全て行っていただきました。

子どもたちから

はじめはかんたんそうだったけど難しかった。／みんなで協力して「さくら」がひけるようになり思い出になった。／ことは歴史があることが分かった。／いろんな曲を先生方がひいてくださり気もちよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浅間台小学校＋ＳＴスポット横浜
みんなで１つの音をイメージしてお箏を演奏してみよう

担当アーティスト	荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、渡邉勝代（箏奏者）
実施校	浅間台小学校（西区）
コーディネート	認定 NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 2 学級 48 名・個別支援学級 17 名
実施日程	2022 年 1 月 12 日(水)、2022 年 1 月 13 日(木)、2022 年 1 月 14 日(金)

授業のねらい

触れることの少ない楽器についての理解を深めたり、音色や演奏の仕方の異なる楽器を使って、新たな表現をつくりあげたりする体験を目指す。また、学び合いの中で、お互いを認め合い、強調し合って取り組む経験ができることを目標にする。

主な内容

＜１日目＞お箏クイズ①（歴史など）、「さくらさくら」の演奏体験。＜２日目＞お箏クイズ②（箏の数え方や重さなど）、現代曲の演奏体験、荒井さんと渡邉さんそれぞれの演奏を鑑賞。＜３日目＞５年生：現代曲（２日目の続き）の演奏体験、アーティストによる「さくらさくら」の演奏を鑑賞、アーティストの演奏に先生方が演奏するピアノやギターも交えた現代曲を鑑賞。個別支援学級：お箏クイズ、「さくらさくら」の演奏体験、アーティストによる「さくらさくら」と現代曲の演奏を鑑賞、アーティストの演奏と先生が演奏するピアノでの現代曲を鑑賞。

アーティストから

各クラスともお箏に対して積極的に参加してくれました。難しい部分もグループごとに協力して課題に取り組んでもらい、男女問わず、お箏に取り組んでくれました。日を追うごとに、お箏＝昔の楽器、または難しいものと感じなくなってくれたと思います。また、講師の演奏にも、子ども自身それぞれに良かった、もう少し？もっと聞きたいなど素直な表情も印象に残りました。（荒井）
３日間連続の授業で、初日の体験はさくら。戸惑いながらも「さくらが弾けた！」と自信を持ち、２日目以降は初日の経験を生かして、より集中して楽器に向かう姿がありました。少し難易度の高いアレンジへの挑戦でしたが、友達同士でアドバイスし合いながら、しっかりと期待に応えてくれました。コロナ禍のため、窓を開放し工夫をしながらの授業。無事に終えることができ、貴重な機会に感謝しています。和楽器が決して遠い存在ではないと感じてくれていたらうれしいです。（渡邉）

コーディネーターから

浅間台小学校の５年生と個別支援学級の子どもたちは、アーティストからの問い掛けにも素直に反応してくれました。アーティストは彼らに、お箏は昔のものではないこと、音楽は相手を選ばず誰とでも楽しめることなどを知ってもらえるよう、内容を考えてくださいました。１日目の最後に、明日以降は「さくらさくら」を練習しないことが伝えられると、子どもたちは「えー！」と驚いた様子でしたが、２・３日目に自分たちが流行の現代曲を演奏することが分かると、驚きの中にも少し喜んでいる姿が見えました。曲の全部分を“完璧に弾く”のではなく、短いフレーズでもみんなで１つの音をイメージして弾いたことで、思ったよりもできたという感覚や、できなかったことに挑戦した経験を大切にしてほしいなと思いました。

先生から

今年度の児童の実態に合った内容であり、アーティストの先生方の声掛けが的確だったので、子どもたちが意欲的に集中して取り組んでいました。私自身は、今回初めてアーティストの方々と一緒に演奏する機会をいただきました。たいへん緊張しましたが、とても充実した時間でした。得がたい経験をさせていただいたこと、心より感謝しております。もちろん、アーティストの先生方の“本気の”演奏は本当に素晴らしかったです。

子どもたちから

お箏は昔から続く歴史のある楽器だが、今どきの曲も弾けることがわかった。／靖水先生の琵琶の迫力がすごかった。琵琶に合わせて歌うのもすごかった。／靖水先生たちの“本気の”演奏がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立宮谷小学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
自分の気持ちや風景を箏の音に乗せて表現してみよう

担当アーティスト	喜羽美帆（箏・二十五絃箏・三絃演奏家）、岡戸朋子（生田流箏曲・地歌三味線・宮城大胡弓・小胡弓演奏家）
実施校	宮谷小学校（西区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 4 学級 136 名
実施日程	2021 年 7 月 7 日(水)、2021 年 7 月 8 日(木)、2021 年 7 月 14 日(水)

授業のねらい

伝統芸能に触れることで日本古来のものの良さに気付く。簡単な曲の演奏を通して、さらに日本の文化の良さを感じる。

主な内容

＜１日目＞お箏クイズ、課題曲「さくらさくら」練習、発表。＜２日目＞課題曲「ソーラン節」練習、発表。講師１曲演奏「さくらさくら」（講師 ver.）＜３日目＞課題曲「ソーラン節」練習、発表。講師による現代曲を鑑賞。

アーティストから

コロナ禍でさまざまな学校行事が中止になる中、初めてのお箏をどのように楽しんでもらえるかを考え、３回の授業で箏についての「お箏クイズ」から「さくら」の合奏、手・足拍子を組み込んだ「ソーラン節」に取り組み、各回ミニ発表会をしました。上手に弾けることも大事ですが、少ない時間の中でグループ内で教え合う、みんなで１つの音を出せるようにするといった課題に皆さん積極的にチャレンジする姿が印象的でした。音楽や芸術で一番大切なことである、「自分の気持ちや風景を箏の音に乗せて表現してみよう」という私が一番伝えたかったことにも、皆さんが積極的にまっすぐに、素晴らしい音色で表現してくれたことがうれしかったです。各回最後には講師の演奏を楽器をぐるりと取り囲んで見て聴いてもらいました。近いからこその奏者の息づかいや奏法、音の響きを体感してもらい、今回体験した箏だけでなく、着物などの日本文化全般にも興味を持ってもらえるきっかけになれば幸いです。

コーディネーターから

３日間という短い期間ではありましたが、各クラスとも興味を持って参加してくれていました。内容も、ただ体験するだけではなく「お箏クイズ」で歴史や成り立ちなどを学んだり、アーティストが着物でいらっしゃることで広く日本の文化を知る機会にもなったと思います。体験では、積極的にアーティストに質問していたり、自主的に子どもたち同士で教え合うなど協力する姿も見られ、また、各日最後に実施していた発表会では、いろいろなテーマ（明るく、夜桜など）をイメージして演奏するなどし、各クラスの特色が出た演奏で子どもたちの想像力の高さが伺えました。

先生から

お箏についての知識をクイズで教えてくださったり、子どもたちに体験させる時間を十分に取ってくださったりして、知識も技能も高まりました。耳でも目でも伝統文化に楽しむことができるようにと、夏の暑い中でしたがお着物姿で授業をしてくださったことも、子どもたちにとって、とても心に残ったことのようです。ほとんどの子どもがお箏と初めて出会いましたが、諦めることなく３時間やりきることができたのも、アーティストの先生たちが子どもたちに寄り添って楽しい時間をつくってくださったからだと感謝しています。コーディネーターさんともメールで連絡を取り合うことができ、すぐに対応してくださったので、安心して当日を迎えることができました。この授業の後に、とある児童がお箏について知りたいことを調べた際、ピンとこなかったことがあったようだったので、実際に質問できる時間があったらより良かったと思いました。

子どもたちから

お箏はゆっくりな曲をひくというイメージがあったけど、アニメの曲のようなアップテンポな曲がひけるということがわかった。／アーティストの方のきれいなお箏の音をきいて、自分も出せるようになりたいと思った。／友達と教え合うことでもっと早くやり方を覚えたり、楽しくできたりするということがわかった。／アーティストの方の演奏に感動した。／アーティストの方々の演奏では、箏柱より左側を押さえていたけれど、どのような効果？があるのか知りたいと思った。／「日本の文化」についても考えさせられた。／お箏の経験をして、音楽がもっと好きになった。／着物の感じがとてもきれいですてきだと思った。／お箏について興味をもち、家で調べてみた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立みなとみらい本町小学校＋横浜能楽堂
箏を体験～日本の伝統芸能に触れる２～

担当アーティスト	奥田雅楽之一（生田流箏曲・地歌三弦演奏家、作曲家）
実施校	みなとみらい本町小学校（西区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／箏／4 学年 2 学級 66 名
実施日程	2021 年 11 月 29 日(月)

授業のねらい

実物に触れることで和楽器の良さを実感する。また、生の音の良さを感じ、それぞれ共感し、自己表現につなげる。

主な内容

鑑賞、箏の歴史について、「さくら」の演奏体験

アーティストから

和楽器の持つ緊張感を感じ取り、集中して取り組んでくれていました。担当の先生の情熱的な姿勢が子どもたちにも伝わり、良い雰囲気の中で実施できました。「さくら」は全員が最後まで演奏できたのも良かったです。鑑賞では曲の年代順に演奏したことで、古いものから新しいものへの変遷も感じ取ってもらえたと思います。２時間あったので、鑑賞と体験それぞれしっかり実施できて良かったです。

コーディネーターから

箏のコーディネートは初めてだったため不慣れな部分がありましたが、講師の方、アシスタントの方々に柔軟に対応していただき、充実したプログラムになったと思います。箏もたくさんお持ちいただけたので、短い時間でしたが子どもたち全員がしっかり体験することができて良かったです。子どもたちは講師の方の演奏に前のめりになって耳を傾けている様子が印象的でした。今日の体験を今後の授業でも生かしていただければうれしいです。

先生から

新学習指導要領では、「なるべく実際の楽器に触れることが望ましい」と書かれてあります。「わが国の音楽」の主題で授業を行う場合、全員が楽器を体験するのはたいへん難しいのですが、このような機会をいただいて自国の文化の良さを認識し、和楽器の音色の良さを感じ取ることができたと思います。グローバル社会であるからこそ、このような価値観を培うことは大切なことだと思います。

子どもたちから

楽器の歴史などを知ることができた。／プロの演奏を生で、近くで聴けてうれしかった。／めったに触れることのない楽器を演奏できてよかった！

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立六つ川小学校＋Media Global
落語を鑑賞しよう

担当アーティスト	三遊亭わん丈（落語家）
実施校	六つ川小学校（南区）
コーディネート	Media Global
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 2 学級 60 名
実施日程	2022 年 2 月 9 日(水)

授業のねらい

落語を鑑賞し、所作など体験する。

主な内容

古典落語と新作落語を鑑賞。所作体験や質問コーナーなども設けた。

アーティストから

コロナ禍の影響でさまざまな体験ができていないのもあってか、小学６年生にしては、最初私のような外部の大人への警戒心が少しあった気がしました。しかし、落語が始まると聴くところは聴く、笑うところは笑う、そしてワークショップにも積極的に参加してくれ、また友達が高座に上がるときには他のみんなはしっかりと盛り上げていました。授業の終わりには皆さん本当にすてきな笑顔で見送ってくださり、これからももっともっと色んな体験をしてほしいと思いました。

コーディネーターから

昨年秋の予定が新型コロナウイルス感染症拡大により、延期となったプログラム。今回も感染拡大が危ぶまれましたが、学校のご理解を得て無事に実施できました。会場はたいへん盛り上がり楽しんでいただけたようです。６年生の皆さんの思い出の１ページになれたなら良かったと思います。

先生から

落語に興味を持ったようで、本を探したり、ネットでわん丈さんのことを調べていたりしていました。この授業後も落語やわん丈さんのことが話題になることが多く、良い経験ができました。

子どもたちから

また来てくれるとうれしい。／中学校でも授業をしてくれるとうれしい。／わん丈さんかっこいい！！

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立港南台第三小学校＋吉野町市民プラザ お箏を体験しよう

担当アーティスト	奥田雅楽之一（生田流箏曲・地歌三弦演奏家、作曲家）／アシスタント：田辺雅震翠（三味線演奏家、作曲家）、山水雅楓（三絃（地歌三味線）・十七絃演奏家）、新見雅晃（地歌三弦・生田流箏曲演奏家）
実施校	港南台第三小学校（港南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5・6 学年 4 学級 96 名
実施日程	2021 年 7 月 5 日(月)、2021 年 7 月 6 日(火)、2021 年 7 月 7 日(水)

授業のねらい

伝統芸能に触れる機会があまりないので、ぜひプロの方の生演奏を聴くことにより、芸術を味わう力や感受性を育てる機会にしてもらいたい。また日本の代表的な伝統楽器「箏」をクラス全員で演奏できるよう練習する中で、クラスの連帯感と個々の達成感を育むことを目指す。

主な内容

＜１日目＞お箏の基本を学習し、実際にお箏に触れて演奏してみよう。＜２日目＞テーマ曲「さくら」を１曲通して演奏してみよう。＜３日目＞「さくら」発表会、講師の皆さんによるミニ演奏会

アーティストから

５・６年生、各２クラス合計４クラスを対象とした伝統芸能体験授業を行いました。学年ごとに内容を変えることはありませんでした。伝統的な調弦法に基づく「さくら」を習い、最終日に一人ひとりが学習の成果を発表することが目的でした。また、授業の中では箏曲の歴史や楽器の構造について触れ、芸能への見聞を広めてもらえるよう授業内容を工夫しました。各自が興味を持ち、熱心に取り組む様子が感じられました。

コーディネーターから

今回は、昨年コロナ禍の影響で実施できなかった６年生と今年度分の５年生と同時に体験いただく機会となりました。講師の方々には３日間を通して、普段触れる機会の少ないお箏を実際に演奏し歴史を学び、最後にミニ演奏会を聴くまで、分かりやすいプログラムを組んでいただきました。体験した児童も日本の伝統文化・音楽による刺激を受けたと思います。今回は１曲演奏できることを目標にしましたが、演奏に必要な技術というよりも伝統楽器を演奏して楽しんでいただくことを主眼としていました。体験中に児童の楽しんでいることが伝わってきて、児童もよりお箏について学んでみたくなる３日間になったと思います。

先生から

本校には楽器（お箏）もなく、演奏の技術もないので、本物の音を聴くことができません。今回、プロの演奏や本物の楽器に触れることができ、貴重な体験となりました。

子どもたちから

本番できんちょうしたけど、やっていくうちにどんどん楽しくなってきて、おしえてくれてうれしかった。／プロのえんそうがはげしくてすごかった。／おことで「さくら」の曲を全部ひけてよかった。また、ほかの曲もひいてみたいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立下野庭小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう１

担当アーティスト	善竹大二郎（大蔵流狂言師）、野島伸仁（大蔵流狂言師）
実施校	下野庭小学校（港南区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 93 名
実施日程	2022 年 1 月 26 日(水)　※動画視聴日

授業のねらい

伝えることは楽しいことであり、大切なことであることに気付かせ、その方法も言葉だけでなく動きなどいろいろあることを知ってもらいたい。狂言は歴史でも触れるが、実際に鑑賞する機会も少ないので、体験も少々しながら知ってもらいたい。

主な内容

動画教材の鑑賞（①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」③狂言ワークショップ　④質問コーナー）※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、１日間での実施予定から動画教材提供に変更して実施。

アーティストから

日程が合わず、映像での体験となってしまった。やはり実際に見ていただき、その場の空気を感じていただくのが一番良いと思うので、次はぜひ生の狂言をみて、実際に狂言の動きや表現を体験してもらいたい。

コーディネーターから

今回、日程の調整が叶わず、やむなく他校で実施した狂言教室を録画した映像を授業で見てもらいました。子どもたちからの感想を見ると、楽しく見ていただけたようで良かったです。今回の映像が少しでも学びの一助になれたらうれしく思います。

先生から

本物の狂言師による解説に、真剣に聞いているようでした。ただ、動画による体験になってしまったので、動画であるなら内容はもう少し違ったものを見れたらよかったと思いました。

子どもたちから

実物を見れなくても、画面ごしでも、すごく迫力があって、表現がすごかった。／狂言はとてもおもしろいから、もっと他のも見てみたいと思った。／こんどは生で見たいと思った。／こんな狂言をしてみたい。／柿山伏がどんな話かが分かりやすかった。／おままごとと似ていて、想像力が大事と言っていた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立今井小学校＋岩間市民プラザ 和太鼓の演奏を聴こう

担当アーティスト	和太鼓集団 撥當（ばちあたり）（和太鼓奏者）
実施校	今井小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、音楽
実施概要	鑑賞型／和太鼓／6 学年 2 学級 56 名
実施日程	2021 年 11 月 18 日(木)

授業のねらい

じっくりと鑑賞し、音楽の良さを心から感じる力を付けさせたい。

主な内容

和太鼓の演奏と説明、体験、和太鼓演奏鑑賞

アーティストから

本年は今井小学校での和太鼓鑑賞授業を担当させていただきました。コロナ禍のため例年のような全員参加のワークショップは叶いませんでしたが、それでも、代表者による体験コーナーでは迫力のある和太鼓の音色を間近で楽しんでもらうことができました。ここ２年は、夏のお祭りや各種イベントなどで太鼓の音を届ける機会が減っていたため、短い時間ではありましたが、演奏を聴いてもらうこともでき、とても貴重な時間になりました。

コーディネーターから

これまで和太鼓のプログラムは体験を主に行っていましが、今回はコロナ禍ということで、バチの使いまわしのないよう、体験する子どもを限らせてもらいました。当初、鑑賞のみで企画していましたが、体験した子どもから実体験を他の子どもたちに伝えられるという講師の強い意思があったため、体験の時間を取りました。実際に、子どもたちは講師の演奏にも集中していましたが、同じ仲間が体験する姿を見る時はまた違った興味深さで見ているようでした。

先生から

本格的な和太鼓の演技は初めてだったので、その迫力に圧倒されました。子どもたちも同様だったと思います。メロディーがなく、リズムだけなので、飽きてしまうかなとも思いましたが、そうではなく、さまざまな音が聴こえてきました。とても良い時間を過ごすことができました。

子どもたちから

体に音がひびいて、はく力があった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立帷子小学校＋岩間市民プラザ
落語を聴く・学ぶ・体験する

担当アーティスト	春風亭愛橋（落語家）
実施校	帷子小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 2 学級 54 名
実施日程	2021 年 11 月 15 日(月)

授業のねらい

昔の人のものの考え方に触れ、伝統文化への興味・関心を高めたい。時間の経過による文字や言葉の変化に気付いてもらいたい。

主な内容

落語の歴史～寄席太鼓体験～扇子・手拭いを使って所作体験～小噺体験～高座

アーティストから

緊急事態宣言が解除され、元気が戻った子どもさんたちに盛り上げていただきました。「失敗を恐れずやってみる」という姿勢は素晴らしかったです。日頃の子ども同士や先生との関係が良いから、安心できる雰囲気が生まれてくるんでしょうね。「古事記」や古典文学、駆け足の歴史解説にも集中力が途切れることなく、付いてきてくれました。寄席太鼓体験は全員は体験できなくても、より多くの子どもさんに体験披露してもらう進行が課題だと感じました。

コーディネーターから

落語の良さや面白さを実感してもらうため、参加と体験を重視したプログラムを構成しました。各コーナーともに積極的に参加してくれました。目標である、時間の経過による文字や言葉の変化を伝えることは時間的に足りませんでしたが、歴史や体験から昔の人のものの考え方を学び、大切な伝統文化を知ることができました。

先生から

社会科・室町時代の学習で、大衆文化が今にも伝わるものを調べる際、落語のはじまりがその時代に生まれたことを知り、興味を持つ児童がいました。

子どもたちから

落語の話し方、扇子や手ぬぐいの動作を見れてよかった。／落語は思っていたよりもとてもおもしろく楽しい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立富士見台小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう２

担当アーティスト	善竹十郎（大蔵藏流狂言師）、善竹大二郎（大蔵流狂言師）
実施校	富士見台小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 120 名
実施日程	2022 年 1 月 24 日(月)

授業のねらい

この体験を通して、普段なかなか触れることのできない日本の伝統文化に触れ、昔の人の考え方や感じ方、表現方法について考え、自分たちを振り返る機会にしたい。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ　④質問コーナー

アーティストから

まじめで素直な子どもたちで、鑑賞態度がとても良かった。しっかり狂言の内容を理解してくれていたと思う。ワークショップでは狂言の表現方法を楽しく体験してもらえた。質問コーナーでも積極的に手を挙げて狂言について質問をしてくれてうれしく思う。

コーディネーターから

鑑賞態度がとても良く、笑いどころで笑っていたり、話の内容をきちんと理解して楽しんでくれているなと感じました。質問コーナーでも積極的に手を挙げて質問しており、時間が足りなくなるほどでした。狂言に興味を持ってもらうことができて、たいへんうれしく思います。

先生から

「本物」に出会うことが何よりの学びだったと考えています。演者の方が子どもたちが戸惑うであろうと予想される場面を事前にレクチャーいただいたことにより、古典芸能を楽しむことができました。

子どもたちから

狂言の世界も苦労をしてやっと一人前になれるのだと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立今宿小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう３

担当アーティスト	善竹大二郎（大蔵流狂言師）、野島伸仁（大蔵流狂言師）
実施校	今宿小学校（旭区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 100 名
実施日程	2021 年 12 月 6 日(月)

授業のねらい

狂言を鑑賞することを通して、物がなくても声や動きによって伝えることができることを知り、自己表現や伝え方の一方法として今後さまざまな場面で生かしていきたい。国語の狂言の学習の導入として狂言とはどのようなものかを見て知る。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ　④質問コーナー

アーティストから

これから授業で狂言「柿山伏」を学ぶということだったので、狂言がどのようなものなのかを学んでもらうと共に、狂言に興味を持ってもらえるよう、狂言の動きをワークショップで実際に体験してもらった。お手本を見せたらすぐに吸収して恥ずかしがらずに元気よくやってくれたので、こちらも楽しい時間を過ごすことができた。これを機に、伝統芸能にもっと興味を持ってもらえるとうれしい。

コーディネーターから

狂言の解説中、狂言師からの問いかけにもみんなが積極的に答えており、「積極的に参加しよう」という姿勢を感じられました。ワークショップ中も、狂言の動きを元気よく楽しく体験してもらうことができました。この体験が今後の国語の学習に生かされたらうれしく思います。

先生から

狂言が受け継がれてきて、今のお笑い芸能ができたことを、見て感じることができました。全ての言葉の意味を理解できない分、言葉の響きやリズム、人物像、動きから場面を想像しようとする自分がいました。

子どもたちから

体験や声の出し方などがおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立さちが丘小学校＋横浜能楽堂
狂言を体験しよう１

担当アーティスト	狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
実施校	さちが丘小学校（旭区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 105 名
実施日程	2021 年 11 月 11 日(木)

授業のねらい

普段触れる機会が少ない伝統文化を実際に見て、まずは楽しむ気持ちをもつ。そして、今回の体験を通して伝統文化に対して身近に感じ、関心を持つ。

主な内容

狂言のお話、「型」について、狂言「柿山伏」鑑賞、実技体験

アーティストから

新型コロナウイルス感染症が全国的に落ち着いてきた時期だったので、学校での体験も再開できるようになりました。伝統芸能はなかなか普段の生活ではなじみのないものですので、このような機会がなければ全く触れることのないまま過ごす人も多いと思います。今回の体験が子どもたちの心に残ってもらえれば幸いです。

コーディネーターから

講師の方のお話や「柿山伏」の鑑賞の際に、皆さんしっかり顔を上げて舞台に集中している様子が印象的でした。また、狂言の「型」について考える時には、具体的にイメージされた意見がたくさん出てきて、想像力の豊かな子どもたちだなと感心しました。今回の経験を授業でも生かしていただければうれしく思います。

先生から

教科書で見るだけではそこまで興味の持てない児童もいたのではないかと思いますが、生の演技を見たり演者の方の話を聞いたり、動きを教えてもらったりすることで、内容がよく分かり、狂言の素晴らしさも感じることができたのではないかと思いました。体験に勝るものはないと感じました。

子どもたちから

教科書で見るのと生で見るのとでは迫力が違った。／効果音など全て役者さんの口で表現していることに驚いた。／日本の文化について知ることができたので、大事な文化を守っていきたいと思った。／とても迫力があって始まったとたんいっきに狂言の世界に引きこまれたような気がした。立ったり、しゃがんだり、歩いたりと体験の中で教えてもらったが、とても難しく、それを上手にやりながら人を笑わせることのできる狂言師の方はすごいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立鶴ケ峯小学校＋横浜にぎわい座「寄席の芸」を鑑賞しよう１

担当アーティスト	瀧川鯉丸（落語家）、笑福亭茶光（落語家）
実施校	鶴ケ峯小学校（旭区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 3 学級 95 名
実施日程	2021 年 12 月 9 日(木)

授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と（「色物（寄席の演芸）」）を鑑賞します。この体験を通して、伝統芸能に親しみながら、普段とは違う表現の世界に触れ、多様な表現の可能性を感じてもらうことを期待します。また、教科書や教室の中だけでは体感できない、実際に目で見て体験することの面白さも感じる機会になってほしいです。

主な内容

落語解説、体験（小噺、なぞかけ、所作など）、落語鑑賞

アーティストから

６年生の３クラス共にとても明るい子どもたちでした。落語教室での所作体験にも積極的に参加してくれたので、とても盛り上がりました。落語を聞くところと、参加するところの線引きもできていて、先生方が普段からしっかり子どもたちに接しているのが伝わってきました。所作体験でオリジナルでホットコーヒーやラムネを飲んだり、すき焼きをスムージーにする児童がいたりと、自由な発想に驚かされました。とても楽しい時間をありがとうございました。

コーディネーターから

当初予定していた色物（マジック）の講師が当日来られなくなり、急遽落語のみの内容に変更になりました。小噺、所作の解説から始まり、体験コーナーでは他の学校さんに比べても参加者が多く、積極的な子が多いなと感じました。落語は茶光さんの「つる」と、鯉丸さんの「初天神」の二席を鑑賞し、急な出演者変更ではありましたが、結果的に上方落語と江戸落語の違いを体験できるスペシャルなプログラムになりました。子どもたちの伸び伸びとした元気いっぱいな様子が印象的でした。

先生から

毎回来ていただいて感じるのは、やはり教科書の誌面上やＣＤ、映像で見る伝統芸能と違い、本物の姿を見せていただくことは、子どもたちにとって、本当に大きな学びになることです。コロナ禍でもこのような形で、コーディネーターやアーティストの方にお力添えいただき、学びの場をいただけたこと、とてもありがたいです。今後もこのような機会をいただき続けたいです。

子どもたちから

生で聞くのは初めてだったので、とても良い経験になった。／せんすなどいろいろな物をつかってやっていることが本当に食べているみたいでとってもおもしろく心に残った。／自分が落語する前はきんちょうで不安になっていたけどやってみるとみんながわらっていて心がうきうきした。／ずっとわらっていた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南本宿小学校＋横浜にぎわい座「寄席の芸」を鑑賞しよう２

担当アーティスト	笑福亭茶光（落語家）、小泉ポロン（マジシャン）
実施校	南本宿小学校（旭区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／落語／4 学年 2 学級 67 名
実施日程	2021 年 11 月 19 日(金)

授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聴き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物（寄席の演芸）」を鑑賞します。伝統芸能に実際に触れることで、実感を伴う理解につなげること、また、この体験を純粋に楽しんでもらえる機会となることも期待します。

主な内容

落語解説、体験（小噺、なぞかけ、所作など）、落語・色物（マジック）鑑賞

アーティストから

４年生の子どもたちでしたが、最後まで集中して聴いていただけました。謎かけクイズや所作クイズなど、参加できるところはとても積極的に答えてくれました。落語とマジック両方とも真剣に見て、また大きな声でも笑っていただきました。落語は漫才やコントと違い、触れる機会も少ない上にしっかり噺を聴いてもらわないと笑えない芸ですが、南本宿の子どもたちは聴く姿勢がとてもしっかりしていたので、楽しんでもらえたんだと思います。今回の公演を見て、今後も落語やマジック、演芸に興味を持ってもらえたらとてもうれしいです。

コーディネーターから

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、９月から 11 月に延期しての実施となりました。４年生ではまだ授業で落語を扱っていないため、勉強というよりは純粋に伝統芸能を楽しむ場になればとの希望を講師に伝えて授業に臨みました。体験コーナーでは子どもたちに「食べる」所作をやってもらい、意表をつくメニューが出たりと大いに盛り上がりました。会場の寒さもあってか、後半少し集中力が欠けてきた様子でしたが、クイズや質問の挙手も多く上がり、全体として、積極的に参加している様子が伺えました。

先生から

落語のお話が分かりやすいものから少し難しいのかなと思うものもありましたが、子どもたちはどのお話もさまざまなポイントで面白さを感じて楽しんでいました。高学年になるにつれて、何かを表現することが恥ずかしいと思う児童が増えているように思います。そのような中、プロの方の素晴らしい表現力を肌で感じて、自分もそのようになりたいと思う子がでてきたことが本当に良かったです。

子どもたちから

らくごがおもしろくって、私もやってみたいと思った。／マジックでは、色々な物に変わったり、色が変わったりしてるのがすごかった。／落語は声の大きさをかえたり、ハンカチとせんすであそこまでのお話ができるとは知らなかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立汐見台小学校＋杉田劇場
箏の奏法を知り、実際に演奏する１

担当アーティスト	外山香（箏演奏家）
実施校	汐見台小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 4 学級 156 名
実施日程	2021 年 12 月 15 日(水)、2021 年 12 月 16 日(木)、2021 年 12 月 17 日(金)

授業のねらい

箏の歴史や楽器、奏法の説明を聴き、実際に箏で「さくら」を練習する。練習後、お互いに発表・鑑賞し合う場を設けることで、より集中力をもって体験に臨むモチベーションとする。箏の演奏鑑賞では、古典曲から最近のアニメソングまで幅広く聴き、箏の魅力を実感してもらう。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞３人１組をつくり、それぞれに箏を１面ずつ配置。姿勢や音の出し方から始めて、「さくら」の演奏まで、交代で練習。仕上げとして、講師の伴奏とともに、グループごとに合奏を聴き合う。プログラムの最後は、講師たちによる演奏を鑑賞。（１日目に１クラス、２日目に２クラス、３日目に１クラスで実施）

アーティストから

校舎建て替え工事が進む汐見台小学校では、プレハブとは思えない暖房が良く効いた教室で 156 名４クラスを３日間実施いたしました。６年生という年齢と落ち着いた学校の雰囲気もあり、児童全体の理解力が高く、初めは興味がないように見えた児童も、授業が進むにつれて真剣に取り組む姿を見ることができました。新型コロナウイルス感染症対策のため、対面での発表会はできませんでしたが、演奏する児童を囲むように椅子を配置してお互いの演奏を聴き合い、クラスメイトと息を合わせて合奏する経験をしていただきました。模範演奏では古典、現代曲、流行曲どれも興味津々に聴いていて箏を身近な楽器に感じていただけたと思います。

コーディネーターから

新型コロナウイルスの感染症防止対策として、楽器や椅子の共有を避けるなどを徹底しながらのプログラムとなりましたが、子どもたちはそのような「縛り」を苦にすることもなく、適度な距離感でコミュニケーションを取っていて、お互いにアドバイスするくらいの余裕を持って参加してくれていました。その姿に、ここ２年ほどの学校生活での「慣れ」と「強さ」を感じました。

先生から

子どもたちは集中して箏の演奏をすることができていました。普段触れる機会が少ない日本の伝統音楽を聴き、良さを感じ取ることができたと思います。特に外山先生の生演奏が良かったです。さくら変奏曲や春の海を演奏していただけると、より音楽の学習との関連が図れると思いました。

子どもたちから

もっと箏をやってみたい。／今回の授業で箏に対する印象が変わり、箏体験がとても楽しかった。／ゆっくりな曲もひければ、激しい曲もひける箏におどろき、感動した。／ことをひくということが初めてだったのでとてもしんせんだった。／すごく楽しい授業だったので、ことができるようになってみたいなと思った！／２番目に聴いた「水」の演奏が思った以上に激しくて驚いた。／丁寧に教えてくださり、さくらが弾けるようになったので思い出に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浜小学校＋杉田劇場
箏の奏法を知り、実際に演奏する２

担当アーティスト	外山香（箏演奏家）
実施校	浜小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4 学年 3 学級 96 名
実施日程	2021 年 11 月 24 日(水)、2021 年 11 月 25 日(木)

授業のねらい

箏の歴史や楽器、奏法の説明を聴き、実際に箏で「さくら」を練習する。練習後、お互いに発表・鑑賞し合う場を設けることで、より集中力を持って体験に臨むモチベーションとする。箏の演奏鑑賞では、古典曲から最近のアニメソングまで幅広く聴き、箏の魅力を実感してもらう。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞３人１組をつくり、それぞれに箏を１面ずつ配置。姿勢や音の出し方から始めて、「さくら」の演奏まで、交代で練習。仕上げとして、講師の伴奏とともに、グループごとに合奏を聴き合う。プログラムの最後は、講師たちによる演奏を鑑賞。（１日目に１クラス、２日目に２クラス実施）

アーティストから

紅葉が深まる秋、浜小学校のプラットフォームが２日間にわたり実施されました。４年生 96 名３クラスを、45 分×２コマを使い「さくら」の体験をしていただきました。箏１面を３名で使用したので、待っている２名も飽きることなく授業を進めることができて、ほとんどの児童が「さくら」を演奏できるようになりました。授業の後半でお互いの演奏を聴き合う発表会を催した際は、お友達と息を合わせての合奏をする経験をして、指揮のない日本の文化を体験していただきました。講師の模範演奏では古典、現代曲、流行曲を聴いて身近な楽器と感じていただくことができたと思います。

コーディネーターから

90 分間で基礎から「さくら」の合奏までを練習し、講師の演奏３曲を鑑賞という盛りだくさんの内容となったため、４年生には少しハードルが高いかもと思いましたが、子どもたちのモチベーションが高く、楽しんで参加してくれていました。また、３人に１面の楽器を準備できたこと、また、それに伴うグループ内の交代もスムーズに動いてくれていたため、とても内容の濃いプログラムとなりました。

先生から

今年度もコロナ禍で校外学習や講演会が実施できず、子どもたちがなかなか本物に触れる経験ができずにいました。一人ひとりが実際に楽器に触れ、１曲演奏するという達成感を味わうことができ、良い体験ができたと感じます。外山先生のお人柄により、子どもたちが自然に箏に向き合い取り組む姿が見られ、体験する前は自信のなかった子どもも、「楽しかった」という感想を言うことができ、驚きました。今後の指導に生かしていきたいと思います。

子どもたちから

先生がひいた「水」のリズムがおもしろかったから、もう一度ききたい。／水のように流れるような動きで演奏していたのをきいてあこがれた。／難しいと思っていたけれど、簡単にできた。先生がていねいに教えてくれた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立洋光台第二小学校＋杉田劇場
能を知る・能を観る

担当アーティスト	山井綱雄（金春流能楽師）
実施校	洋光台第二小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／能／5 学年 2 学級 75 名
実施日程	2021 年 12 月 23 日(木)

授業のねらい

「能」の所作、演目「羽衣」の物語、謡の実習、能の鑑賞などを通じて、日本を代表する舞台芸術「能」から日本の心を学ぶ。

主な内容

「能楽について」のレクチャー動画を視聴。体験学習：合唱形式で「高砂」を謡ってみる。構えやすり足、所作の体験。能面の装着体験。「羽衣について」のレクチャー動画を視聴後、「羽衣」を鑑賞。

アーティストから

日本伝統あいさつの座礼・能の構え・擦り足の体験、能面・能装束を観賞。昨年実施した「高砂」の詞章を事前学習してもらい、多くの児童が暗唱できていた。「羽衣」の鑑賞も加え、日本伝統文化の奥深さ・意義を会得し、日本人アイデンティティー構築に大きくつながったと実感できた。

コーディネーターから

限られた時間の中に「レクチャー・体験・鑑賞」の全てを盛り込むため、事前に準備していただいた資料やレクチャー動画の活用が効果的でした。特に、地元の文化施設でもある久良岐能舞台で撮影されたレクチャー動画は、子どもたちにも理解しやすく、その後の「体験・鑑賞」の導入として最適でした。かつ、あらかじめ時間がしっかりとコントロールできる点でもプラスでした。

先生から

能楽師の山井さんに昨年までも数回いらしていただいたことがあるので、山井さんと話がしやすくなり、授業でやっていただきたいことや、子どもの反応の予想などの情報交換を多くして、効果的な体験授業にすることが回を重ねるごとにできるようになってくる良さがありました。コーディネーターの方が、映像や音声を流す時に臨機応変に動いてくださり、たいへん助かりました。

子どもたちから

「能」を直接舞台で見てみたいと思った。／久良岐公園に能楽堂があるとは知らなかったので、今度行ってみたい。／お母さんや友達に教えてあげたい。／はごろもがとてもかっこよかったので、やってみたいと思った。／山井さんが道具をつくる職人が減っていると言っていたことを知って、僕も職人さんになろうかなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立並木中央小学校＋横浜能楽堂
狂言を体験しよう２

担当アーティスト	狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
実施校	並木中央小学校（金沢区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 63 名
実施日程	2021 年 12 月 21 日(火)

授業のねらい

狂言についての解説を聴き、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもつ。また、目の前でプロの狂言師の方の演技を鑑賞したり、体験したりすることによって、古典芸能の言葉の響きやリズムに親しむ。

主な内容

狂言のお話、「型」について、狂言「柿山伏」鑑賞、実技体験

アーティストから

会場に入ってきたところから落ち着いた様子でとても授業態度が良く、しっかり鑑賞してくれました。興味を持って観てくれているのが伝わってきて演じやすかったです。ワークショップでは一生懸命取り組んでくれたので、こちらも教えていて楽しかったです。鑑賞と体験でめりはりのある授業になってとても良かったです。

コーディネーターから

時間前に静かに整列ができていて、講師の方のお話にもしっかりと耳を傾けている様子が印象的でした。狂言の上演中も集中して鑑賞していて、笑いどころでは周りの友達と顔を見合わせて楽しそうに観てくれていたので良かったです。今日の体験を今後の授業でも生かしていただければうれしく思います。

先生から

担任自身も、実際にプロの方が演じる狂言を見るのが初めてだったのでたいへん感動しました。国語科や社会科で知識的には持っていた学びが、体験も交えながら本物に触れることで、より深い学びにつながったなと感じました。６年生の学習として、今後もぜひ利用できる機会があれば利用したい取組だと思いました。

子どもたちから

見ている人にしっかり伝わってほしいという思いが伝わってきた。／とても楽しかったのでまたこの授業を受けたい。／声や動きがきょう言は大切だなと思った。また見てみたい。／せいざのしかたとか、わからなかったことをいろいろ学べた。／昔の動物の鳴き方がとてもおもしろかった。／声のだしかたがとにかく印象に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立新吉田第二小学校＋民族歌舞団 荒馬座 日本のリズムを体験しよう１

担当アーティスト	民族歌舞団 荒馬座（演技者）
実施校	新吉田第二小学校（港北区）
コーディネート	民族歌舞団 荒馬座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／和太鼓／4 学年 3 学級 85 名
実施日程	2021 年 11 月 11 日(木)、2021 年 11 月 18 日(木)

授業のねらい

授業で和楽器や日本の楽器を学ぶ学年なので、和太鼓に直接触れ、それを通してリズムの楽しさや友達と一緒にたたく楽しさを味わってもらう。２日間で太鼓の基本（バチの握り方、構え方）～座員の笛・小太鼓鉦に合わせてお囃子を完成させる。

主な内容

＜１日目＞和太鼓について知る、バチの握り方からたたく姿勢など太鼓の基本を楽しく学ぶ。＜２日目＞思いっきり楽しくたたく、クラスごとにお祭りをつくる。

アーティストから

和太鼓に触れると、みんな楽しそうでどんどん大きな音が出てきました。クラスごとにお祭りのタイトルを決める話し合いはとても熱心で「どんな気持ちで太鼓をたたくのか」どんどん意見を出し合う姿に私たちも楽しい体験をさせてもらいました。２回授業があったことで、たたき方だけでなく「祭り」の意味も一緒に体験してもらえたことがとても良かったと感じています。

コーディネーターから

初めての出会いでしたが、たたくごとに音も大きくなり、それにつれてパフォーマンスも大きくなっていました。太鼓を通して祭りの意味や歴史の説明などもあり、２回目の授業では「どんな気持ちを込めるか」という話し合いも熱心に行われ、クラスが１つになってつくったお祭りはみんな楽しそうでした。

先生から

例年、お箏の体験を行っていたようですが、今年度の４年生の集団には和太鼓の力を借りて進んで表現に加わる活動ができて良かったです。教科書との連携も取りやすく、日本の民謡やお祭りなどの教材にも親しみを持って取り組むことができると感じています。児童の実態に合った取組ができました。

子どもたちから

思いっきりたたけたことが面白かった。／たたいているうちに、和太鼓が身近な楽器になっていった。／和太鼓は木や牛のいのちをいただいてできていて、思いっきりたたくことがもらったいのちが喜ぶということがわかって楽しくなった。／思い出・友情ばやしなので、運動会のエイサーのことを考えた。そのために、「力強く、みんなを見ながらそろえて」たたいた。最初とは別人のように余裕のある感じでたたくことができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立高田東小学校＋あっちこっち
お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！

担当アーティスト	望月太左衛（邦楽囃子方）
実施校	高田東小学校（港北区）
コーディネート	認定 NPO 法人あっちこっち
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、音楽
実施概要	体験型／邦楽／4 学年 2 学級 64 名
実施日程	2021 年 11 月 25 日(木)、2021 年 12 月 1 日(水)、2021 年 12 月 7 日(火)

授業のねらい

「何かを作り上げる活動」を希望されたことで、和楽器に触れるという貴重な機会と演奏発表の場がセットになった本プログラムを提案し、双方快く合意。日本が誇る伝統芸能の奥深さに加え、合奏という最高のコミュニケーションの場を通じ、普段見られない自分や友達の良さに気付き、おのおのがその良さを伸ばしていくきっかけとすることを目標とする。

主な内容

＜１日目＞鼓、お囃子ってなんだろう＜２日目＞楽器を体験しよう＜３日目＞発表会をしよう

アーティストから

３日目の発表会では子どもたちが小鼓と祭囃子（締太鼓、大太鼓、鉦）の演奏により、子どもたちの内にこもっていたエネルギーが一気に出たようないい内容だった。長唄・雛鶴三番叟を唄うことも大きな声でチャレンジし、今回も学校の先生方、コーディネーターの皆さんのご協力のおかげで子どもたち全員が４種の和楽器を体験できた。また子どもたちの美しい合唱「もみじ」とのコラボにより私たちも音楽の喜びを感じさせていただくことができた。

コーディネーターから

お囃子は「褒め讃える」「引き立てる」という意味の「はやす」が起源と記憶しています。望月先生はじめ担当アーティストの皆さんは、高田東小学校のもともと活発な児童をさらに褒めながら、彼らの意欲をさらに引き出し、３日間の授業で多くのことを伝えられました。児童だけでなく、その場にいた誰しもがお囃子の虜になってしまう、それほど大きな影響を与えるプログラムだったことと思います。

先生から

３回の指導で発表までに至るのか不安を抱えたままのスタートでした。特に元気な学年で、良く言えば正直ですが、得てして失礼な態度ともなりがちな子どもたちと３日も過ごしていただけるか、も心配でした。しかしお迎えした（子どもたちは“師匠！”とまで心酔した）望月太左衛さんの軽妙な語りと、のせ方のうまさに担任たちも心から楽しむことができ感謝の気持ちでいっぱいです。本物に触れる良さ、そしてその強みを実感する３日間でした。

子どもたちから

和楽器の音がよく出ないことはしょうげき的！／太鼓は、ただ思い切りたたけばいい訳じゃない。／美しく音を出すようにすることを知れた。／難しかったけど、家で家族と練習してうまくなったからうれしくて忘れられない思い出になった。／最後のおどりが、かっこよかった。／大太鼓をたたいたら、体も揺れた気がして楽しかった。またやりたい。／最初は「変な音楽」と思ってたけど、だんだん歌っていくと楽しくなった。／なぜか分からないけど泣いてしまった。／おはやしで、音楽がもっと好きになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立箕輪小学校＋関内ホール
箏の演奏体験～演奏を肌で感じる～

担当アーティスト	奥田雅楽之一（生田流箏曲・地歌三弦演奏家、作曲家）
実施校	箕輪小学校（港北区）
コーディネート	横浜市市民文化会館関内ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 3 学級 84 名
実施日程	2022 年 2 月 2 日(水)、2022 年 2 月 3 日(木)

授業のねらい

箏の演奏体験を通して、日本の伝統的な音楽の特徴を子どもたちが理解できるようにしたい。また、楽器演奏体験を通して、日本文化への理解を深め、演奏者への思いにも触れたい。

主な内容

＜１日目＞お箏の歴史について学ぶ、お箏に触ってみよう＜２日目＞「さくら」をとおして弾く、講師演奏　※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、３日目は学年全体での活動予定だったが中止。

アーティストから

お箏の歴史を知り体験することを目的に、見る、聴く、知るの３点に沿った授業を行いました。今回は弾くことに時間をおいて、全員が目的を達成したと思います。感じ方は子どもによって全く違いますが、自分でお箏の練習をした後に、お箏の演奏を聴いたことで、反応が良くて、伝統的な演奏を肌で感じることができたのではないでしょうか。

コーディネーターから

新型コロナウイルス感染症予防対策で３日目の学年全体の授業を中止したため、２日間に短縮して実施しました。２日間でできるだけお箏に触り、「さくら」を講師の伴奏とともに弾けるようになりました。発表がなかった分、リラックスしてお箏の演奏に親しめたのはないかと思います。次の授業の移動中に児童たちがお箏の楽譜番号を口ずさんでいたり、最終日のお箏の片付けに手伝ってくれたことなど、伝統音楽への敷居を取り払ってくれたように思います。

先生から

本物に触れることの大切さを感じました。その道の専門の方から指導していただく貴重な経験でした。先生の演奏を身を乗り出して聴いていた姿に、やってよかったとの思いをもちました。教科書やＣＤ、ＤＶＤでしか普段なかなか触れられない楽器とプロの演奏に、私自身も勉強になりました。まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の影響で、２回ほど延期になってしまったかと思いますが、コーディネーターの方に臨機応変に対応していただいて助かりました。

子どもたちから

とてもたのしかったので、家にほしい。／ことをひくことは、めったにないから思い出にのこった。／ことをひけたから別の楽器にも手を出したい。／全部まちがえないでひけたときにものすごくうれしかった。／また、あの先生に教えてもらいたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立新治小学校＋みどりアートパーク
和楽器の良さや音色に親しもう

担当アーティスト	和楽団煌（和楽器奏者（箏、三味線、尺八）、ピアニスト（作編曲））
実施校	新治小学校（緑区）
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	音楽、国語
実施概要	鑑賞型／邦楽／5・6 学年 2 学級・個別支援学級　計 73 名
実施日程	2022 年 1 月 27 日(木)

授業のねらい

優れた芸術に触れることで、豊かな情操を育てる。いろいろな表現方法があることに気付き、自分の思いや考えを自由に伝えることの大切さを感じることができるようにする。

主な内容

「夜叉舞」箏×三味線×尺八、「春の海」箏×尺八、楽器紹介、「校歌」合奏、「威風堂々」「クラシック・セレクション」とアニメの曲を箏×三味線×尺八×ピアノ、アンコール

アーティストから

コロナ禍で一緒に歌うことやリコーダー参加、質問コーナーなどは叶わない形となってしまいましたが、その分しっかりと聴く姿勢や拍手ポイントで拍手してくださったりと、積極性が見えてとても良いと思いました。曲目も児童が好きな曲を取り入れたことで、親近感を持って聴いていただいているのがよく分かりました。特に流行のアニメの曲では涙している児童もいたと聞きました。また、先生方も興味津々で質問をくださったり、楽しそうに聴いている姿が見えてうれしかったです。

コーディネーターから

１月 27 日開催にこぎ着けるまで、当初日程の延期や実施対象を全学年から５・６年生に限定するなどの紆余曲折がありましたが、アーティスト、学校側と協議を重ねて乗り切ることができました。演奏会当日は、プログラム構成を工夫して所要時間を凝縮し、クオリティを落とさないで変化に富んだ内容にすることができ、子どもたちは和楽器の解説や生の演奏に集中して向き合っていました。

先生から

音楽の授業で扱った単元や校歌、児童の興味のある曲などの希望を取り入れていただいたことで、児童も興味を持って鑑賞することができました。今回はコロナ禍で体験や質問コーナーを取ることができなかったため、体験を深めることが難しかったという意見もありましたが、ほとんどの児童が和楽器の演奏の仕方について知ることで、いろいろな表現の仕方があるということにつなげることができたように思います。また、想像を広げながら音楽の世界に浸ることができていました。

子どもたちから

流行りの曲の演奏がすごくかっこ良かった。／はく力がすごかった。／楽器によって音の出し方や音にちがいがあり、とても楽しかった。／またえんそうしにきてほしい！（次はできたら、５、６年生いがいにも見せてほしい！）／鳥はだ立った。／本当ならば舞たいでしか見ることのできない方たちを、あんなに間近で見れて感動した。／いきがそろってきれいだった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立鉄小学校＋横浜にぎわい座「寄席の芸」を鑑賞しよう３

担当アーティスト	笑福亭茶光（落語家）、小泉ポロン（マジシャン）
実施校	鉄小学校（青葉区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／落語／5・6 学年 2 学級 43 名
実施日程	2021 年 12 月 21 日(火)

授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物（寄席の演芸）」を鑑賞します。この体験を通して、いろいろな言葉や表現の方法があることに気付き、歴史ある伝統的な文化に興味を持ってほしい、またそれらの面白さを感じ取り、自分の表現に生かすことができるようにしたい。子どもたちが「本物」に触れて、純粋に楽しむ機会となることも期待します。

主な内容

落語解説、体験（小噺、なぞかけ、所作など）、落語・色物（マジック）鑑賞

アーティストから

約１時間半の長丁場でしたが、最初から最後まで集中力を保ち観ていただけました。落語の所作体験にもたくさんの子どもたちが積極的に参加してくださり、マジックには歓声をあげ、落語もしっかり聴き笑ってくださりました。素直で明るい子どもたちに助けられ、こちらも楽しく公演することができました。ほとんどが初めて落語を聴くという子どもたちでしたが、これを機会に落語や演芸に興味を持ってもらえたらとてもうれしいです。

コーディネーターから

当初６年生１クラスの参加予定が、５年生も加わっての実施となりました。落語に初めて接するという子がほとんどの中、小噺やなぞかけの説明からスタート。所作の体験では、体育館中に全員で「そばをすする」音が響き渡り、不思議な一体感に包まれました。少し緊張していた子どもたちが、だんだんリラックスして笑顔が増えていく様子が印象的でした。最後、落語についてだけでなくいろんな質問に対してのユーモアを交えた講師の回答も絶妙で、子どもたちにとっても貴重な学びの機会となったのではないでしょうか。

先生から

実際に落語を鑑賞したことがある児童が少ない中で、本物の演者から本物の落語を目の前で聴ける機会を設けたい、体験してほしいという思いでお願いしました。最近は画面越しに動画などで笑うことが多くなっているけれど、人の話を想像しながら話を聞く、所作を見るという人との関わり合いの中で生まれる「笑い」の温かさを感じました。マジックも同様です。実際に、子どもたちのお腹を抱えて笑ってる姿が印象的でした。言葉の使い分けと、扇子や手ぬぐいなどのわずかな小道具によって語りの世界に引き込まれ、伝統的な言語文化に対する関心を持つことができたと思います。話を聞くだけでなく、高座に上がってしぐさをしたり、しぐさをまねてみたりと、とてもすてきな落語との出会いになりました。

子どもたちから

落語もマジックもテレビで見るのとは違っていて、生で見ると迫力があっておもしろかった。／落語の所作を体験できてよかった。友だちも上手でびっくりした。／茶光さんの落語に向き合う姿勢、努力についてのお話を聞くことができて勉強になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立嶮山小学校＋横浜能楽堂
狂言を体験しよう３

担当アーティスト	狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
実施校	嶮山小学校（青葉区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 70 名
実施日程	2021 年 11 月 12 日(金)

授業のねらい

伝統文化に対する敷居を低くする。自分には関係ないと思いがちだが、実は現代にも共通する部分があり、実際に狂言を鑑賞することで身近に感じ、他の伝統的なものにも興味を持てるきっかけにする。

主な内容

狂言のお話、「型」について、狂言「柿山伏」鑑賞、実技体験

アーティストから

全国の小学校を回っていますが、特に横浜の子どもたちは「柿山伏」の笑いどころで笑ってくれるなど、とても反応が良い印象があります。嶮山小の子どもたちも活発な子が多く、感情表現をたくさん出してくれました。担任の先生方の働きかけも素晴らしいと思います。今日の体験をきっかけに伝統芸能に興味を持ってもらえるとうれしいです。

コーディネーターから

実施した６年生だけでなく、廊下ですれ違うと元気にあいさつしてくれる子どもたちが多く、学校全体がとても良い雰囲気の学校だなと感じました。体験の際も、とても盛り上がった様子で積極的に参加してくれました。普段触れる機会が少ない伝統芸能に実際に触れることで、興味の幅を広げていただければと思います。

先生から

事前打合せでは、丁寧に対応してくださいました。特に国語の単元目標や子どもたちの理解度に合わせて内容を設定していただいたのがとても良かったです。

子どもたちから

物語の意味がよく理解できた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立荏田東第一小学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
三味線に触れてみよう２

担当アーティスト	杵屋勝くに緒（長唄三味線方）、東音阪本剛二郎（長唄三味線方）
実施校	荏田東第一小学校（都筑区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／三味線／5 学年 2 学級 83 名
実施日程	2021 年 12 月 13 日(月)、2021 年 12 月 15 日(水)、2021 年 12 月 16 日(木)

授業のねらい

普段なかなか触れることのない日本の伝統音楽を体験する。初めてで少し難しいことでも粘り強く取り組む。この体験を通じて、自分自身、友達とも力を合わせて協力し達成感を得ることで、自信をつける。

主な内容

＜１日目＞講師実演、三味線について、構え方、撥の持ち方、開放弦など＜２日目＞譜面の読み方、「きらきら星」の練習＜３日目＞「きらきら星」練習、グループでの発表会

アーティストから

小学５年生を２クラス、３日間長唄三味線の授業を行なって参りました。２クラスとも、初歩が難しいと言われる三味線ですが、想像以上に熱心に三味線に取り組んでくださり、こちらも熱が入り、３日目には楽しく発表会も行えました。子どもたちの率直な授業感想を先生方のご尽力で１日ずつ拝見することができ、こちらも授業内容を少しずつブラッシュアップして授業を行えました。コロナ禍ということで文化芸術全般、未だ手探りで日々の活動を行っている状況ですが、子どもたちの明るい未来を微力ながら照らせるよう、またこのような授業を行っていきたいと思いました。

コーディネーターから

初日は三味線を構えること、撥を持つこともなかなか苦戦していましたが、２日目の初めに、難しいところ、どうやったらいい音が出るのか、など質問を講師とやり取りし、またそれをクラスで共有するなど、工夫して取り組む姿勢が素晴らしかったです。なかなか普段は触れられない邦楽器、三味線を実際に体験し、身近に感じてもらうことができたと思います。

先生から

プロの外部の先生を招くことで、子どもたちも新鮮に学習していました。和楽器は私も知らないことがたくさんだったので、私自身が学べてとても勉強になりました。

子どもたちから

３日しかなかったからまたいっぱいやりたい。／三味線をひくことができて楽しかった。うれしかった。／きんちょうしたけど最後までひけたのは先生たちのおかげだと思った。／やっていくうちにどんどん楽しくなった。／先生たちにじょうずじゃんといわれたのがうれしかった。こんどはもうちょっと長い曲がひけるようになりたい！

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立勝田小学校＋みどりアートパーク
元気にたいこ、ドンドン

担当アーティスト	特定非営利活動法人 打鼓音（創作和太鼓集団）
実施校	勝田小学校（都筑区）
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	音楽、生活、総合的な学習の時間、道徳
実施概要	鑑賞型／和太鼓／個別支援学級 30 名
実施日程	2021 年 12 月 9 日(木)

授業のねらい

「打鼓音」の皆さんの演奏から発する、和太鼓の力強い躍動感やリズム、演奏者が発する豊かな表現に刺激を受けて、自他の新たな一面に気付き、自分たちもやってみたいと自発的に表現する楽しさや喜びを味わってほしい。それが子どもの自己肯定感の向上にもつながり、日常生活に生かせるようになってほしい。

主な内容

①演奏（約 20 分）全員対象　②説明と体験コーナー　３班に分かれて順に（約 30 分）③演奏（約 10～15 分）全員対象、アンコール１曲

アーティストから

個別支援学級の子どもたちは、和太鼓の演奏を聴きながら身体で音を感じ、リズムを楽しんでいる姿が見られました。鑑賞中は、瞬きを忘れるのではないかというくらい集中している瞬間がありました。体験コーナーでは、思いきり発散するかのような気持ち良い太鼓の音色が響き渡りました。後半最後まで和太鼓演奏を楽しみ、心に残る経験になり、伝統音楽（和太鼓）が、教育効果の高い内容であることを感じました。

コーディネーターから

和太鼓の音圧は、体育館の壁に掛けてあったフラフープの輪が外れて落ちてしまったくらいの迫力があり、個別支援学級の児童は手拍子を取りながら身体を揺らして鑑賞し、体験コーナーでは息を合わせてたたき合うことの楽しさを感じていました。和太鼓の伝統音楽とパフォーマンス性を合わせ持つ側面は、障害の有無を超えて参加者の細胞に響きわたり心身両面を開放させ、場を１つにする親和力があると認識させられました。

先生から

子どもたちが感動して、積極的に体験をしてみたいという意欲が見られたのはとても良かったです。日常では、なかなか自分から表現しようとしない子も積極的に太鼓をたたこうと関われたのは、とても良い機会でした。今回も日常へ良い影響を与えてくださってとてもありがたかったです。

子どもたちから

お兄さんに「うまい！」と言われたのがうれしかった。／たいこをたたくのが楽しかった。／またたいこをたたきたい。／またきてほしい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東山田小学校＋横浜みなとみらいホール 箏の体験～みんなで息を合わせて演奏しよう１～

担当アーティスト	外山香（箏演奏家）
実施校	東山田小学校（都筑区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 3 学級 103 名
実施日程	2021 年 10 月 4 日(月)、2021 年 10 月 5 日(火)、2021 年 10 月 6 日(水)

授業のねらい

日本の伝統文化を身近に感じる。また、誰もが体験したことのない日本の伝統楽器の演奏を体験することで、柔軟な考え方や多様性を認め合い、みんなで合奏することで、チーム力を養うことにもつなげる。

主な内容

＜１日目＞「さくら」の演奏体験＜２日目＞１・２時間目「夕焼け小焼け」の演奏体験／３・４時間目「虫の声」の演奏体験＜３日目＞３クラス合同で発表会／講師演奏鑑賞

アーティストから

５年生３クラスがそれぞれ 90 分の授業で、「さくら」「夕焼け小焼け」「虫の声」という音楽の授業で学ぶ曲を箏で演奏しました。学校の楽器を含め 12 面の箏を用意し、３名で１面を使用して練習することができたため、ほとんどの児童が楽器を初めて触るにもかかわらず、３日目の発表会に向けて集中して授業を受けることができました。発表会ではお友達と息を合わせて演奏することや人の演奏をしっかり聴くという姿勢が見られて、充実した時間が持てたと思います。講師の演奏で流行の曲を聴いて、日本の伝統楽器を身近に感じていただくこともできたのではないかと思います。

コーディネーターから

３クラスで異なる曲を体験し、最後に合同で発表会をしたい、という学校のご希望をアーティストにもご相談し、実現することができました。息を合わせて合奏することや、他のクラスの子の演奏を聴くという体験、より多くの人の前で演奏する緊張感などを合わせて、達成感も大きなものとなったのではないかと思います。

先生から

音楽科学習への制約が強まる中、「音」を通したコミュニケーションが減り、心ゆくまで「音」にどっぷり浸ることも減っているところでした。どの子にも楽器に触れるチャンスが多くとれること、また日本の伝統文化に親しみをもって、伝統は手に届かないほど遠いものではなく、身近に感じられること、の２点を重視しました。こちらのねらいをコーディネーターやアーティストの方が受け止めてくださり、効果的なプログラムでした。

子どもたちから

先生方の演奏がすばらしかった。／日本の楽器でアニメソングを弾くことができるのはおどろいた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立境木小学校＋さくらプラザ
小鼓で感じる歴史と音楽

担当アーティスト	今井尋也（演出家、脚本家、小鼓演奏家、俳優、作曲家）
実施校	境木小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／小鼓／6 学年 3 学級 82 名
実施日程	2021 年 12 月 15 日(水)、2021 年 12 月 16 日(木)、2021 年 12 月 17 日(金)

授業のねらい

児童たちが普段接する機会の少ない伝統芸能に触れることで、これまでの音楽や社会科の学習と関連付けながら、自主的に日本の歴史や文化について「知りたい」「考えたい」「挑戦したい」という気持ちが育まれるプログラムとしたい。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞小鼓の歴史に関するお話と体験（各日、１クラスずつ実施）。

アーティストから

コロナ禍ということもあり、子どもたちのモチベーションがどのようになっているのかとても気になっていた。文化芸術活動を楽しんで受け入れ、積極的に授業に参加できるようにさまざまな工夫をして臨んだ。日本の音楽の歴史を縄文時代から奈良時代、平安時代、室町時代、戦国時代、江戸時代、近代と小鼓の楽器としての時代の流れとリンクさせ、相互に対話しながら進めていく形で行うととても積極的で楽しんでいる様子が伝わってきた。講師の 1500 年前の曲の演奏に対しても感嘆と歓声が沸き上がっていた。実際に 500 年前からの本物の楽器に触れ、演奏すると、掛け声含めてその独特の演奏スタイルに戸惑いながらも新しい発見をたくさん見つけてくれたようだ。

コーディネーターから

以前より同内容のプログラムを開催してきましたが、今年はほぼ全児童が「過去に小鼓を見たことがある」を回答したことはうれしいことでありました。家族が演奏しているなどの例のほか、流行のアニメや芸人、アイドルなどをきっかけに小鼓を見る機会が増えているようで、児童たちも小鼓が身近な存在として意識された状態から体験に入ることができました。実際に演奏することで「もっと簡単に音が鳴ると思っていた」などの声もあがり、日本の伝統楽器を体験していただくには絶好のタイミングであったのではないかと思います。

先生から

昨年と引き続き、今年度も小鼓の体験をすることができ、子どもたちもとても夢中になって先生の話を聴き、目の前にある室町時代や江戸時代に作られた鼓にびっくりしながら、真剣に耳を傾けていました。演奏体験だけでなく、歴史から学ぶことができたので、子どもたちの心にも強く残ったことと思います。

子どもたちから

話を聞いていくうちにどんどん興味が湧いてきて、もっと知りたいと思うようになった。／小鼓はとても楽しかったのでまたやりたい。／日本の歴史が変化していくにつれて小鼓などの音楽も変化していくのがおもしろいなと思った。／貴重なことを体験できてうれしかった。／他の昔から受けつがれてきた日本文化もやってみたいと感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東品濃小学校＋さくらプラザ 狂言と現代をつなげるための授業

担当アーティスト	川野誠一（俳優、大蔵流狂言師）、野島伸仁（大蔵流狂言師）、今井尋也（演出家、脚本家、小鼓演奏家、俳優、作曲家）
実施校	東品濃小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 71 名
実施日程	2021 年 12 月 7 日(火)

授業のねらい

普段は見る機会の少ない、生の狂言のパフォーマンスに触れて迫力を感じてほしい。狂言は児童が自分たちで学習するには難しい面がある。今回のワークショップをきっかけに、児童が日本の伝統芸能である狂言と触れたことで何をどう考えたかを引き出しつつ、それぞれの今後の学習機会につなげていきたい。

主な内容

①狂言の表現や歴史についての説明　②「柿山伏」の鑑賞　③体験ワークショップ

アーティストから

紋付き袴、本道具は一切なしという型式での狂言「柿山伏」でしたが、「次第」（冒頭の謡い）から始めノーカットで鑑賞してもらいました。装束を着けない分、役のイメージは分かり辛かったかも知れませんが、子どもたちの表情からは想像力を使って狂言を楽しんでいる様子が伺えました。ワークショップでは、狂言の姿勢（構え）、発声、動物の鳴まねを体験してもらいましたが、感染対策もあり子どもたちの並び方がイレギュラーだったため、目の行き届かないことも多く、場所によって関わり方に差が出てしまったことが悔やまれました。ノリの良い子、シャイな子、さまざまでしたが、狂言という芸能を通じて日本人の持つ声や身体の感覚を感じてもらえたのではと思っています。

コーディネーターから

初めて生の狂言に触れる児童も多い中、驚くほど積極的に参加をしていただけました。「柿山伏」を鑑賞する姿勢や、狂言表現を体験する時間も恥ずかしがらずに参加される姿から、普段から先生方が日本の伝統芸能について教えておられ、児童たちもそれを素直に吸収されているのだなと感じました。新型コロナウイルス感染症対策のため、ソーシャルディスタンスの確保などの制限はありましたが、きっとこの機会を次につなげていただける良い時間であったと思います。

先生から

演者の方々が子どもの心をつかむのが上手でした。面白おかしく狂言について教えてくださり、伝統芸能というものの“かたさ”がなくすんなりと入っていくことができました。

子どもたちから

狂言の呼吸が感じられた。／狂言の先生がすごく面白かった。／「きのこ」を表したり鳴かない鯛を表したりしていたのが印象に残った。／みんなで生き物になりきったときに笑えた。／もっといろいろな狂言も見たくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立舞岡小学校＋横浜にぎわい座
落語を披露してみよう

担当アーティスト	瀧川鯉丸（落語家）、鏡味味千代（太神楽曲芸師）
実施校	舞岡小学校（戸塚区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／落語／5 学年 2 学級 48 名
実施日程	2021 年 11 月 5 日(金)、2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 16 日(火)

授業のねらい

最初の２日間は、クラスごとに講師から日本の伝統芸能である「落語」についてのレクチャーを聞き、実際に所作や小噺などの表現方法を学ぶ。３日目は、合同で実際に「落語」と「色物（寄席の演芸)」を鑑賞し、さらに事前に学んだ内容を「高座」に上がって発表する場も設ける。この体験を通して、伝統文化に興味を持ち、楽しみながら表現することを学ぶ機会となることを期待する。

主な内容

＜１日目＞~＜２日目＞クラス別レクチャー（落語講座・小噺、所作練習）（各日、１クラスずつ実施)。＜３日目＞落語・色物鑑賞、児童発表（２クラス合同で実施)。

アーティストから

最初の２日間は、１組・２組の学級ごとに落語解説と、次週の発表の予行演習を兼ねて小噺と仕草の体験、そして最後に落語の「狸」を聞いてもらいました。毎日授業を受けている教室でしたので、児童の皆さんもリラックスしながら聞いてくださり、質疑応答もたくさん出ました。翌週は、太神楽曲芸の鏡味味千代さんと２人で伺いました。児童の発表では、お辞儀の仕方や発声の工夫なども習得してくれ、オリジナルの工夫も多く飛び出しました。他の児童の皆さんも、前週に練習したとおり、代表の子を応援するような心持ちで聞くことができました。私の落語は「鷺とり」と「初天神」の二席。言葉の可笑しみだけでなく、物語の勘所でよく笑ってくれました。

コーディネーターから

３日間の体験型。最初の２日間はクラスごとのレクチャーを実施しました。落語講座では、お辞儀の仕方や座布団の向きの確認、黒板を使って落語家の名前の説明、と教室実施ならではの内容で進行。３日目は体育館で、所作や小噺など学んだことの発表の場と、実際に落語と太神楽曲芸を鑑賞。人前で話すと緊張して早口になるので、深呼吸してゆっくりめに話す、などのアドバイスを参考に、みんな見事に「芸」を披露していました。じっくりと時間をかけて伝統芸能に触れる時間は、コロナ禍の子どもたちにとっては貴重な体験・思い出になったのではと思いました。

先生から

日常的に落語に触れる機会が少ない中、今回の体験を通して落語や曲芸を身近に感じることができました。現代とは異なる古来独自の発声の仕方や姿勢など、演じ方の違いを分かりやすく教えていただきました。コーディネーターの方をはじめ、打合せの段階から丁寧に対応してくださり、当日は児童が混乱することなく、スムーズに進行することができました。来年度以降もご縁があればぜひお願いしたいと考えております。

子どもたちから

たくさん笑った。／生で落語を見ることができて楽しかった、うれしかった。／曲芸がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立矢部小学校＋さくらプラザ
箏と尺八の生の音を感じよう

担当アーティスト	寺井奈美（生田流宮城社師範）、大江美恵（生田流宮城社師範）、川俣夜山（尺八奏者）
実施校	矢部小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／箏・尺八／6 学年 3 学級 90 名
実施日程	2021 年 11 月 8 日(月)

授業のねらい

普段触れる機会のない和楽器（箏・尺八）の生の演奏を身近に感じることで、楽器の響きや演奏の仕方、表現の多様さに触れ、伝統音楽の良さに気付く。

主な内容

箏・尺八の鑑賞

アーティストから

６年生が一同に会したコンサートで、箏曲「春の海」「氷華二題」をはじめ、唱歌やポピュラーソングで構成しましたが、終始、熱心に聴いてくださり、楽器や曲の説明にも頷きながら興味を持ってくれているようでした。新型コロナウイルス感染症の影響で実際に楽器に触れたりすることはできませんでしたが、身を乗り出して見入ってくれていたり、箏で聴くポピュラーソングにも良い反応で、楽しく演奏することができました。

コーディネーターから

先生方のご協力のおかげでスムーズに終えることができました。児童たちは真剣に日本の伝統曲に向き合う一方で、なじみの良いアニメのポップス曲はリズムに合わせて身体を動かすなど、伸び伸びと鑑賞していました。終了後の質疑応答では児童たちから積極的に質問が投げかけられ、日本の伝統の音色に興味を持っていただけたように感じました。

先生から

ＣＤやＴＶなどでは見聞きしていても、やはり生で目の前で演奏を見ることや聴くことは、全く受け取る感覚が違うことが分かりました。子どもたちの感性を育てるためにも、本物の素晴らしさを目の当たりにできる体験が大切だと感じました。

子どもたちから

和楽器は日本の伝統なので大切にしていきたい。／和の良さを感じた。／生で聴くことのできたこの機会をうれしく思う。／楽器に合った編曲のすばらしさを感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立横浜深谷台小学校＋横浜みなとみらいホール 箏の体験～みんなで息を合わせて演奏しよう２～

担当アーティスト	外山香（箏演奏家）
実施校	横浜深谷台小学校（戸塚区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4・5 学年 4 学級 111 名
実施日程	2022 年 1 月 24 日(月)、2022 年 1 月 25 日(火)、2022 年 1 月 26 日(水)

授業のねらい

身近ではないもの、初めて出会うものに刺激を受け、その良さを感じること。この体験を通して、さまざまなものに興味を持って進んで体験していく、より幅広いものに視野を広げられるようにする。

主な内容

＜１日目＞「虫の声」の演奏体験／グループごとに発表／講師演奏鑑賞（音楽の先生との共演あり）＜２日目＞１・２時間目／３・４時間目　各「さくら」の演奏体験／グループごとに発表／講師演奏鑑賞（音楽の先生との共演あり）＜３日目＞「虫の声」の演奏体験／グループごとに発表／講師演奏鑑賞（音楽の先生との共演あり）

アーティストから

新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が猛威を振るう１月下旬、万全の対策をして３日間に渡り４年生と５年生を対象に授業をしました。５年生２クラスを１日目と３日目の３～４時間目を使い「虫の声」、４年生２クラスを２日目の１～４時間目を使い「さくら」を体験していただきました。当初、どのクラスもおとなしい児童が多く消極的なイメージでしたが、授業を進めていくうちに楽器に興味を持ち、授業後半の発表会に向けて休み時間も練習をする姿を見ることができました。模範演奏では、音楽の先生のフルートと「春の海」を、現代曲として沢井忠夫作曲「小さな春より『水』」、昨年来流行の「紅蓮華」を演奏して箏という楽器を身近に感じていただくことができたと思います。

コーディネーターから

４・５年生で異なる曲を演奏し、それぞれ発表というところまで行きつくことができました。５年生は３人１組、４年生は２人１組での体験となりましたが、同じチームの１人が体験している間、ほかの子どもたちが教え合っている姿が印象的でした。講師の演奏後は、皆さん自分の言葉で感想を言ってくれ、箏の魅力を知るきっかけとなったと思います。音楽の先生のフルートとアーティストの箏の共演も、和と洋の楽器でこういう演奏もできるんだという興味にもつながったのではないかと思います。

先生から

未知のものに出会うということはとても刺激的で、これ以上ない学びにつながると考えます。今回の箏体験で、子どもたちは箏に触れ、和楽器の音色の美しさに気付きました。そして何より、本物のアーティストと関わる機会を得ることができました。真剣に何かに打ち込んできた人から学ぶことは多く、とても貴重です。一人ひとりが直接話した時間は短かったかもしれませんが、子どもたちはアーティストとの触れ合いの中で達成感や充実感を得られたようでした。この経験をきっかけにして、自分の興味や関心をさらに広げ、より自主的に物事に関わっていく気持ちを育てていってくれたらと考えています。

子どもたちから

わたしたちは右手だけ使ったけど、アーティストの先生は左手も使って演奏していてすごかった。／頑張って練習して、曲が弾けたときとてもうれしかったので、またやってみたい。／私はバイオリンを習っていて、バイオリンと箏の共通点を見付けられてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立千秀小学校＋関内ホール 雅楽のコンサート

担当アーティスト	真鍋尚之（作曲家、雅楽演奏家）
実施校	千秀小学校（栄区）
コーディネート	横浜市市民文化会館関内ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／雅楽／4～6 学年 4 学級 122 名
実施日程	2021 年 12 月 7 日(火)

授業のねらい

鑑賞と体験を通して、小学生のうちに古典の良さをじっくり知ってもらい、伝統音楽に関心を持つようにしてもらいたい。また、アーティストの生の活動に触れることにより、芸術を身近に感じ、豊かな感性を育んでいきたい。

主な内容

雅楽の体験とコンサート

アーティストから

ＣＤや映像などでは分からない音色や雅楽の持つ間合いや音楽性を、しっかりと感じてもらえることに重点を置いて行いました。子どもたちは音楽としての美しさに柔軟に反応していました。また、太鼓などの体験、プロの演奏家との実演の体験は身体にスイッチが入り、目の色が変わり、生まれ持った感性に反応し、その後の聴き方、集中力が変わっていきます。また、なじみのない篳篥（ひちりき）の演奏に感激したなどの子どもたちの感想が、演奏家にとっては励みになりました。

コーディネーターから

雅楽という子どもたちにとってはなじみのないコンサートでしたが、色彩溢れる太鼓や衣装など含めて子どもたちは先入観なしに音楽を楽しんでいました。また今回のコンサートの前に、６年生は Youtube で勉強して、国語の「日本文化を発信しよう」という学習から英語の授業でも雅楽について説明するなど、１回のコンサートにとどまらない取組をするなど、学校側のサポートが素晴らしく、楽器の搬入片付けそのほか、先生方が一丸となって主体的に取り組まれていることが印象的でした。

先生から

子どもたちにとって日本古来の伝統音楽である「雅楽」の演奏を実際に生で聴けたこと、そして歌やリズム打ちを楽しく体験できたことは、とても貴重な経験となりました。雅楽の笙や篳篥（ひちりき）、かつて楽太鼓といった一つひとつの楽器の音色の響きや美しさ、身体に伝わってくる音の振動の迫力にすごさを感じて、感動する児童が多くいました。また、雅楽に触れたことで、日本の歴史や伝統芸能について興味が深まり、もっと考えていきたいと思いをもつ児童の姿もあり、たいへん有意義な芸術鑑賞会になりました。

子どもたちから

楽太鼓を聴いたとき、体がぶるぶるふるえるほど迫力があり、感動した。／壮大な音と響きで、ここが学校だということを忘れて聴き入った。／雅楽を初めて聴いて、和風の音が印象に残った。／日本唯一の音色や楽器の形、色など初めて触れた物がたくさんあった。／真鍋さんのお話を聞いて、はっと気付かされ、歴史が好きだから日本文化をもう一度考えてみようと感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立伊勢山小学校＋横浜みなとみらいホール 雅楽に触れてみよう

担当アーティスト	伶楽舎（雅楽演奏団体）
実施校	伊勢山小学校（泉区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／雅楽／6 学年 2 学級 48 名
実施日程	2022 年 1 月 18 日(火)、2022 年 1 月 19 日(水)、2022 年 1 月 20 日(木)

授業のねらい

雅楽の演奏や楽器に触れる機会を持つことで、その良さや特徴を感じ取ったり、わが国や諸外国文化を尊重する気持ちを養ったりする。

主な内容

＜１日目＞「越天楽」唱歌と鞨鼓・太鼓・鉦鼓の体験（クラスごとに実施）。＜２日目＞「陵王乱序」の鞨鼓・太鼓・鉦鼓の体験と陵王出手の舞の体験（クラスごとに実施）。＜３日目＞越天楽唱歌と打楽器、陵王乱序の舞と打楽器をクラスごとに発表。最後に講師による演奏と舞を鑑賞

アーティストから

感染防止のため管楽器の体験が行えなかったことから、「越天楽」については唱歌と打楽器を組み合わせて体験し、「陵王」については出手の舞と打楽器を組み合わせて体験しました。どちらも全員がどれか１つの打楽器を体験することができ、そのリズムに合わせて歌ったり舞ったりすることで、雅楽合奏の楽しさの一端を味わうことができたと思います。日を追うにつれて子どもたちが慣れて体験を深めていく様子が見えましたし、最終日にクラスごとに発表するという目標もあって熱心に取り組んでくれました。コロナ禍になる前には必ず行っていた、管楽器（笙・篳篥（ひちりき）・龍笛）の体験ができない中、今回のプログラムは初めての試みとなりましたが、充実感・達成感のある体験ができたように思います。

コーディネーターから

管楽器の体験ができない中、管楽器は鑑賞として体験し、そのほかの雅楽の要素をひと通り体験できるプログラムとなりました。積極的に取り組んでくれる子どもたちが多く、また細かく時間を区切って、唱歌、打ちもの、舞と、次々と体験するプログラムということもあり、子どもたちを飽きさせない内容をアーティストが考えてくださり、充実した内容となりました。

先生から

子どもたちが本物の演奏を聴いたり、演奏体験をしたりする活動を通して、わが国や諸外国の文化を尊重する気持ちが育ったと感じます。心に残る良い体験となりました。

子どもたちから

楽器の体験が楽しかった。／舞が心にのこった。／どうしたらみんなで合わせて上手に楽器をたたいたりひいたりできるのか気になった。／これから雅楽を見聞きするときは、興味を持って見たり、実際に聞いたりしたいと思った。／がっきのことをたくさんしれてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立中和田小学校＋テアトルフォンテ
日本の伝統音楽である雅楽の良さや面白さ美しさを味わおう

担当アーティスト	真鍋尚之（作曲家、雅楽演奏家）
実施校	中和田小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／雅楽／6 学年 4 学級 123 名
実施日程	2021 年 11 月 25 日(木)、2021 年 12 月 6 日(月)、2021 年 12 月 7 日(火)

授業のねらい

日本古来の音楽の１つである「雅楽」について唱歌を歌ったり代替楽器で打ち方を学ぶことで雅楽の「間」や「雰囲気」を体験し、日本の伝統文化への興味を深める。さらには本物の楽器を使用して打物の体験をしつつ、実際にどのように演奏されているかを鑑賞する。「雅楽」を入口として、わが国の伝統音楽を尊重する心を育てる。

主な内容

＜１日目＞３時間目３組、４時間目２組：笙について知り、実際の音色を聴く。唱歌や代替楽器を使い、雅楽の間を体験する。＜２日目＞３時間目１組、４時間目４組：笙について知り、実際の音色を聴く。唱歌や代替楽器を使い、雅楽の間を体験する。＜３日目＞３時間目・４時間目４クラス合同：雅楽演奏家による演奏の鑑賞。本物の楽器で演奏家との合奏体験。

アーティストから

雅楽の歴史や楽器の構造や特徴などを説明。伝統的なやり方で唱歌（雅楽の楽器を習得するために習う歌）を歌い、打楽器のリズムをたたくことにより越天楽の音楽的構造をまず理解してもらった。ＣＤや映像などでは分からない音色や雅楽の持つ間合いや音楽性をしっかりと感じてもらえることに重点を置いて行った。超一流の演奏家たちによる演奏で、生でしか伝わらない音楽を経験し、また本物の楽器で一緒に演奏することで体感できたことは、雅楽を内面から感じ取るという意味で意義深いこととなったと思う。

コーディネーターから

緊急事態宣言は解除されていましたが、換気、消毒を徹底した上で行いました。１日目と２日目は音楽室にて１クラスずつ笙について学び、唱歌や代替楽器を使って雅楽の間を体験しました。３日目は体育館にて４クラス合同の鑑賞会を行いました。アーティストからの問いかけにも積極的に意見が挙がり、また笙の音色を初めて聴いた時の驚きとともに惹きつけられるように見入っている姿が印象的でした。鑑賞会ではどのように演奏しているのかのぞき込む姿も見られました。また楽器体験では、多くの児童から手が挙がり、プロの演奏家たちとの合奏の後、照れながらも満足そうに戻っていく様子から、雅楽への興味を深めてくれたと実感しました。

先生から

昨年度から引き続き、真鍋先生の雅楽の授業をしていただきました。真鍋先生のたおやかな立ち居振る舞いがすでに芸術でした。子どもたちは日本の伝統文化を身近に感じ、誇りを持っている様子が見られました。コーディネーターの方も、細かく連絡をくださりありがたかったです。越天楽をＣＤでかけると学習したことを生かした発言があり、成長を感じました。

子どもたちから

雅楽はオーケストラなどの西洋の音楽とはちがいゆったりして豪かな感じの音楽だった。／雅楽の演奏を聴いて、他の人との協力・れんけいが大事だと思った。／同じようなリズムのくり返しだけど、きいていてあきない、引き込まれるような力があった。／習い事で空手をやっているけど、礼ぎ作法がほとんど同じことに気が付いた。／この体験で雅楽に興味が持てたし、もっと日本独自の文化と交流していきたいなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立二つ橋小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう４

担当アーティスト	善竹十郎（大蔵流狂言師）、善竹大二郎（大蔵流狂言師）
実施校	二つ橋小学校（瀬谷区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 79 名
実施日程	2022 年 1 月 24 日(月)

授業のねらい

これまで知らなかったことを知り、この体験を通して自分の良さに気付いたり、自己表現ができるようになったりする力を身につけさせたい。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ　④質問コーナー

アーティストから

積極的に参加してくれてとても良かった。ワークショップではのみ込みが早く、発声も姿勢もとても素晴らしかった。今後の授業でこの経験をぜひ生かしてもらいたい。質問ではとても良い着眼点の質問をもらい、狂言のことをもっと知りたいという気持ちが感じられ、たいへんうれしく思った。

コーディネーターから

狂言は演劇のように背景も音響も大道具も一切ありませんが、ないものをしっかり想像して楽しく見ることができていたと思います。ワークショップでは狂言での動物の鳴きまねなどを体験し、さまざまな表現方法があることを学んでいただけたと思います。

先生から

これまでは、教科書で扱う「柿山伏」をＤＶＤで見せて、実際に演じてみるという学習をしてきました。今回、本物の狂言を鑑賞できたことで、子どもたちは発声の仕方、からす・とび・さるの動きの鳴きまねのイメージが湧いたなどという感想をもちました。そろりそろり…という足の運び方も、ＤＶＤでは気付けなかったという感想もありました。本物の力の素晴らしさに子どもたちは感動し、この授業の後の表現力が格段に上手になったと感じました。

子どもたちから

映像で見るより、実際に見た方がさらに迫力を感じた。／狂言は難しいものだと思っていたけれど、狂言師さんが分かりやすく、面白く教えてくれたので、とてもよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立三ツ境小学校＋岩間市民プラザ
箏の体験と鑑賞～「さくらさくら」を弾いてみよう～

担当アーティスト	奥田雅樂之一（生田流箏曲・地歌三弦演奏家、作曲家）
実施校	三ツ境小学校（瀬谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 3 学級 107 名
実施日程	2021 年 12 月 13 日(月)、2021 年 12 月 14 日(火)、2021 年 12 月 15 日(水)

授業のねらい

体験を通して、和楽器の演奏を教え合いながら学んでいければと考えている。また、聴き合いの活動を取り入れ、友達の良さにも気付いてもらいたい。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞箏の説明・歴史・講師による「さくら」演奏・箏の体験（さくら）・講師による演奏（鑑賞）（各日、１クラスずつ実施）。

アーティストから

６年生を対象に日本伝統芸能箏曲の授業を行いました。授業の導入部では楽器の構造、伝来経緯のアウトラインの説明をし、体験では「さくら」を教材とした実技を講義しました。集中を切らすことなく、児童全員が１曲を弾き終えることが達成されました。

コーディネーターから

１クラスを２チームに分け１時間１チームで３クラス３日間実施しました。子どもたちの箏に触れる時間を多く取る、また密を避けるために 10 面用意しました。２人１組で「さくら」を弾けるよう、講師の説明をしっかり聴き、箏に向き合っていました。練習の時は、お互いにフォローしながら取り組んでいたことは、目標である教え合いながら学ぶ、聴き合いの活動を取り入れ、友達の良さに気付いてもらうことは、ほぼ達成できたと思います。担当の先生、３人の講師からは熱心な指導をいただきました。

先生から

６年生の箏の体験・鑑賞の授業を通して、この後学習する雅楽「越天楽今様」との関連が強いと感じました。講師の先生から雅楽にも触れていただき、とてもありがたかったです。子どもたちも興味を持って取り組むことができました。コーディネーターの方も事前に細やかにご連絡いただいたのでスムーズにすすめることができました。

子どもたちから

自分で「さくら」を弾くことができたので、すごくうれしかった。もっと新しい曲にも挑戦してみたいと興味を持った。／箏がやく 1300 年前から日本に伝来したことを知り、昔のものを大切にする日本の文化はすごいなと思った。／箏をひくのがすごく楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南瀬谷小学校＋民族歌舞団 荒馬座
日本のリズムを体験しよう２

担当アーティスト	民族歌舞団 荒馬座（演技者）
実施校	南瀬谷小学校（瀬谷区）
コーディネート	民族歌舞団 荒馬座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／和太鼓／4 学年 4 学級 121 名
実施日程	2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 15 日(月)、2021 年 11 月 26 日(金)

授業のねらい

授業で和楽器や日本の楽器を学ぶ学年なので、和太鼓に直接触れ、それを通してリズムの楽しさや友達と一緒にたたく楽しさを味わってもらう。２日間で太鼓の基本（バチの握り方、構え方）～座員の笛・小太鼓・鉦に合わせてお囃子を完成させる。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞和太鼓について知る、バチの握り方からたたく姿勢など太鼓の基本を楽しく学ぶ（各日、２クラスずつ実施）。＜３日目＞思いっきり楽しくたたく！クラスのお祭りをつくる（クラスごとに実施）。

アーティストから

触れる機会の少ない太鼓になるべく多く触れてもらいたい、たたくとどんな音が出るか感じてもらいたいと臨みました。子どもたちも楽しんで、たたくごとに音が大きくなっていました。クラスごとに２回できたので、たたく姿も大きくなり身体をたくさん動かして楽しんでいました。特に今年度は新型コロナウイルス感染症のこともあり、みんなで１つのお囃子を作る作業が楽しかったようで、最後はクラスのお祭りができ、楽しかった！という声をたくさん聞くことができました。

コーディネーターから

和太鼓は全身運動になり、特にこのお囃子は、たたきながら踊るという要素が含まれているので、どんどん元気になっていく様子が見られました。また互いに見合う中で友達の上達を評価している様子もあり、クラスのチームワークなども感じることができました。各クラスで作ったお祭りはとても楽しそうでした。

先生から

昨年度に引き続き、荒馬座の方々に来ていただきました。このコロナ禍で思い切り何かをすることが少なくなった子どもたちには、今回の授業はとても貴重な経験となりました。４年生の音楽では、日本全国のお祭りやお囃子のリズムについて学習します。地域的にいろいろなお祭りを知らない子どもたちにとって、和太鼓を通して日本文化に触れることができ、本当によかったです。

子どもたちから

クラスのお祭りができて、すごく楽しかった。／教えてくれた人たちは、とてもたたくのが上手でおどろいた。／やっぱりお祭りっていいな、お祭りに行きたいな～と思った。／荒馬座の人が「上手だね。」ってほめてくれて、すごくうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立瀬谷さくら小学校＋岩間市民プラザ 箏と尺八の演奏を聴いてみよう

担当アーティスト	米澤浩（尺八奏者、米澤熊沢邦楽研究所）、熊沢栄利子（箏奏者、米澤熊沢邦楽研究所）
実施校	瀬谷さくら小学校（瀬谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／6 学年 2 学級 61 名
実施日程	2021 年 12 月 10 日(金)

授業のねらい

音楽のプログラムで楽しく夢中に活動する中で、「表現って楽しいな」と一人ひとりが実感できるようになってほしい。

主な内容

邦楽鑑賞（箏・尺八）

アーティストから

今回の瀬谷さくら小学校での鑑賞型アウトリーチは、ご担当の先生が以前、希望が丘小学校で「体験型ワークショップ」を実施した際にご担当いただいていたため、われわれのミニコンサートの内容もよくご存知であり、受け入れ態勢も万全でした。６年生２クラス 61 名対象の「鑑賞プログラム」（45 分）を体育館で実施したため、演奏者と児童の距離、児童同士の間隔も十分に確保できたことはもちろん、この人数規模であれば児童全員から演奏者の細かな動きなども見え、またアイコンタクトも全体に行き渡る規模だったので、非常に有意義な事業実施となりました。

コーディネーターから

演奏を集中して鑑賞する子どもたちの真剣なまなざしが印象的でした。講師も学校の先生も感染予防に留意しながらも、体育館を十分に暖めてくださるなど、お互いに思いやり、温かな雰囲気で実施できました。これまで同じプログラムは音楽室で行っていましたが、体育館でも変わらず美しい音色を子どもたちに聴いてもらえることができました。

先生から

本物と生の音楽に触れることは、とても大切だと思っています。

子どもたちから

生の演奏がきけてよかった。／アニメの曲の演奏がよかった。／日本の文化を体験できた。／尺八とことの音が組み合わさるとこんなにもすてきな音色になるんだなと思った。／しゃくはちはふくだけで、難しいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立蒔田中学校＋吉野町市民プラザ
お箏に触れてみよう

担当アーティスト	奥田雅樂之一（生田流箏曲・地歌三弦演奏家、作曲家）／アシスタント：北川雅楽乃（地歌三弦・生田流箏曲演奏家）、新見雅晃（地歌三弦・生田流箏曲演奏家）
実施校	蒔田中学校（南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／箏／夜間学級 12 名
実施日程	2021 年 11 月 17 日(水)

授業のねらい

総合的な学習の時間のテーマを「国際理解」とし、自国の文化を紹介したり、日本の伝統文化を知る・体験する経験をしたりすることを通じて、表現力や感受性を高めることがねらいです。

主な内容

お箏の基本を学習しテーマ曲「さくら」を通して練習。さくらの発表会を行い、後に講師のミニ演奏会。

アーティストから

夜間学級の授業で、対象者は外国籍の方と中高年の生徒でしたが、言語など特別な配慮をすることもなく、授業前半では箏曲の歴史、楽器の構造などについて講義をし、後半は実技の指導を行うことができました。教材として用いた「さくら」の旋律を知らないであろう外国の方も含めて、全曲演奏しました。生徒一人ひとりが貴重な体験をしたという印象です。

コーディネーターから

学校には以前からお箏があり、事前学習をしてくださっていたので、生徒の皆さんにも抵抗なく楽器に触れていただき、体験してもらえました。多くの先生・職員の方々にもお手伝いいただき、内容も分かりやすく伝えていただくことができました。実技では演奏する楽しさを感じてもらい、講師の演奏会では日本伝統の音楽の美しさを体験していただけたと思います。音楽には言語・国籍などを超えて、感動を与える力があることを実感いたしました。

先生から

夜間学級の生徒は半数以上が外国につながる生徒で、総合的な学習の時間のテーマを国際理解に設定しています。日本に暮らしながらも、伝統的な日本文化に触れることがほぼない現状で、たいへん貴重な経験となりました。鑑賞だけでなく体験も入れていただき、先生方の演奏がいかに難易度の高いことであるか、驚きながら真剣に鑑賞していました。心が穏やかになるような演奏でした。

子どもたちから

実際に見て、触って、演奏したのが初めてだった。とても良い経験になった。／胡弓がどうやって音が出ているのか不思議だった。／私の人生、今回の体験は一度しかないかもしれないと思う。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南が丘中学校＋吉野町市民プラザ よさこいを踊ろう

担当アーティスト	近藤一美（振付家、ダンサー）
実施校	南が丘中学校（南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／よさこい／2 学年 5 学級 155 名
実施日程	2022 年 3 月 17 日(木)

授業のねらい

修学旅行で体験や鑑賞を行う上で、事前学習の一環として、また総合学習の表現力・創造力・言語能力・学習の一環として取り組めたらと考えています。

主な内容

「横浜い～じゃん」の練習・発表および講師オリジナルよさこい実演

アーティストから

今回の授業は１日での実施だったため、よさこいの楽しさをどこまで伝えられるか、大きなチャレンジでした。横浜のよさこいの歴史や魅力について話をしてから、体験授業に入りました。生徒の皆さんは、集中力が最後まで途切れることなく、難しい部分も直ぐに覚えてくれました。最後に全員法被を着て、グラウンドで発表会をしました。全くリードの言葉を発せずとも、しっかり踊っていることに驚きました。今回の体験を通じて、喜びや感情など自分を表現することにチャレンジし形にできたことで、自信や心が動くものがあったとしたら、私もうれしい限りです。

コーディネーターから

１日２時限だけの授業でしたが、単なる鑑賞だけではなく、課題曲の「横浜い～じゃん」を通して踊れるようにプログラムを組んでいただきました。休み時間には踊りを教えてもらいに来る生徒さんもいて、とても興味を持っていただけました。最後の発表会では、全員で合わせて一緒に踊れるようになり、皆さんの覚えが早いことには驚かされました。はじめて「よさこい」を体験し、今まで知らなかった伝統文化を楽しんでいただけたと思います。

先生から

教員以外の方の指導は新鮮でインパクトがあります。生徒のいろいろな可能性を見つけることができるきっかけになりました。コーディネーターの方にもいろいろと動いていただけてありがたく感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東俣野特別支援学校＋さくらプラザ 津軽三味線の音色を感じよう

担当アーティスト	栗原武啓（津軽三味線奏者）
実施校	東俣野特別支援学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／津軽三味線／全学年全学級 31 名
実施日程	2021 年 10 月 25 日(月)、2021 年 10 月 26 日(火)

授業のねらい

外出することが難しい児童生徒も多く、また感染症防止の観点からも校外行事が制限されているため、「本物」に触れる機会が少なくなっている。そのため、普段触れる機会の少ない生の演奏を届けたい。特に、これまで継続をしてきた和楽器の演奏を体験することで、児童生徒の気付きが起きたり、感受性が育まれたりするきっかけになると良い。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞津軽三味線の鑑賞（１日目に小学部１クラス・中等部、２日目に小学部２クラス・高等部で実施）。

アーティストから

昨年に引き続き、東俣野特別支援学校での演奏をさせていただきありがたく思っております。昨年聴いてくれた子どもたちが今年も聴いてくれて、津軽三味線の音に反応して身体が動いて楽しんでいるのを表現してくれたり、ポップス曲を三味線で弾くのに合わせて一緒に口ずさんでくれたりと、子どもたちの反応も明らかに昨年より良くとてもうれしく思いました。日本人でもなかなか生で聴くことの少ない津軽三味線を、また目の前で聴いて貰えたらうれしく思います。

コーディネーターから

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、感染状況の悪化のため一度延期をするなどイレギュラーな対応も求められました。そのような中でも、津軽三味線の生の音を目の前で鑑賞・体験していただけたのは価値のあることであったと感じます。伝統的な民謡から耳なじみのある曲などが演奏されました。音だけでなく技法にも注目して鑑賞していたようで、児童の皆さまはそれぞれの方法で、普段なかなか聴けない音楽を肌で感じていました。

先生から

２年連続、同じ演者さんによる津軽三味線の生演奏鑑賞ということで、児童生徒の記憶にも残っていたのか、昨年度よりもリアクションが良かったように感じました。“積み重ね”の大切さ、良さを実感できました。新型コロナウイルス感染症拡大での緊急事態宣言により、外部の方との関わりや行事が制限される中、唯一の行事と言っていい、この学校プログラムが実施できたことは、子どもたちに「いろいろな経験をさせてあげたい」という教員の思いを実現できるものでした。Ｊ-ＰＯＰ曲のリクエストや耳なじみのある音頭曲をプログラムに組み込んでいただけたことで、初めて三味線の音に触れたであろう小１の児童も、たいへん楽しむことができました。次年度以降、社会状況にもよると思いますが、実際に楽器に触れるなどの体験もできるようになるといいな…と思いました。ぜひ、次年度もお願いしたいです。

子どもたちから

じっくり近くで楽器を見たり、触ってみたりしてみたかった。／初の三味線の音だったが、受け入れて楽しむことができた。／迫力のある音がとても楽しかった。／他の曲も聴いてみたい。／演者さんと話ができたことで三味線に興味を持つことができた。

スクール オブ ダンス

School of Dance Project

事業実施報告書

アーティストが学校へ

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

【概要】

プロのアーティストが横浜市の学校に出向き、授業を通して自由な発想を導き、豊かな感性を育てる「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」。2021 年度は横浜市のダンスフェスティバル、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動し【体験型スペシャル版】として実施回数を増やし、ダンスプログラムを拡充。50 日間にわたり、8 人のアーティストが市内 9 校で 549 名の子どもたちとともに身体と向き合い、創造性を育む活動を行いました。

【取組校と担当アーティスト】

区	学校名	学年・対象	担当アーティスト
鶴見	平安小学校	個別支援学級	森下真樹 （アシスタント：宮崎あかね、酒井直之）
南	太田小学校	3 年生	中村恩恵 （アシスタント：愛智伸江）
南	南小学校	個別支援学級	黒田育世 （アシスタント：岡田玲奈／音楽家：松本じろ）
港南	日限山小学校	個別支援学級	アオキ裕キ （アシスタント：西篤近／音楽家：薄井信介）
保土ケ谷	川島小学校	4 年生	小野寺修二 （アシスタント：藤田桃子）
港北	師岡小学校	3 年生	Co.山田うん（川合ロン） （アシスタント：山口将太朗、山根海音）
戸塚	倉田小学校	5 年生	東野祥子 （アシスタント：矢島みなみ）
栄	豊田小学校	個別支援学級	白神ももこ （アシスタント：北川結）
保土ケ谷	ろう特別支援学校	高等部	アオキ裕キ （アシスタント：西篤近、木村愛子／ 音楽家：薄井信介、伊澤陽一、菅又健）

【アーティスト】

森下 真樹｜振付家・ダンサー

幼少期に転校先の友達作りで開発した遊びがダンスのルーツ。これまでに10か国30都市以上で作品を上演、様々な分野のアーティストとコラボし活動の場を広げる。2017年より自身のソロ「ベートーヴェン 交響曲第5番『運命』全楽章を踊る」（振付：MIKIKO、森山未來、石川直樹、笠井叡）を展開。100人100様をモットーにワークショップや作品づくりを行う。周囲を一気に巻き込み独特な「間」からくる予測不能、奇想天外ワールドが特徴。2014年第8回日本ダンスフォーラム賞を受賞。

中村 恩恵｜振付家・ダンサー

ローザンヌコンクールにて賞受賞後、渡欧。モンテカルロ・バレエ団等を経て、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターに所属し、世界を牽引する振付家達の創作に携わる。退団後は、キリアン作品のコーチも務め、世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。07年より活動拠点を日本に移し振付家としての活動を展開。Noism、Kバレエ、新国立劇場バレエ団等に作品を提供する。芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章等受賞多数。

黒田 育世｜振付家・ダンサー

6歳よりクラシックバレエを始め、1997年渡英、コンテンポラリーダンスを学ぶ。2002年BATIKを設立。バレエテクニックを基礎に、身体を極限まで追いつめる過激でダイナミックな振付は、踊りが持つ本来的な衝動と結びつき、ジャンルを超えて支持されている。BATIKでの活動に加え、金森穣率いるNoism05、飴屋法水、古川日出男、笠井叡、野田秀樹、串田和美など様々なアーティストとのクリエーションも多い。

アオキ 裕キ｜振付家

タレントのバックダンサー業などを経て「日々生きることに向き合わざる得ない体」を求め、2005年より路上生活経験者を集めダンスグループ「新人Hソケリッサ！」を開始。2004年NEXTREAM21最優秀賞受賞、コニカミノルタソーシャルデザインアワード2016グランプリ受賞。活動を追ったドキュメンタリー映画「ダンシング・ホームレス」全国上映中。

小野寺 修二｜演出家

カンパニーデラシネラ主宰。日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。1995年～2006年パフォーマンスシアター水と油にて活動。その後、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として１年間フランスに滞在。帰国後カンパニーデラシネラを立ち上げる。マイムの動きをベースにした独自の演出で注目を集めている。野外劇や学校巡回公演など、劇場内にとどまらないパフォーマンスにも積極的に取り組んでいる。第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞。2015年度文化庁文化交流使。

Co.山田うん（川合ロン）｜ダンスカンパニー

山田うんが 2002 年に設立。繊細かつ生命力あふれるダイナミックなダンスは世界各地から注目され、国内外で公演。また、全国各地の劇場、学校、福祉施設におけるワークショップで心身の育成にも貢献している。川合ロンは 2008 年より Co.山田うんのメンバー、全公演に出演。アウトリーチでは、全国各地でワークショップを行っている。その他、国内外で活躍する振付家や演出家のダンス作品、ミュージカル、オペラ、演劇、映画、MV 等に多数出演。

東野 祥子｜振付家・ダンサー

90 年代後半より舞台芸術から音楽シーンなど、様々な形態にて身体性を駆使した作品を発表。現在はジャンルレスなアーティストの集合体として総合舞台芸術を創造する ANTIBODIES Collective を主宰し、国内外にて活動する。ダンサー育成 WS や学校、福祉施設へのアウトリーチ、地域の活性化に根ざしたコミュニケーションワークも積極的に行う。トヨタコレオグラフィーアワード、横浜ダンスコレクションソロ・デュオ〈Competition〉など受賞。

白神 ももこ｜振付家・演出家・ダンサー

衣装デザインや保育士、イラストレーター、バリスタなど多彩なパフォーマー達で構成されたダンス・パフォーマンス的グループモモンガ・コンプレックスを主宰し、ダンスを用いて普段の生活の中の些細なできごとや個人史、願望などに着想した作品を創作し活動している。2017-2018 年度セゾン文化財団ジュニアフェロー。現在、劇作家・演出家の田上豊氏と共に富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督を務める。

【コーディネーター】

NPO 法人 Offsite Dance Project（オフサイト・ダンスプロジェクト）

Offsite（オフサイト）は、「日常の場を離れて」の意。Offsite Dance Project は、劇場以外のさまざまな場所でダンスを軸としたパフォーミングアーツを推進するチームとして 2008 年 3 月に結成。2009 年 6 月 NPO 法人設立。公共交通機関や近代建築、美術の建物資産、商業空間、ストリートなど、横浜を拠点に国内外の都市空間で、多分野のアーティストによるアクセスビリティの高いプロジェクトを企画・制作。また、2009 年より、アート教育のコーディネートを実施し、パフォーミングアーツの普及に取り組んでいる。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立平安小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス１

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	森下真樹（振付家、ダンサー）／アシスタント：宮崎あかね、酒井直之
実施校	平安小学校（鶴見区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 30 名
実施日程	2022 年 2 月 9 日(水)、2022 年 2 月 14 日(月)、2022 年 2 月 16 日(水)、2022 年 2 月 21 日(月)、2022 年 2 月 24 日(木)

授業のねらい

振付家・ダンサーの森下真樹による体験型ワークショップを５日間行い、コンテンポラリーダンスをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。最終的に、本活動をまとめた映像作品を制作し、学校内外で公開。

主な内容

＜１日目＞自己紹介ダンス～まねっこダンス～ペアワーク～ディスタンスの踊り～紙ヒコーキ　＜２日目＞ウォーミングアップ～まねっこダンス～ディスタンスの踊り～ペアワーク～月のダンス　＜３日目＞ウォーミングアップ～ディスタンスの踊り～月のダンス～紙ヒコーキ～まねっこダンス～太鼓ゲーム　＜４日目＞ウォーミングアップ～通し・収録リハーサル　＜５日目＞ウォーミングアップ～収録本番～自由ダンス！

アーティストから

平安小学校の子どもたちは、ボールを１個投げたら 100 個返ってくるようなパーっと明るく感情表現が豊かでした。事前の質問カードでインタビューしていた返事をヒントに、アイデアを拾って広げながら、発散するようなダンスや、イメージして動くゆっくりなダンスなど挑戦してもらいましたが、どれも好奇心を持って参加してくれました。時間を積み重ねるごとに心とからだの距離が縮まり、30 人それぞれの楽しみ方があることを感じました。初回隅っこにいた子がいつの間にか常に私の横にくっついてガンガンに踊っていました。先生方のフォローが行き届いていたので、子どもたちの小さな反応にも気付きながら進行することができました。きっともっともっと小さい、目に見えない反応があるのだろうと思います。映像配信となりましたが、楽しく達成感のある時間でした。また多くの子どもたちにこのような機会を増やしていただきたいです。

コーディネーターから

今回当法人初となる平安小学校の個別支援学級では、ワークショップ経験豊富な森下真樹さんに担当していただきました。公開授業の代わりに映像作品の制作を目標に据えて、子どもたちの動きや考えをもとに活動を作っていくこと、楽しみながら身体をたくさん動かすことの素晴らしさを体験してもらおうという内容です。事前に森下さんから子どもたちにお手紙や質問カードの応答もあって、初日の緊張もほぐれたようでした。コロナ禍の日常をダンスにした「ディスタンスの踊り」や「月のダンス」、子どもたちが大好きでアンコールをせがむほど。今回当法人初となる学校でしたが、先生方も一緒に楽しんで場の雰囲気を作ってくださり、他の教科との関わりなど本活動を日々の教育活動に結び付けてくれたことでたいへん充実した活動になりました。

先生から

アーティストとコーディネーターと密に連絡を取ることができ、安心して取り組むことができました。アーティストの方からは、事前にすてきな自己紹介を送っていただき子どもたちもワクワクした気持ちで当日を迎えることができました。実際の授業では、一人ひとりの発言や動きを丁寧に拾ってくれたり、声を掛けたり、事前に子どもたちに取ったアンケート結果をダンスに取り入れたりと、子どもたちみんなが楽しめるような工夫をしていただいたことに感動しました。授業の盛り上げ方も素晴らしく、普段見られないような生き生きとした笑顔を見られてよかったです。また、適度な時間でさまざまな表現を取り入れてくれたので、子どもたちが飽きずに取り組めました。そのほか、言葉を付けながらのダンスがとても分かりやすい上に楽しいダンスで、子どもたちも大人もノリノリで踊ることができました。今回の取組を通して、個別支援学級では外部講師を呼ぶことが初めてでどうなるかと思っていましたが、臆することなくすぐに親しくなれていたので、いろいろな方と関わることは社会性を育むためにとてもよいことであると感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立太田小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス２

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	中村恩恵（振付家、ダンサー）／アシスタント：愛智伸江
実施校	太田小学校（南区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 2 学級 45 名、公開授業参加者 50 名
実施日程	2021 年 11 月 25 日(木)、2021 年 11 月 30 日(火)、2021 年 12 月 2 日(木)、2021 年 12 月 7 日(火)、2021 年 12 月 9 日(木)、2021 年 12 月 14 日(火)

授業のねらい

横浜出身で世界規模で活躍している振付家・ダンサーの中村恩恵による体験型ワークショップを６日間行い、クラシックバレエをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。最終日に公開授業を行う。

主な内容

＜１日目＞ストレッチ、「くるみ割り人形」のマーチの練習、即興など（クラスごとに実施）＜２日目＞ストレッチ、マーチの復習と新しいパートの練習、絵本「くるみ割り人形」の読み聞かせ（クラスごとに実施）＜３日目＞ストレッチ、マーチの復習と新しいパートの練習、自由な表現、バレエのお話＜４日目＞ストレッチ、マーチの復習と新しいパートの練習、バレエのステップ＜５日目＞ストレッチ、各パートの練習～最後の挨拶、通しリハーサル　＜６日目＞ストレッチ、リハーサル、パフォーマンスの発表

アーティストから

今回は「くるみ割り人形」をテーマに選び、舞踊を様々な角度から体験してもらうように努めました。チャイコフスキーの美しい音楽に乗って楽しく体を動かしたり、想像力を膨らませて自由に表現したり、バレエのステップに挑戦したりしました。また静かに音楽に耳を傾ける時間や、「くるみ割り人形」の絵本の読み聞かせの時間を持ちました。ダンスによりエネルギーを発散した後に、静かに耳を澄ませることで子どもたちの集中力が一気に高まりました。最終回の発表では、皆が最後のレベランス（大いなるものへの感謝と畏敬の念を込めたバレエのお辞儀）まで心を込めて演技をしてくれました。ダンスを通じて子どもたちの心に触れることができ、私自身も人間の機微に関する豊かな学びの時間をいただきました。いつか、小学生の皆さんに「くるみ割り人形」の観劇体験をプレゼントしたいと心から願っています。

コーディネーターから

横浜市芸術文化教育プラットフォーム初体験の太田小学校では、子どもたちに本物の芸術に出会わせたい！という要望がありました。そこで、横浜出身で世界を舞台に活躍する舞踊家の中村恩恵さんに担当していただきました。テーマは、「くるみ割り人形」。想像力を解放させて育むことと振り付けを覚えてそれを正確に再現すること、その２つの要素を取り混ぜたダンスの基礎運動を軸に、バレエを生み出した国の歴史や劇場文化にも触れて子どもたちの意欲や動機付けにつなげようとしました。日頃の学級作りにおける課題もあり、全員の子どもたちを引き込むことは容易ではありませんでしたが、徐々に子どもたちが落ち着いて参加できるようになりました。ダンスを通じて、中村さんの立ち居振る舞いや言葉の数々、人としての美しい生き方など芸術を深く感じ取る貴重な時間になったと思います。最後の発表では、4 年生も見学参加。中村さんのダンスのプレゼントもありました。

先生から

子どもたちと素敵なアーティストとの出会いが宝物となりました。ダンスに苦手意識のある子も、アーティストからの温かい支援のおかげで安心して活動できており、バレエのステップや言葉からイメージしたことを身体で表現することなど、なかなか経験できない貴重な体験をさせることができました。苦手な子の笑顔がこの貴重な出会いをよく表していたと思います。

子どもたちから

くるみ割り人形を初めて知った。みんなと本番に向けて練習したことが楽しかった。／恩恵さんのダンスを観ることができたのが思い出に残った。／雪の場面や星を追いかける場面が楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立南小学校＋Offsite Dance Project
スクール・オブ・ダンス３

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	黒田育世（振付家、ダンサー、BATIK 主宰）／アシスタント：岡田玲奈、松本じろ
実施校	南小学校（南区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 25 名、公開授業参加者 20 名
実施日程	2021 年 11 月 8 日(月)、2021 年 11 月 10 日(水)、2021 年 11 月 12 日(金)、2021 年 11 月 15 日(月)、2021 年 11 月 16 日(火)

授業のねらい

振付家・ダンサーの黒田育世による体験型ワークショップを５日間行い、コンテンポラリーダンスをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。最終日の公開授業にて成果発表を行う。

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ、クリスマスをテーマにした絵からのイメージとダンス
＜２日目＞ウォーミングアップ、動詞ダンス（音楽と一緒に）、新聞紙で衣装をつくる、振り返り
＜３日目＞ウォーミングアップ、まねっこダンス、新聞紙でドラゴンづくり、振り返り
＜４日目＞ウォーミングアップ、パフォーマンス内容を１つずつ確認、振り返り
＜５日目＞準備・通しリハーサル／発表

アーティストから

１年生から６年生の子どもたちが、ダンスの発表に使う小道具を自分たちで夢中になって作ってくれた姿、とても印象的でした。音楽の歌詞も作ってくれて、振り付けも考えてくれました。みんなの温かいクラフトのダンスの中に、みんなのお母さん方を招き入れ一緒に踊り、たいへん温かい時間を創り上げてくれました。子どもたちが５回の授業の中で、どんどん創造的になってくれたので、私から一度だけお礼のダンスをしたのですが、毎回お礼ダンスをしても足りない、そういう経験をさせてもらいました。

コーディネーターから

横浜市芸術文化教育プラットフォーム初体験の南小学校では、黒田育世さんに担当していただきました。音楽家・松本じろさんもコラボレーターとして参加。クリスマスを主題に、身体だけでなく、音楽や美術の要素も加えた総合的な内容が特徴。最終日には父兄参加の公開授業にて、１つの作品を発表することを目指しました。日頃の学級作りにおける課題もあり、全員の子どもたちを引き込むことは容易ではありませんでしたが、先生方が一緒に集中しやすい環境を整えてくれたことで、徐々に子どもたちが落ち着いて参加できるようになりました。最後の発表では、みんなで作った新聞紙の巨大ドラゴンも登場、子どもたちのダンスにギターの音色も加わってとても素敵な空間となりました。コロナで行事が減る中で、子どもたちにとっても親御さんにとっても心に残る思い出になったと感じました。

先生から

本物のダンサーやミュージシャンの方が来てくれると子どもたちに伝えた時、とても期待感が高まったことを感じました。クリスマスのイラストを描くところから始まって、子どもたちの反応を見ながら、活動できそうなことを考えて企画していただけたことがありがたかったです。また、見栄えのする大きなドラゴンを作っていけたことは、素晴らしいなあと感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立日限山小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス４

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	アオキ裕キ（ダンサー、振付家）／アシスタント：西篤近、薄井信介
実施校	日限山小学校（港南区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 15 名、公開授業参加者 20 名
実施日程	2021 年 11 月 18 日(木)、2021 年 11 月 19 日(金)、2021 年 11 月 22 日(月)、2021 年 11 月 24 日(水)、2021 年 11 月 26 日(金)、2021 年 11 月 29 日(月)

授業のねらい

ダンサー・振付家のアオキ裕キによる体験型ワークショップを６日間行い、コンテンポラリーダンスをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。後半からは音楽家も参加し、最終日の公開授業にて成果発表を行う。

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ、絵のイメージで踊る、踊りを絵を描く　＜２日目＞ウォーミングアップ、絵のイメージで踊る、踊りを絵を描く、言葉のイメージで動く　＜３日目＞ウォーミングアップ、絵のイメージでチェロと踊る、それぞれのダンス　＜４日目＞ウォーミングアップ、絵↹踊り、２人組で動きのキャッチボール、マスク作り　＜５日目＞ウォーミングアップ、絵↹踊り、全体の流れをリハーサル　＜６日目＞ウォーミングアップ、確認／学級発表会「ケモノのおどり」

アーティストから

個別支援学級の子どもたちと踊りを通して触れる貴重な機会に感謝しています。集団の（中にある）身体と個人の身体という視点で子どもたちの踊りを今回観察させてもらいました。必然的に社会という大きな集団と関わる身体は、身を守るためなのか集団に影響されていると感じることが多いですが、子どもたちはみなそれぞれ独自の踊りを立派に持っていて、とても強靭な個々の存在を感じることができました。それと相反するように、そろえることや自身を抑えることは苦手でありましたが、それは集団に依存をしていない身体という証拠でもあり、お父さんお母さんの愛情という安心感があるからこそ生まれる強靭な個々の踊りなのかもしれません。親御さんたちの温かい拍手を目一杯受け頭を撫でられている子どもたちの姿、その景色は今の世の中においてとても大切な景色であったと感じます。

コーディネーターから

今回当法人初となる日限山小学校の個別支援学級は、アオキ裕キさんに担当していただきました。講師たちの原初的な踊りを見せることから始まり、身体と絵を用いたイメージの展開を繰り返すことで、子どもたちが少しずつ自由に踊り出す素晴らしい瞬間。「スゴイぞ！」「ナイス！」とのアオキさんの丁寧な声掛けも後押ししていました。チェロの生演奏やパフォーマンスの小道具としてのマスク作りなど、五感を刺激する多様なアプローチもあり、子どもたちの興味を惹きつけ、最後のパフォーマンスへとつなげていく。最初に参加が難しいと思われる子どもたちも、最後には自分の踊りを披露、確かな成長を感じさせる機会となりました。先生方も一緒にワークを行い、フォローしてくださったことで、とてもいい時間が持てました。

先生から

たいへん素晴らしい授業でした。子どもたちに寄り添った魅力のある学習を展開し、子どもたち一人ひとりの想像力や表現力を引き出していただきました。最終日には発表会をして「ケモノおどり」を保護者の方に見てもらい、子どもたちはとても満足していました。６日間の授業を通して子どもたちの確かな成長が見られたことに、関わってくださった全ての方々に感謝しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立川島小学校＋Offsite Dance Project
スクール・オブ・ダンス５

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	小野寺修二（演出家、カンパニーデラシネラ主宰）／アシスタント：藤田桃子
実施校	川島小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年 3 学級 82 名
実施日程	2022 年 2 月 4 日(金)、2022 年 2 月 7 日(月)、2022 年 2 月 8 日(火)

授業のねらい

マイムの動きをベースにした独自の演出で注目を集める小野寺修二による体験型ワークショップを３日間行い、マイムをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞まねっこ、動きの伝達、鏡と応用編（菱形で動く）、パントマイムに挑戦（各日、１クラスずつ実施）

アーティストから

コロナ感染者数増加の兆しを感じながら、２月頭に保土ケ谷区の川島小学校で４年生３クラス、おのおの２時限 90 分を担当させていただきました。ストーブを焚きながらも体育館のドアは全開の中、子どもたちは終始たいへん前向きで好奇心旺盛、身体を動かす楽しさ、周りと動きを合わせるスリリングさ、目の前で起こることへの想像力を働かせる自発性、自分で手を挙げまた相手の姿勢も尊重する人が多く、このようなコロナの時期、自尊、他尊の時間を持てたことは貴重な時間でした。

コーディネーターから

横浜市芸術文化教育プラットフォームでは今回初のダンスの取組となった川島小学校。新型コロナウイルス感染症拡大による影響で昨年から延期、当初５日間の予定が学年全体での活動を中止して３日間クラス別に実施しました。テーマは、「相手をよく見てまねしてみよう！」。人の動きをじっくり観察してまねっこすることから始まり、２人組から４人組へ、いつの間にかグループごとでオリジナルな表現を生み出していく子どもたち。初めから表現に没頭し、夢中になって取り組めていました。身体によって空間を動かし想像力を刺激してマイムの魅力に引き込んでいくアーティストの手腕はお見事！集中することで静寂を作り出すパントマイム特有の表現力は、アート教育に非常に有効だと思います。

先生から

子どもたちが集中して楽しんでおり、よく見てよく聞いて、まねをしていく中で自分のことや友達のことを知ろう、分かろうとしているのを感じました。アーティストに魅力を感じ、自然と「やってみたい」「できるようになりたい」という思いが引き出されていったのを子どもたちの姿から感じました。

子どもたちから

友達に上手と言われてうれしかった。／この授業でみんなとなかが深まった。／パントマイムはかんたんだと思ってたけど、すこしむずかしくてすごく楽しかった。／友達といっしょにやっているときに自分のことをまねしたり友達のこともまねしたりして楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立師岡小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス６

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	Co.山田うん（ダンスカンパニー／リーダー：川合ロン／アシスタント：山口将太朗、山根海音）
実施校	師岡小学校（港北区）
コーディネート	NPO法人Offsite Dance Project
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3学年5学級210名、公開授業参加者250名
実施日程	2021年12月20日(月)、2021年12月22日(水)、2021年12月23日(木)、2022年1月12日(水)、2022年1月17日(月)、2022年1月18日(火)、2022年1月20日(木)、2022年1月21日(金)

photo：赤木遥

授業のねらい

Co.山田うんによる体験型ワークショップを８日間行い、コンテンポラリーダンスをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。最終日に、近隣の港北公会堂にて発表公開授業を行う。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞ウォーミングアップ、まねっこダンス、色んなイメージで動く、身体でつながる、輪の中心で踊る（各日、クラスごとに実施）＜３日目＞ウォーミングアップ、みんなでつながる、身体でジャンケン、まねっこダンス、振り付けの練習　＜４日目＞ウォーミングアップ、オリジナルのポーズ、輪になって動く、海の生き物になる、振り付けの練習　＜５日目＞ウォーミングアップ、輪になって動く、振り付けの練習、海の生き物になる、集団でウェーブ　＜６日目＞ウォーミングアップ、発表の流れの確認　＜７日目＞港北公会堂にてリハーサル　＜８日目＞港北公会堂にてリハーサル（音響・照明付き）、本番

アーティストから

横浜市立師岡小学校３年生210名を担当させていただきました。多くのアウトリーチ経験の中でも５クラス210名は最多のボリューム感で、全８回で最終日の港北公会堂での発表を目指し、出会いからの逆算が綿密に必要でした。児童一人ひとりの体験をどのように「濃い」ものにできるかを考慮し、全体を巻き込んで、自分事として創作体験をしてもらうことを意識して実施しました。大人数の学校の宿命的な部分ですが、先生方の指導が行き届いており、児童の多くが指導されることに慣れている部分がありました。その部分を、失敗を恐れず、自分で課題を見つけて解決してもらうために、ダンスには勝ち負けも失敗もなく、何をしても踊りになるということをなるべく丁寧に説明するように心掛けました。

コーディネーターから

今回当法人初の取組となった師岡小学校では、大規模校ゆえに文化活動の機会が限られているとのことで、体験型スペシャル版の枠組を最大限活用し、近隣の港北公会堂における最終発表を組み込みました。当法人にとっても例のない規模での活動のため、これまで校外プログラムを一緒に手掛けてきた Co.山田うんに担当していただきました。最初はクラス別から始めて、全体活動へと展開し、公会堂も２日間使用。児童数に対して体育館や公会堂の狭さのことを考えると、想定していた以上にスムーズに進行できていたように思います。子どもたちと先生方が常に意欲的に参加してくれていたことや、日頃からの先生方と児童たちの関係性の賜物でもあるでしょう。また、活動中の川合さんからの声掛けも常に明確であり、それが児童の信頼を得ることにつながっていたように感じました。発表には、保護者など約250名が参加。地域の公共ホールと教育機関との良好な関係づくりにもなったかと思います。

先生から

このような取組方法があったのかと新たな発見になりました。“自由に”という経験が少ないので、初めは戸惑っていた児童たちも、だんだん自信を持って楽しんで表現する様子に感動しました。個別支援学級の児童にも自然に、しかも手厚くサポートしていただき、保護者も感謝していました。「あの子はあの子で良いんだと思えた」という意見がありました。

子どもたちから

友だちと力を合わせておどることができて、楽しかった。／運動会のダンスとちがって自由におどれたので楽しかった。／合わせる事の大切さ、やりきる事の大事さ、自由におどる楽しさを学んだ。／全員で力を合わせるとすごいことができるんだなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立倉田小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス７

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	東野祥子（振付家、ダンサー、ANTIBODIES Collective 主宰）／アシスタント：矢島みなみ
実施校	倉田小学校（戸塚区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年 2 学級 86 名
実施日程	2021 年 10 月 21 日(木)、2021 年 10 月 25 日(月)、2021 年 10 月 26 日(火)

授業のねらい

振付家・ダンサーの東野祥子による体験型ワークショップを３日間行い、コンテンポラリーダンスをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。

主な内容

＜１日目＞デモンストレーション、ストレッチ、音楽に合わせたダンスの振り付け
＜２日目＞ストレッチ、ダンスの振り付け、身体を自由に動かす（ボールのイメージ）
＜３日目＞ストレッチ、ダンスの振り付け、身体を自由に動かす（言葉のイメージ）

アーティストから

コロナ禍でのダンスワークショップとしては、コンタクトできない、対面では近付けないなど、制限されたワークとはなりましたが、３日間の集中したワークの中で、子どもたち本来の自由に伸び伸びとした身体性や感覚を呼び起こし、マスク越しでしたがワクワクした表情や笑顔などが溢れ、最初おとなしかった子どもたちが踊ることで解放され、想像したことを体現化する面白さを感じてくれたと思います。担任の先生からもこのワークの一部を授業に取り入れたいという感想をいただいたことは、今後もこの活動が日常の授業内で継承され、子どもたちの身体の可能性を引き出していってくださることを期待します。

コーディネーターから

学年全体でのダンス創作と発表を想定して、ユニークな集団創作で定評のある東野祥子さんに担当していただきました。新型コロナウイルス感染症拡大による影響でクラスごとの活動に変更となったため、コンテンポラリーダンスのキーとなる身体の使い方に集中して行いました。各クラス１コマ３時限の取組でしたが、自由に身体が動かせるようになった児童が多く、身体能力や表現力といった心身両面での成長を実感しました。学校の実技発表会を迎えた子どもたちにとって、身体感覚を磨く貴重な体験になったようで、良いタイミングで活動が行えたと思います。

先生から

自分自身、大学生の時からストリートダンスをしていて、身体を動かすことや表現することが好きなので、今回の授業はとても楽しかったです。また、指導者としては、今まで私の意識していなかった身体の使い方などを知ることができたので、とても勉強になりました。

子どもたちから

みんなが楽しくできて、前よりも心が広くなった気がした。／そっきょうでやることがすごかった。感動！！／この授業をしたら体育実技発表会の練習もはずかしがらず自信をもって 300%でおどれるようになった。／ダンスがたのしくなった。／みんなで楽しく出前ダンスをして、楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立豊田小学校＋Offsite Dance Project
スクール・オブ・ダンス８

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	白神ももこ（振付家、演出家、ダンサー）／アシスタント：北川結
実施校	豊田小学校（栄区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 25 名、公開授業参加者 17 名
実施日程	2021 年 10 月 26 日(火)、2021 年 10 月 29 日(金)、2021 年 11 月 2 日(火)、2021 年 11 月 4 日(木)、2021 年 11 月 5 日(金)

授業のねらい

振付家・ダンサーの白神ももこさんによる体験型ワークショップを５日間行い、コンテンポラリーダンスをベースとした身体表現活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。最終日には、公開授業にて成果発表を行う。

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ、だるまさんが転んだ変形バージョン、電流回し、ゆっくりゾンビ鬼　＜２日目＞ウォーミングアップ、電流回し、新聞紙で動く、トイレットペーパーのこよりで動く（２人組～みんなで～運動会ゴール！）　＜３日目＞ウォーミングアップ、電流回し、トイレットペーパーのこよりで動く（２人組で『私たちと紙』発表）　＜４日目＞ウォーミングアップ、新聞紙で自由ダンス、だるまさんが転んだ変形バージョン、トイレットペーパーのゴール　＜５日目＞ウォーミングアップ、空気の綿あめ、電流回し、氷の魔法／発表

アーティストから

出会った彼らはダンスが大好きで「踊る」ことに純粋で、いつも何かこねくり回している私は自分に少し反省するくらいでした。アシスタントの北川さんと特に感動したのは、みんなが「待てる」人たちであることでした。１年生～６年生までの年齢の差があってもお互いのダンスや言葉のないやり取りに耳を傾け、人がじっくり踊るところを見て、時間を気にすることもなくゆったりとダンスに集中する時間があって、「待てない」「待ってくれない」今の世の中にとってオアシスのような場に感じました。そういった場を作ること、ダンスのあり方を改めて見つめる、そんな時間となりました。

コーディネーターから

昨年プラットフォームの活動を体験していることもあり、リラックスして活動することができた児童が多くいたように感じました。担当するのは、白神ももこさん。人が見逃してしまうような些細な事柄にも面白みを見出すアーティストで、終始ワークショップでは一緒に楽しみながら、子どもたちの感覚をつかもうとしていました。新聞紙やトイレットペーパーを使ったからだ遊びで、子どもたちのアイデアや動きを次々と引き出していく、それを超楽しむ白神さんがいて、またそれがなんとも楽しい空間になっていました。子どもたちのどんな動きにも肯定的な声掛けがあって、子どもたちも回を重ねるごとに伸び伸びと動けるようになったのが印象的でした。先生方も一緒に身体を動かし、フォローしてくださったことで、充実した取組になったと思っています。

先生から

初対面のアーティストの方から刺激を受け、それに対して自分の思う通りに動く楽しさを子どもたちは感じていました。そして、自分の表現が全て受け入れてもらえた満足感のある時間だったと思います。正解のない、違っても、違うからみんないいと言われる芸術の良さを満喫していました。課題としては、５時間もの時間を体育科のカリキュラムにどう入れるのかという点でした。今後も限られた時間の中での学校運営が求められる中、毎年あるとは限らないプラットフォームの位置付けが難しいと感じています。

子どもたちから

もっとダンスがしたい。／いろんなともだちといろんなダンスを楽しんだことが思い出に残った。／しんぶんしをつかってやったダンスが楽しかった。／モモンガさんのダンスがかっこよかった。ワクワクした。／みんなで楽しくおどれてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立ろう特別支援学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス９

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2021 と連動して実施

担当アーティスト	アオキ裕キ（ダンサー、振付家）／アシスタント：西篤近、木村愛子、カントジファ（薄井信介、伊澤陽一、菅又健）
実施校	ろう特別支援学校（保土ケ谷区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／高等部 31 名、公開授業参加者 50 名
実施日程	2021 年 12 月 20 日(月)、2022 年 1 月 14 日(金)、2022 年 1 月 17 日(月)、2022 年 1 月 19 日(水)、2022 年 1 月 24 日(月)、2022 年 1 月 28 日(金)、2022 年 1 月 31 日(月)、2022 年 2 月 7 日(月)、2022 年 2 月 22 日(火)

授業のねらい

ダンサー・振付家のアオキ裕キさんによる体験型ワークショップを 10 日間行い、コンテンポラリーダンスをベースとした身体表現活動を通して、生徒たちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。生徒たちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が生徒たちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。最終日の公開授業にて成果発表を行う。

主な内容

＜１日目＞新人Ｈソケリッサ！の舞台鑑賞、今後の取組の説明とトライアル実践　＜２日目＞ウォーミングアップ、絵のイメージで踊る、踊りを絵を描く　＜３日目＞ウォーミングアップ、前回のフィードバック、空っぽのダンス、３人組で踊る　＜４日目＞ウォーミングアップ、イメージのキャッチボール（２人組）、歩いて止まる（グループ）　＜５日目＞ウォーミングアップ、歩いて止まる、ポーズ（変な形）、人の彫刻（感覚を開く）　＜６日目＞ウォーミングアップ、人と一緒に踊ってみる、ライブ演奏＆ダンス　＜７日目＞ウォーミングアップ、３人組で自由に踊る、３人組での創作　＜８日目＞ウォーミングアップ、グループでの創作＜９日目＞ウォーミングアップ、確認／発表

アーティストから

我々と生徒のみんなとの言語コミュニケーションがスムーズでは無い中で、踊りによって寄り添い、隔たりを超えていくような景色を目の当たりにしました。当初ろう状況の生徒たちへのワークショップということで、踊りへのハードルがあるのではとどこかで構えて臨んでいましたが、でも実は表現力や集中力など目を見張ることが多く、学びと発見の連続でした。また、総じてに感じた呼吸の合わせ方、間の取り方が、素晴らしいと感じました。またグループでの作品創作の折に、演奏参加のカントジファに皆それぞれ曲のイメージを伝えていたのも合わせ、聴覚に障害はあってもみんなの中には自身の心地良いリズムや音楽がきちんと存在しているように思えました。もちろん未だ問いを持ちながらではありますが、それは健常者の視点での勝手な解釈がろう者の可能性を阻まないことの大切さを体感する瞬間でした。少数派が活躍できる視点をこれからも持ち続けたいと思います。

コーディネーターから

横浜市芸術文化教育プラットフォーム初体験のろう特別支援学校は、生きる力を踊りとして表現するアオキ裕キさんに担当していただきました。1 日 1 コマで 10 日間、限られた時間の中で聴覚に障害のある生徒といかにコラボしていけるのか手探りでした。初日にアオキさん率いる路上生活経験者によるダンス集団「新人Ｈソケリッサ！」のパフォーマンスを鑑賞してもらい、トライアル体験。そして、身体と絵を用いたイメージの展開を繰り返すことで個人の踊りを確立することから始めて、他者とのフィードバックや共同作業で少しずつ世界を広げていく。また、音楽演奏者と向き合って身体全体で感じてグループでの創作にも取り組み、最後に発表を行いました。生徒は身体で伝えることで育まれた表現力や集中力があり、毎回身体表現の豊かさに驚かされました。アオキさんから生徒へのポジティブコメントを先生が掲示してくれて学習意欲が継続されるような工夫にも助けられました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で９日間となりましたが、今回の体験を踏まえて、「dance for all」の精神を実践していきたいと思っています。

先生から

「自分の感じたことを大切にする」ことを学びました。教育活動の中で、生徒に正解を求めたり意味を求めたりすることが多い中で、生徒の感じ方や表現をもっと大切にするべきだと気付くことができました。特に、「自分の表現を大切にしてください」「したいことをしてください。したくないことはしないでください。」「みんなの表現はすばらしい」といった、アーティストの方からの言葉掛けで、回を重ねるごとに生徒たちはさまざまな表現をしていました。

子どもたちから

絵を見て感じたことをおどるのが楽しかった。／頭を使わず何にも考えないで表現することがはじめてでとても楽しくできた。

【アーティストプロフィール】

■アーティストプロフィール

担当したアーティストのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

Aokid（振付家、ダンサー）、岩澤哲野（演出家）

【Aokid】

14 歳の頃よりブレイクダンスを始める。東京造形大学映画専攻に入学後、ヴィジュアルアートやパフォーマンス、舞台芸術作品の制作を開始。2016 年、アーティストたくみちゃんとの共同制作「フリフリ」が横浜ダンスコレクションコンペティション 1 審査員賞を受賞。ダンスを基点に置きながらも他分野の作家との制作を積極的に重ねたり、パーティーやワークショップを作品の発表と並行して用いることを通し生活の中でのクリエーションの可能性を模索している。公園を舞台に移動しながら作家それぞれの実験に観客として参加していく「どうぶつえん」シリーズや、渋谷のストリートを舞台に通りゆく人の運動性を借りながら踊りを重ねる「ストリートリバー」シリーズなど。

【岩澤哲野】

theater apartment complex libido：代表。演出家。1990 年、千葉県松戸市生まれ、在住。既存の文学作品を中心に創作活動を展開。これまでの演出作品に「ロング・グッドバイ」（テネシー・ウィリアムズ）、「象」（別役実）、「青い鳥」（モーリス・メーテルリンク）、「呉将軍の足の爪」（パク・ジョヨル）、原案として「イソップ寓話」や落語の「たちぎれ線香」、筒井康隆作の小説「最後の喫煙者」を元にした作品などがある。2019 年に自身のユニットを集団化。団体の拠点を松戸市に定める中で、個人としてもまちづくり会社を通して松戸での活動に従事している。利賀演劇人コンクール 2017 にて優秀演出家賞（二席）を受賞。BeSeTo 演劇祭 2018（韓国開催）に日本代表として参加。急な坂スタジオ・サポートアーティスト。百景社アトリエ・レジデンスアーティスト。omusubi 不動産“まちのコーディネーター”。

アオキ裕キ（ダンサー、振付家）

タレントのバックダンサー業などを経て「日々生きることに向き合わざる得ない体」を求め、2005 年より路上生活経験者を集めダンスグループ「新人 H ソケリッサ！」を開始。2004 年 NEXTREAM21 最優秀賞受賞、コニカミノルタソーシャルデザインアワード 2016 グランプリ受賞。活動を追ったドキュメンタリー映画「ダンシング・ホームレス」全国上映中。

浅野美帆子（声楽家）、鹿野千里（ピアニスト）

【浅野美帆子】

国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラスタジオ 37 期マスタークラス修了。ウィーンにてコンラート・リヒター・マスタークラス修了。1995 年「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ役でオペラデビュー後、数々のオペラに出演。ＮＨＫニューイヤーオペラコンサート、ＮＨＫ交響楽団定期演奏会への出演や、ガイナックス社映画「ワンダフルデイズ」の挿入歌を歌うなど幅広く活躍中。2015 年ハンガリーのソルノク市立オーケストラ定期演奏会にてオルバーン作曲「ミサ曲 NO.11」とカールジェンキンス作曲「レクイエム」のソプラノソロを歌う。ＣＤ「薫風」「Souvenir aria et Duo」をリリース。二期会会員。東京室内歌劇場会員。横浜シティオペラ会員。

浅葉弾（クリエイティブディレクター、子供デザイン教室主宰）

1972 年横浜生まれ。神奈川県立神奈川工業高校デザイン科、東洋美術学校グラフィックデザイン科を経て、（株）浅葉克己デザイン室に入社。浅葉克己の元で約 8 年間グラフィックデザインとタイポグラフィーの修行を積み、2002 年 6 月に（株）博報堂 C&D に入社し広告クリエイティブ、メディアプランニングなどの経験値を積む。そして 2005 年 10 月 DAN DESIGN CO.,LTD.を設立。広告クリエイティブ、ブランドデザイン、イベント企画・デザイン、パッケージデザインを中心に活動中。日本グラフィックデザイナー協会会員。金沢文庫芸術祭実行委員長。アサバアートスクエア主宰。

アトリエ箏こだま（和楽器奏者）

児玉寛子≪箏／17 弦／三弦≫生田流教授。ＮＨＫ邦楽技能者育成会卒業。ＮＨＫ／ＦＭ放送・レコーディング・国内各地及び国外諸国・公式行事・コンサートなどでの多くの演奏経験を踏まえ、邦楽器個々の素敵な音色と、どんな曲でも弾ける楽器で有ることを、音楽療法を加味し、福祉関係、幼・小・中・高学校、各種行催事などで、広く一般の方々にアピールしながら演奏活動をしている。ＮＨＫ邦楽技能者育成会のプロ活躍中の後輩達の協力を得て「和楽器アンサンブル」活動中。

アベタカヒロ（作曲家）、 大塚雅仁（バリトン歌手）

【アベタカヒロ】

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。在学中に歌の魅力を知り、卒業後は合唱や童謡などの分野を主軸に活動している。第 20 回かぶらの里童謡祭作曲公募で最優秀賞を受賞。近年では横浜市芸術文化教育プラットフォームのアーティストとして小学校で合唱制作授業を行ったり、森山直太朗氏の楽曲「花の名前」の合唱化を担当。主な作品に「混声（女声）合唱のための 最愛」（全音楽譜出版社）、「うち 知ってんねん」（教育芸術社）、「人間ごっこ」（カワイ出版）、小学校向け音楽劇シリーズ 9「旅人とクマ」「ロバを売りにいったおじいさんと孫の話」（東京書籍）の劇中音楽など。これまでに作曲を尾高惇忠、加羽沢美濃の両氏に、ピアノを加羽沢竹美、青柳晋の両氏に師事。日本童謡協会理事。

新井卓（写真家、映像作家）

1978 年神奈川県川崎市生まれ。現在、川崎市、岩手県遠野市、ベルリンの複数拠点で活動する。写真の原点を探るうち最初期の写真術・ダゲレオタイプ（銀板写真）を習得。核の歴史に興味を持ち始めた 2010 年ごろから、第五福竜丸の船体や元船員に出会い、その後、福島、長崎、広島、と撮るべき対象に巡りあってきた。代表的なシリーズに、福島第一原発事故後の相双地域をドキュメントした「Here and There－ 明日の島」、アトミック・エイジの記憶と記念物を巡る「百の太陽に灼かれて／EXPOSED IN A HUNDRED SUNS」、若者のインタビューとポートレイト・シリーズ「明日の歴史」など。

荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、渡邉勝代（箏奏者）

【荒井靖水】

神奈川県横浜市生まれ。６歳より祖父・中谷襄水、母・ 荒井姿水に薩摩琵琶の手ほどきを受ける。また、高校よりフルートを始め、洗足学園音楽大学管楽器科卒業。その後、ＮＨＫ邦楽技能者育成会（第 42 期）にて研鑽を積み、1995 年日本琵琶楽コンクールにて秀位入賞。現在、古典ならびに現代邦楽を軸に、他ジャンルとの競演を試みている。ＣＤ、ＤＶＤの録音やプロモーションビデオへの出演、また、舞台での音楽担当も多数。ＮＨＫはじめメディア出演も多く、国内海外問わず広く活動している。https://araiseisui.themedia.jp/

【渡邉勝代】

静岡県富士宮市出身。３歳でピアノに触れ、９歳より箏の手ほどきを受ける。外山香氏に師事。ＮＨＫ邦楽技能者育成会第 44 期卒業。卒業演奏会ではコンサートマスターとしてソロパートも演奏。ＮＨＫ邦楽オーディション

合格。ＮＨＫ-ＦＭ「邦楽のひととき」に出演。生田流沢井箏曲院教師試験にて優秀賞を受賞。第 19 回「静岡の名手たち」オーディションに合格、同コンサートに出演。また併せて邦楽部門では初となるロダン賞を受賞。現在は東京・横浜・静岡などでの演奏活動のほか、邦楽器の普及活動として小学校音楽授業や公共スペースでの体験講座に注力するとともに、横浜自宅教室・富士宮教室にて後進の指導にあたっている。http://katsuyo-koto.com/

有吉宣人（俳優）、大道朋奈（俳優）

【有吉宣人】

神奈川県出身の俳優、ドラマトゥルク、演劇ワークショップの進行役。慶應義塾大学文学部入学と同時に演劇活動を始める。こまばアゴラ演劇学校無隣館を３期生として修了。全国各地の学校や、世田谷パブリックシアター、戸塚区民文化センターさくらプラザ、座・高円寺などの劇場で、演劇ワークショップの進行役として、さまざまな人たちとの経験を問わない演劇づくりを行っている。また、目黒区立大鳥中学校にて、演劇部の外部指導員を務めている。

【大道朋奈】

京都府出身。俳優、ワークショップ進行役。20 歳で上京し演劇を始める。2015 年に穂の国とよはし芸術劇場 PLAT のワークショップファシリテーター養成講座後期に参加、以後、俳優活動と並行してワークショップ進行役としても活動。劇場や学校、社会福祉施設などでそこに集まった人たちと遊ぶように演劇をつくっている。世田谷パブリックシアター「デイ・イン・ザ・シアター」シリーズ、ヨコハマ・パラトリエンナーレ「かたるべハッピーザ」など。

Ensemble Reise（木管五重奏団）

東京音楽大学、東京藝術大学を卒業した５人による木管五重奏団。「Reise」とはドイツ語で「旅」を意味し、音に乗ってさまざまな場所を旅するように色彩豊かな演奏を届けている。2018 年５月結成。同年７月に行われた第２回Ｋ室内楽コンクールにて第２位受賞。第７回サンハート・アンサンブル・オーディション優秀賞、聴衆賞、アルソ出版社賞の３つの賞を獲得。2019 年鶴見区民文化センターサルビアホール・アーティストバンク登録アーティスト。2020 年 10 月に行われた第９回サンハート・アンサンブル・オーディションにおいて最優秀賞、アルソ出版社賞を同時受賞。受賞者コンサート出演のほか、都内、横浜市内を中心に、アウトリーチ、リサイタル開催など意欲的な活動を展開中。

イーガル（現代音楽作曲家）、米澤一平（タップダンサー）

【イーガル】

現代音楽の作曲家、ピアニストとして活躍する一方、ポピュラー音楽の作曲、映画、舞台等にも楽曲を提供。ソロライブは真面目に且つ面白く、「あやちクローデル×イーガル」では硬派なオリジナル曲を中心に行う。大道音楽劇団「遊侠サーカス」や、ピアニストとして参加する「マカロニと世界」等で東京都公認ヘブンアーティストとして活動している。またモデル、俳優としても活躍している。横浜市緑区主催「森のサーカス」にも音楽として出演している。

【米澤一平】

1989 年東京生まれ。世界的タップダンサー熊谷和徳に師事。タップダンスの根源的なルーツをアフリカ、黒人の音楽であると捉えその文化伝統をリスペクトしながらも、現代としてのタップダンスの新しいアートへの可能性の追究として、音楽家、ダンサー、美術家、俳優、大道芸人、映像作家、エンジニアなどさまざまな業界、アーティストと関わりながらタップダンサーとしては異例な程さまざまなコラボレーションによる共同作品発表、即興パフォーマンスなど、クリエイティブに活動している。

池田正博（ミュージシャン）＆douni douni（ミュージシャン）

【池田正博】

14 歳でエレクトリックベースを手にする。外国人学生たちと地元横浜で音楽活動をスタート、ギターを始めジャズを学ぶ。アメリカ、ヨーロッパを放浪し、旅先でアフリカの太鼓「ジェンベ」と出会い、手にする。東欧、アジア、アフリカの音楽に興味を持ち始め、「山北紀彦」からアフリカのリズムを学び、ストリートパフォーマンスの演奏活動を始める。1999 年、原さとし（バンジョー）、山平憲嗣（二胡）と共に「龍降器奏楽団」を結成、翌年から約２年間、津軽三味線の「吉田兄弟」とＴＶ出演など、全国でコンサート活動をする。また、日本人と来日していたケニア人による「BAWAMAYA」の北海道ツアーに参加、さらに「龍降器奏楽団」1 st アルバムをリリース。同年から和太鼓奏者「筑紫珠楽」と出会い、全国で演奏活動を開始。2003 年日本人とセネガル人による「SAFAIKO」の SAFAIKO ツアーに参加。2004 年、映画「オーバードライブ」に出演、映画挿入曲にも参加。2005 年よりジェンベ教室を開講。2007 年、筑紫珠楽ＣＤ、ＤＶＤに参加リリース。2008 年、筑紫珠楽と「博多金獅子太鼓」で、アメリカの首都ワシントンＤＣにてアメリカ政府、ジョン・F・ケネディーセンター主催の日本の最新文化、芸能を紹介する（ジャパンカルチャー・ハイパーカルチャー）に出演。後にこのグループが「ZEND」となる。同年、パーカッションチーム「アサンテ」を結成。2010 年、木村優斗、山北紀彦と共に N'DANA ツアーを行う。2013 年には「劇団 EXILE」のレコーディングに参加。2014 年、自身のバンド「アサンテ」の 1 st アルバム「いこまいけ」をリリース。この年の国民文化祭（秋田県）のイベントに出演。2015 年、日韓国交 50 周年記念のイベントに釜山にて筑紫珠楽氏と出演。同年、木村優斗と「極楽波動夢クラブ」を結成、ＣＤをリリースし、2015、16 年と関東、西日本ツアー（東海、関西、北陸、山陰、山陽、四国）北海道ツアー。17 年、西日本ツアー。18 年、北関東＆南東北ツアー。19 年、東日本ツアー（関東、東海、北陸、東北）北海道ツアーをこれまでに行う。18 年、ケニア大使館主催の東京オリンピック 2020 目黒区ホストタウン事業イベントに出演。その他これまでに多くのアーティストとの共演やレコーディングに参加。また映画のサウンドトラック、ゲーム音楽などのレコーディングなどにも参加している。現在いろいろな音楽要素を取り込んだオリジナル曲を中心に、各地のステージで活躍中。

泉桐子（画家）

1992 年神奈川県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース修了。2019 年より同大学日本画学科非常勤講師。主に日本画の画材である和紙や墨等を用いて絵画を制作。2019 年「Limelight」（数寄和／東京）。2020 年「WE CAN'T GO HOME AGAIN」（横浜市民ギャラリー）。第７・第８回日経日本画大賞展入選。

井上尚子（美術作家）、松山薫（野毛山動物園飼育展示係）、南俊輔（映像作家）

【井上尚子】

女子美術大学大学院美術研究科版画専攻修了。2005 年文化庁芸術家在外研修員として 1 年間 NY 在住。現在横浜在住。環境、文化、歴史を匂いから楽しむ「くんくんウォーク」を教育機関、美術館、図書館、植物館、企業，公園、空港など国内外で開催。2006 年以降、アーティストや様々な研究者、異業種の方々とコラボレーション制作。視覚障害と聴覚障害者とのコラボレーションプログラムも開発開催。2016 年、The International artist in Villa Waldberta in Munich 参加。2017 年、Museum Villa Stuck in Munich にて「The Library of Smell」（collaboration with 嗅覚研究者：白須未香+サウンドアーティスト：柴山拓郎）展覧会+ワークショップ開催。また、WWF ジャパンと全国の動物園と環境教育のイベントやワークショップの開発・実施 。2018 年、The Art and Olfaction Awards 2018 finalist、六本

木 アートナイト 2018 参加。2019 年グッドデザイン賞受賞。2003-2016 年 女子美術大学非常勤講師。2017 年- 愛知県立芸大学非常勤講師。2020 年-「においの話」オンラインプログラムを実施中。

今井尋也（演出家、脚本家、小鼓演奏家、俳優、作曲家）

幼少より祖父から能楽を学び、10 代で初舞台。その後、国立能楽堂研修生・東京芸術大学音楽学部を卒業、多数の能舞台に出演した後、渡仏し、現代演劇、コンテンポラリーダンス等を学ぶ。現代劇からコンテンポラリーダンスまで幅広く活躍。アートパフォーマンスユニット「メガロシアター」を主宰。アウトリーチ活動にも積極的に参加し、障害者の施設や小中高学校でワークショップを実施。新作能の脚本・演出・音楽も多数。また、フリーの小鼓演奏家として国内外を問わずジャンルを超越して活躍中。

漆原啓子（ヴァイオリニスト）、秋場敬浩（ピアニスト）

【漆原啓子】

第 8 回ヴィニャフスキ国際コンクールにおいて最年少 18 歳で日本人初の優勝。その翌年、東京藝術大学入学と同時に本格的演奏活動を開始。ソリスト、室内楽奏者としての活動はいずれも高く評価され円熟期を証明している。現在、国立音楽大学客員教授、桐朋学園大学特任教授。

【秋場敬浩】

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を首席で卒業。その後、同大学院音楽研究科に進み、博士号取得。大学院在籍中より国立チャイコフスキー記念モスクワ音楽院に留学。ミハイル・オレーネフ教授の薫陶を受け、2011 年に国家ディプロマを得て同音楽院研究科修了。

大石将弘（俳優）

1982 年生まれ。奈良県出身。劇団ままごと、ナイロン 100℃に所属。木ノ下歌舞伎、ロロ、夏の日の本谷有希子、KUNIO、範宙遊泳などのカンパニーの作品に参加。劇場の外で上演される演劇プロジェクトにも多く携わる。2015 年に「スイッチ総研」を設立。「鑑賞者がスイッチを押す」と始まる 3 秒〜30 秒の演劇「スイッチ」を、全国各地の商店街や公園など主に屋外で上演。2017 年には、美術作品や空間と“音声”による上演を試みる「きくたびプロジェクト」を立ち上げる。多摩美術大学非常勤講師。エイベックス・アーティストアカデミー講師。学校や劇場における演劇ワークショップの企画進行も継続的に行っている。

奥泉貴圭(チェリスト)、はざまみゆき(俳優)

【奥泉貴圭】

東京藝大附属音高を卒業後、ドイツ・トロッシンゲン音楽大学を経て、2007 年より 2 年間バイエルン国立歌劇場の契約団員として研鑽を積む。2006 年度文化庁在外研修員。帰国後、2016 年まで上野学園大学講師、現在はソロ、オーケストラ客演首席、室内楽奏者、レコーディングを行う。

【はざまみゆき】

劇団ハイリンド所属。主な舞台作品、にもめぷわ「マグノリアの花たち」作：R.ハーリング 演出：菊地一浩（2017 年）、楽天団「ケーキマン」作：R・J.メリット 演出：和田喜夫、加藤健一事務所 vol.103「Out of Order」演出：堤泰之ほか。

奥田雅楽之一(生田流箏曲・地歌三弦演奏家、作曲家)

正派初代家元・中島雅楽之都の曽孫として生まれる。 幼少より正派宗家・祖母・中島靖子に箏を師事。作曲家で箏曲家の祖父・唯是震一に三弦を師事。後年、森雄士師に宮城胡弓を師事。二代目富山清（人間国宝）に三味線音楽「作物」を師事。四世萩岡松韻師に山田流箏曲を師事。富樫教子師に九州系地歌三弦を師事。今井勉師に平家琵琶を師事。主な作品:「バラード(譚詩曲)」、「木花咲耶姫」(主演:梅津貴昶)、「雪月花三景『仲国』」(主演:市川海老蔵)。現在:(公社) 日本三曲協会会員、生田流協会会員、現代邦楽作曲家連盟会員、(公財) 正派邦楽会常務理事、株式会社N.Y.C.代表取締役、正派邦楽会副家元。

小野寺修二（演出家、カンパニーデラシネラ主宰）

日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。1995 年〜2006 年、パフォーマンスシアター「水と油」にて活動。その後、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として 1 年間フランスに滞在。帰国後、「カンパニーデラシネラ」を立ち上げる。マイムの動きをベースとした独自の演出で世代を超えた注目を集めている。第 3 回日本ダンスフォーラム賞受賞。第 18 回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞。近年の主な演出作品は RooTS Vol. 4 『あの大鴉、さえも』（2016 年/東京芸術劇場他）、『ふしぎの国のアリス』（2017 年/新国立劇場）、現代能楽集 IX『竹取』(2018 年/世田谷シアタートラム他)、横浜ダンスコレクション 2019『見立てる』（2019 年/横浜のげシャーレ）など。また、瀬戸内国際芸術祭 2013 にて、野外劇『人魚姫』を発表するなど、劇場内にとどまらないパフォーマンスにも積極的に取組んでいる。2015 年度文化庁文化交流使。

梶川真歩（フルート奏者）、山西由莉（オーボエ奏者）、櫻田はるか（クラリネット奏者）、中田小弥香（ファゴット奏者）

【梶川真歩】

ＮＨＫ交響楽団フルート奏者、桐朋学園大学、愛知県立芸術大学、武蔵野音楽大学、東京藝術大学非常勤講師。

【山西由莉】

東京音楽大学卒業。洗足学園音楽大学準演奏補助要員。フリーランスのオーボエ奏者として活動中。

【櫻田はるか】国立音楽大学卒業。ヴェルサイユ地方国立音楽院及びパリ 12 区立音楽院修了。今秋より、フェリス女学院大学非常勤講師。

【中田小弥香】東京藝術大学卒業後、同大学大学院修了。洗足学園音楽大学、新潟県立中央高等学校音楽科非常勤講師。

片野真吾（作編曲家、音楽監督、歌唱指導者、ベース奏者）、伊藤恵子（ピアニスト）

【片野真吾】

明治大学文学部英米文学専攻卒業後、 8 年間の社会人生活を経て、米国 Berklee 音楽大学へ留学。作編曲を学ぶ。優秀賞を受卒業し帰国。「音楽は心」をコンセプトに作編曲家・音楽監督・歌唱指導者として活動。全国で多くのミュージカルなど舞台音楽を手がける。また愛・地球博、高校総体総合開会式などのイベントやＣＭ音楽も手がける。積極的に現場に出向き、演者・スタッフと共に作品を創り上げることに喜びを感じている。現在は作曲家・編曲家およびベース奏者、ミュージカルやイベントの音楽監督など幅広く活動中。また音楽学校にて作編曲の講師、劇団での歌唱指導も行っている。

【伊藤恵子】

国立音楽大学附属音楽高等学校を経て国立音楽大学器楽学科（ピアノ）卒業。ソロ活動のほか、アンサンブルピアニスト、アコーディオニストとして室内楽、声楽、オカリナ、二胡とのコラボレーション活動をしている。クラシックからジャズ、ポピュラー、ラテン、シャンソン、ミュゼットなど幅広い演奏活動を行っている。【これまでの演奏活動】客船飛鳥Ⅱ、ばしふぃっくびいなす、ふじ丸での船上演奏、出雲大社遷宮奉祝事業公演「クシナダとスサノオ」ピアノ演奏、シアタークリエ公演大竹しのぶ主演「ピアフ」アコーディオン演奏など舞台映画の劇伴、保育園、幼稚園、小学校、美術館、病院、高齢者施設、医学学会、音楽祭などに出演。後進の指導、演奏活動の傍ら医療機関と諏訪市美術館ボランティアスタッフとして活動をしている。

鎌田美穂子（箏奏者）、片岡由紀（箏奏者）、上田麻里名（箏奏者）、渡辺淳（尺八奏者）、長谷川将山（尺八奏者）

【鎌田美穂子】（箏・三絃・二十五絃箏）
箏奏者、生田流宮城社師範。横浜市出身。幼少より生田流宮城社大師範・山田ミサ氏に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科箏曲生田流専攻を卒業。教室主宰、都立大崎高校箏曲部講師。宮城会、森の会、横浜市民広間演奏会、鶴見邦楽連盟、日本三曲協会に所属。2019 年オリジナルＣＤ「０-ゼロ-の庭」発売。

川﨑和美（ガラス作家）
東京国際ガラス学院卒業。こども造形ワークショップ「うめぐみ」のメンバー。ガラス作家として活動しながら、公共施設での造形講座、年間を通じて保育園・幼稚園での造形指導も行っている。描きつくることを通して「思いを達成できる喜び」を経験できるよう、一人ひとりに寄り添った指導を行う。

川野誠一（俳優、大蔵流狂言師）、野島伸仁（大蔵流狂言師）

【川野誠一】
大分県出身。1972 年生まれ。1995 年より劇団大樹を主宰し、現在に至る。また大蔵流狂言方 善竹十郎（重要無形文化財総合指定保持者）師を師事し、大蔵流狂言方としても活動。狂言の普及やワークショップなどをおこなう。声と身体のワークショップ「狂言処＝う舞謡～」を主催。国指定重要文化財「一条恵観山荘」案内人。日本俳優連合組合員。

【野島伸仁】
昭和 30 年生まれ。大蔵流狂言方能楽師善竹十郎（重要無形文化財総合指定保持者）に師事。首都圏の能楽堂における活動の他、全国の学校狂言などにも参加して狂言の普及に尽力する。令和元年には音楽狂言「寿来爺」公演のオーストリア、スイス、イギリスを巡るヨーロッパツアーに参加。八王子学園都市大学講師として狂言の魅力を伝える。（公社）能楽協会会員。

河野陽子（ソプラノ歌手）、荒井裕子（ピアニスト）

【河野陽子】
国立音楽大学声楽学科卒業。同大学院オペラ専攻修了。ロータリー財団国際親善奨学生として伊・ミラノへ留学。オペラでは「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「テレフォン」に出演。2011 年よりソプラノリサイタル「ときめく心を歌う」企画・開催。現在、「失語症の方と家族のための声楽教室」、童謡唱歌の会「ヴォーチェ・ヨコハマ」、「男声レッスン・原語で歌う世界の歌」など講師。ＹＡＡ運営委員。二期会会員。

【荒井裕子】
洗足学園音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。神奈川県新人演奏会出演。現在ピアノ演奏研究、ピアノソロ指導、声楽の伴奏、老人ホームへの慰問コンサート、地域の合唱団の指導と伴奏を実施。本プログラムではソプラノ歌手河野陽子の伴奏として参加。

川村亘平斎（音楽家）
1980 年、東京生まれ。インドネシア共和国・バリ島に 2 年間滞在し、影絵人形芝居「ワヤン・クリット」と伝統打楽器「ガムラン」を学ぶ。アジアを中心に世界各国で影絵と音楽のパフォーマンスを発表。日本各地でフィールドワークやワークショップを通じて、土地に残る物語を影絵作品として再生させる活動も高く評価されている。ガムランを使った音楽ユニット「滞空時間」主宰ほか、絵本や漫画の制作、ＣＭへの楽曲提供など幅広く活動している。平成 28 年度第 27 回五島記念文化賞美術新人賞受賞。

杵屋勝くに緒（長唄三味線方）、東音阪本剛二郎（長唄三味線方）、杵屋裕辰（長唄三味線方）

【杵屋勝くに緒】
長唄三味線方。立教大学文学部日本文学科卒。東京芸術大学音楽学部邦楽科別科修了。人間国宝・杵屋勝国師に師事。演奏会、海外公演、ＮＨＫＥテレ「にっぽんの芸能」ＮＨＫＦＭ「邦楽のひととき」等演奏活動の他、学校普及事業や初心者向ワークショップなど後進の指導にも注力。一般財団法人杵勝会参与師範。社団法人長唄協会会員。長唄教室玉の緒会主宰。街いっぱいの長唄プロジェクトと称しコミュニケーションツールとしての長唄の普及も図っている。

【東音阪本剛二郎】
長唄三味線方。東京芸術大学邦楽科別科卒業。東京芸術大学名誉教授・東音味見享師に師事。長唄東音会同人。長唄協会会員。横浜邦楽邦舞家協会会長。長唄寿々弥会主宰。放送、劇場演奏など国内外で活動中。長唄三味線の指導にも力を入れている。

倉重円（PLANETS 所属インストラクター）、中村美紅（PLANETS 所属インストラクター）、相原優貴（PLANETS 所属インストラクター）

【倉重円】
４歳から 10 年間クラシックバレエを習う。高校の部活でチアダンスを始め、初めての世界大会に出場する。大学に進学後も部活でチアダンスを続ける。その後、クラブチーム Planets Dance company に所属し全国大会では数多くの優勝・グランプリを経験。世界大会にも出場し世界第１位の成績を残す。また競技だけではなく 27 時間テレビやＣＭなどにも出演。現役引退後の現在もカンパニーメンバーとして活動している。チアダンスインストラクターとしても活動し、日々子どもたちにチアダンス指導を行っている。

【中村美紅】
７歳よりクラシックバレエを、同時に９歳よりチアダンスを習う。中学生より Planets Dance company PLANETS io として数々の大会にて入賞。世界大会にも出場し世界第１位の成績を残す。現在も現役チアダンサーとして競技を続け、全国大会優勝を目指している。チアダンスインストラクターとしても活動し、日々子どもたちにチアダンス指導を行っている。

【相原優貴】
高校の部活でチアダンスに出会い全国大会で成績を残す。卒業後、日本女子体育大学舞踊学専攻に進学。また同時に Planets Dance Company に所属する。日本国内の大会で数々の優勝、グランプリを経験し 2017 年・2019 年には世界１位の成績を残す。また競技だけではなく音楽番組のバックダンサーとしても数々出演している。現役引退後カンパニーメンバーとして活動している。現在はチアインストラクターとして活動し日々子どもたちにチアダンスを指導している。

栗原武啓（津軽三味線奏者）
６歳の頃より父親の影響で津軽三味線を始める。高校の頃よりイベント、コンサート、テレビ出演、レコーディングなどをしながら演奏活動を続け、現在では後世への教授活動、慶應大学の津軽三味線サークル弦音巴（おとは）の演奏指導などをしている。2018 年ロシア・サンクトペテルブルクにて行われた Terem cross over international competition にて観客賞第１位獲得。総合４位。2019 年全国津軽三味線競技会名古屋大会にて一般男性の部優勝。

黒田育世（振付家、ダンサー、BATIK 主宰）
６歳よりクラシックバレエを始め、1997 年渡英、コンテンポラリーダンスを学ぶ。2002 年 BATIK を設立。バレエテクニックを基礎に、身体を極限まで追いつめる過激でダイナミックな振り付けは、踊りが持つ本来的な衝動と結びつき、ジャンルを超えて支持されている。2003 年トヨタコレオグラフィーアワード 次代を担う振付家賞およびオーディエンス賞、2004 年朝日舞台芸術賞、2006 年舞踊批評家協会賞、2010 年第４回日本ダンスフォーラム賞、15 年第９回日本ダンスフォーラム賞を受賞。BATIK での活動に加え、金森穣率いる Noism05、飴屋法水、古川日出男、笠井叡、野田秀樹、串田和美などさまざまなアーティストとのクリエーションも多い。

Co.山田うん（川合ロン）（ダンスカンパニー）
2002 年設立の山田うん率いるダンスカンパニー。様々な経験を持つダンサーが十数名所属し、圧倒的なチームワークと個性を共存させている。創造的な活動と芸術の追求として、毎年新作とレパートリーツアーをはじめ、オペラやミュージカルでのパフォーマンス、音楽や伝統芸能とのコラボレーション、イベントのプロデュースなども行っている。全国各地の劇場でダンスワークショップや子どもたちへのダンスプログラム、また、保育園、幼稚園、小学校、中学校、そして福祉施設でのダンスワークショップでは心身の育成に貢献している。リーダーの川合ロンは、早稲田大学卒。国内外で活躍する振付家・演出家のダンス作品、ミュージカル、オペラ、演劇、映画等にダンサー、俳優として出演。国内外ツアー多数参加。

こいちりょうじ（こども造形研究家）
子どもたちとの造形制作を通した交流を中心に活動。福祉施設、小学校、美術館、博物館などにおいて造形制作開催。その他、造形教育についての講義指導、執筆等多数。保育園や幼稚園の造形講師も多数担当。「美術教造形教室ぷらすあーと」を主宰。

小暮香帆（振付家、ダンサー）
６歳より踊り始める。ダンサーとして笠井叡はじめ多数振付家作品に出演しながら、2012 年よりソロ活動を開始。主なソロ作品「ミモザ」(2015) は初演以降、現在も国内外のフェスティバルで再演し続けている。またミュージシャン、アーティストとのセッション、映画、ＣＭ、ＭＶ出演など活動は多岐にわたる。2012 年日本女子体育大学舞踊学専攻卒。第２回セッションベスト賞、横浜ダンスコレクション EX2015 奨励賞、第６回エルスール財団新人賞受賞。めぐりめぐるものを大切にして踊っている。

小鹿紡（作曲家）、中野亜維里（ソプラノ歌手）、早坂なつき（ピアニスト）
【小鹿紡】
北海道登別市出身。東京藝術大学音楽学部作曲科で学ぶ。在学時より作編曲活動のほか、伴奏や室内楽でピアニストとして演奏活動している。北海道作曲家協会会員。
【中野亜維里】
日本大学藝術学部を首席で卒業し、学部長賞受賞。東京藝術大学音楽学部を経て、同大学院修士課程オペラ専攻修了。文化庁文化推進特別事業オペラ新国立劇場オペラパレス公演「コシ・ファン・トゥッテ」デスピーナ役にてオペラデビュー。ほか多数のオペラに主役で出演。
【早坂なつき】
仙台市出身。武蔵野音楽大学器楽学科を経て、桐朋学園大学院大学修了。現在、都内を中心に活動中。ピアノ独奏のほか、器楽を中心としたアンサンブルを得意とし、自身でのコンサート企画、また伴奏ピアニストとして活躍。

コンセール・ルミエール（フルートアンサンブル）
コンセール・ルミエールは渡辺光氏が主宰し、佐治牧子氏ら４名で構成する「フルートアンサンブル」。2004 年８月英国フルート協会主催のフルートコンベンションに公式招待を受ける。同 11 月釜山にて日韓親善コンサートに出演。2005 年８月にはアメリカＮＦＬフルートコンベンションに公式招待された。横浜、鎌倉等県内を中心にフルート教室の講師としても活動し、フルート演奏の普及に努めている。

近藤一美（振付家、ダンサー）
日本女子体育大学舞踏学科卒。よさこいチーム「K-one 動流夢」代表。2019 年第 18 回世界水泳選手権大会の光州での祝賀イベントに横浜市の芸術団として招聘される。横浜よさこい祭り実行委員会会長として毎年 10 月に約 80 団体 1600 名が参加する祭りを主催。また神奈川よさこい組織委員会代表としても、県内４支部 23 団体による県内よさこいの普及活動を行う。2018 年よりベトナムと神奈川県の国際交流に協力し、ベトナムと日本のよさこい交流を実施している。健康運動指導士。

齊藤綾乃（打楽器奏者）、藤本亮平（打楽器奏者）
【齊藤綾乃】
桐朋学園大学音楽学部打楽器専攻卒業。桐朋オーケストラ・アカデミー研修過程修了。2012 年日本打楽器協会主催 マリンバ・スピリチュアル演奏コンテストにアンサンブル Y・T・E として三木稔音楽賞（最優秀賞）受賞。（公財）千葉交響楽団打楽器奏者。
【藤本亮平】
千葉県柏市出身。武蔵野音楽大学打楽器科卒業、桐朋学園大学研究科マリンバ専攻修了。第 21 回日本クラシック音楽コンクール打楽器部門第４位受賞。

櫻田素子（ガムラン演奏家）
ガムラン奏者、作曲家、ガムラン Terang Bulan（トゥラン・ブーラン）主宰。東邦音楽大学大学院・日本女子体育大学非常勤講師。国立音楽大学卒。ガムランとダンス・劇・ドラマ等多様なアートとの協働音楽、子どもたちの音楽ワーク、集団音楽ワーク指導を手がける。身体性を重視、有機的に絡み合い共感覚を呼び覚ます音楽を追求。バリ芸術祭に度々招聘され作品発表。三陸国際芸術祭、国際交流基金事業、公共施設公演など多数。

さとうりさ（アーティスト）
1972 年東京都生まれ。抽象的でありながらも親しみを感じさせる大型のソフト・スカルプチャーを屋内外を問わず公共のスペースに出現させ、作品を通じたコミュニケーションの可能性を考察する。「スリシュティ・インテリム 2019」（インド）。2020 年「ヨコハマトリエンナーレ 2020 AFTERGLOW―光の破片をつかまえる」（横浜美術館）。国際的に優秀な作品に贈られる「The Best Public Art of 2020」にも選出された。第 70 回横浜文化賞文化・芸術奨励賞。

Sayumi（音楽家）、田島けいすけ（倍音アーティスト）
【Sayumi】
音楽大学ピアノ科卒業。10 年間バレエピアニストを経て現在は作曲編曲提供、伴奏サポート、療育現場のピアニスト、ピアノ・ケンハモ・口琴・打楽器・手作り楽器等を美術家・ダンサー・演劇など各アーティストとのコラボレーション活動、手作り楽器などのワークショップを行っている。クラシック、ワールドミュージック、即興音楽などの session を通じジャンルを決めず幅広く活動中。〈音の楽しさを皆さんと共有し、人や自然の喜怒哀楽を表現していきたい〉と思っている。
【田島けいすけ】
物心ついた時から音の探求をはじめる。オーストラリアの民族楽器「ディジュリドゥ」と出会う事で自身の人生が更に変化する。また、癒しの周波数を浴びて、考えや潜在意識が変化するという奇跡的な体験をした事で、更に振動や音の可能性と面白さを伝えていくべく、倍音アーティストとしてワークショップやサウンドヒーリングセッション、ライブ、イベントに多数出演。主な楽器はディジュリドゥ、RAV ドラム、ガンクドラム、クリスタルボウル etc.

三遊亭わん丈（落語家）
2011 年（平成 23 年）４月、三遊亭円丈に入門。2012 年（平成 24 年）４月、前座となる。前座名「わん丈」。2016 年（平成 28 年）５月、二ツ目昇進。20 歳から７年間バンドのヴォーカルとして活動をしながら、自身で企画からパーソナリティまでつとめるラジオ番組や、イベントの司会なども行う。2010 年、東京に訪れた際に寄席で落語に魅せられ、滋賀県初の江戸落語家となる。入門８年にしてネタ数は 140 席。滑稽噺、人情噺、怪談噺、幅広い古典落語で早くして伝統的な落語会に多数出演。また自作で新たな落語も創作。そして同じ落語でも老若男女各々のお客様に合わせた魅せ方に定評があり、落語に馴染みのない方への普及も意欲的に行っている。その高座数は年間 1000 席に及ぶ。

椎橋げんき（日本画家）
多摩美術大学日本画科卒。日本画を中心としたアーティスト活動をしながら、幼保の保育現場で活動。作家活動は日本画に固執せず、表現手段として最良と感じる表現方法を採用。制作テーマは「０距離から社会の情勢まで、問いかけてみる」。日常で自身が触れた事象に対し、それらの事象に問いと自身の考えを添えた作品展開を行っている。

春風亭愛橋（落語家）
平成９年(1997年)12月 春風亭柳昇に入門、春風亭柳二郎。平成 10 年（1998 年）１月 下席から前座見習い開始。平成 10 年(1998 年) ２月 26 日 浅草演芸ホールで初高座。平成 14 年（2002 年）２月 二ツ目昇進。平成 15 年（2003 年）１月 21 日～二ツ目披露目開始。平成 15 年（2003 年）７月 柳昇死去のため、昔昔亭桃太郎門下へ移り、裕次郎改メＱ太郎改メあるとこ郎改メ昔昔亭健太郎と改名。平成 24 年５月 真打昇進、「春風亭愛橋」となる。

笑福亭茶光(落語家)、小泉ポロン(マジシャン)
【笑福亭茶光】
笑福亭鶴光に入門。2015（平成 27）年８月、楽屋入り。前座名「茶光」。2019（令和元）年９月、二ツ目昇進。
【小泉ポロン】
横浜市出身。ウィッチステーション所属、落語芸術協会提携。

白神ももこ（振付家、演出家、ダンサー）
東京都出身。無意味・無駄を積極的に取り入れユニークな空間を醸し出す振付・演出には定評があり、自ら作・演出するモモンガ・コンプレックスでは、ダンス・パフォーマンス的グループと名づけ、ダンス？な活動を通して世界の端っこに焦点をあてる。 また、他ジャンルのアーティストや演出家、振付家との共同制作や、F/T モブ 12、北九州演劇フェスティバルのパレード演出など街にダンスを沸きあがらせる企画に携わる機会も多い。富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督。

すがぽん(須賀令奈)(パントマイムパフォーマー)
東京都生まれ。日本マイム研究所在所中、数々の公演・イベントに参加。退所後は、マイム活動と同時に、テレビＣＭ等に出演するなどソロ活動も展開している。1998 年より「水と油」に参加し、これまでに国内 22 都市、海外９カ国 22 都市で公演を行う。舞台上で見せる秀逸ともいえるクールバカっぷり、親しみやすいキャラクターで幅広い観客層から支持されている。2003 年、江戸川区文化奨励賞受賞。近年は、幇間としても活動。

善竹十郎（大蔵流狂言師）、善竹大二郎（大蔵流狂言師）
【善竹十郎】
昭和 19 年生まれ。故善竹圭五郎の長男。父及び、祖父故善竹彌五郎、大蔵流 24 世宗家故大藏彌右衛門に師事。重用無形文化財総合指定保持者。（社）能楽協会・日本能楽会会員。昭和 58 年芸術選奨文部大臣新人賞・平成 5 年大阪文化祭賞受賞、早稲田大学政経学部卒。早稲田大学エクステンションセンター・桐朋学園芸術短大・帝京平成大学講師。
【善竹大二郎】
昭和 56 年生まれ。善竹十郎氏次男。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。３歳から稽古を始め、５歳の時「靱猿」の小猿役で初舞台。後に「末広がり」「千歳」「那須」「三番三」「釣狐」を披く。東京を中心に活動し、全国幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学にて、狂言の普及に尽力する。海外公演も多数参加。「善之会」主宰。駒澤大学外部講師。

高澤祐介（狂言師）
狂言方和泉流。公益財団法人能楽協会会員。重要無形文化財総合指定保持者。三宅右近に師事。1973 年生まれ。1987 年「縛り」にて初舞台。現在までに「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を披く。

髙橋匡太（アーティスト）
平成７年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。大学在学中より光を扱うインスタレーション作品を手掛け始め、直径８ｍ高さ６ｍの巨大な布製のオブジェに、渦巻きの映像を投影した彫刻作品「光の井戸 スイコマレルキモチ」でキリンコンテンポラリーアワード最優秀作品賞を受賞する。平成 13 年に、光を空間全体にドット状に投影した京都芸術センターでの展覧会をかわきりに、映像や光を屋外空間へとプロジェクションする手法で空間を美しく変容させるサイトスピシフィックで大規模なライティングインスタレーションを多数手がける。平成 14 年 ART-EX 大阪府芸術家交流事業派遣作家としてフランスで研修。

瀧川鯉丸（落語家）、鏡味味千代（太神楽曲芸師）
【瀧川鯉丸】
2010（平成 22）年３月、早稲田大学第二文学部を卒業。2010（平成 22）年 12 月、瀧川鯉昇に入門。2011（平成 23）年４月、前座になる、「鯉○」。2015（平成 27）年４月、二ツ目に昇進、「鯉丸」。
【鏡味味千代】
鏡味勇二郎に師事。2011 年４月から寄席に出演。

多治川純一（ギタリスト）、多治川光香（ピアニスト）
【多治川純一】
エレキギターから始め、クラシックギターを大橋俊和、ジャズギターを大橋博和、エレキギターを今剛に師事。福田進一、S.グロンドーナ各氏のマスタークラスを受講。第 30 回神奈川新人ギタリストオーディション首席合格。第 26 回学生ギターコンクール大学生の部第２位入賞。クラシカルギターコンクール・スペインギター音楽コンクールファイナリスト。多治川ギタースクール横浜磯子教室を主宰し、神奈川大学ギターアンサンブル部に於いて後進の指導にあたっている。日本ギター連盟所属、神奈川ギター協会委員、（財）ヤマハ音楽振興会認定講師。

Duo deux fleurs（デュオドゥフルール）（バイオリニスト）
ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール第２位受賞。セシリア国際音楽コンクール室内楽部門（１位なし）２位、併せて審査員特別賞受賞。サンハート アンサンブルオーディション最優秀賞受賞。sonorium ホール主催の東日本大震災復興支援「子どもたちに贈る音楽祭」、ミューザ川崎シンフォニーホール「フェスタサマーミューザ コンサート」、港区赤坂区民ホールのリニューアル記念オープニングコンサート、ルネ小平ランチタイムコンサート、恵比寿ガーデンプレイスのイベント、バカラ点灯式、他多数のコンサートに出演。ＳＢＣ信越放送ずくだせテレビに毎月レギュラー出演、ＴＶ多摩、日野ケーブルＴＶ、ＴＶ神奈川「ありがとッ！」に生出演など、幅広く活動している。アウトリーチ活動にも力を入れていて、小学校や中学校へも積極的に出向いている。平成 28、29 年度長野市芸術館クラシック音楽キャラバン登録アーティスト。

寺井奈美（生田流宮城社師範）、大江美恵（生田流宮城社師範）、川俣夜山（尺八奏者）
【寺井奈美】
４歳より生田流箏曲の手ほどきを受け、現在、生田流宮城社師範。国立劇場、ＮＨＫホールにて開催される宮城会全国大会、関東大会に出演。横浜三渓園などでのイベント演奏を始め、アフリカ国際会議でのレセプション演奏、ＩＭＦ国際会議懇親会での演奏、結婚式での演奏など、演奏活動中。
【大江美恵】
４歳より生田流箏曲の手ほどきを受け、現在、生田流宮城社師範。ＮＨＫ邦楽技能者育成会第 45 期卒業。国際親善文化紹介のためのアメリカ公演に参加、自身のリサイタル主催、宮城道雄記念コンクール入賞など、幅広く演奏活動中。

【川俣夜山】
栃木県宇都宮市出身。ＮＨＫ邦楽技能者育成会第 45 期修了。サントリーホールにて立川志の輔公演に参加。高円宮妃殿下御出席「衣分はじめの儀」の音楽にて尺八演奏。2006 年、都山流尺八楽会主催都山流尺八本曲コンクール銅賞。文化庁平成 18 年度新進芸術家国内研修制度研修員。

to R mansion（パフォーマンスカンパニー）
2007 年結成。現在までに 16 カ国 82 都市の劇場や演劇祭、ストリートフェスティバルから招聘され、世界中で大人気のパフォーマンスカンパニー。フランスのアビニョン演劇祭では 1082 演目中の口コミトップ 20 に選ばれ、連日ソールドアウトとなる。神戸ビエンナーレ大道芸コンペティションでグランプリを２度獲得するなど受賞歴多数。フランスの有力紙リベラシオン紙でも「日本から来た凄まじいこの劇団は、スラップスティックコメディを上演し、夜は広場の群衆を笑いに包む。」と紹介されるなど、海外でも高く評価されている。かのファッションデザイナー、ジャンポール・ゴルチエ氏も彼らの大ファンである。（今回講師を務めるのは、メンバーの上ノ空はなび、野崎夏世、丸本すぱじろうに加え、江戸川じゅん兵の４名）

TONES（マリンバ・パーカッショングループ）
2006 年マリンバ中心の打楽器アンサンブルグループとして結成。全員が洗足学園音楽大学を卒業。 童謡からクラシック、現代音楽までさまざまなジャンルの音楽をレパートリーとし、リサイタル公演、子どもたちへの音楽鑑賞会、全国各地のイベントなどさまざまな場所で演奏活動を行う。またマリンバカルテットの可能性を広げるべく作曲家への委嘱、新たな編曲作品にも力を入れる。2012 年カメラータトウキョウより「FOUR MARIMBAS」、 2016 年 fontec より「FOUR MARIMBAS II」をリリース。メンバー１人ひとりの個性溢れる音色、エネルギッシュかつ温かい音楽を届ける。

特定非営利活動法人 打鼓音（創作和太鼓集団）
創作和太鼓集団打鼓音は 2006 年に創設された。以来、数々の和太鼓コンテストに出場し、2011 年 12 月 18 日に行われた太鼓祭 in くまがやドーム 2011 日本一決定戦で初優勝を果たし、日本一を成し遂げた。東日本震災復興支援活動への取組や全国 180 校に上る小中学校、高校での依頼演奏会、ワークショップを行っている。

どやどや楽団（打楽器バンド）
2012 年、洗足学園音楽大学打楽器コース在学時に同期４人で結成。マリンバ、ヴィブラフォン等の鍵盤打楽器やスティールパン、ドラムスを中心とした編成で、70～80 年代の洋楽ロック、ポップス、ジャズ、クラシックなど打楽器でやったら面白そうと思う音楽をオリジナルアレンジで何でも演奏。なかでもロックを得意とし、往年のロックへのリスペクトを持ちつつ、平成生まれの視点による独自の解釈とパフォーマンスを追及。クラシックをベースとした確かな演奏技術と、楽器の特性・楽曲の魅力を生かしたアレンジは好評を得ている。

外山香（箏演奏家）
３歳より伯母久松雅和陸に箏曲の手ほどきを受ける。後に、沢井忠夫、川村昌子、中山いずみに師事。聖心女子大学在学中に第 30 期ＮＨＫ邦楽技能者育成会を卒業、沢井忠夫合奏団に入団。1989 年文化庁芸術家国内研修員修了。1990 年、1992 年ＮＨＫ邦楽オーディション合格。日本音楽集団入団（～1992 年）。第一回日中伝統音楽交流会にソリストとして参加。1990 年第一回リサイタルを行う（以後、2007 年第８回まで開催、2005 年は静岡音楽館 AOI 主催による）。1995 年タイ・バンコク、1997 年ドイツ・カールスルーエに於いてリサイタルを行う。2000 年、横浜市港北芸術祭にて宮間利之とニューハードと協演。2002 年、横浜市日米協会 50 周年記念式典にて米軍ジャズバンドと協演。1996 年日本クラウンより、2007 年邦楽之友社よりソロＣＤを発売（第 62 回文化庁芸術祭参加作品）。2007 年横浜交響楽団第 600 回記念演奏会にソリストとして参加。ＩＳＣＭ－ＡＣＬ合同香港公演に出演。2010 年、横浜で開催されたＡＰＥＣレセプションにて演奏。ＮＨＫＴＶ「芸能花舞台」に出演。2011 年、2012 年、The Swing Herd Orchestra と協演。2012 年、神奈川フィルハーモニーの公演にソリストとして参加。現在、沢井箏曲院師範、国内外において演奏活動を行う傍ら教授活動を行う。

長井江里奈（ダンサー、演出家、ワークショップファシリテーター）
舞台芸術集団「山猫団」主宰。ダンサー・演出家・ワークショップファシリテーター。「伊藤キム+輝く未来」「まことクラヴ」にてダンサーとして国内・国外のさまざまな劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、2013 年に山猫団を立ち上げる。2015 年よりワークショップファシリテーターとしても活動。日本各地で子ども～大人向けのワークショップや市民参加型公演の演出を行う。ソロアーティストとしても破天荒に活動中。

中川梨恵（ダンサー、振付家、俳優）、高山京子（俳優、シンガー）、櫻井由佳（俳優、ダンサー、シンガー）
【中川梨恵】
東京ミュージック＆メディアアーツ尚美ミュージカル学科卒業。在学中にバレエ、モダン、ジャズ、タップなどさまざまなダンスを学び、卒業後からは日本舞踊も始める。S&S Entertainment にて俳優・演劇コースを受講し、ヴォーカルを小島節子氏に師事。Rainbow Jam 公演「I's」「ギフト」、S&S MUSICAL SHOW LIVE、その他ライブなど多数出演。S&S 主催の公演やライブにおいて、振付も手掛ける。小学校や福祉施設での表現ワークショップなどにも取り組んでいる。
【高山京子】
東京ミュージック＆メディアアーツ尚美ミュージカル学科卒業。中学入学と同時にバレエを習い始め、高校でジャズダンスに触れ、専門学校ではタップダンス、モダンダンスを学ぶ。その後、S&S Entertainment にて俳優・演劇コースを受講し、ヴォーカルを小島節子氏に師事。東宝ミュージカル「レ・ミゼラブル」、Rainbow Jam 公演「恋's」「ギフト」等の舞台や、S&S MUSICAL SHOW LIVE、柴田節子パフォーマンスライブなどに出演。S&S 主催の公演やライブにおいて、振付も手掛ける。
【櫻井由佳】
俳優、ダンサー、シンガー。S&S Entertainment Studio、Rainbow Jam に所属。尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科卒業。バレエ、モダン、ジャズ、タップなどのさまざまなダンスを学ぶ。子どもたちのためのレクリエーションや、小学校や福祉施設での表現ワークショップなどにも取り組んでいる。

長島有里枝（写真家）
1973 年東京都生まれ。1995 年武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。1999 年 California Institute of the Arts, Master of Fine Arts 修了。2015 年武蔵大学人文科学研究科前期博士課程修了。2001 年写真集「PASTIME PARADISE」（マドラ出版）で第 26 回木村伊兵衛写真賞受賞。2010 年著書「背中の記憶」（講談社）で第 23 回三島由紀夫賞候補、講談社エッセイ賞受賞。

中村明日香（多面体表現者、アーティスト、振付家）
玉川大学文学部芸術学科卒業。音楽一家に育つ。持ち前の音感の良さを生かし、芝居と歌などの「声」と洋舞から日舞、フラメンコ、即興、コンテンポラリーなど、さまざまな「ダンス」のテイストを織り混ぜた表現で空間を紡ぎ出す唯一無二の<多面体表現者>。自ら演じる表現活動に加え、さまざまな媒体の振付家としても活躍中。異ジャンルが混在する作

品作りを得意とする。文化芸術による供育成総合事業派遣芸術家。

中村恩恵（振付家、ダンサー）
横浜市出身。1988 年ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞を受賞後、モンテカルロバレエ団を経て、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターに所属し活躍。2007 年に日本へ活動の拠点を移した後も、ダンサー・振付家として、新国立劇場バレエ団、K バレエカンパニー、パリ・オペラ座のエトワールなどに作品を提供。首藤康之との創作活動も積極的に行っており、「Shakespeare THE SONNETS」（新国立劇場）など多くの作品を上演。また、キリアン作品のコーチも務め、パリ・オペラ座をはじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。第 61 回芸術選奨文部科学大臣賞、第 67 回神奈川文化賞、2018 年紫綬褒章など受賞多数。

Natsu（振付家、ダンサー）、ヤマグチリオ（振付家、ダンサー）、HARU（振付家、ダンサー）
【Natsu】
1997 年 6 月 28 日生まれ。大阪ダンス＆アクターズ専門学校卒業後、上京し、現在女性アニメーションダンスチーム「Neo-Geisha」のメンバーとして活動。
ウルフルズ、湘南乃風大阪公演などのバックダンサーを務めるほか、フレデリックのＭＶでダンサーとして出演。舞台ＦＦＢＥ（ファイナルファンタジーブレイブエクスペリアプス）ダンサー出演。

箆津弘順（フラメンコ舞踊家、俳優）
早稲田大学卒業。外資系証券会社勤務を経てフラメンコダンサーに転身した異色の舞踊家。フラメンコを碇山奈奈に師事。また渡西を繰り返しながらスペインにて多くの著名なフラメンコアーティストに学ぶ。登竜門であるフラメンコ新人奨励賞を受賞し、以後プロ活動を始める。スペインからの来日公演に舞踊団員として参加したり、ほか客演多数。また「血の婚礼」「うないおとめ」「OMIWA」など、物語を題材にした壮大なフラメンコ舞踊作品を手がけ、その演出の才も高く評価されている。現在は俳優としても活躍中。

Nomad Saxophone Quartet（サクソフォンカルテット）
2019 年 4 月、リーダーの歌頭諒が呼びかけて結成。クラシックサクソフォンの魅力を伝えることをテーマに各地でコンサートを行っている。 これまでに東京、栃木、長野、福岡の各地で「サックスの魅力発見」コンサートを開催。 また栃木県を中心に各小・中学校へ音楽鑑賞教室として演奏活動を行っている。サクソフォン四重奏のためのレパートリーを中心に、新曲の委嘱や他楽器の曲からのアレンジなど、サクソフォンカルテットのさらなる可能性を追求している。第 9 回サンハート・アンサンブル・オーディション優秀賞受賞。

萩原広充（ドラマー、パーカッショニスト）、佐藤深雪（ダンサー、 コレオグラファー）
【萩原広充】
横浜出身。老舗ジャズ喫茶 Jazzsalon MUSA の次男として生まれる。小学生の頃、洋光台の関古式囃子保存会がきっかけで和太鼓を習いはじめ、14 歳のときにドラムと出会う。高校卒業後は藤沢にある国際新堀芸術学院へ進学し、音楽を専門的に学ぶ。2020 年、洋光台に自身が代表を務める H.P.Music School を開校。専門学校国際新堀芸術学院や戸塚桜音楽教室でもドラム、パーカッション講師を行っている。演奏者としてもさまざまな仕事に取り組み、日本各地での演奏から、海外はアジア、ヨーロッパを中心にさまざまな場所でのコンサートやイベントへ出演。神奈川県高等学校軽音楽連盟のコンクール審査員も務める。
【佐藤深雪】
函館出身。上京後、演技ほかさまざまなジャンルのダンスにチャレンジをし、音楽家とのコラボ多数。イタリアにてオーケストラと共演、イスラエルでは舞踏パフォーマンスを経験、最近は美術館でのイベントにて伝統芸能「能」に携わり、ほか映像出演など多岐にわたる活動を行う。国際新堀芸術学院非常勤講師、栄眞学園特別講師、ほか。ダンスグループ madrigal 主宰。

浜野与志男（ピアニスト）、金持亜実（ソプラノ歌手）、関口直仁（バリトン歌手）
【浜野与志男】
東京藝術大学音楽学部を経てロンドンへ留学し英国王立音楽大学大学院にて修士号ならびにアーティストディプロマを取得。2011 年日本音楽コンクール第 1 位など国内外のコンクールで多くの受賞歴をもつ。また国内外のオーケストラとの共演やリサイタル等演奏活動を積極的に行っている。
【金持亜実】
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程、及び博士後期課程修了。博士号（音楽）を取得。現在、同大学音楽文芸教育研究助手。
【関口直仁】
東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。オペラや宗教曲でソリストを務める一方で、ファミリーコンサートへの出演や、ＴＶＣＦ、映画音楽などのレコーディングに参加。2012 年より株式会社クロスアートの取締役として経営に参画。

ピアノと読み声－紋音－（伊藤慧（ピアニスト）、竹平晃子（アナウンサー））
ピアニスト伊藤慧と、アナウンサー竹平晃子による、ピアノと読み声（朗読）の DUO。2018 年 12 月にサウンドインレーベルよりＣＤ「音と言葉の物語～ぞうのババール～」をリリースしたのを機に結成。2019 年 10 月には、横浜音祭り 2019 の「街に広がる音プロジェクト」に出演。サルビアホールアーティストバンク登録アーティスト。時代を越えて伝えていきたい絵本や詩を、紋音オリジナル構成の音楽にのせて、貴方のもとへお届けします。

東川歩未（ダンサー、アクター、モデル）
新体操日本代表フェアリージャパン初代リーダー。世界選手権大会 5 位入賞。舞台・アーティストライヴツアー・ＭＶ・ＴＶ番組・CM・等多方面で活動中。また、インスタレーション作品としてのパフォーマンスを東京藝術大学卒業終了作品展にて披露、自身で振付演出するダンスグループ作品を東京都美術館「ZEN 展」にて披露する等、アート活動も行っている。

東野祥子（振付家、ダンサー、ANTIBODIES Collective 主宰）
10 歳でダンスを始める。平崎喬子、泉克芳に師事。2000-2014 年「Dance Company BABY-Q」を主宰。数々の舞台芸術作品を発表し、国内外のフェスティバルにも招聘される。ソロダンサーとしても数多くの即興ミュージシャンやアーティストとのセッションを展開。トヨタコレオグラフィーアワード 2004「次代を担う振付家賞」、2005 年横浜ソロ×デュオ〈Competition〉＋（プラス）「未来へ羽ばたく横浜賞」、2010 年舞踊批評家協会新人賞など受賞。2005-2013 年東京にてスタジオ BABY-Q Lab.を運営し、人材育成を行う。また学校教育プログラムでの指導も積極的に行っている。地域創造－公共ホール現代ダンス活性化事業登録アーティスト。2015 年京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」として多ジャンルのアーティストとともに国内外にて作品制作やパフォーマンスアクションを実践している。

ヒサクニヒコ（漫画家）
1944 年東京都生まれ。1951 年の春、 7 歳で横浜に転居。以来横浜市在住。1966 年慶応義塾大学法学部卒業。1972 年「戦争　漫画太平洋戦史」で第 18 回文藝春秋漫画賞を受賞。漫画、絵本、イラスト、エッセイ、テレビのレポーター、ラジオ、恐竜研究などで幅広く活躍。「なるほど忍者大図鑑」（2009 年、国土社）、「恐竜研究室」（2012 年、あかね書房）、「人類の歴史を作った船の本」（2016 年、こども

の未来社）など著書多数。

ヒダノ修一（太鼓ドラマー）、一彩（太鼓パフォーマー）、光季（タップダンサー）

【ヒダノ修一】

1969 年横浜出身、幼少期から 23 歳まで栄区で過ごす。1990 年にプロデビュー。9 年後の空前の和楽器ブーム到来の礎を築いた 1 人。これまで 3000 回以上の演奏を行い、海外ツアーは 41 ヶ国で 300 回を超える。まさに 21 世紀の太鼓史に輝く偉業を数多く成し遂げたパイオニア。ダライ・ラマ法王 14 世、天皇皇后両陛下（平成）他、御前演奏も多数。2013 年「世界一の太鼓演奏技術を持つ人」に選定。Stevie Wonder アジアツアーや、世界的 JAZZ ピアニスト Herbie Hancock と共演。「嵐」は５大ドームツアー「Japonism2015」アリーナツアー「Japonism2016」と２度の全国ツアーにゲスト参加。「ももいろクローバーZ」とは 2013 年より、国内外で毎年共演し続ける。ほかにも、ゴダイゴ、大黒摩季、WANIMA、TUBE、久石譲、夏川りみ、北野武、坂本冬美、藤岡弘、東京都交響楽団ほか多数と共演。「FIFA サッカーWorld Cup」はアジア人初の３大会の公式閉会式に出演。神奈川文化賞、横浜文化賞ほかを受賞。指導者としても、T.M.Revolution 西川貴教、堂本光一、上地雄輔ら多数のアーティストや芸能人に伝授し続けている。

【一彩（いっさい）】

17 歳でプロデビュー、これまでに世界 12 ヵ国をツアー。４才から劇団テアトルアカデミーに所属し、子役として映画や「ヨドバシカメラ」等のテレビＣＭをはじめ、ＴＶドラマ「鈴木先生」やバラエティ「グッド・ティーチャー」などに多数出演した。2010 年から 2012 年までジャニーズ Jr.研修生として、数々の大物アーティストのコンサートにバックダンサーとして参加。2011 年には「ＮＨＫ紅白歌合戦」にも出演。2014 年より３年連続で、アイドル「ももいろクローバーZ／夏のバカ騒ぎ～桃神祭～in 日産スタジアム＆エコパスタジアム」に和楽器隊「ヒダノ修一社中」メンバーとして出演した。2015 年 11 月～2016 年 8 月「嵐 ARASHI LIVE TOUR 2015 japonism」全国５大ドームツアー、「ARASHI Japonism Show in ARENA 2016」全国アリーナツアーに和楽器隊として参加。2016 年公開映画「真田十勇士（堤幸彦監督）」で、劇中の太鼓シーンの振付・録音を担当。2017 年、菅田将暉主演の映画「帝一の國」にて、メディアで話題となった劇中の“ふんどし太鼓シーン”の作曲・振付・指導を担当し、エキストラとしても出演している。2018 年７月～９月「遊助祭 2018「和」～あの・・わ なんですケド。～」にて遊助（上地雄輔）に太鼓セットを指導。2018 年９月、動画配信サイト GYAO にて配信された「ハロプロのモノホン！」に出演し、モーニング娘。'18 に太鼓を指導、コラボパフォーマンスも行った。2020 年３月、ＮＨＫうたコン「７時半発！ビートルズ＆春歌スペシャル」にて歌われたイエローサブマリン音頭に出演。2020 年８月、Abema「ももクロ夏のバカ騒ぎ 2020 配信先からこんにちは」に出演。同月ＮＨＫ「シブヤノオト Presents WANIMA LIVE SPECIAL」出演。2021 年４月 AbemaＴＶ「声優と夜遊び」2021 シーズン水曜日第１回放送に出演。これまでに「ももいろクローバーZ」「菅田将暉」「志尊淳」「竹内涼真」「千葉雄大」「野村周平」「間太左祥太朗」「鈴木勝大」「上地雄輔」「モーニング娘。'18」「King＆Prince」ら多数芸能人へ太鼓指導・振付を行い、作曲・指導・振付でも高い評価を得ている。

ぴんたろー（パーカッショニスト、作曲家、編曲家）

多様なジャンルからミュージシャンが集まり、独自の音楽で活動する東京カンソン。メンバーの個性でアフリカ、中南米等世界の民族音楽の要素をふんだんに盛り込みながら、独特なハーモニーとボーカル歌子の透明感のある歌声で、日本の童謡叙情歌、民謡等を、現代的、斬新なアレンジで次世代に歌い継ぐ。今回は、東京カンソンから、３人のメンバー選出による企画。

FUNBURGER（ダンススタジオ）

2013 年横浜市南区に開設、「楽しいこと（FUN）沢山はさんで（BURGER）いこう！」をコンセプトに、子どもから大人までがダンスで繋がるスタジオです。HIPHOP や JAZZ などダンスの基礎を教え、コンテストやイベント等に多数出演、受賞。また、障害者ダンスチーム FUNSTAR を 2019 年から発足し、障害のあるメンバーの余暇支援、アーティストとしての活躍の機会を作っています。ダンスを通して受ける刺激は想像を超えるものであり、表現できる楽しさを伝えています。

Hopscoootch!（打楽器アンサンブルグループ）

鈴木絵里香（mar. perc.）、喜屋武礼寧（mar. perc.）、松尾弥生（perc.）の３人による打楽器アンサンブルグループ。Hopscoootch!は、英語の「hopscotch」を元に、マレットの頭にも見える「o」を３つ並べて命名。意味は子どもの遊びの「けんけんぱ」で、鍵盤（けん）×鍵盤（けん）×パーカッション（ぱ）の頭文字の組み合わせが由来。打楽器ならではの遊びゴコロあるアレンジで、クラシック、ポップス・ジャズ・舞台音楽等、幅広いジャンルを演奏。

堀子孝英（オーボエ奏者）、井上麻衣子（ピアニスト）

【堀子孝英】

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修士課程修了。修士論文「後期バロック室内楽の演奏法研究」。オーボエを青山聖樹、木原聡子、姫野徹、吉成行蔵、ヨーゼフ・キシュの各氏に、室内楽を磯部周平、岡崎耕治の各氏に師事。大友直人、アラン・ギルバート両音楽監督によるミュージック・マスターズ・コース in かずさ（ＭＭＣＫ）2008 オーディション合格、同講習会参加。2013 年～2016 年、インド交響楽団にてオーボエ契約団員をつとめる。オマーン・スイス・アラブ首長国連邦へのツアーを含む７シーズンに参加。インドの伝統楽器であるタブラの神様、Z.フセインや、C.デュトワ、O.デュメイ、M.J.ピリスら著名な演奏家と共演。2020 年１月、ロバート・ライカー指揮・東京シンフォニアと、W.A.モーツァルト作曲オーボエ協奏曲、協奏交響曲を共演。ソリストをつとめる。木管五重奏団「Ensemble AQUA」団員。船橋オーボエ教室、船橋オーボエリード工房代表。東京セラフィックオーケストラ管楽器トレーナー。スタジオミュージシャンとして、テレビ朝日ドラマ「そして誰もいなくなった」「人間の証明」などの録音に参加。バロックから古典の音楽をこよなく愛し、「人々を幸せにする音楽」を目指し演奏活動を行う。

【井上麻衣子】

千葉県船橋市出身。東京学芸大学音楽科卒業。小・中学校で講師を勤め、現在は自宅にて音楽教室を開講。ソルフェージュを大切にして自立を目指し、また、合唱や吹奏楽でのピアノ担当など、幅広い活躍を応援するレッスンを心がけています。ほかに、器楽奏者の伴奏、ピアノ講師仲間とのアンサンブルコンサートを開催。公民館主催の家庭教育セミナー講師。ＰＴＮＡ指導会員。勉強会パレットメンバー。

松本光世（美術家）

造形＆五感ワークショップ講師。子どもの造形教室「アトリエ太陽の子」のほか、神奈川県立青少年センター、横浜市南部ユースプラザ、栄区子育て支援拠点、放課後等デイサービスなどで、子どもから大人まで年齢や障害の有無に関わらず、さまざまな立場の人たちと一緒に、誰もが気軽に楽しめる「五感を使ってちがいを楽しむワークショップ」などのアート活動を実施。銀座秀友画廊や、福音館書店「母の友」などでも作品発表。栄区内では「さかえ de つながるアート」や、福祉とアートの「egao プロジェクト」のメンバーとしての活動を展開中。

真鍋尚之（作曲家、雅楽演奏家）
横浜市泉区出身。伝統に根ざしながら独奏楽器としての笙の地位を確立させ、さらに超絶技巧を用いた作品の演奏で笙の魅力を飛躍的に発展させた。活動は日本のみならずヨーロッパや中南米におよぶ。洗足学園大学（専攻：作曲・声楽）。東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒業。第1回国立劇場作曲コンクール優秀賞（1位）、東京・邦楽コンクール第1位など作曲および演奏での受賞多数。2000年より笙という楽器の可能性を追求したリサイタルを開いてきた。2003年のリサイタルは読売新聞における年間ベスト5に選ばれる。2011～2012年文化庁文化交流使としてドイツ・ベルリンを拠点に12か国30以上の都市で活動。ソロを中心に 50 回以上の演奏会を開いてきた。帰国後も定期的にソロをはじめアンサンブル、また雅楽の古典をヨーロッパに紹介する企画をオーガナイズしている。

三ツ山一志（造形教育家）
1953年生まれ。東海大学教養学部芸術学科美術科卒業。1976年から幼稚園での絵画指導を行い、1987年横浜美術館開館前より子どものアトリエを担当。2007年より横浜美術館副館長、横浜市民ギャラリー館長、横浜市民ギャラリーあざみ野館長を歴任。現在＜アートの活動が子どもの育ちをどのようにサポートしていけるか＞をテーマに活動している。そのほか、造形教育についての講義指導、執筆など多数。

峰岸桂子（アルパ奏者）、ルイス・サルトール（チャランゴ奏者）、イリチ・モンテシーノス（ケーナ奏者、サンポーニャ奏者）
【峰岸桂子】
国立音大教育音楽科卒。1996年よりチューチョ・デ・メヒコよりアルパの指導を受ける。その後パラグアイにアルパ学習のため短期留学。1998年より東京、横浜を中心にコンサート活動をはじめ、ホテルやレストランのディナーショーやラウンジ演奏にも多数出演。ソロ演奏のみでなく、他楽器、他ジャンルの演奏家、美術家、ダンサーなどとの共演も積極的に行う。2002年より横浜と名古屋でアルパ教室を主宰。本プログラムでは、ルイス・サルトール、イリチ・モンテシーノスと共演。
【ルイス・サルトール】
アルゼンチン共和国出身。1978年、ケーナ巨匠のアントニオ・パントーハの日本ツアーのメンバーとして来日。1985年、活動の拠点を日本に移し、ラテン音楽の魅力を日本に広めるべく活躍するマエストロ。マンドリン、チャランゴ、ギター、キーボードを自由自在に操り、シンガー・ソング・ライターとしても多彩な才能を発揮。著書に、画期的なチャランゴ教則本「チャランゴ・マスター」がある。近年は故郷の先住民モコビ族の人権を音楽を通して取り戻す活動に力を注ぐ。本プログラムでは、峰岸桂子、イリチ・モンテシーノスと共演。
【イリチ・モンテシーノス】
ペルー出身。フォルクローレ国立大学で民族音楽を学ぶ。在学中からプログループ「インカメリカ」に所属し、国内コンテスト2位を獲得後、国内外で音楽活動を開始。1994年初来日。1996年より活動拠点を日本に置く。ライブ活動の他、ＣＤ制作・ＴＶ・ラジオ出演・楽器指導等、多彩な活動を展開。ケーナを主体に、サンポーニャ・ギター・チャランゴ・バンドゥーリャ・オカリナまでオールラウンドプレイヤー。本プログラムでは、峰岸桂子、ルイス・サルトールと共演。

宮原健一郎（テノール歌手）、五十嵐志保美（ソプラノ歌手）、青木智哉（ピアニスト）
【宮原健一郎】
東京芸術大学音楽学部声楽科テノール専攻卒業。大学在学中に劇団四季のオーディションに合格し、聴講生としてミュージカルの基礎を学ぶ。これまでに多数のコンサートや、ミュージカル、演劇の舞台などに出演。また「歌のおにいさん」として全国各地のファミリー向けコンサート・イベント等で100ステージ以上出演している。
【五十嵐志帆美】
文化女子大学服装学科卒業後、聖徳大学声楽コースへ編入学し卒業。2009年「ジェーン・エア」では演出助手として関わる。2016年第24 回太陽カンツォーネ・コンコルソ準優勝。同年、パリ祭にてＮＨＫホールなどに出演。また都内シャンソニエなどでシンガーとして活動中。「レ・ミゼラブル」2017.19.21と出演中。
【青木智哉】
東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。同大学院器楽専攻鍵盤楽器研究領域修了。第12回日本演奏家コンクール特別賞などコンクール入賞を重ねる。2016年高嶋音楽事務所より、ピアノトリオ「ザ・フレッシュメン」としてデビューし、ＣＤ「Folk Once More」をリリース。

望月太左衛（邦楽囃子方）
重要無形文化財長唄（総合認定）保持者。東京藝術大学にて博士号（音楽）を取得。幼少より父・十代目宗家家元望月太左衛門の指導を受ける。1994年(平成6年)二代目望月太左衛を歌舞伎座にて襲名。ＮＰＯ法人日本音楽囃子文化研究会（HIJ）理事長、国立劇場（歌舞伎俳優・客席囃子）研修講師、一般社団法人長唄協会会員〈普及育成委員、演奏副委員長〉、一般社団法人東洋音楽学会会員、江戸伝統文化推進　燈虹塾理事、伝統芸能教場「鼓樂庵」代表、望月太左衛一門一如乃会主宰ほか。

森下真樹（振付家、ダンサー）
幼少期に転校先の友達作りで開発された遊びがダンスのルーツ。これまでに10か国30都市以上で自身の作品を上演。さまざまな分野とコラボし活動の場を広げる。2017年より自身のソロ「ベートーヴェン交響曲第5番『運命』全楽章を踊る」を展開。100人100様をモットーに幅広い世代へ向けたワークショップや作品づくりを行う。周囲を一気に巻き込み独特な「間」からくる予測不能、奇想天外ワールドが特徴。第8回日本ダンスフォーラム賞受賞。

柳雄斗（アーティスト）
2019 年東京藝術大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。車の中や福祉施設、ワンルームマンション、街中など、劇場という場所にとらわれず、日常と非日常が交差する演劇表現を実践。森山開次×ひびのこづえ×川瀬浩介の《LIVE BONE》（2013）にダンサーとして出演、チェルフィッチュの演出助手を務める。
TURN プロジェクトにて、マイノリティの人々との共同制作の他、新潟県十日町市莇平集落にて半年、2019年度そんぽの家Ｓ王子神谷にて1年間のアーティスト・イン・レジデンスを行うなど、さまざまな領域を横断的に活動している。

山井綱雄（金春流能楽師）
シテ方金春流能楽師。重要無形文化財（総合指定）保持者。公益社団法人「能楽協会」理事。公益社団法人「金春円満井会」常務理事。山井綱雄能の会「山井綱雄之會」主宰。能アマチュア愛好家の会「春綱会」主宰。平成26年度文化庁文化交流史（長期派遣型）。東日本大震災復興支援能楽の会「息吹の会」同人。ＮＨＫ文化センター本校講師／ＪＲ東日本「大人の休日倶楽部」講師／籐嶺学園藤沢中学校非常勤講師。「能楽は世界最高の芸術である」との信念の下、能楽普及と「日本の心」の啓蒙に奔走している。初心者の為の能ワークショップ、学校公演などを多数開催。海外公演や他ジャンル芸術家との共演・創作作品多数。能楽の新たな可能性にも挑む。

山下恵実（演出家、振付家）、北川結（ダンサー、振付家、イラストレーター）
【山下恵実】
1998年生まれ。演出家／振付家。「ひとごと。」主宰、青年団演出部所属。埼玉県立芸術総合高校舞台芸術科卒業。演劇作品やダンス作品の創作の他、子ども参加型公演や、ワークショップを行うなど、アウトリーチ活動も積極

的に行う。横浜ダンスコレクション 2020 コンペティションⅡ奨励賞受賞。
【北川結】
６才からモダンバレエをはじめる。桜美林大学にてコンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。2008 年より白神ももこ主宰のモモンガ・コンプレックスにメンバーとして参加。ダンサーとしてさまざまな振付家・演出家の作品に出演。近年では演劇作品にも出演し、活動の幅を広げている。横浜ダンスコレクション 2017 コンペティションⅠにて奨励賞を受賞。イラストレーター“きたがわゆう”としても活動している。

山田裕介（造形作家）
神奈川県横浜市生まれ、横浜市在住。セメントを素材に、彫刻や部屋を覆い尽くすようなインスタレーションを制作するアーティスト。主な展示：2012 年「黄金町バザール 2012」（神奈川）／2013 年「アート DE コガネ」（神奈川）、「CONSTELLATIONS」（フィリピン）／2014 年「大隈アートマジック」（福岡）／2015 年「ごった煮展」（東京）、「あったもの。なくなったもの。おもいだせないもの。」（神奈川）など。

山猫団（舞台芸術集団）
ダンサー長井江里奈の発案により、2013 年３月結成。ダンサー、音楽家、絵描き、造形作家、デザイナー、照明家、音響、 舞台監督、衣装作家、写真家から成る舞台芸術団体。ステージ・客席を含めた空間美術から、イラスト・ダンス・音楽・芝居まですべて自家製で、「扉の向こう」に幻の時間と空間を作り出す。

狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
狂言方大蔵流、山本東次郎家の狂言師。徳川幕府の式楽の伝統を継承する大蔵流狂言の家柄。初世山本東次郎則正（隠居名・東 1836（天保７）-1902（明治 35））に発する。現在、長男の四世東次郎則壽（1937（昭和 12）-）、三男則俊（1942（昭和 17）-）、およびその子息たちである泰太郎、則孝、則重、則秀が杉並能楽堂を拠点に公演、普及活動に努めている。

吉田誠（クラリネット奏者）、徳永真一郎（ギタリスト）
【吉田誠】
日欧のオーケストラや国際音楽祭にソリストとして招聘され、公演を重ねている。2020 年 11 月、ソニーミュージックから「ブラームス：クラリネット・ソナタ（全曲）、シューマン：幻想小曲集ほか」を世界リリース。朝日新聞ＣＤ評で特選盤及びレコード芸術室内楽部門で特選盤に選出。文科省学習指導要領令和２年度改訂版教育芸術社小学校音楽教科書準拠「小学生の音楽鑑賞・表現」で演奏が紹介された。テレビ朝日「題名のない音楽会」、ＮＨＫＢＳプレミアム「クラシック倶楽部」、Ｅテレ「おんがくのおもちゃばこ」などに出演。
【徳永真一郎】
徳島県出まれ。９歳からギターを川竹道夫に学ぶ。2003 年、スペインギター音楽コンクールおよび日本ギターコンクール優勝。19 歳で渡仏し、ストラスブール音楽院でアレクシス・ムズラキスに、古楽・リュートを今村泰典に師事。その後、2011 年よりパリ国立高等音楽院でローラン・ディアンスに師事し、2016 年に修士課程を満場一致の首席で卒業。

喜羽美帆（箏・二十五絃箏・三絃演奏家）、岡戸朋子（生田流箏曲・地歌三味線・宮城大胡弓・小胡弓演奏家）
【喜羽美帆】
幼少よりピアノをはじめ、７歳より箏・二十五絃箏・三絃を佐藤里美氏に師事。生田流地唄箏曲松の実會　師範。師範名　福田操明櫻（ふくだそうめいおう）。ＮＨＫ邦楽技能者育成会第 42 期卒業。地唄箏曲松の実会師範、（社）日本三曲協会会員、生田流協会会員。日本音楽集団団員。
【岡戸朋子】
６歳より箏・十七絃・地唄三味線・胡弓を宮城会宗家直門大師範 服部かすみ・小池典子に師事。ＮＨＫ邦楽技能者育成会 55 期修了。「伊勢神宮第六十二回式年遷宮」において外宮能舞台にて箏の独奏奉納演奏。京都御苑京都御所内にある白雲神社にて箏の独奏奉納演奏。国立劇場やＮＨＫホールなどの国内舞台をはじめ、モンゴル、台湾、アジア、ヨーロッパ、ニューヨーク、エチオピアコンサートなど日本国内にとどまらず海外でも活動の幅を広げている。国内外さまざまなアーティストのＣＤレコーディング多数収録。日本の古典音楽をはじめ、現代曲、洋楽器とのコラボレーションなど和楽器の可能性を広めている。

米澤浩（尺八奏者、米澤熊沢邦楽研究所）、熊沢栄利子（箏奏者、米澤熊沢邦楽研究所）
【米澤浩】
邦楽奏者。尺八。宮田耕八朗氏に師事。1978 年日本音楽集団入団。活動は邦楽アンサンブルにとどまらず、国内外のオーケストラとの共演経験も多く、現在に至るまで 200 を超える海外実績を持つ。コンサート活動のほか、演劇・放送での演奏、専門講座の講師、また日本音楽集団の海外公演のプロデュースなど活動の幅は広い。日本音楽集団副代表。一般財団法人地域創造公共ホール邦楽活性化事業コーディネーター。
【熊沢栄利子】
邦楽奏者。箏。砂崎知子氏に師事。ＮＨＫ邦楽技能者育成会卒。1978 年日本音楽集団入団。1981 年ＮＨＫオーディション合格。2001 年から尺八の米澤浩と開始した海外ツアーは、欧州・中米等 14 カ国で 70 公演を超える。また、2006 年米澤浩と小学生を対象とした箏体験ワークショップ「YK プログラム」を考案、全国で実施するなど、幅広い世代に向けて邦楽器の体験普及に尽力している。日本音楽集団団員。道音楽院会員。

Rythmission（打楽器奏者）
2016 年 10 月に結成した打楽器アンサンブルユニット。「Rythmission」とは「Rhythm（リズム）」＋「Mission（使命）」を組み合わせた造語で、名前の通り、子どもから大人まで誰でも簡単に触れることのできる打楽器を通して音楽・リズムにのることの楽しさを多くの方々に伝えることを使命とし活動中。平成 28 年度川越人材発掘オーディションに合格し小学校での音楽鑑賞教室、楽器づくりや演奏体験などワークショップ付きコンサート、講演会などさまざまな活動を展開。また関東を中心にラ・フォル・ジュルネ TOKYO をはじめ、お祭りやロビーコンサートなど各種イベントでの演奏にも多数出演。

ルロット・オーケストラ（クラシック音楽演奏集団）
「ルロット」はフランス語で「屋台」を表します。文字通り、舞台を飛び出して、お客様と一緒に音楽を作り出す、類い稀なオーケストラです。

伶楽舎（雅楽演奏団体）
雅楽の合奏研究を目的として、1985 年に芝祐靖が創設し、長らく音楽監督を務めた雅楽演奏団体。発足以来、現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、国内外で幅広い活動を展開している。特に、現代作曲家への委嘱作品や古典雅楽様式の新作の初演には力を入れ、年２回のペースで開催している自主演奏会で度々発表している。解説を交えた親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及にも努めており、小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなどの教育プログラムも多く行っている。なお「伶楽舎」の名前は、古代中国の楽人の祖とされる「伶倫」に因んで、現行の雅楽のみならず、廃絶曲や新作など、従来の枠にとらわれない自由な活動を目指してつけられた会名である。

ワールドアサンテファミリー倶楽部（民族音楽や踊りにより国際理解教育の普及と発展を目指すグループ）
【トニー山本】
ワールドアサンテファミリー代表。10 代の頃よりプロのベーシストとして活躍。音楽教育

や国際交流の場で、民族音楽の仲間たちを募りワールドワイドに活躍。
【アブドゥ】
セネガル共和国国立バレエ団のソリストダンサー。民族楽器にも造詣が深い。世界中に生徒を持ち、民族舞踊の普及にも勤しむ。
【小柴ユミエ】
ミュージカル、ミスサイゴンの初演キャスト。ウクレレユニット”前途洋洋”で保育園から高校まで、支援校、デイケア等幅広く活動している。前回のアフリカ開発会議のテーマソングの作詞、歌唱も担当。

和楽団煌（和楽器奏者（箏、三味線、尺八）、ピアニスト（作編曲））
古典から現代、他ジャンルまで演奏する和楽器奏者と作編曲家による楽団。篠笛、箏、三味線、尺八、琵琶、笙などの奏者が集まり、現代における新しい感覚での和楽器の合奏を、楽器・流派の枠を越えて研究し、新しい日本の文化を創作していくことを目的とし活動している。和楽器を身近で親しみのある、また誇りある日本文化として日本そして世界に発信している。

和太鼓集団　撥當（ばちあたり）（和太鼓奏者）
平成元年の設立以来、横浜を中心に活動。撥當は他の和太鼓団体には少ない、お互いの氣を感じ合わせる、即興演奏を主体としている。お三の宮日枝神社例大祭や水天宮平沼橋神社例大祭などの祭りや、12 月の蒔田公園で行われる「光のぶろむなぁど」といった多くのイベントに参加している。

渡辺玲子（ヴァイオリニスト）、坂野伊都子（ピアニスト）
【渡辺玲子】
超絶的なテクニック、玲瓏で知的な音楽性、切れ味鋭い官能性とその広いレパートリーで日本のみならず世界のヴァイオリン界をリードする逸材である。第 50 回日本音楽コンクールにおいて最年少優勝（15 歳）、翌年の「若い芽のコンサート」でＮＨＫ交響楽団とバルトークのヴァイオリン協奏曲第２番を共演、衝撃的なデビューを飾った。1985 年からは、ジュリアード音楽院に全額奨学生として留学し、1992 年に学士と修士を取得。以来、ニューヨークを本拠地として国際舞台で目覚ましく活躍している。
【坂野伊都子】
第 69 回日本音楽コンクール２位受賞を皮切りにソロ、室内楽においてさまざまなアーティストと共演を重ね、国内外の音楽祭、録音などさまざまな室内楽プロジェクトに積極的に参加。

【コーディネータープロフィール】

■コーディネータープロフィール

担当したコーディネーターのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

Media Global （メディアグローバル）

2006 年より「横浜市芸術文化教育プログラム」コーディネーター。1998 年発足した「企画集団 MUGEN」を母体に 2005 年設立の企業組合 Media Global を経て現在に至ります。親子・子どものワークショップを得意とし、行政との協働・アートにかかわる人々とのネットワークを軸に活動をしています。
これまでに学校プログラムでは、落語やミュージカルなどの授業を実施しています。

ＮＰＯ法人子どもに音楽を

https://kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/
世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを子ども達に伝え残すことが私たち大人の役目だと考えます。幼い頃から芸術や自然に親しみ「感じる・感じ取る」という豊かな感性を育てていくことが大切ではないでしょうか。人間として最も大切な「心」を置き去りにしては、明日を担う有能な人材は育ちません。小さい頃から芸術や自然に親しみ、その素晴らしさを感じ取れる心を持つことは、本当の意味で人間として豊かになることです。
その一つとして、ＮＰＯ法人「子どもに音楽を」では、クラシック音楽を一流の演奏家による演奏で、子どもたちに聴いていただく活動を行っています。間近に聴く演奏家の息づかいや、楽器の響きには、機械からでは感じることのできない感動があります。この体験が子どもたちの心に残り、感性豊かな人間として、素晴らしい人生を送る“手助け”になったらと考えます。2006 年の設立以来、小学校・中学校等の音楽室で演奏会を開催し、子どもたちがクラシック音楽に出会う機会を作っています。
これまでに学校プログラムでは、チェロやピアノなどの授業を実施しています。

ＮＰＯ法人横浜こどものひろば

https://www.yokohama-kodomo.com/
一生大丈夫と思えるほどの子どもの時代を子どもたちに！
特定非営利活動法人横浜こどものひろばは、子どものためのすぐれた芸術・文化活動の振興を行い、多様な世代の繋がりを通して、子どもたちの成長を図ります。
また、子ども自身の社会参画の場として、子どもの文化的権利が保障される豊かな子ども時代の創造に寄与することを目的とします。子どもたちの日常の中に、あそびや芸術・文化体験が溢れ、豊かで人間らしい文化環境の元で、子ども自身が主体的に創り出す「瑞々しい子ども時代」「豊かな子どもの時間」は人々の心の原体験・原風景となって、生涯に渡り人々を支える力となると考えています。
これまでに学校プログラムでは、造形やラテン音楽、お芝居づくりなどの授業を実施しています。

ＮＰＯ法人芸術家と子どもたち

https://www.children-art.net/
2000 年より、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動を実施してきました。主軸となる「ＡＳＩＡＳ（＝Artist's Studio In A School：エイジアス）」という活動では、公立の小・中学校（特別支援学級含む）、特別支援学校、幼稚園、保育園、児童養護施設等へアーティストを派遣し、先生や職員の方と協力しながらワークショップ型の授業等を実施しています。
横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラムでは、2007 年度より授業のコーディネートを担当しています。
これまでに学校プログラムでは、コンテンポラリーダンスやパフォーマンス創作などの授業を実施しています。

ART LAB OVA（アートラボ・オーバ）

https://www.facebook.com/artlabova/
『ART LAB OVA』は、1996 年に発足したアーティストによる非営利のグループです。
制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関わらず、多様な人々が交流をできるアートプロジェクトを展開しています。
2010 年～多文化な下町にある映画館の 1 階に拠点であるアートスペース「横浜パラダイス会館」を開設し、近隣の子どもたちに開放しています。
これまでに学校プログラムでは、造形などの授業を実施しています。

民族歌舞団 荒馬座

http://www.araumaza.co.jp/
荒馬座は昭和 41 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。
自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能を通して、「明日を生きる力」となるような舞台や、人と人とをつなげる文化活動を広げています。
これまでに学校プログラムでは、和太鼓やソーラン節などの授業を実施しています。

アートの時間

https://www.facebook.com/artnojikan.totsuka
アートの時間は、戸塚区を拠点に音楽・演劇・美術・ダンスといった分野のアートイベントやアートプログラムの企画運営をやってきました。近年は、「語ることも表現」というアートの視点から、誰でもが参加でき、色んな考えに触れられる場として、『ゆる哲カフェ』を運営しています。
学校でのワークショップは、子どもたちが「日常」をより豊かに生きるために、アーティストの感性に触れるという「非日常」の体験を通して、『いつもと違う自分』の発見をしてもらえたらと思っています。
これまでに学校プログラムでは、ガムランや身体表現、絵画などの授業を実施しています。

ＮＰＯ法人 Offsite Dance Project（オフサイト・ダンスプロジェクト）

http://www.offsite-dance.jp/
Offsite（オフサイト）は、「日常の場を離れて」の意。Offsite Dance Project は、劇場以外のさまざまな場所でダンスを軸としたパフォーミングアーツを推進するチームとして 2008 年 3 月に結成。2009 年 6 月ＮＰＯ法人設立。公共交通機関や近代建築、美術の建物資産、商業空間、ストリートなど、横浜を拠点に国内外の都市空間で、多分野のアーティストによるアクセシビリティの高いプロジェクトを企画・制作。また、2009 年より、アート教育のコーディネートを実施し、パフォーミングアーツの普及に取り組んでいます。
これまでに学校プログラムでは、コンテンポラリーダンスや邦楽、音楽創作などの授業を実施しています。

認定ＮＰＯ法人あっちこっち

https://www.acchicocchi.com/
2011 年 8 月に芸術で社会貢献を考え実行す

る市民団体として横浜で発足。以来、芸術を通じた社会貢献活動や国際交流事業を行っています。特に東日本大震災被災地支援として現地の仮設住宅世帯向けの施設や小学校、保育園、介護施設などで、コンサートやワークショップを毎月欠かさず提供。生活に寄り添えるような芸術で、人々の生活再生を後押しできるよう約 8 年間に東北・熊本で 200 回強開催しています。海外のカンパニーと共同制作や国際教育音楽祭の制作なども担当。コンサートやワークショップを担当するのは才能ある若手アーティストたちです。芸術を届けたいアーティストとそれを必要とする人をつなげる役割を当法人が担っています。2015 年第 9 回かながわ子ども・子育て支援大賞特別賞受賞。
これまでに学校プログラムでは、合唱や邦楽、オペラなどの授業を実施しています。

ＮＰＯ法人横浜シティオペラ

http://www.cityopera.jp/
長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽くし、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・佐藤美子の跡を継ぎ、1983 年、横浜市教育委員会の指導のもとに、横浜市在住・在勤の音楽家 30 名によって、発足しました。その後、市・県の助成を受け、青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っています。さらに平成 3 年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの 3 本（現在は 2 本）による『神奈川オペラフェスティバル』を 29 年間連続で催しています。地域の文化発展に貢献した功績により、1993 年に神奈川文化賞、1995 年に横浜文化賞を受賞。

青葉区民文化センターフィリアホール

https://www.philiahall.com/
フィリアホールは 1993 年にオープンしたクラシック音楽ホールです。内外で活躍する一流のアーティストの主催・共催公演を年間約 50 回開催し、また、音楽愛好家･アマチュアの方々の音楽の練習や発表の場として数多く利用され、地域密着型のホールとして地元の皆様を中心に広くご愛顧いただいています。ファミリー･コンサートや 0 ～ 3 才児向け音楽ワークショップ、オープンデー、楽器体験のほか、2007 年度からは青葉区･緑区の公立小学校への訪問コンサートを実施し、「音楽の喜び」の幅広い普及に日々努めています。
これまでに学校プログラムでは、打楽器やサックスカルテット、音楽ワークショップなどの授業を実施しています。

泉区民文化センターテアトルフォンテ

https://www.theatrefonte.com/
テアトルフォンテは 1993 年に開館した、演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。観る・演じる・創る、この 3 つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。一般公募の市民が出演する市民参加型ミュージカルを始め、子どもから大人までを対象にした演劇・音楽・ダンスなどのワークショップの開催、国内外で活躍するのアーティストを招いてのコンサートや公演事業など、芸術鑑賞の場を提供するとともに、文化活動支援にも力を入れ、「ものづくり」を行う場所としての使命と役割を担っています。
これまでに学校プログラムでは、雅楽や合唱などの授業を実施しています。

栄区民文化センターリリス

http://www.lilis.jp/
1998 年にオープンしたリリスは、県内屈指の響きを誇るコンサートホールを中心とした文化センターです。内外の一流アーティストを招いてのコンサートや、若手アーティスト支援を目的とした「リリス・レジデンス・アーティスト」事業など、クラシック音楽に力を入れた事業を展開しています。
また、2007 年度より継続して実施している「アウトリーチコンサート」や、0 歳から楽しめる「ファミリーコンサート」、気軽に参加できる「リリス藝術大学」や子ども向け造形美術ワークショップ「コドモアートキャラバン」など区民の皆さまが文化芸術に触れ合う多様な機会を提供し、地域の文化発展に貢献できるよう努めています。
これまでに学校プログラムでは、歌唱や作曲、サックス四重奏、打楽器、ピアノ＆チェロ、ピアノ＆ヴァイオリンデュオなどの授業を実施しています。

神奈川区民文化センターかなっくホール

https://kanack-hall.info/
かなっくホールは 2004 年の開館以来、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民のみなさまへの上質な芸術鑑賞機会の提供にとどまらず、ホールが「まちの広場」となり、普段知り合えない人々が芸術文化を介して知り合いとなり、普段持たない役割や可能性を見出し、生活の質の向上を図ります。展開する事業は、学校のクラブ活動に見立てた、大人も子どもも楽しんで学びの場となる「かなっくキッズクラブ」のほか、クラシック音楽部、JAZZ 部、演劇部、ダンス部、ワークショップ部等々の部に宮沢賢治の会やリビングコンサートの会など特色のある会をシリーズ化し継続します。また、全館を開放して実施する「KIDS DAY！」や「ブルクミュラーフェスティバル」などの大掛かりな参加事業や公立学校へのアウトリーチへも力を入れ、神奈川区の皆様から頼られ求められる文化施設を目指します。
これまでに学校プログラムでは、造形や邦楽、ガムランなどの授業を実施しています。

港南区民文化センターひまわりの郷

https://himawari-sato.com/
私共、京急グループ共同企業体は平成 18 年度より、指定管理者として、上大岡の中心にある「港南区民文化センター　ひまわりの郷」を運営しております。地域の方々のニーズに答えながら、年間 50 本程度の様々な事業を展開しております。子どもからシニアまで幅広い年齢層に対応するコンサートや体験型イベントを行なっています。(低料金で質の高いクラシックコンサート、乳児も対象の親子で楽しむ音楽コンサート、シニアを対象にした日本の伝統芸能（邦楽、落語)、小・中・高生のストリートダンスコンテスト他)
これまでに学校プログラムでは、民族楽器や合唱などの授業を実施しています。

鶴見区民文化センターサルビアホール

http://www.salvia-hall.jp/
平成 23 年 3 月に開館した横浜市鶴見区にある文化施設です。通常時 548 名を収容し、音楽･演劇･ダンスなど用途に合わせて使用できる多目的ホールのほかに、100 名を収容する残響豊かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示できるギャラリー、リハーサル室、練習室を兼ね備えています。貸館業務・自主事業制作を行うほか、地域の文化振興と鶴見の文化拠点として、近隣学校などにおいても多角的な活動を目指しています。サルビアホール独自のオーディションによって選ばれた「サルビア・アーティストバンク」には、多彩な才能あふれるアーティストたちが登録されています。
これまでに学校プログラムでは、打楽器や邦楽、落語、コンテンポラリーダンスなどの授業を実施しています。

戸塚区民文化センターさくらプラザ

http://www.totsuka.hall-info.jp/
さくらプラザは、2013 年 8 月開館の芸術文化施設です。
戸塚駅に直結し、アクセスの良い場所で文化の発信・拠点としてさまざまな芸術活動の普

及・支援をおこないます。
本格的なクラシックコンサート・伝統的な古典芸能など世界で活躍する多彩なアーティストを招き、上質な芸術体験を提供するとともに、ワークショップやアウトリーチ活動など地域への普及事業をアーティストと協力して実施します。そこに暮らす人々が文化芸術に触れる時間と空間を創造し、区民のステイタスの向上に貢献します。
これまでに学校プログラムでは、小鼓や箏、津軽三味線などの授業を実施しています。

緑区民文化センターみどりアートパーク

http://www.midori-artpark.jp/
みどりアート＆メディアパートナーズは、神奈川新聞社、ｔｖｋコミュニケーションズ、（公財）横浜市芸術文化振興財団、ジャパントータルサービスの四者により構成され、2019 年 4 月より指定管理者として、それぞれの得意分野を相乗的に発揮しながら、横浜市緑区民文化センター（みどりアートパーク）を拠点とした地域の芸術文化振興ならびに施設の管理運営にあたっています。
具体的な事業展開にあたっては、地域の歴史・地理資産や特色を生かし、さまざまな市民活動団体との協働、行政との連携により、市民の視点を尊重した多文化交流と創造の拠点となることを目指していきます。
これまでに学校プログラムでは、緑区、都筑区の小学校を担当し、作詞・作曲、和太鼓などの授業を実施しています。

旭区民文化センターサンハート

https://www.sunheart.info/
横浜市旭区民文化センター「サンハート」は、相鉄線「二俣川駅」直結の二俣川ライフ５Ｆにあり、交通アクセス良好な旭区民や近隣の地域の方々のための文化センターです。多目的にご使用いただける「ホール」、アコースティック音楽の公演に最適な「音楽ホール」の他、「アートギャラリー」では美術・工芸作品の展示の場として、そして、「ミーティングルーム」や各種練習室などを兼ね備えています。
～人を愛するサンハート、人から愛されるサンハート～をコンセプトに、各施設の貸し出しだけではなく、旭区民の文化芸術を通じた「喜びづくり」、旭区の「地域活性化」「地域価値向上」を目指します。多彩な自主事業を展開し、芸術文化を通して、旭区からパワーを発信しています。
これまでに学校プログラムでは、ミュージカルやゴスペル、演劇創作などの授業を実施しています。

磯子区民文化センター杉田劇場

https://www.sugigeki.jp/
横浜市磯子区民文化センター杉田劇場は、2005 年 2 月 5 日に開館以来、磯子のまちの地域力、区民力を活かし、文化力で地域や人をつなぎ、区民が活躍する魅力ある磯子のまちづくりに貢献することを、目標に掲げています。
おかげさまで、2020 年 2 月に開館 15 周年を迎えました。今後も、芸術・文化の拠点施設として、地域に根差した事業に一層取り組んでまいります。
これまでに学校プログラムでは、箏や能、造形などの授業を実施しています。

横浜市大倉山記念館

https://o-kurayama.com/
横浜市大倉山記念館は、横浜市民の皆様に低料金でご利用いただける文化施設です。
ギリシャ神殿を思わせる外観に、荘厳なエントランス、東洋を象徴する木組みを用いた部屋も有り、横浜市指定有形文化財に指定されています。
映画やテレビ、ＣＭなどの撮影にも数多く利用されている他、館内はご見学いただけます。
館内の各施設は、小規模な音楽会、研修会、会議、趣味サークルなどに適しており、回廊式のギャラリーは、絵画、生花などの展示にご利用いただけます。
これまでに学校プログラムでは、声楽や合唱、木工などの授業を実施しています。

急な坂スタジオ

https://kyunasaka.jp/
急な坂スタジオは、舞台芸術（現代演劇・ダンスなど）の創造拠点として、2006 年 10 月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。
元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小５つのスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルームなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。
また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばたくバックアップを図っています。
これまでに学校プログラムでは、コンテンポラリーダンスや演劇創作、演劇鑑賞などの授業を実施しています。

久良岐能舞台

http://www.kuraki-noh.jp/
横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽古や発表会、茶室でのお茶会等、市民に開かれた能舞台として利用されています。
四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。
株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理、ホール運営事業を推進しております。そんな中で平成 18 年 9 月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より受託しております。1 年間に自主事業を 15 公演程開催しており、秋にはメセナ活動として近隣地区小学校を無償招待する小学校向け狂言鑑賞教室を開催するなど、地域から愛される能舞台を目指して活動しております。
これまでに学校プログラムでは、狂言などの授業を実施しています。

象の鼻テラス

https://zounohana.com/
象の鼻テラスは、横浜市・開港 150 周年事業として、2009 年 6 月 2 日に開館しました。
横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースを兼ね備えたレストハウス（休憩所）として、横浜市が推進する新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を推進する文化観光交流拠点の一つです。
開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、象の鼻テラスは、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、アート、パフォーミングアーツ、音楽など多ジャンルの文化プログラムを随時開催しています。
併設した象の鼻カフェでは、文化プログラムに連動したメニューの提供などを行っています。
これまでに学校プログラムでは、美術造形や作曲・ミュージカル等の音楽、身体表現などの授業を実施しています。

横浜市 長浜ホール

https://www.nagahama-hall.com/
長浜野口記念公園内にある長浜ホールは、横浜検疫所長浜措置場のシンボルであった旧事務棟を外観復元し、音楽を中心とした文化活動にご利用いただけるホールです。また、世界的に有名な野口英世博士ゆかりの旧細菌検査室があります。野口英世博士に関連した研究施設としては日本の現存する唯一の施設で、自由に見学いただけます。104 席の可動式客席と移動式の音響反射板を有するホールは、室内楽コンサート、ピアノ、コーラスの発表会など小規模な音楽活動や文化活動にご利用いただけます。年間を通じ、様々なコンサー

トを自主事業として開催しており、地域の文化を発信し続けています。
これまでに学校プログラムでは、造形や民族音楽などの授業を実施しています。

横浜市吉野町市民プラザ

http://yoshinoplaza.jp/
吉野町市民プラザは、横浜市で最初の市民プラザとして 1989 年に開館いたしました。地域の身近な文化施設としてホール、ギャラリー、会議室、スタジオを備え、鑑賞・発表・練習などで多くの方にご利用いただいております。
地域の拠点施設としての役割を活かし、区民の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざした活動を行っています。
これまでに学校プログラムでは、箏や和太鼓、よさこい、タップダンスなどの授業を実施しています。

横浜市岩間市民プラザ

http://www.iwamaplaza.jp/
横浜市岩間市民プラザは、保土ケ谷区の天王町駅そばに立地する文化施設です。上映会・コンサート・発表会など、様々な目的に使用できる 181 席のホールのほかに、音楽練習ができる大小 4 つのスタジオ、会議や講座に最適なレクチャールーム、ギャラリー、リハーサル室を備えています。
また、「午前の音楽会」などをはじめとしたコンサートや、映画の上映会のほかにも、横浜ビジネスパークや近隣の寺社への出前公演などを行うなど、地域に密着した自主事業を数多く行っています。
これまでに学校プログラムでは、箏、和太鼓、造形、日本舞踊などの授業を実施しています。

横浜市市民文化会館関内ホール

https://www.kannaihall.jp/
関内・馬車道にあるホールです。立地を活かし、芸術文化の楽しさと感動を幅広く提供し、市民に親しまれる文化の拠点を目指して活動しています。
■主な自主事業
鑑賞から体験まで、幅広く企画しています。
・関内寄席
・陽だまりコンサート（気軽に楽しめるコンサート）
・きっず・meet・みゅーじっく（親子向け本格クラシックコンサート）
・馬車道ショートパフォーマンスライブ（若手アーティスト支援）
・音楽や演劇など体験型ワークショップ
これまでに学校プログラムでは、箏や弦楽三重奏などの授業を実施しています。

大佛次郎記念館

http://osaragi.yafjp.org/
横浜に生まれ、横浜を多く描いた作家・大佛次郎は、開化小説「霧笛」や、ノンフィクション「パリ燃ゆ」「天皇の世紀」、時代小説「鞍馬天狗」など幅広いジャンルの作品で多くの人を魅了しました。
横浜市立唯一の文学館である当館では、7 万点にも及ぶ所蔵資料を用い、様々な切り口から大佛次郎の業績と生涯を紹介しています。
大佛次郎は愛猫家としても有名で、館内には猫の絵や置物、写真などを多数展示しています。
また、大佛次郎の童話「スイッチョねこ」を用いた感想画体験や、読書好きの大佛次郎にちなみ、毎年本の書評ゲームビブリオバトルも開催しています。
学校プログラムでは、主に大佛作品を用いた音楽朗読劇のプログラムを実施していく予定です。

横浜市民ギャラリー

https://ycag.yafjp.org/
横浜市民ギャラリーは開館 50 年を機に関内から伊勢山に移転しました。市民の発表および制作の場として展示室やアトリエの貸し出しを行うほか、今日の多様な表現をさまざまな視点で紹介する企画展やコレクション展、半世紀以上続く「横浜市こどもの美術展」、子ども向けの造形講座「ハマキッズ・アートクラブ」、大人を対象にしたアトリエ講座やレクチャーなどの自主事業を行っています。また、市内の美術展覧会情報を網羅した情報誌『画廊散歩』を発行するなど、市民の活動を支援する身近なギャラリーとして親しまれています。
これまでに学校プログラムでは、造形や土粘土などの授業を実施しています。

横浜市民ギャラリーあざみ野

https://artazamino.jp/
横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。
これまでに学校プログラムでは、造形や金属加工、身体表現などの授業を実施しています。

横浜美術館

https://yokohama.art.museum/
1989 年開館の横浜美術館は、みる、つくる、まなぶ、を掲げ開館以来鑑賞と共に、創作体験を通した美術館での教育普及に力を入れてきました。今回の学校訪問のプログラムは、当館の「市民のアトリエ」、「子どものアトリエ」、「教育プロジェクト」が担当します。現在活躍中のアーティストや美術館スタッフの話、デモンストレーション、創作や鑑賞の体験を通してアートと美術館の活動に興味をお持ちいただき、この経験が、児童、生徒の皆さんのより豊かな創作・鑑賞活動につながればと考えています。
これまでに学校プログラムでは、造形や身体表現などの授業を実施しています。

横浜にぎわい座

https://nigiwaiza.yafjp.org/
横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、大衆芸能の専門館として生まれました。かつて寄席や芝居小屋が立ち並び、連日華やいだ横浜の町。伝統を今に受け継ぎ、芸能を味わっていただく場、そして新しい芸能を生み出す場として、横浜にぎわい座は歩んできました。
芸能ホール（391 席）は、提灯を吊るした舞台廻りや桟敷席、仮設花道など大衆芸能の雰囲気を演出した空間で、毎月 1 日～15 日は落語、漫才、マジック、民謡など様々な主催公演を開催しています。また、そのほかに、小ホール・練習室・制作室を備え、各種の練習や創作活動にご利用いただけます。
施設の管理・運営は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が行っています。
これまでに学校プログラムでは、落語などの授業を実施しています。

横浜赤レンガ倉庫 1 号館

https://akarenga.yafjp.org/
1913 年に創建された横浜赤レンガ倉庫 1 号館は、2002 年にリニューアルされ「芸術文化の創造発信」と「賑わいの創出」を目指した文化施設として運用されています。2・3 階は「ホール＆スペース」となっており、コンサートやギャラリーなどの貸出施設として、幅広いジャンルのイベントに使われています。主催事業はコンテンポラリーダンスと現代アートを中心に展開し、芸術文化活動と賑わい創出を総合的に振興しています。
これまでに学校プログラムでは、身体表現、コンテンポラリーダンスなどの授業を実施しています。

横浜みなとみらいホール

https://mmh.yafjp.org/mmh/
横浜みなとみらいホールは、「みなとみらい21地区」にあります。横浜港に向かって開け、若い街ならではの活気に満ちた明るいエリアです。
1998年２月に小ホールが稼働を開始し、同年５月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間600回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。
大小ホール等の天井の耐震化に向けた工事および施設の長寿命化対策とバリアフリー対応のための改修工事を実施するため、2021年１月～2022年10月まで休館を予定しています。ホール休館中は、市内文化施設でのコンサートや学校でのアウトリーチプログラムなどを実施します。
これまでに学校プログラムでは、ピアノやサックス、箏などの授業を実施しています。

横浜能楽堂

https://yokohama-nohgakudou.org/
本舞台は旧染井能舞台として長く親しまれてきた能舞台を復原したものです。この舞台は明治８年（1875年）東京・根岸の旧加賀藩主前田斉泰（なりやす）邸に建てられ、後に東京・染井の松平頼寿（よりなが）邸に移築されて昭和40年まで広く利用されてきました。関東地方現存最古の舞台で、全国的に見ても８番目に古く、建築史上、能楽史上貴重なものです。
横浜能楽堂には本舞台のほかにも研修室や練習、発表にご利用いただける第二舞台、展示廊などもあります。
展示廊では、能楽への理解を深めるため、装束や楽器など能楽にまつわるものを展示する常設展のほか、臨時特別展を行っています。
本舞台での催しがないときは、本舞台（２階客席）、展示廊を自由にご見学いただけます。
これまでに学校プログラムでは、狂言や和太鼓などの授業を実施しています。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
協働推進グループ

（公財）横浜市芸術文化振興財団は美術、音楽、演劇等の芸術文化活動を総合的に振興し、開港以来培われてきた豊かな文化的伝統の維持と、横浜市独自の芸術文化の推進を図り、もっとゆとりと生きがいに満ちた市民生活の実現と国際文化都市・横浜の進展に寄与する目的で平成 14 年度に設立されました。平成16年度以来「芸術文化教育プログラム」を横浜市、市教育委員会、ＳＴスポット横浜とともに協働事業として市内の小・中・特別支援学校において実施しています。
協働推進グループは、横濱 JAZZ PROMENADE を主軸としたコーディネーターとして参画、アーティストを講師として派遣し、主に音楽（舞踊、伝統芸能等も対応）の授業を実施しています。
これまでに学校プログラムでは、箏や三味線、チアダンスなどの授業を実施しています。

認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜

https://stspot.jp/
ＳＴスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和62年に発足しました。小劇場「ＳＴスポット」を拠点に、現在国内外で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。
平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校などにアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術などの授業を行いました。
平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。
これまでに学校プログラムでは、箏や身体表現、音楽創作や演劇創作などの授業を実施しています。

【各種資料】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
令和３年度　学校プログラム　募集要項

～小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の先生方へ～

アーティストが学校へ

第一次募集〆切：令和３年３月１２日（金）

第二次募集〆切：令和３年４月１３日（火）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

横浜市教育委員会

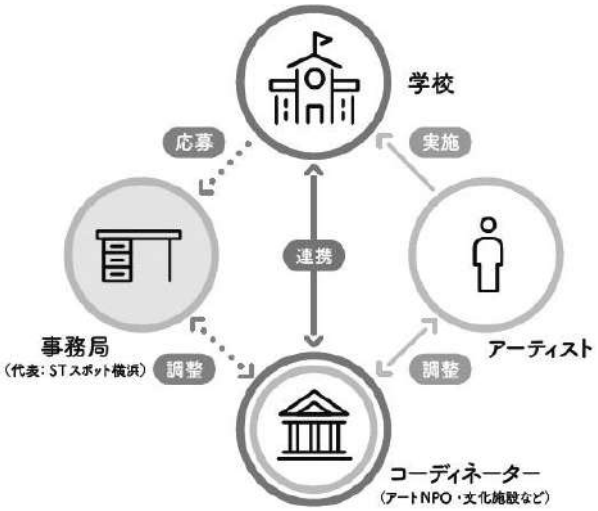
横浜市文化観光局

１．学校プログラムの概要

（１）学校プログラムとは？

アーティストが、直接学校へ出かけます　平成 16 年度にスタートした、子どものための芸術文化・教育事業です※ 。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍しているアーティスト（芸術家）が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の２種類があります。

コーディネーターと先生が、事前に実施内容を調整します　学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科等のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生がもっている情報と、コーディネーターがもつ文化芸術分野に関する専門知識をかけ合わせることで、効果的なプログラムが実施できます。



アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします　私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

※横浜市芸術文化教育プラットフォームとしては平成 20 年度より実施しています。

（２）学校プログラムには、２つの種類があります。

体験型プログラム　２～３日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。対象は一つの学年、取組は１～２クラス単位で行います。

鑑賞型プログラム　基本的に１日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能などの鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。対象は一つの学年です。

※令和３年度は、「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」と連携したプログラムも用意しています（詳細は４ページ）。

２．学校プログラムの募集内容

（１）応募資格と対象

横浜市立の小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校が対象です。なお、応募できるのは、原則として各学校１校で１プログラムのみです。昨年に引き続いての事業実施も可能です。

（２）プログラムの種類

「体験型プログラム」「鑑賞型プログラム」の２種類（詳細は２ページ）あわせて、全 130 校程度、採択する予定です。なお、これまでの取組事例の一部は、プラットフォームのウェブサイト(https://y-platform.org/)でも公開しています。

（３）募集期間と申込み方法

令和３年２月２日（火）から３月 12 日（金）（第一次〆切）まで。その後、空きがある場合は、４月 13 日（火）（第二次〆切）まで募集を続けます。メール添付かＦＡＸで、事務局へ別添の実施希望調書をお送りください。学校便利帳、及び横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイト（https://y-platform.org/）でも募集要項と実施希望調書のダウンロードが可能です。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＵＲＬ：https://y-platform.org/
ＴＥＬ：０４５－３２５－０４１０　ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４

※本事業は、横浜市の令和３年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

（４）募集にあたっての留意点

・先着順ではありません。
・実施希望が想定校数を上回った場合には、個別に調整させていただきます。
・コーディネーターやアーティストを、応募の際に指定することはできません。
・詳細は、実施決定後、コーディネーターと話し合っていただきます。
・コーディネーターやアーティストの謝金と交通費は、事務局が負担します。消耗品や材料などは、学校側に負担していただく場合もあります。詳しくは、実施決定後にコーディネーターとご相談ください。
・過去に取組を行った学校の場合、以前実施した内容と同様の取組が行われるとは限りません。
・このプログラムは、学校が計画して行う教育活動の一環で実施するものです。

取組のイメージを映像でご覧いただけます！

横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイトでは、学校プログラムの映像を公開しています。各ジャンルの取組の様子をご覧いただけます。応募の参考にしていただければ幸いです。
https://y-platform.org/

（５）新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

・学校プログラムは、通常の教育活動と同様に、横浜市教育委員会から各学校への通知（ガイドライン等）に基づいた感染症対策を講じたうえで実施します。

令和３年度の横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、各学校での［ダンス系］プログラムの取組を、応援します。

横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、令和３年度に開催されるダンスフェスティバル「Dance Dance Dance＠YOKOHAMA 2021」の次世代育成プログラムと連動して、体つくり運動や、表現リズム遊び、表現運動などをはじめとした［ダンス系］プログラムを応援するため、これらの取組を希望する学校を優先的に採択する予定です。

これまで［ダンス系］プログラムに取り組んでいなかった学校も、ぜひ応募をご検討ください。

想定する取組

【令和３年度学校プログラム・体験型スペシャル版】

年間を通した取組をもとにして、アーティストとともにダンスの創造活動などを行い、その成果を発表します。発表形態も含めて、コーディネーターと相談しながら進めていきます。

実施回数：４～10 回（クラス数等に応じて変動します）
募集校数：６校程度を想定。
取組対象：学年単位。個別支援学級・特別支援学校からの応募も歓迎します。

Photo by bozzo

応募方法　募集要項内の「実施希望調書」の欄に必要事項を記入の上、希望選択の欄の「体験型スペシャル版（ダンス 4～10 回）を第一希望で申込みます。」のところに、☑をして、第一次〆切日（令和３年３月 12 日（金））までにお申込みください。記入いただいた内容をもとに、事務局から取組の方向をご提案します。

これまでの取組　平成 16～令和２年度までに、延べ 193 の小・中・義務教育・特別支援学校で［ダンス系］プログラムを実施しました。事例の一部は『横浜市芸術文化教育プラットフォーム　学校プログラムのご案内』に掲載しています。

参考資料　「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」の「第２章 第９節 体育」より抜粋

【小学校１・２年】
◎体つくりの運動遊び：次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身につけたりすること。／体ほぐしの運動遊びでは、手軽な運動遊びを行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること。／多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをすること。／体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。◎表現リズム遊び：次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ること。／表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え、全身で踊ること。／リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。／身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。／運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすること。

【小学校３・４年】
◎体つくり運動：次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすること。／体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること。／多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせること。／自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。◎表現運動：次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、表したい感じを表現したりリズムに乗ったりして踊ること。／表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで踊ること。／リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊ること。／自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。／運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすること。

【小学校５・６年】
◎体つくり運動：次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすること。／体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすること。／体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを維持する能力を高めるための運動をすること。◎表現運動：次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりすること。／表現では、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすること。／フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。／自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。／運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすること。

３．今後のスケジュール

募集（２月２日（火）～第一次〆切：３月１２日（金）、第二次〆切：４月１３日（火）まで）
この冊子の最後にある希望調書をお送りください。

事務局による実施校の調整（３月～４月）
一部の学校に対して、訪問・電話などの方法でヒアリングを実施する場合があります。より詳しいご希望をお知らせください。次年度に実施しますので、ご担当者が変更になる場合は、確実な引き継ぎをお願いします。

実施校への決定通知（５月より順次）
事務局と学校とで、簡単な取り決めの文書を交わし、実施を決定します。その際、コーディネーターをお知らせします。

実施に向けての調整（５月より順次）
担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

アーティストの決定、実施内容の調整（随時）
学校と調整のうえ、アーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します（その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります）。

プログラム実施
打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、令和３年度（おおむね令和３年６月から、令和４年３月まで）の実施となります。
※毎年１～３月の実施では、インフルエンザ等の流行による日程変更が相次いでいます。できる限り、12 月までの日程での計画を推奨します。

アンケートの実施、記録写真・映像などの確認、簡易な報告書の提出（実施後２週間程度）
プログラムの改善点やアドバイスなどをいただいた上で、次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。

※詳細は、取組実施校の通知の際にお知らせします。

４．実施希望調書の記入例

令和３年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	西区　　プラットフォーム小学校　　★★★★　　校長
担当教諭名	◎◎◎◎　ふりがな　〇〇〇〇 (担当が決まっていない場合は、校長先生のお名前をご記入ください)　(e-mail: toiawase@y-platform.org)
連絡先	TEL：　１２３　―　１２３４　　FAX：　５６７　―　５６７８
学校の現状 学校プログラムに応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。	**本校ではコミュニケーション能力の育成に力を入れた学校づくりを行っています。その中で、来年の２年生は、落ち着きがあって、物事を慎重に進める半面、引っ込み思案でなかなか自分の考えや気持ちを表現することが得意ではない子どもたちが多いように見受けられます。**
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	☐表現力　☑コミュニケーション能力　☐創造力　☐想像力　☐感受性　☐集中力 ☐協調性　☐共感力　☐言語能力　☐その他（　　） **この体験を通して、普段とは違う自分、そして友だちに気が付き、お互いをより理解しあいながら、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てるきっかけになればと考えています。◎教科等のねらいやかかわりも含めて、お書きください。**
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいか、お書きください。	**演劇やダンスといった体を動かすジャンルの体験型、または音楽の鑑賞型を希望します。体を動かして、言葉だけに頼らない表現を通して、自分の考えや思いを恥ずかしがらずに伝える体験をさせてあげたいと思っています。またみんなで活動を行うことで、一体感を味わうことができればと思います。**
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。また、下記のうち第一希望とするものにチェックしてください。 ☐体験型（３日程度）を第一希望で申込みます。 ☑体験型スペシャル版（ダンス４～10 回）を第一希望で申込みます。 ☐鑑賞型（１日程度）を第一希望で申込みます。

	体験型	鑑賞型
予定教科等 ※複数選択可。	☐音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☑国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☑体育・保健体育 ☐外国語活動　☑道徳　☐自立活動　☐特別活動 ☐ その他（　　）	☑音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☐国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☐体育・保健体育 ☐外国語活動　☐道徳　☐自立活動　☐特別活動 ☐ その他（　　）
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	☐音楽系　☐美術系 ☑演劇系　☑ダンス系 ☐伝統芸能系　☐その他（　　）	☑音楽系　☐美術系 ☐演劇系　☐ダンス系 ☐伝統芸能系　☐その他（　　）
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	2年生　2クラス、参加者数　76　人	2年生　2クラス、参加者数　76　人

実施可能時期 ※可能な月に〇をつけてください。	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			〇	〇	〇	〇	〇		

５．お問合せ・お申込み

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＵＲＬ：https://y-platform.org/
ＴＥＬ：０４５－３２５－０４１０　ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４

※本事業は、横浜市の令和３年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォームとは？

横浜の子どもたちの創造性をはぐくみ、豊かな情操を養う機会を拡大するために、横浜などで活動を続けるアート NPO や芸術団体、地域の文化施設を中心に、学校、アーティスト、企業、地域、市民、行政などがゆるやかに連携・協働する場が芸術文化教育プラットフォームです。学校教育とアートをつなぐ「学校プログラム」を通じて、新しいアートの可能性をさぐっています。

申込み先：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局　[e-mail　toiawase@y-platform.org]　[FAX　３２５－０４１４]

※本様式は学校便利帳、及び横浜市芸術文化教育プラットフォームのサイト（https://y-platform.org/）よりダウンロードできます。

令和３年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	区　　学校　　校長
担当教諭名	ふりがな　　(e-mail:　　)
連絡先	TEL：　　―　　FAX：　　―
学校の現状 応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。	
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	□表現力　□コミュニケーション能力　□創造力　□想像力　□感受性　□集中力 □協調性　□共感力　□言語能力　□その他（　　）
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいかお知らせください。	
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。また、下記のうち、第一希望とするものにチェックしてください。 □体験型（３日程度）を第一希望で申込みます。 □体験型スペシャル版（ダンス４～10回）を第一希望で申込みます。 □鑑賞型（１日程度）を第一希望で申込みます。

	体験型	鑑賞型
予定教科等 ※複数選択可。	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□自立活動　□特別活動 □ その他（　　）	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□自立活動　□特別活動 □ その他（　　）
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	□音楽系　□美術系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）	□音楽系　□美術系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	年生　クラス、参加者数　人	年生　クラス、参加者数　人

実施可能時期 ※可能な月に○をつけてください。	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

重要書類

２０２２年３月３１日までなくさずに保管してください

アーティストが学校へ

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

学校プログラムのすすめかた
実施マニュアル＋学校報告書様式

実施校の先生のために｜　令和３年度版

https://y-platform.org

【もくじ】

⓪..... 変更・中止に関する注意事項
①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
②..... プラットフォームの「学校プログラム」とは？
③..... 年間の実施の流れ
④..... 実施終了後に、学校が行うこと
⑤..... 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先
様式.... 子どもたちへのアンケート（全１枚）
様式.... 学校向け実施報告書（全２枚）
様式.... 横浜市庁内メール便の宛名

企画・制作／横浜市芸術文化教育プラットフォーム

（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

0 変更・中止に関する注意事項

（1）臨時休業等となった場合

コーディネーターやアーティストが来校予定の日が、臨時休業や学級閉鎖などとなった場合、**必ず、学校から担当コーディネーターへ連絡をしてください**。新型コロナウイルス感染症による臨時休業だけでなく、暴風・大雪警報など各種警報等が発表された場合の一斉休校等に備えて、連絡手段・方法なども、事前にコーディネーターと確認しておいてください。

（2）予定していた日程での実施が難しくなった場合［**日程変更・延期**］

臨時休業等により、予定していた日程での実施が難しくなった場合、まずは、コーディネーターとアーティストと協議をし、令和３年度内の日程で、延期の日程を探ってください。また、一度決めた実施日程を変更しなければならない状況が出てきた場合には、早めに担当コーディネーターに相談をするようにしてください。

（3）実施を取りやめたいとなった場合［**中止**］

実施に向けて調整をするなかで、今年度は実施の目途が立たない、延期できる日程が見つからない場合など、やむを得ず中止とする場合には、**必ず担当コーディネーターと相談のうえ、中止を決定してください**。その際、「中止が決定した日」を記録しておくようにしてください。（中止届に「中止が決定した日」を記載する必要があります。）

コーディネーターから中止の連絡を受けて、横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局から学校へ「中止届」を提出いただく手順についてご連絡いたします。

＜新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえでの実施をお願いします＞

基本的に、通常の教育活動と同様に、横浜市教育委員会から発出されている「横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン」に基づいた感染症対策を講じたうえでの実施をお願いします。コーディネーターも「横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン（抜粋版）」を持っていますので、実施の方法・内容について、ガイドラインを参照のうえ、担当のコーディネーターとよく確認し計画をしてください。

その際、アーティストにとって過度な負担とならないよう、実施回数・時間・方法など、ご配慮をお願いいたします。

実施に向けての調整・ご相談は、基本的には、担当コーディネーターにご連絡ください。プログラム全体についてのお問合せは、以下、横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局までご連絡ください。

＜横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局＞（認定 NPO 法人ＳＴスポット横浜内）

TEL：045-325-0410　　FAX：045-325-0414　　E-mail：toiawase@y-platform.org

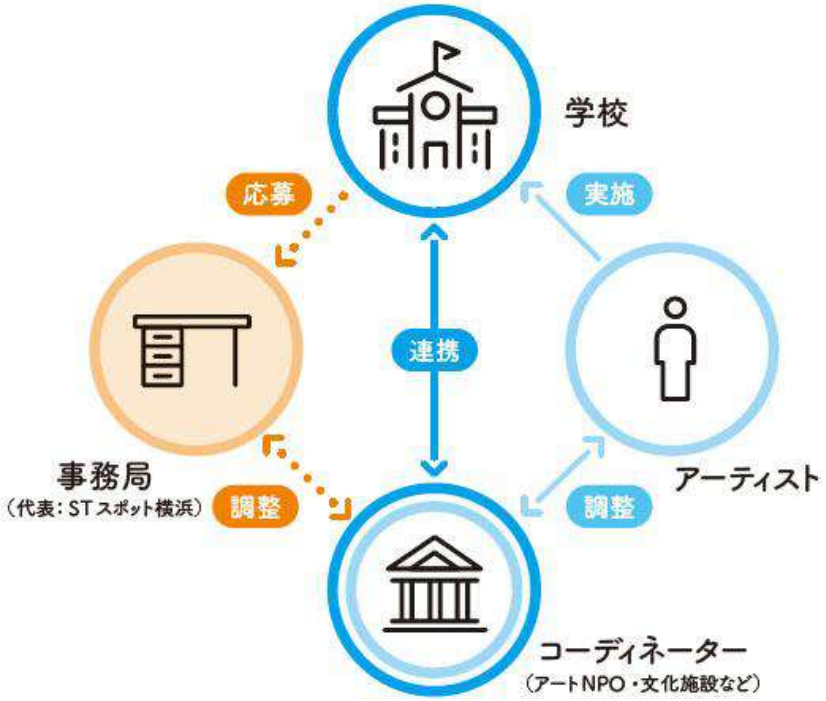
担当者：田中 真実（たなか・まみ）、高荷 春菜（たかに・はるな）、土橋 絢菜（どばし・あやな）

1 横浜市芸術文化教育プラットフォーム 概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での芸術文化活動の位置付けを行うための体制づくり
（２）さまざまな実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

各学校は、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じた効果的なプログラムを考えます。
アートＮＰＯや文化施設などは、コーディネーターとして学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整し、子どもたちに向けたプログラムを実施します。
また事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）は、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会と連携し、年間を通して学校からの相談対応や、学校プログラムの募集業務等の調整を行います。



令和３年度のコーディネーター　※順不同。

【アートＮＰＯ、民間芸術文化団体】Media Global、特定非営利活動法人 子どもに音楽を、特定非営利活動法人 横浜こどものひろば、特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、認定特定非営利活動法人 あっちこっち、特定非営利活動法人 横浜シティオペラ

【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、港南区民文化センター ひまわりの郷、鶴見区民文化センター サルビアホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、緑区民文化センター みどりアートパーク、旭区民文化センター サンハート、磯子区民文化センター 杉田劇場、大倉山記念館、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、象の鼻テラス、長浜ホール、吉野町市民プラザ、岩間市民プラザ、横浜市市民会館 関内ホール、横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫１号館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、大佛次郎記念館

【事務局構成団体】公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ、認定特定非営利活動法人 ＳＴスポット横浜

2 プラットフォームの「学校プログラム」とは？

私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、豊かな感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします。

（１）学校プログラムとは？

芸術家が、直接学校へ出かけます　平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家（アーティスト）が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の２種類があります。

コーディネーターと先生が、実施内容を調整します　ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科等のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生がもっている情報と、コーディネーターがもつ芸術文化分野に関する専門知識をかけ合わせることで、効果的なプログラムが実施できます。

（２）学校プログラムには、２つの種類があります。

体験型プログラム　３日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。対象は一つの学年、取組は１～２クラス単位で行います。

鑑賞型プログラム　基本的に１日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能などの鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。対象は一つの学年です。

実施にあたっては、事務局が選定したコーディネーターが、学校からの要望（実施日程、実施内容など）を聞き取り、最適な実施内容となるよう、先生やアーティストと調整を行います。

3 年間の実施の流れ

年間のスケジュールの流れは、次のとおりです。

（１）事務局→実施校へ決定の通知（５月末まで）

事務局から学校に、実施の決定通知を出します。その際、コーディネーターをお知らせします。

（２）実施に向けて、学校⇔コーディネーター間での調整（６月より順次）

担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

＜コーディネーターとの確認ポイント＞

- □ 目標の設定と具体的な授業イメージの共有
- □ 授業を実施する学年、内容、時期などの再確認
- □ 複数日にわたる場合は、実施するコマの確認（３・４時間目に２組、５・６時間目に１組、など）

メモ 事前に年間行事予定表などを用意しておくと、やりとりがスムーズになります。毎年、1～2 月の実施では、インフルエンザの流行や大雪の影響による日程変更が相次いでいます。予備日を設定するなどしておくと、いざというときに安心です。

（３）アーティストの決定、実施内容の調整（随時）

学校と調整のうえ、コーディネーターがアーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します。その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります。その際学校で用意できるもの（例：画用紙など）については、ご協力ください。

＜コーディネーターとの確認ポイント＞

- □ 学校で用意するもの、コーディネーターが用意するものの確認
- □ 実施場所や控室などの確認
- □ 昼食は、どこでどのようにとるかの確認
- □ 子どもたちに対して、事前に取組についてどう説明するか
- □ 活動記録写真の撮影方法、許諾の取り方などについての確認

（４）プログラム実施

打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、令和３年度（おおむね 2021 年６月から 2022 年３月まで）の実施となります。

（５）アンケートの実施と集計、学校向け実施報告書提出など（実施後２週間程度までに）

次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。プログラムの改善点やアドバイスなどをお知らせいただけると幸いです。

- □ 「子どもたちへのアンケート」の実施と集計 → 提出
- □ 「学校向け実施報告書」の記入 → 提出
- □ 活動記録写真の確認

※いずれも詳細は、次頁を参照してください。

4 実施終了後に、学校が行うこと

実施終了後に、学校が行うことは次の３点です。お手数ですが、ご協力をお願いします。

（１）　「子どもたちへのアンケート」 の実施と集計　→　提出

今後の事業の参考にしますので、今回の授業に参加した子どもたちにアンケートを実施してください。（※授業を実施した小学３年生以上の全児童・生徒が対象です。小学１・２年生、個別支援級、特別支援学校の子どもたちが対象の場合は、「子どもたちへのアンケート」の実施・提出は任意とします。）

① 別紙のひながたを、適宜印刷してアンケートを実施してください。
ひながたは、学校便利帳、及びウェブサイト（https://y-platform.org）よりダウンロードできます。

② 「学校向け実施報告書」１－（２）に、アンケートの集計結果をご記入ください。

③ すべてのアンケート用紙の原本を報告書送付先（下記参照）までお送りください。
なお、事務局からは返却しませんので、必要に応じて控えを取り、取組の振り返りに活用してください。点線以下の児童・生徒の氏名など切り取ってからお送りいただいても構いません。

（２）　「学校向け実施報告書」 の記入　→　提出

今後の事業の参考にしますので、担当教諭の方は「学校向け実施報告書」をご提出ください。（今回の取組にいちばん深くかかわった教員の方、１名がご記入ください。）

① 別紙のひながたに、ご記入ください。
ひながたは、学校便利帳、及びウェブサイト（https://y-platform.org）よりダウンロードできます。

②「子どもたちへのアンケート」の原本と共に、報告書送付先（下記参照）までお送りください。
なお、「学校向け実施報告書」は、メールでの提出も可能です。toiawase@y-platform.org までダウンロードしたファイルに回答をご記入のうえ、添付してお送りください。

（３）　活動記録写真の確認

担当コーディネーターが撮影した活動の様子の写真に対して、使用許諾の確認をお願いします。（５枚程度を想定しています）事務局への提出は、コーディネーターが行います。

アンケート・記録写真等の使用目的

いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。
(1)横浜市芸術文化教育プラットフォームの広報用資料（報告書、ウェブサイト）(2)横浜市及び当事務局の各種資料 (3)横浜市及び当事務局主催事業(シンポジウム等)における配布用資料・紹介 (4)翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示 (5)担当コーディネーター・アーティストの資料 (6)その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

アンケートおよび実施報告書の送付先・問合せ先

＜送 付 先＞ 横浜市 文化観光局 文化振興課　長田薫 宛
※最終ページの送付票を利用して、「庁内メール便」でご送付ください

＜問合せ先＞ 横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局(認定NPO法人STスポット横浜内)
TEL: 045-325-0410　FAX: 045-325-0414　E-mail: toiawase@y-platform.org

5 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

基本的な調整事項はコーディネーターが行いますが、問題が生じた場合は、プラットフォーム事務局にご相談ください。連絡先は、以下のとおりです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
認定特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部　内
担当者：田中真実（たなか・まみ）、高荷春菜（たかに・はるな）、土橋絢菜（どばし・あやな）
所在地：神奈川県横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　〒220-0004
TEL: 045-325-0410　FAX: 045-325-0414
・プラットフォーム事務局として　https://y-platform.org　toiawase@y-platform.org
・ＳＴスポット横浜として　https://stspot.jp　artedu@stspot.jp

横浜市教育委員会 事務局 学校教育企画部小中学校企画課
担当者：中澤 務（なかざわ・つとむ）
神奈川県横浜市中区本町 6-50-10　14 階　〒231-0005　TEL: 045-671-3265　FAX: 045-664-5499

横浜市 文化観光局 文化振興課
担当者：入江淳一郎（いりえ・じゅんいちろう）、頼政佳緒里（よりまさ・かおり）、長田 薫（おさだ・かおる）
神奈川県横浜市中区本町 6-50-10　30 階　〒231-0005　TEL: 045-671-3714　FAX: 045-663-5606

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団
担当者：鈴木 敦（すずき・あつし）、大野美菜子（おおの・みなこ）
神奈川県横浜市中区山下町２番地　産業貿易センタービル１階　〒231-0023
TEL: 045-221-0212　FAX: 045-221-0216

子どもたちへのアンケート――アーティストの授業について教えてください

1．今回の授業を前から楽しみにしていましたか。

☐ 楽しみにしていた　☐ 楽しみではなかった　☐ 特に気にしていなかった

2．授業は楽しかったですか。その理由も教えてください。

☐ 楽しかった　☐ 楽しくなかった　☐ どちらでもなかった

理由（　　）

3．自分から楽しんだり、発見したりしたことはありましたか。

☐ あった　☐ なかった

理由（　　）

4．今回のような授業をまた受けたいですか。

☐ 受けたい　☐ 受けたくない

5．今回の授業であなたが感じたことや思い出に残ったことがあれば、自由に書いてください。

学校　　年　　組　　男・女　　名前

学校向け実施報告書（全２枚）

１．今年度の事業報告として、一部を公開します。どうぞご協力ください。

（１）本紙をご記入いただく先生についてお知らせください。

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿学校

お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　ふりがな：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回の取組の科目・教科名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）子どもたちのアンケートの集計結果をお知らせください。

１．今回の授業を前から楽しみにしていましたか。

・楽しみにしていた･････････････････････････････　　人

・楽しみではなかった･････････････････････････　　人

・特に気にしていなかった･････････････････････　　人

２．授業は楽しかったですか。その理由も教えてください。

・楽しかった･････････････････････････････････　　人

・楽しくなかった･････････････････････････････　　人

・どちらでもなかった･････････････････････････　　人

◆主な理由など

３．自分から楽しんだり、発見したりしたことはありましたか。

・あった･････････････････････････････････････　　人

・なかった･･･････････････････････････････････　　人

◆主な理由など

４．今回のような授業をまた受けたいですか。

・受けたい･･･････････････････････････････････　　人

・受けたくない･･･････････････････････････････　　人

５．今回の授業であなたが感じたことや思い出に残ったことがあれば、自由に書いてください。

◆主な記述など

（次のページに続きます）

（３）次に、担当の先生に子どもたちの様子についてお伺いします。今回の取組により、子どもたちにとって最も力がついたと思われる項目ひとつに◎印、そのほか力がついた項目に○印をご記入ください。

表現力	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	創造力	想像力	感受性	集中力	協調性	共感力	言語能力

（子どもたちのどんな様子を見てその力がついたと思いましたか。具体的にご記入ください。）

（４）今回の取組を通して、先生ご自身がアーティストによる授業を通して、感じたことをご記入ください。２００字程度でお願いします。

（教科・領域との関連／コーディネーターやアーティストとの連携／ご自身に影響があったこと／具体的な取組内容／今後の期待や希望　などについて、自由にご記入ください。）

（校長先生・副校長先生のご意見ご感想がありましたら、あわせてご記入ください。）

２．引き続き、担当の先生にお伺いします。以下の項目は、学校名、個人名が特定されない形で集計します。

（ここで回答いただいた内容は、来年度の選考とは関係がありません。率直なご意見をください）

（１）実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションをとることはできましたか。

とれた　　どちらかといえば、とれた　　どちらかといえば、とれなかった　　とれなかった

（２）子どもたちはプログラムに満足していたようでしたか。

満足　　どちらかといえば、満足　　どちらかといえば、不満足　　不満足

（３）先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか。

満足　　どちらかといえば、満足　　どちらかといえば、不満足　　不満足

（４）運営面で問題点や改善すべき点がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

報告書などを横浜市庁内メール便で送付する際に、封筒に貼ってご利用いただけます。

----------（キリトリ）----------

横浜市庁内メール便（市メール）

送付先

横浜市　文化観光局　文化振興課
横浜市芸術文化教育プラットフォーム担当　長田薫　宛

発送者

学校名：横浜市立

担当者：

発送日：

内容物

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　学校報告書

アーティストが学校へ

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

学校プログラムのすすめかた

コーディネーターのみなさんへ ｜ 令和３年度版

https://y-platform.org

【もくじ】

①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
②..... 事業の進行スケジュール
③..... ステップ1 担当校調整：５月３１日まで
④..... ステップ2 実施打合せ：６月１日頃から
⑤..... ステップ3 中間報告：８月６日まで
⑥..... ステップ4 プログラムの実施：実施は年度内に
⑦..... ステップ5 プログラム終了後：1か月以内に報告
⑧..... 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先
⑨..... 新型コロナウイルス感染症に関する注意事項

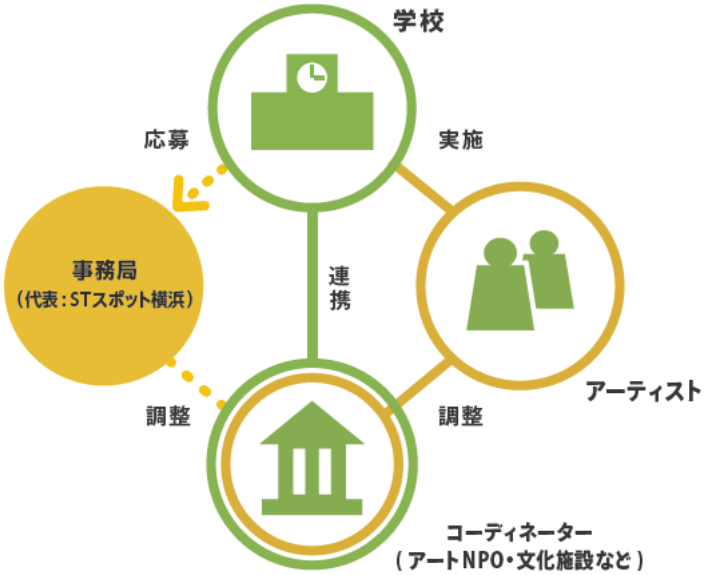
企画・制作／横浜市芸術文化教育プラットフォーム
（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

1 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化活動の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での芸術文化活動の位置付けを行うための体制づくり
（２）様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校プログラムにおいて、各学校は子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じたプログラムを考えます。**アートＮＰＯや文化施設などは、コーディネーターとして学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整し、子どもたちに向けたプログラムを実施します。**
また事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）は、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会と連携し、年間を通して学校からの相談対応や、学校プログラムの募集業務等の調整を行います。



令和２年度のコーディネーター　※順不同。令和３年度のコーディネーターは、ウェブサイトをご参照ください。

【アートＮＰＯ、民間芸術文化団体】Media Global、特定非営利活動法人 子どもに音楽を、特定非営利活動法人 横浜こどものひろば、特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、認定特定非営利活動法人 あっちこっち、特定非営利活動法人 横浜シティオペラ
【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、港南区民文化センター ひまわりの郷、鶴見区民文化センター サルビアホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、緑区民文化センター みどりアートパーク、旭区民文化センター サンハート、磯子区民文化センター 杉田劇場、大倉山記念館、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、象の鼻テラス、長浜ホール、吉野町市民プラザ、岩間市民プラザ、横浜市市民会館 関内ホール、神奈川県立音楽堂、横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫１号館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂
【事務局構成団体】公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ、認定特定非営利活動法人 ＳＴスポット横浜

2 事業の進行スケジュール

学校での授業については、基本的に、アーティストの選定から、学校との交渉のタイミング、実施日程の決定など、多くの部分をコーディネーターにおまかせします。コーディネーター自身はもちろんのこと、学校にも、アーティストにとっても適切な事業進行管理をおねがいします。

年間のスケジュールは次のとおりです。大まかに次のような進行になります（例外もあります）。

コーディネーター	時期	ＰＦ事務局
ステップ１　担当校調整：5 月 31 日まで 事務局と仕様などを確認の上、実施担当校を決定します。	3-4 月	一部の学校へ、ヒアリングを実施
	～5 月	各コーディネーターと実施校の調整 順次、各学校に決定を通知
ステップ２　実施打合せ：6 月 1 日頃から 学校の担当者から希望を聞いてください。	※学校の夏季休業は 7 月 21 日～8 月 26 日の予定	
ステップ３　中間報告：8 月 6 日まで 実施日程とアーティスト選定について**中間報告**をお願いします。その後、順次、協定書として契約を締結します。 ※実施が 8 月より早い場合は決まり次第お知らせください。	8 月	中間報告の取りまとめ 協定書の作成・締結
ステップ４　実施：3 月末までの任意の時期 とにかく楽しい内容になるよう、全力をつくしてください。 **ステップ５**　終了後：1 か月以内に報告を 終わったら、報告書・写真などをＰＦ事務局に送ってください。そのあと、事務局から指定口座に入金します。	9 月	各コーディネーターが担当している実施現場の一部を見学。順次、実施について記者発表。
	10 月	
	11 月	
	12 月	
	1 月	
	2 月	上旬に、次年度の募集開始
	3 月	次年度の実施校の調整

このほか、教師のためのワークショップ等を実施予定

事務局へ提出する書類

（1）団体プロフィール ……5 月 21 日（金）までに
（2）実施予定プログラムシート ·8 月 6 日（金）までに中間報告として
（3）報告書 ……終了後、1 か月以内に
（4）写真（5 枚程度） ……終了後、1 か月以内に

3 ステップ１ 担当校調整：５月３１日まで

＜担当校の内定＞

まず、担当していただく学校（担当校）について、事務局と打合せの上、仕様を含めた進行の手順を確認します。

＜団体プロフィールの提出について＞

コーディネーターの皆さんには「**団体プロフィール**」を作成していただきます。これは、学校への実施決定連絡の際に伝える情報以外に、ホームページや報告書に記載するプラットフォームの公開情報として、またコーディネーター間の情報共有手段として、１年間使われるものです。昨年度作成していただいたものがある場合は、そのまま使用いたします。内容の変更・改訂は随時お受けしますので、事務局までお知らせください。

【記入例】

■ウェブサイト・報告書などで公開する情報	
団体名／施設名	特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜
ＵＲＬ	http://stspot.jp/
主な活動ジャンル	□音楽　■演劇　■ダンス　□美術　□伝統芸能　□その他
団体 PR（200～300 字程度）	ＳＴスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「ＳＴスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。 平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。 平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。
■担当校と、他のコーディネーターも含めたプラットフォーム内部で共有する情報	
コーディネート担当者（ふりがな）	★★★★（×××・××××）、☆☆☆☆（＋＋＋・＋＋）
郵便番号	220-0004
住所	神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
日中連絡が取れる電話番号	045-325-0410
ＦＡＸ番号	045-325-0414
メールアドレス	artedu@stspot.jp
備考	

4 ステップ2 実施打合せ：６月１日頃から

＜学校での打ち合わせに際して＞

学校への実施決定の通知が済んだ後、学校担当者の連絡先が事務局より届き次第、担当校へのご連絡をお願いします。なるべく早い時期に、電話でのやり取りや、実際に学校へ足を運ぶなどして、担当の先生と顔合わせ、打合せをお願いします。進め方は、各団体独自の方法で進めていただいて構いません。以下は参考です。

※新型コロナウイルス感染症に関する注意事項は⑨を参照してください。

メモ　学校とのやり取りは、ファックスがいちばん確実です。電話は、放課後（１５時３０分以降）が繋がりやすいようです。また、メールは連絡の補助手段と考えたほうがいいようです。

学校との実施イメージの確認

・授業を実施する学年、内容、時期*などの再確認
・目標の設定
・複数日にわたる場合は、実施するコマの確認（３・４時間目に二組、５・６時間目に一組、など）

メモ　目標の設定については「からだを使った取組みをする」など、スローガン的なフレーズで合意しておくと、その後の進行の助けになる場合があります。先生が不安そうでしたら、一度紙に落とした上で確認をすると、問題点が明確になることがあります。

＊ 毎年、1～2 月の実施では、インフルエンザの流行や大雪の影響による日程変更が相次いでいます。学校・アーティストの両者と、予備日を設定するなどしておくと、いざというときに安心です。

アーティストとの実施イメージの確認

・事業の趣旨の説明
・取り組むプログラムの検討と目標の設定
・スケジュール（移動、振り返りの時間も含めて）
・具体的な授業のイメージを膨らませる
・学校で用意するもの、コーディネーターまたはアーティストで用意するものの確認
・実施場所の確認
・謝金とアシスタントの有無について

メモ　アーティストが学校で取り組む上で不安を持っている場合は、顔合わせと学校の様子の見学を兼ねて事前に学校を訪れてみるのもいいかもしれません。また、アーティストの公演・展示の機会があれば、先生をお誘いして伺うこともできるかもしれません。

実施に向けての最終確認

・写真撮影の許諾について（詳細は、ステップ４をご覧ください）
・実施場所の確認、着替えの場所や控室の確認
・昼食は、どこでどのようにとるかを確認（給食の変更はだいたい一週間前まで）
・子どもたちに対して、事前に取り組みについてどう説明するか

5 ステップ３ 中間報告：８月６日までに中間報告

＜実施予定プログラムシートの提出について＞

その後、学校側と実施に向けた調整を続け、８月６日（金）までに「実施予定プログラムシート」で、目標、実施日、アーティストなど決定・内定した状況をＰＦ事務局まで中間報告してください。実施が８月より早い場合は、決まり次第お知らせください。

【記入例】

■学校	
学校名	横浜市立プラットフォーム第一中学校
担当教諭名	○○○○（１組担任）、△△△△（２組担任）、□□□□（美術）
■コーディネーター	
団体名	ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
コーディネート担当者名	★★★★、☆☆☆☆
■アーティスト	
アーティスト名	◆◆◆◆
アーティスト肩書	画家・漫画家
アーティストプロフィール（200 字程度）	1937(昭和 12)年、東京葛飾生まれ。子供のころからいくつものアルバイトを経験し、小学校卒業とともにメッキ工場に勤める。その後職を変わりながら、職業としてマンガ家をめざし、1955(昭和 30)年に単行本『白面夜叉』で本格デビュー。貸本マンガや子供向け雑誌で活躍。1965(昭和 40)年から「月刊漫画ガロ」に作品を発表し、徐々に注目を集めるようになる。独特な作風で知られ、寡作ではあるが、根強いファンを持つ。代表作に『ねじ式』『紅い花』『無能の人』などがある。
■実施予定概要	
ジャンル	美術
内容	デザイン
プログラム名	思いをマンガで伝えてみよう
実施日程・時程	2020 年　○月　○日(火)　3 時限目　～　4 時限目
	2020 年　○月　○日(火)　3 時限目　～　4 時限目
	2020 年　○月　○日(火)　3 時限目　～　4 時限目
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
取り組む学年、クラス数	2 年生 2 クラス、特別支援学級 1 クラス
対象人数	60 人
学校・アーティスト・コーディネーター間で合意した目標（200 字程度）	吹き出し、コマ割り、あるいは絵が単純で感性に直接的に訴えるマンガの視覚表現方法を理解し、そのエネルギーを子どもたちに身につけてもらう。また、マンガを、イメージをはっきりさせるための一つの道具として捉えることで、対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。

＜契約について＞

上記の中間報告の内容に基づき、ＰＦ事務局とコーディネーターが協定書（契約）を締結します。

6 ステップ4 プログラムの実施：実施は年度内に

プログラムを実施する時期は、年度内の任意の時期で結構です。実施は、各団体におまかせします。
実施の際は、取材対応をお願いする場合もあります。
中間報告から、日程の変更、アーティストの変更等があった場合は、できるだけ事前に PF 事務局へお知らせください。
※新型コロナウイルス感染症に関する注意事項は⑨を参照してください。

＜活動記録写真について＞
コーディネーターのみなさんには、活動記録写真を撮影した上で、事務局に送っていただきます。なるべく問題が起こらないよう、学校と慎重に打ち合わせをすすめてください。

学校への撮影許可のとり方
・基本的に、応募の段階で記録写真をとることを学校側は承諾していますが、個別事情の確認をお願いします。

メモ　記録写真の使用目的は、つぎのとおりです。いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。(1)横浜市芸術文化教育プログラム推進事業の広報用資料（報告書、ウェブサイト）(2)横浜市及び当事務局の各種資料 (3)横浜市及び当事務局主催事業(シンポジウム等)における配布用資料・紹介 (4)翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示 (5)担当コーディネーター・アーティストの資料 (6)その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

実際の撮影
・事前に学校と確認した内容に沿って、デジカメ等で写真を撮影してください。
・最終的に事務局にお送りいただく写真は５枚程度ですが、学校ＮＧを想定して、多めに撮影しておいてください。

メモ　撮影不可能な児童・生徒がいる場合は、（１）該当する子が入らないように撮影する、（２）撮影不可能な児童・生徒がいないクラスを撮影対象にする、（３）子どもたちの後ろ姿だけを撮影する、（４）事後確認をきちんと行う、の組み合わせで対応してください。また保護者の許諾が必要な場合、学級通信・学年通信での通知、保護者会での説明といった方法があることを学校側に提案してみてください。

撮影の確認
・取組終了後、撮影した写真を学校側に確認してもらってください。
・確認方法はいろいろありますが、（１）後日直接学校に行って確認してもらう、（２）写真をプリントアウトし郵送した上でＯＫをとる、などが考えられます。臨機応変に対応ください。
・最終的に５枚程度を、事務局までデータでお送りください。

メモ　学校側との調整が難航した場合は、事務局までお知らせください。

7 ステップ5 プログラム終了後：1か月以内に報告

＜アンケートについて＞

実施終了後に、先生たちが子どもたちにアンケートを実施します。コーディネーター側では、アンケートを実施する必要はありません。

＜提出物：実施報告書、写真の提出について＞

実施内容、コーディネーターの感想、アーティストの感想などを記入した報告書を事務局までお送りください。ひながたは、別途データでお送りします。各校の実施終了後、1か月以内を目途に事務局までお戻しください。あわせて学校に確認を取った写真を5枚程度お送りください。

メモ　「実施予定プログラムシート」と重複している項目がありますので、変更がなければ同内容を記載していただいて結構です。

メモ　アーティストのコメントをとる欄があります。たとえば、現場で聞き書きするなど、工夫してコメントをとってください。

＜経費について＞

報告書と写真の到着を確認した上で、事務局より事業経費の入金をします。この中には、税金、材料費、交通費、機材運搬費等全てを含みます。アーティストやアシスタントなどへの支払い関連業務（銀行振込や所得税の源泉徴収など）は、各団体にお任せします。
ただし、プログラムによって入金方法が異なる場合があります。その際には、別途ご説明します。

＜個人情報の取り扱いについて＞

この事業を実施する上で知り得たすべての情報（学校の個別の情報、写真など）の取り扱いについてはくれぐれもご注意ください。

＜実施の延期、中止について＞

予定していた日程での実施が難しくなった場合、まずは、延期の可能性を探ってください。やむを得ず延期ではなく中止となる場合、**休校・学級閉鎖など学校都合によるもの**については、次の基準のとおりキャンセル料をプラットフォーム事務局よりコーディネーターへお支払いいたします。なお、延期の場合には、当初の予定日に関するキャンセル料のお支払いはいたしません。
※延期・中止に関わらず、予定していた日程での実施が難しくなった時点で、プラットフォーム事務局にご連絡ください。

【キャンセル料基準】

・中止が決定した日が実施予定日から14日前まで	キャンセル料なし
・中止が決定した日が実施予定日から13～2日前まで	1日あたりの委託費の30%
・中止が決定した日が実施予定日の前日及び当日	1日あたりの委託費の50%

8 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

報告事項以外でも、トラブルが生じそうなときは、プラットフォーム事務局にご相談ください。みなさんと一緒に難局を乗り越えたいと考えています。

事務局の連絡先は、以下のとおりとなります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
認定特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部　内
担当者：田中真実（たなか・まみ）、高荷春菜（たかに・はるな）、土橋絢菜（どばし・あやな）
所在地：神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
TEL:045-325-0410　FAX: 045-325-0414　〒220-0004
・ＰＦ事務局として　https://y-platform.org　office@y-platform.org
・ＳＴスポット横浜として　https://www.stspot.jp　artedu@stspot.jp

また、プラットフォーム事務局を構成している機関・団体の連絡先は、以下のとおりです。

横浜市　文化観光局文化振興課
担当者：入江淳一郎（いりえ・じゅんいちろう）、頼政佳緒里（よりまさ・かおり）、長田薫（おさだ・かおる）
神奈川県横浜市中区本町 6-50-10　〒231-0005　TEL: 045-671-3714　FAX: 045-663-5606

横浜市教育委員会　事務局　学校教育企画部小中学校企画課
担当者：中澤 務（なかざわ・つとむ）
神奈川県横浜市中区本町 6-50-10　〒231-0005　TEL: 045-671-3265　FAX: 045-664-5499

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
担当者：鈴木 敦（すずき・あつし）、大野美菜子（おおの・みなこ）
神奈川県横浜市中区山下町２番地　産業貿易センタービル１階　〒231-0023
TEL:045-221-0212　FAX:045-221-0216

9 新型コロナウイルス感染症に関する注意事項

新型コロナウイルスの感染リスクを最小限に抑えつつ、子どもたちの創造性をはぐくむ機会をみなさんと創っていけるよう、以下の注意事項をまとめました。市内の感染状況も注視しながら、学校・アーティストとも例年以上に連携をとり、進めていただけたらと思います。

（1）実施方法・内容の調整について

実施の時期や、実施方法・内容について、横浜市教育委員会が発出する教育活動に関するガイドライン（以下ガイドライン）を参照のうえ、担当の先生とよく確認し計画をしてください。ガイドラインは随時更新されます。プラットフォーム事務局よりコーディネーターのみなさんに共有しますので、実施をする時点でのガイドラインをよく確認してください。

また、先生との打合せや振り返りを実施する際にも、ガイドラインにあるような間隔の確保（おおむね 1～2m）、マスクの常時着用、真正面を避ける、換気を行うなどに注意してください。

（2）給食交流について

食事はマスクを外すので、濃厚接触者となりやすいため、最も注意が必要です。そのため、今年度は基本的に、子どもたちとの給食交流は行わないようにしてください。昼食をはさんで実施の場合には、控室など、子どもたちとは別の場所で昼食をとるようにしてください。

（3）アーティスト、コーディネーターの感染症対策について

アーティスト及びコーディネーターのみなさんについても、ガイドラインにある教職員の感染症対策に準じ、マスクの常時着用、学校訪問前の検温など、感染予防、体調管理に努めてください。学校訪問に際し、少しでも体調不良を感じたら、訪問者の変更や、学校に相談し実施の延期等を検討してください。実施直前のアーティストの体調不良や、休校・学級閉鎖となった場合に備え、担当の先生・アーティストとの連絡体制を整えておいてください。

（4）実施の延期、中止について

詳しくは、⑦の「実施の延期、中止について」を参照してください。また、緊急事態宣言が発令される等の特段の事情が出てきた場合には、別途協議することとします。

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　令和３年度事業報告書

発行：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
（認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

作成：認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　　公開開始：令和４年７月５日

《お問い合わせ先》〒220-0004　神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部内　横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
電話：045-325-0410　ファックス：045-325-0414　メール：toiawase@y-platform.org

※本報告書に掲載されている肩書や名称などは令和３年度時点のものになります。
　また、コーディネーターとして施設名が掲出されている場合、当該年度の指定管理者等が担当していることを示します。